

ISSN 0912-036X

放監季 3・4

26 - 1

環境放射線監視季報

(Quarterly Report of Ibaraki Environmental Radiation Monitoring)

第166報 (平成25年度第3 四半期)

第167報 (平成25年度第4 四半期)

茨城県
東海地区 環境放射線監視委員会

ま え が き

本県の東海・大洗地区には、原子力発電所をはじめ、使用済核燃料再処理施設、核燃料加工施設、試験研究用原子炉及び核燃料使用施設など各種多様な施設が多数立地しています。

このため、県は東海・大洗地区における原子力施設周辺の環境放射線の監視を民主的に行うため、第三者監視機構として「茨城県東海地区環境放射線監視委員会」を設置し、監視計画を定めています。この計画では、監視の目的を「原子力施設周辺の環境保全を図るとともに、公衆の安全と健康を確保する」ために、

- ・ 周辺公衆の線量を推定評価する
- ・ 環境における放射性物質などの長期的変動を把握する
- ・ 原子力施設からの放射性物質の予期しない放出などの短期的変動を把握する

として、県、原子力事業所が分担して実施する監視・測定項目・頻度や評価方法を定めています。

関係機関は、この計画に基づき監視・測定を行い、四半期毎に監視委員会に報告を行っています。この報告について、監視委員会の下部組織である評価部会が詳細に検討を行い、その結果を踏まえ、監視委員会が評価を行い、監視季報としてとりまとめております。

季報の内容は次表のとおりです。

季 報	評 価 項 目
第1四半期	短期的変動調査結果（4～6月）
第2四半期	短期的変動調査結果（7～9月）、長期的変動調査結果（4～9月）
第3四半期	短期的変動調査結果（10～12月）
第4四半期	短期的変動調査結果（1～3月）、長期的変動調査結果（10～3月）、 年間線量の推定結果（4～3月）

本監視季報は、平成25年度第3四半期及び平成25年度第4四半期における評価項目について、平成26年8月20日に本委員会を開催して評価した結果です。

なお、福島第一原子力発電所事故による茨城県内全域における農畜水産物等への放射性物質の影響については、別に特別調査として報告を受けています。

茨城県東海地区環境放射線監視委員会

委員長（茨城県副知事）山 口 やちゑ

目 次

〔第166報 平成25年度第3四半期環境放射線監視結果〕

I	監視結果の評価	1
II	監視結果の概要	3
II-1	短期的変動調査結果	3
参考1	原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果	9
III	測定結果	10
III-1	短期的変動調査結果	10
1	環境における測定結果	10
1-1	空間 γ 線量率測定結果	10
1-1-1	モニタリングステーション	10
1-1-2	モニタリングポスト	15
1-2	大気中放射能測定結果	21
1-2-1	大気塵埃中の放射性核種分析結果	21
1-2-2	降下塵中の放射性核種分析結果	24
1-3	農畜産物中の放射能測定結果	25
1-3-1	牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果（ ^{131}I ）	25
1-4	海洋における放射能測定結果	25
1-4-1	海水中の放射性核種分析結果（ ^3H ）	25
2	敷地内における測定結果	27
2-1	空間 γ 線量率測定結果	27
2-1-1	モニタリングステーション	27
2-1-2	モニタリングポスト	27
2-2	大気中放射能測定結果	28
2-2-1	大気塵埃中の放射性核種分析結果	28
3	放出源における測定結果	29
3-1	排 気	29
3-1-1	排気中の放射性核種分析結果	29
3-1-2	排気中の全 β 放射能測定結果	41
3-1-3	排気中の全 α 放射能測定結果	44
3-2	排 水	45

3-2-1	排水中の放射性核種分析結果	45
3-2-2	排水中の全 β 放射能測定結果	57
3-2-3	再処理施設排水中の放射性核種分析結果	60
3-2-4	再処理施設排水中の全 β 放射能測定結果	65
3-2-5	排水中の全 γ 放射能連続測定結果	66
参考1	原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果	68
参考2	主要施設運転状況	71

〔第167報 平成25年度第4四半期環境放射線監視結果〕

I	監視結果の評価	73
II	監視結果の概要	75
II-1	短期的変動調査結果	75
II-2	長期的変動調査結果	81
II-3	線量の推定結果	85
参考1	原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果	87
III	測定結果	88
III-1	短期的変動調査結果	88
1	環境における測定結果	88
1-1	空間 γ 線量率測定結果	88
1-1-1	モニタリングステーション	88
1-1-2	モニタリングポスト	93
1-2	大気中放射能測定結果	99
1-2-1	大気塵埃中の放射性核種分析結果	99
1-2-2	降下塵中の放射性核種分析結果	102
1-3	農畜産物中の放射能測定結果	103
1-3-1	牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果（ ^{131}I ）	103
1-4	海洋における放射能測定結果	103
1-4-1	海水中の放射性核種分析結果（ ^3H ）	103
2	敷地内における測定結果	104
2-1	空間 γ 線量率測定結果	104
2-1-1	モニタリングステーション	104

2-1-2	モニタリングポスト	104
2-2	大気中放射能測定結果	105
2-2-1	大気塵埃中の放射性核種分析結果	105
3	放出源における測定結果	106
3-1	排気	106
3-1-1	排気中の放射性核種分析結果	106
3-1-2	排気中の全 β 放射能測定結果	118
3-1-3	排気中の全 α 放射能測定結果	121
3-2	排水	122
3-2-1	排水中の放射性核種分析結果	122
3-2-2	排水中の全 β 放射能測定結果	134
3-2-3	再処理施設排水中の放射性核種分析結果	137
3-2-4	再処理施設排水中の全 β 放射能測定結果	142
3-2-5	排水中の全 γ 放射能連続測定結果	143
Ⅲ-2	長期的変動調査結果	145
1	環境における測定結果	145
1-1	空間 γ 線量測定結果	145
1-1-1	サーベイ結果	145
1-1-2	積算線量測定結果	150
1-2	漁網表面吸収線量率の測定結果	161
1-3	大気中放射能測定結果	161
1-3-1	降下塵中の放射性核種分析結果	161
1-4	陸土中の放射能測定結果	164
1-4-1	土壌中の放射性核種分析結果	164
1-4-2	河底土中の放射性核種分析結果	164
1-4-3	海岸砂中の放射性核種分析結果	164
1-5	陸水中の放射能測定結果	165
1-5-1	河川水及び湖沼水中の放射性核種分析結果	165
1-5-2	飲料水中の放射性核種分析結果	165
1-6	海洋における放射能測定結果	166
1-6-1	海水中の放射性核種分析結果	166
1-6-2	海底土中の放射性核種分析結果	167
1-7	排水口近辺土砂中の放射性核種分析結果	170
2	敷地内における測定結果	171
2-1	空間 γ 線量測定結果	171
2-1-1	積算線量測定結果	171

Ⅲ-3	線量の推定結果	173
1	放出源情報に基づく実効線量	173
1-1	放射性気体廃棄物による実効線量	173
1-2	放射性液体廃棄物による実効線量	175
2	積算線量による外部被ばく実効線量	177
3	環境試料中の放射性核種分析結果に基づく成人の預託実効線量	178
資料	線量の推定に用いた測定結果	179
1	放出源における放出量	179
1-1	放射性気体廃棄物	179
1-2	放射性液体廃棄物	180
2	積算線量	182
2-1	自然放射線の寄与も含む積算線量	182
2-2	福島第一原子力発電所事故に起因する積算線量	185
2-3	自然放射線量（各地点における過去5年間の積算線量）	188
3	環境試料中の放射性核種分析結果	191
3-1	農畜産物中の放射性核種分析結果	191
3-2	陸水中の放射性核種分析結果	192
3-3	海産物中の放射性核種分析結果	193
参考1	原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果	197
参考2	主要施設運転状況	200
別表1	環境試料の核種濃度検出限界	202
別表2	排水中の全 β ・全 γ 検出限界	203
別表3	排気の不検出分放出量算出方法	204
別表4	排水の不検出分放出量算出方法	207
	〈用語・記号等の解説〉	209
	〈本報告書の解説〉	212
	《参考資料》	
1	線量評価について	217
2	環境放射能測定データ報告要領（抜粋）	225
3	線量算出要領（抜粋）	227

本報告書をご覧になる参考として

209ページに、〈用語・記号等の解説〉

212ページに、〈本報告書の解説〉

を掲載してあります。

第166報（平成25年度第3四半期環境放射線監視結果）

I 監視結果の評価

茨城県環境放射線監視計画に基づく監視結果は下記のとおりである。

記

1 短期的変動調査結果（平成25年10月～平成25年12月）

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、一部の空間ガンマ線量率が平常の変動幅を上回った。また、同様に、大気塵埃及び降下塵から¹³⁷Csなどの放射性核種が検出された。

さらに、原子力施設の排水からも、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による放射性核種が検出された。

Ⅱ 監視結果の概要

Ⅱ－１ 短期的変動調査結果

評価対象期間：平成25年10月から平成25年12月

短期的変動調査は、原子力施設から平常稼働時に放出される放射性物質の他に、事故等により環境へ放出される放射線・放射性物質の有無や環境への影響の有無を早期に把握するために行っている。

前四半期と同様に、空間ガンマ線量率、大気塵埃、降下塵などの測定結果において、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響が見られた。

１ 環境における測定結果

１－１ 空間ガンマ線量率測定結果（10～20ページ）

空間の放射線（ガンマ線）の測定は、98地点のモニタリングステーション、モニタリングポストにおいて行っている。評価の対象となっている月平均値は、38nGy/時～230nGy/時の間にあり、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、98地点中13地点において平常の変動幅（上限値：100nGy/時）を上回った。

なお、1時間値の最大値（原子力機構原科研測定周辺の監視区域境界（MP-19）：10月1日）は250nGy/時であった。

一般環境（事業所周辺監視区域境界及び敷地内を除く）

（単位：nGy/時）

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値（平成22年度）	事故後1時間値の最大値
東海地区 <21> （東海村，那珂市，常陸大宮市（根本））	45～93	110（亀下：11月11日）	80（亀下：11月）	3,600（豊岡：平成23年3月15日）
日立地区 <6> （日立市（久慈，大沼，留），常陸太田市（磯部，真弓，久米））	48～76	89（久慈：11月11日）	73（磯部：11月）	3,900（久慈：平成23年3月15日）
ひたちなか地区 <8> （ひたちなか市）	57～92	110（常陸那珂：11月11日）	78（馬渡：7月）	3,700（堀口：平成23年3月15日）
大洗地区 <15> （大洗町，銚田市（造谷，荒地，田崎，樺山，上富田，徳宿），茨城町（広浦，海老沢，谷田部），水戸市（吉沢，大場））	51～90	100（造谷：12月20日）	71（荒地：12月）	3,100（広浦：平成23年3月15日）
比較対照地区 <1> （水戸市石川）	63	73（11月11日）	72（7月）	1,500（平成23年3月15日）
原電又は原子力機構大洗から10～30km圏内地区 <22> （日立市（十王，平和，中里），常陸太田市（里美，町田，松平），常陸大宮市（野上），銚田市（銚田，大蔵），茨城町（下飯沼），水戸市（鯉淵），城里町，笠間市，小美玉市，石岡市，かすみがうら市，行方市，鹿嶋市）	38～82	98（石岡市柏原：11月11日）		

注） < >内は地点数

事業所周辺監視区域境界

（単位：nGy/時）

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値（平成22年度）	事故後1時間値の最大値
東海地区 <14> （原子力機構原科研，原子力機構サイクル工研，原電）	注2） 75～230	250（原科研MP-19：10月1日）	77（サイクル工研MP-8：7月）	5,200（原科研MP-19：平成23年3月15日）
大洗地区 <11> （原子力機構大洗）	注2） 70～170	190（P-11：10月15日，11月11日）	69（P-6：7月）	3,100（P-11，P-12：平成23年3月21日）

注1） < >内は地点数

注2）福島第一原子力発電所事故の影響により，松林等が存在している場所では，空間ガンマ線量率が高くなる。

1-2 大気中放射能測定結果

1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果（21～23ページ）

東海村村松など15地点（東海村6地点，ひたちなか市3地点，日立市1地点，銚田市1地点，茨城町1地点，大洗町2地点，水戸市1地点）において1ヶ月分を採取したものを測定した結果，福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により， ^{134}Cs が5地点， ^{137}Cs が11地点で

検出された。

(検出状況)

(単位：mBq/m³)

検出核種	分析値	事故前の最高値 ^{注)}	事故後の最高値
¹³⁴ Cs	<0.1 ~ 0.48	<0.1	2,800 (ひたちなか市長砂：平成23年3月)
¹³⁷ Cs	<0.1 ~ 1.1	<0.1	3,800 (東海村村松：平成23年3月)

注) 平成元年以降の最高値。なお、JCO臨界事故時のデータを除く。(以下、同様)

1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果 (24ページ)

戸田市上国井町など3地点において1ヶ月分を採取したものを測定した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、¹³⁴Cs、¹³⁷Csが全地点で検出された。

(検出状況)

(単位：Bq/m²)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
¹³⁴ Cs	0.67 ~ 19	<0.4	25,000 (原子力機構大洗構内：平成23年3月)
¹³⁷ Cs	1.5 ~ 42	<0.4	27,000 (原子力機構大洗構内：平成23年3月)

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳(原乳)中の放射性核種分析結果 (¹³¹I) (25ページ)

茨城県央クーラーステーションなど2地点における測定結果は、全て不検出であった。

1-4 海洋における放射能測定結果

1-4-1 海水中の放射性核種分析結果 (³H) (25ページ)

久慈沖(A)など12海域における測定結果は、全て不検出であった。

2 主な原子力施設の敷地内における測定結果

2-1 空間ガンマ線量率測定結果 (27ページ)

評価対象としている月平均値は、東海地区(原子力機構サイクル工研)が65nGy/時から67nGy/時、大洗地区(原子力機構大洗)が83nGy/時から84nGy/時であった。

なお、1時間値の最大値(原子力機構大洗測定のP-8：11月)は、98nGy/時であった。

(検出状況)

(単位：nGy/時)

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値(平成22年度)	事故後1時間値の最大値
東海地区<1> (原子力機構サイクル工研)	65~67	79(11月11日)	52(7月)	4,000(平成23年3月15日)
大洗地区<1> (原子力機構大洗)	83~84	98(11月11日)	63(1月)	2,900(平成23年3月15日)

注) < >内は地点数

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果 (28ページ)

原子力機構原科研など3地点において1ヶ月分を採取したものを測定した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs が1地点、 ^{137}Cs が2地点で検出された。

(検出状況)

(単位：mBq/m³)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	<0.1 ~ 0.92	<0.1	2,300 (原子力機構大洗：平成23年3月)
^{137}Cs	<0.1 ~ 2.1	<0.1	2,400 (原子力機構大洗：平成23年3月)

3 放出源における測定結果

3-1 排気中の放射能測定結果

排気中に含まれる放射性物質については、原子力事業者が放射性核種分析、全ベータ放射能測定、全アルファ放射能測定を行っている。

主要放出核種の放射性核種分析結果は、過去のレベル又はそれ以下であった。全ベータ放射能及び全アルファ放射能については不検出であった。

3-1-1 放射性核種分析結果 (主要放出核種) (29~39ページ)

測定対象の42排気筒のうち、今期に放出のなかった5排気筒を除いた原子力機構原科研JRR-2、原子力機構サイクル工研再処理施設の主排気筒など37排気筒において希ガス (^{41}Ar , ^{85}Kr など)、 ^3H など各施設の放出核種を測定したところ、下記の6排気筒で検出されたが、過去と同じレベル又はそれ以下であった。

(検出状況)

(単位：Bq/cm³)

測定者	施設名	核種名	3ヶ月平均濃度	3ヶ月平均濃度 過去最大値	参考管理目標値
原子力機構 原科研	NSRR 燃料試験施設	希ガス	1.1×10^{-4}	6.6×10^{-4}	1.9×10^{-1}
		希ガス	6.8×10^{-3}	1.4×10^{-2}	7.8×10^{-2}
原子力機構 サイクル工研	再処理施設・主排気筒	^3H	9.6×10^{-5}	2.6×10^{-3}	2.4×10^{-1}
積水 メディカル	第4棟排気筒	^3H	1.9×10^{-5}	2.2×10^{-5}	7.4×10^{-4}
		^{14}C	6.6×10^{-6}	2.3×10^{-5}	1.6×10^{-4}
NDC	化学分析棟 (R棟)	^{131}I	1.4×10^{-9}	2.1×10^{-8}	7.4×10^{-8}
日本核燃	照射後試験施設	希ガス	2.2×10^{-5}	5.0×10^{-3}	5.2×10^{-3}

注) 検出された核種のみ記載

3-1-1' 放射性核種分析結果 (その他検出された核種) (40ページ)

原電東海発電所、東海第二発電所及び廃棄物処理建屋排気筒で ^3H が検出されたが、過去と同じレベル又はそれ以下であった。

3-1-2, 3-1-2' 全ベータ放射能測定結果 (41~43ページ)

NDC材料試験棟及び原子力機構原科研JRR-3など23排気筒において測定した結果、いずれも不検出であった。

3-1-3 全アルファ放射能測定結果 (44ページ)

核管センター新分析棟など3排気筒における測定結果は、いずれも不検出であった。

3-2 排水中の放射能測定結果

排水中に含まれる放射性物質の測定は、放射性核種分析、全ベータ放射能測定、再処理施設排水中の放射性核種分析、再処理施設排水中の全ベータ放射能測定、排水中の全ガンマ放射能測定によって行っている。

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{137}Cs 及び全ガンマ放射能が検出された。

3-2-1 放射性核種分析結果 (主要放出核種) (45~50ページ)

原子力事業者は、今期に放出のなかった三菱原燃排水貯槽を除く原子力機構原科研第1排水溝、原子力機構サイクル工研第2排水溝など16排水溝において ^{60}Co などの核種を測定している。下記の6排水溝で検出されたが、全て法令値(56ページ)以下であった。

(検出状況)

(単位: Bq/cm³)

測定者	排水溝名	核種名	3ヶ月平均濃度	法令値	3ヶ月平均濃度／法令値
原子力機構原科研	第2排水溝	^3H	1.1×10^{-1}	6×10 注1)	1/550
		^{137}Cs 注2)	2.8×10^{-5}	9×10^{-2}	1/3,200
原子力機構大洗	北地区	^3H	6.2×10^{-3}	6×10 注1)	1/9,700
原電	東海第二発電所	^3H	1.2×10^{-1}	6×10 注1)	1/500
三菱原燃	排水ポンド	Th, Pa	1.0×10^{-3}	2×10^{-1}	1/200
N D C	排水貯槽	^{137}Cs	2.5×10^{-4}	9×10^{-2}	1/360
積水メディカル	調整槽	^3H	1.9	2×10 注3)	1/11
		^{14}C	1.4	2	1/1.4

注) 検出された核種のみ記載。

注1) 水としての法令値

注2) 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

注3) 有機物(メタンを除く)としての法令値

3-2-1' 放射性核種分析結果 (主要放出核種) (51~54ページ)

県は原子力機構原科研第1排水溝など12排水溝で測定している。原子力機構原科研第2排水溝など10排水溝で ^3H , ^{14}C , ^{60}Co , ^{137}Cs 又はUの5核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

なお、原子力機構大洗北地区及び原電東海発電所において検出された ^{137}Cs は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響である。

3-2-1'' 放射性核種分析結果 (その他検出された核種) (55ページ)

原子力事業者が測定した16排水溝において、主要放出核種以外の核種として原子力機構原科研第1排水溝など4排水溝で、 ^3H , ^{22}Na , ^{36}Cl , ^{54}Mn , ^{90}Sr , ^{134}Cs , ^{137}Cs 又は ^{232}Th の8核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

3-2-2, 3-2-2' 全ベータ放射能測定結果 (57~59ページ)

原子力事業者, 県は原子力機構原科研第1排水溝及び原子力機構サイクル工研第1排水溝など13排水溝において測定している。原子力機構原科研第2排水溝等の11排水溝で検出されたが, 監視委員会が定めた判断基準を全て下回っていた。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果 (60~63ページ)

原子力機構サイクル工研が ^3H など14核種について分析した結果, ^3H が検出されたが, 法令値 (64ページ) 以下であった。

また, 県が ^3H など9核種について測定した結果, ^3H , ^{137}Cs 及び $\text{Pu}(\alpha)$ の3核種が検出されたが, いずれも法令値以下であった。

(検出状況)

(単位: MBq)

測定者	排水溝名	核種名	3ヶ月放出量	法令値	3ヶ月放出量 /法令値
原子力機構 サイクル工研	再処理施設	^3H	1.5×10^5	4.7×10^8	1/3,100

備考 県の測定では, ^3H , ^{137}Cs 及び $\text{Pu}(\alpha)$ を検出。3ヶ月間の最大濃度はそれぞれ 3.7×10^{-5} , 7.7×10^{-5} 及び $2.1 \times 10^{-5} \text{Bq/cm}^3$ であり, 参考として法令(保安規定)に定める最大放出濃度(それぞれ 2.5×10^4 , 7.8×10^{-1} 及び $3.0 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$)と比較すると, それぞれ 1/670, 1/10,000及び1/1,400 以下であった。

3-2-4 再処理施設排水中の全ベータ放射能測定結果 (65ページ)

原子力機構サイクル工研, 県測定とも, 不検出であった。

3-2-5 排水中の全ガンマ放射能連続測定結果 (66ページ)

原子力機構原科研第2排水溝などの4排水溝で測定したところ, 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により, 2排水溝で検出された。

参考 1

原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果 (68～70ページ)

本調査は、原子力機構サイクル工研が、再処理施設の低レベル放射性廃液の海洋放出に伴う放出口周辺海域における放射能水準の変動を詳細に把握するために毎月実施しているものであり、放出口を中心とした30地点で海水を採取し、全地点で全ベータ放射能及び ^3H 濃度、7地点で ^{137}Cs 濃度の測定を行っている。

調査の結果、放射性物質濃度の平均値は、全ベータ放射能について 0.040Bq/L 、 ^3H について検出限界値未満、 ^{137}Cs について 0.016Bq/L であった。検出された全ベータ放射能、 ^{137}Cs は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(測定結果)

区 分	地点数	分 析 値
海 水 の 全 ベ ー タ 放 射 能	30	0.040Bq/L
海 水 中 の ^3H 分 析	30	不検出
海 水 中 の ^{137}Cs 分 析	7	0.016Bq/L

Ⅲ 測定結果

Ⅲ-1 短期的変動調査結果

1 環境における測定結果

1-1 空間 γ 線量率測定結果

1-1-1 モニタリングステーション

測定者	評価対象	平常の変動幅（上限）
県 施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
県	東海村石神	最大	76	82	78	
		平均	69	69	69	69
	〃 豊岡	最大	77	88	77	
		平均	69	69	69	69
	〃 舟石川	最大	75	85	77	
		平均	66	67	66	66
	〃 押延	最大	67	75	67	
		平均	59	59	59	59
	〃 村松	最大	80	87	77	
		平均	71	71	71	71
	〃 三菱原燃	最大	59	68	62	
		平均	53	53	53	53
	〃 原燃工	最大	74	79	74	
		平均	68	68	68	68
	那珂市横堀	最大	63	73	67	
		平均	56	57	57	57
	〃 門部	最大	56	63	61	
		平均	51	52	51	51
	〃 菅谷	最大	85	93	89	
		平均	80	81	80	80
〃 本米崎	最大	61	69	62		
	平均	53	54	54	54	
〃 額田	最大	59	63	61		
	平均	53	53	53	53	
〃 鴻巣	最大	53	61	55		
	平均	45	45	45	45	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
県	那珂市後台	最大	59	68	62	
		平均	51	52	52	52
	〃 瓜連	最大	61	67	63	
		平均	54	54	54	54
	ひたちなか市馬渡	最大	81	84	74	
		平均	70	70	70	70
	〃 常陸那珂	最大	100	110 (注3)	97	
		平均	92	92	91	92
	〃 阿字ヶ浦	最大	77	81	74	
		平均	67	67	67	67
	〃 堀口	最大	84	91	83	
		平均	75	76	75	75
	〃 佐和	最大	67	80	68	
		平均	60	60	60	60
	〃 柳沢	最大	72	77	69	
		平均	63	63	63	63
	日立市久慈	最大	86	89 (注4)	81	
		平均	76	74	74	75
	〃 大沼	最大	78	84	77	
		平均	70	69	69	69
	〃 十王	最大	70	71	69	
		平均	62	62	62	62
	〃 平和	最大	66	66	63	
		平均	57	56	56	56
	〃 中里	最大	58	61	55	
		平均	48	48	48	48
	常陸太田市磯部	最大	65	72	69	
		平均	57	58	58	58
	〃 真弓	最大	56	62	60	
		平均	50	50	51	50
〃 久米	最大	55	62	56		
	平均	48	49	48	48	
〃 里美	最大	60	64	50		
	平均	44	44	44	44	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
県	常陸太田市 町 田	最大	71	73	62	
		平均	56	57	57	57
	〃 松 平	最大	48	54	47	
		平均	38	39	39	39
	常陸大宮市 根 本	最大	56	66	57	
		平均	48	49	49	49
	〃 野 上	最大	58	58	55	
		平均	48	48	48	48
	大 洗 町 大 貫	最大	76	83	73	
		平均	67	67	67	67
	〃 磯 浜	最大	65	71	63	
		平均	56	57	56	56
	鉾 田 市 造 谷	最大	95	98	100 (注5)	
		平均	89	89	88	89
	〃 荒 地	最大	83	81	82	
		平均	71	71	71	71
	〃 田 崎	最大	72	76	74	
		平均	64	64	63	64
	〃 樅 山	最大	76	77	81	
		平均	68	68	67	68
	〃 上 富 田	最大	68	69	71	
		平均	62	62	61	62
	〃 徳 宿	最大	66	67	72	
		平均	62	62	62	62
	〃 鉾 田	最大	69	68	74	
		平均	60	60	60	60
	〃 大 蔵	最大	83	83	77	
		平均	67	68	67	67
	茨 城 町 広 浦	最大	84	90	81	
		平均	75	75	74	75
〃 海 老 沢	最大	75	80	75		
	平均	65	65	65	65	
〃 谷 田 部	最大	66	75	72		
	平均	59	59	59	59	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
県	茨城町下飯沼	最大	59	65	60	
		平均	53	53	53	53
	水戸市吉沢	最大	58	66	58	
		平均	51	51	51	51
	〃大場	最大	72	79	69	
		平均	64	64	64	64
	〃石川	最大	69	73 ^(注6)	72	
		平均	63	63	63	63
	〃鯉淵	最大	76	77	75	
		平均	67	67	67	67
	城里町石塚	最大	61	63	58	
		平均	53	53	53	53
	笠間市大橋	最大	73	79	75	
		平均	64	64	64	64
	〃下郷	最大	84	87	82	
		平均	75	76	75	75
	小美玉市堅倉	最大	56	67	55	
		平均	46	46	46	46
	〃川戸	最大	54	54	52	
		平均	43	43	44	43
石岡市柏原	最大	86	98 ^(注7)	86		
	平均	78	78	78	78	
〃三村	最大	82	86	87		
	平均	75	75	75	75	
かすみがうら市坂	最大	95	97	89		
	平均	81	81	81	81	
行方市芹沢	最大	67	67	68		
	平均	58	58	58	58	
〃蔵川	最大	59	56	70		
	平均	47	48	47	47	
鹿嶋市津賀	最大	95	94	96		
	平均	82	81	81	81	
東海村須和間	最大	74	83	74		
	平均	66	66	66	66	

原子力
構造
科研

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
原子力機構 原研	東海村亀下	最大	100	110 ^(注8)	100	
		平均	91	92	93	92
原子力機構 サイクル工研	〃舟石川	最大	63	72	62	
		平均	56	56	55	56
	ひたちなか市長砂	最大	77	83	75	
		平均	69	69	68	69
	〃高野	最大	63	69	63	
		平均	57	57	57	57
原子力機構 大洗	周辺監視区域境界 (P-2)	最大	110	110	100	
		平均	98	97	97	97
	〃 (P-6)	最大	78	86	78	
		平均	70	70	70	70
原電	東海村船場	最大	60	68	61	
		平均	54	55	54	54
	日立市留	最大	74	83	73	
		平均	65	66	66	66

(注1) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(注2) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、空間ガンマ線量率が高くなる傾向にある。

(注3) ひたちなか地区の一般環境における1時間値の最大値110nGy/時(県測定:ひたちなか市常陸那珂)が観測されたのは、11月11日4時であり、降雨の影響である。

(注4) 日立地区の一般環境における1時間値の最大値89nGy/時(県測定:日立市久慈)が観測されたのは、11月11日2時であり、降雨の影響である。

(注5) 大洗地区の一般環境における1時間値の最大値100nGy/時(県測定:銚田市造谷)が観測されたのは、12月20日16時であり、降雨の影響である。

(注6) 比較対照地点における1時間値の最大値73nGy/時(県測定:水戸市石川)が観測されたのは、11月11日16時であり、降雨の影響である。

(注7) 原電又は原子力機構大洗から10~30km圏内地区における1時間値の最大値98nGy/時(県測定:石岡市柏原)が観測されたのは、11月11日4時であり、降雨の影響である。

(注8) 東海地区の一般環境における1時間値の最大値110nGy/時(原子力機構原研測定:東海村亀下)が観測されたのは、11月11日16時であり、降雨の影響である。

1-1-2 モニタリングポスト

測定者	評価対象	平常の変動幅 (上限)
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
原子力機構原科研	周辺監視区域境界 (MP-11)	最大	120	130	120	
		平均	120	110	110	110
	〃 (MP-16)	最大	130	130	120	
		平均	120	120	120	120
	〃 (MP-17)	最大	110	120	110	
		平均	110	100	100	100
	〃 (MP-18)	最大	230	220	220	
		平均	220	220	220	220
	〃 (MP-19)	最大	250 (注3)	240	230	
		平均	230	220	220	220
原子力機構サイクル工研	周辺監視区域境界 (MP-1)	最大	120	130	120	
		平均	110	110	110	110
	〃 (MP-6)	最大	110	110	100	
		平均	100	98	98	99
	〃 (ST-5)	最大	100	110	99	
		平均	92	92	91	92
	〃 (MP-7)	最大	140	150	140	
		平均	130	130	130	130
	〃 (MP-8)	最大	130	140	130	
		平均	120	120	120	120
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-1)	最大	100	100	98	
		平均	90	91	90	90
	大洗町成田 (P-3)	最大	79	87	76	
		平均	71	72	71	71
	〃 (P-4)	最大	94	97	95	
		平均	89	90	89	89
	周辺監視区域境界 (P-5)	最大	88	95	87	
		平均	80	80	80	80
	〃 (P-7)	最大	130	130	120	
		平均	120	120	120	120

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-11)	最大	190 ^(注4)	190 ^(注4)	180	
		平均	170	170	170	170
	〃 (P-12)	最大	180	170	170	
		平均	170	160	160	160
	〃 (P-13)	最大	110	110	110	
		平均	110	100	100	100
	〃 (P-14)	最大	100	100	99	
		平均	95	93	92	93
	〃 (P-15)	最大	110	110	110	
		平均	100	100	100	100
	〃 (P-16)	最大	90	93	88	
		平均	82	82	81	82
原電	周辺監視区域境界 (A)	最大	81	91	81	
		平均	75	75	75	75
	〃 (B)	最大	100	110	100	
		平均	97	96	96	96
	〃 (C)	最大	93	110	95	
		平均	88	88	88	88
	〃 (D)	最大	120	130	120	
		平均	120	110	110	110
東海村豊岡	最大	90	100	92		
	平均	85	85	85	85	

(注1) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(注2) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、空間ガンマ線量率が高くなる傾向にある。

(注3) 東海地区の事業所周辺監視区域境界における1時間値の最大値250nGy/時(原子力機構原科研測定:MP-19)が観測されたのは、10月1日1時であり、降雨の影響である。

(注4) 大洗地区の事業所周辺監視区域境界における1時間値の最大値190nGy/時(原子力機構大洗測定:P-11)が観測されたのは、10月15日2時及び11月11日5時であり、降雨の影響である。

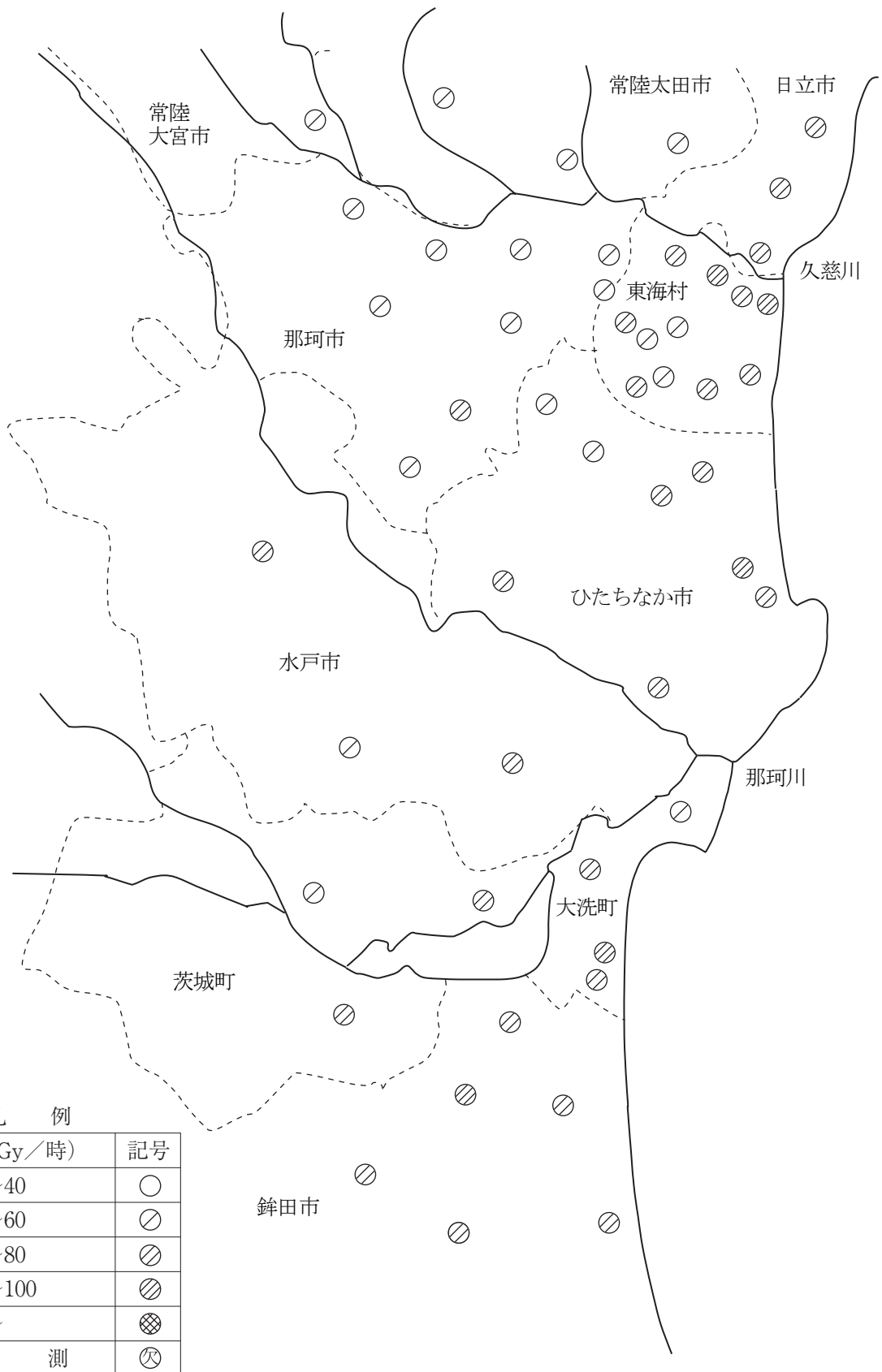


図1 原電又は原子力機構大洗から10km圏内の一般環境における空間 γ 線量率測定結果(3ヶ月平均値)
(事業所周辺監視区域境界を除く)



図2 原電又は原子力機構から10~30km圏内地区における空間γ線量率測定結果(3ヶ月平均値)

平成25年度第3四半期におけるモニタリングステーション、モニタリングポストにおいて測定した空間線量率の経月変化

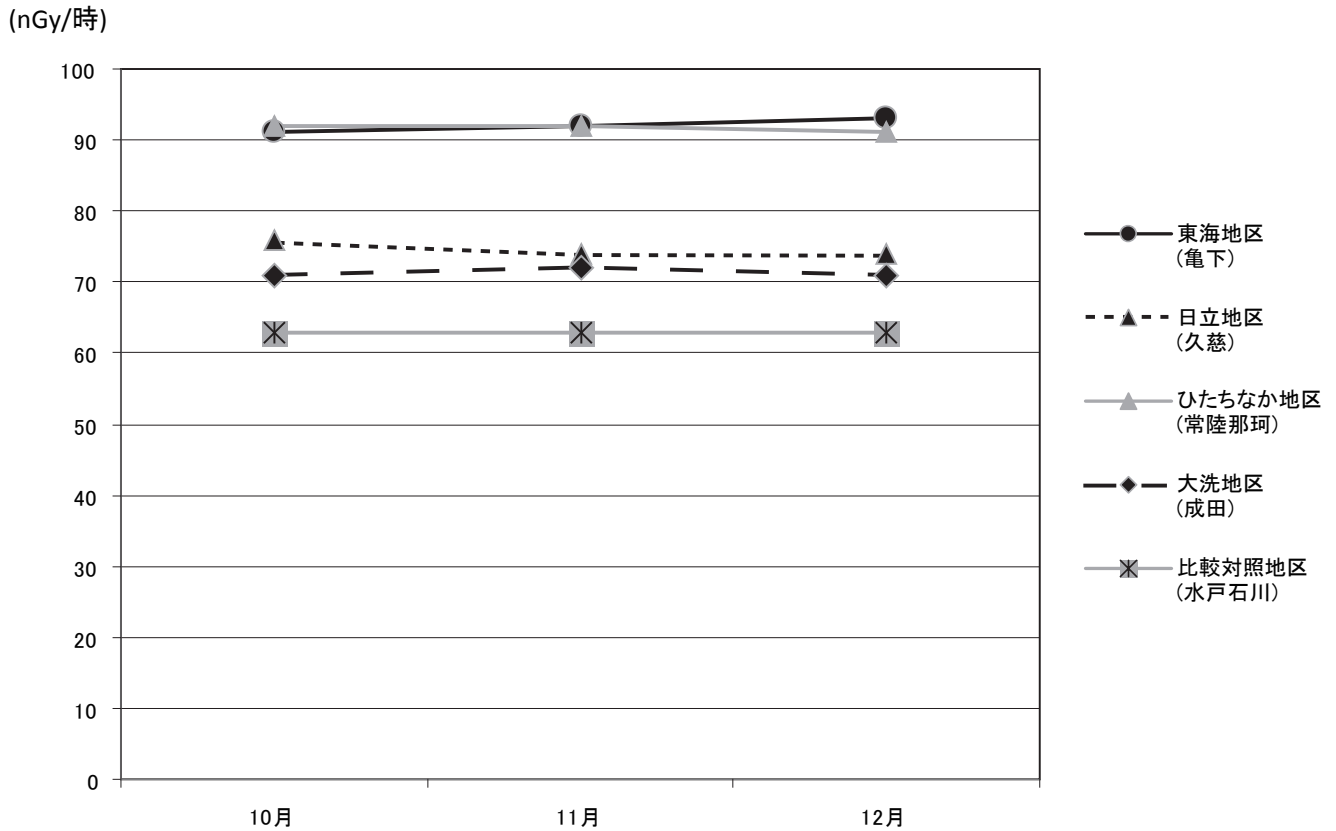


図1 空間ガンマ線量率測定結果の一般環境における月平均値の経月変化

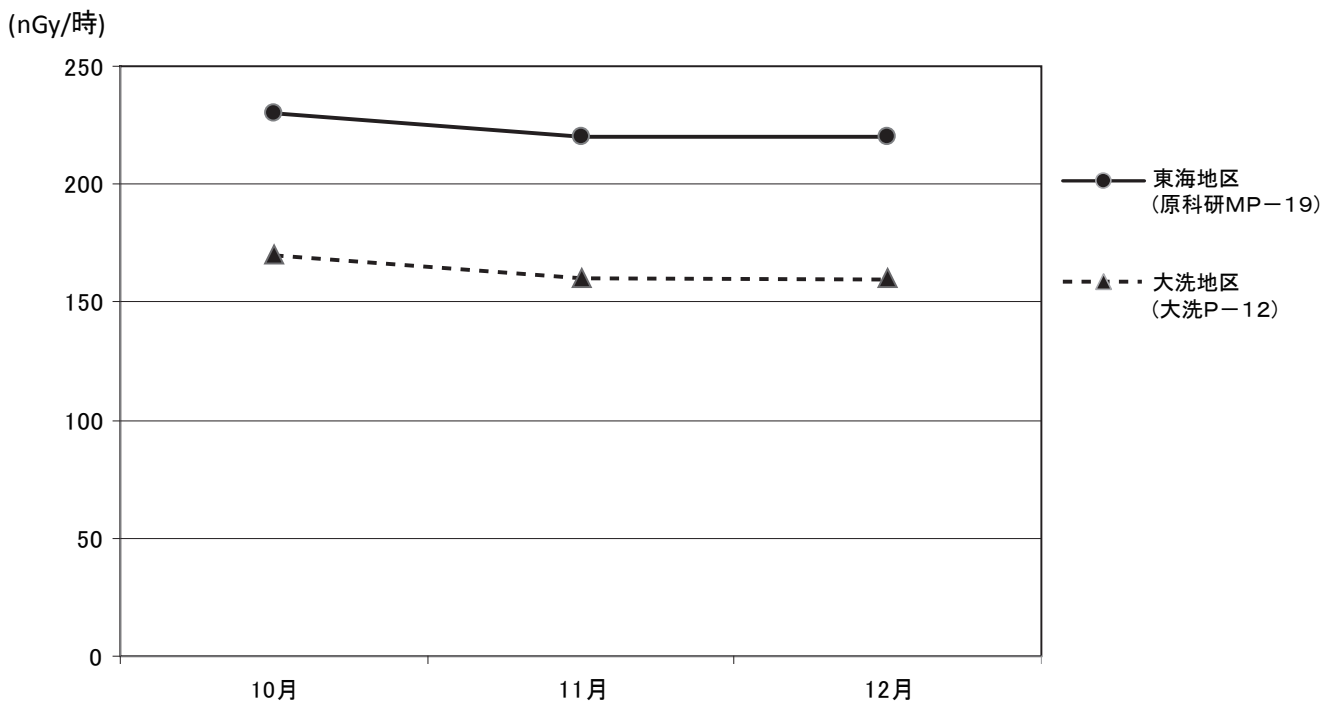
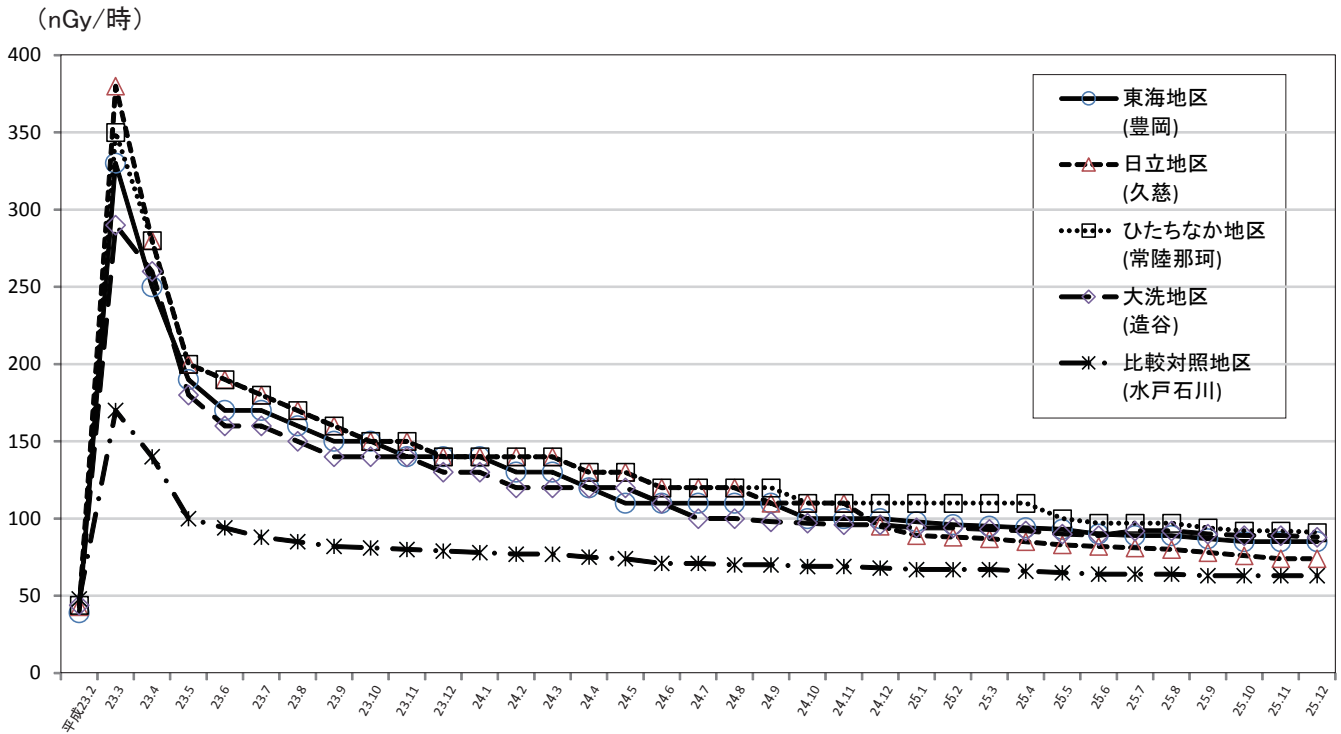
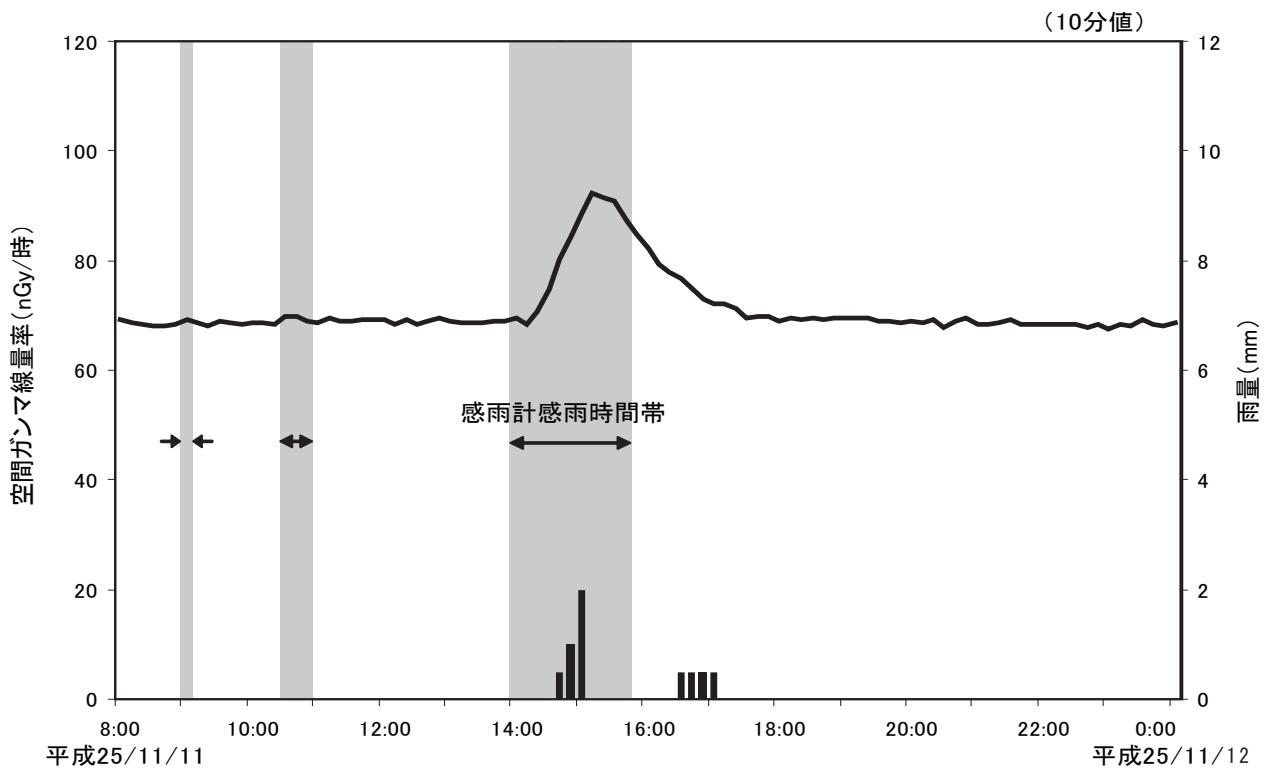


図2 空間ガンマ線量率測定結果の事業所周辺監視区域境界の経月変化

空間ガンマ線量率測定結果の一般環境における月平均値の経月変化
 (福島第一原子力発電所事故前(平成23年2月)から平成25年12月まで)



今期の測定の中で降雨によって最大値が観測された局における
 空間線量率の時系列(豊岡局)



注) 当該グラフにおける空間ガンマ線量率の上昇の原因は降雨によるもの。
 降雨により空間線量率が上昇するのは、自然放射性核種(ラドンとトリウムから生まれた核種)が雨により地表に落下するためであり、それらの核種の半減期は短いことから、雨が止んでから短時間で線量率は降雨前の水準に戻る。

1-2 大気中放射能測定結果

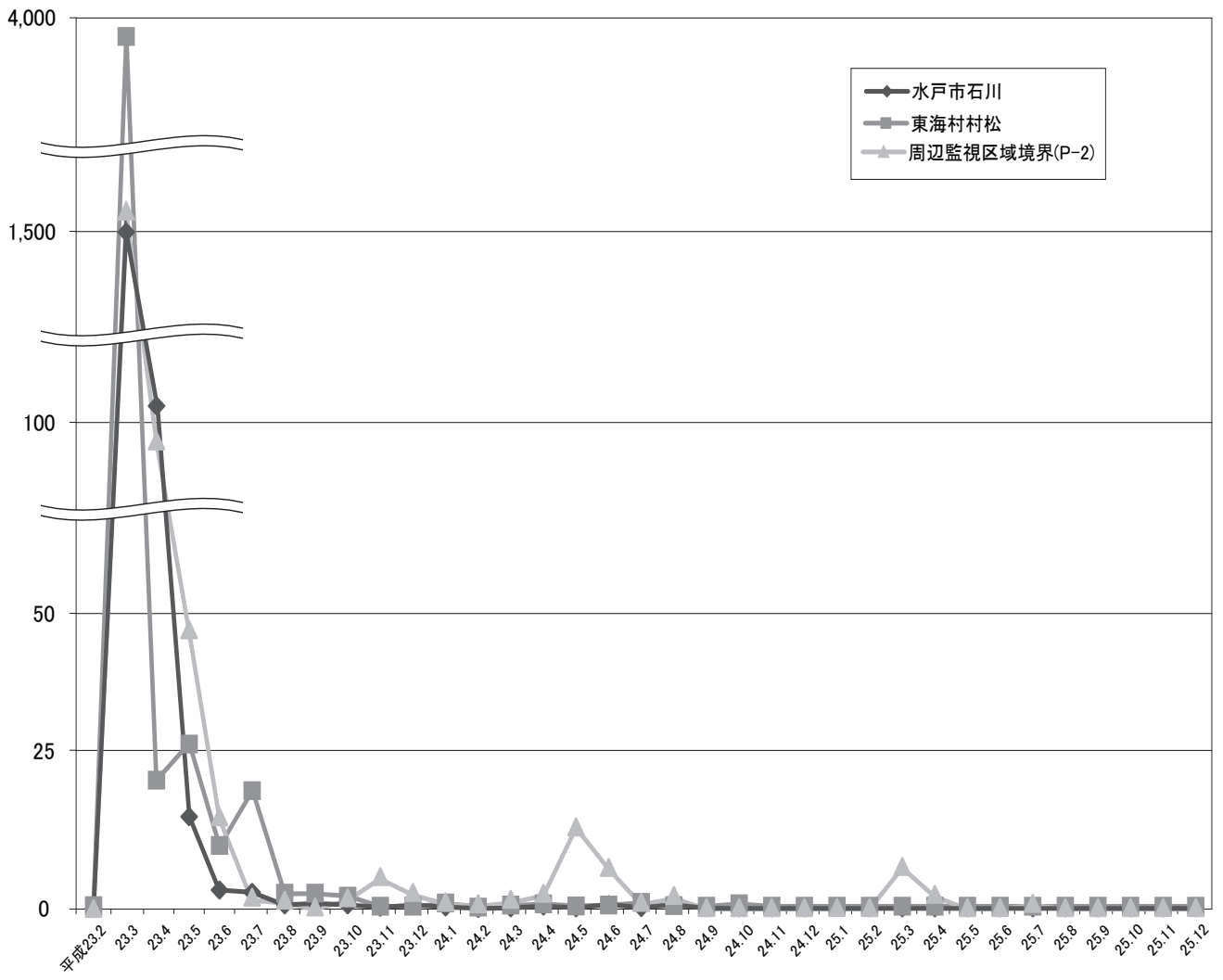
1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu
県	水戸市 石川	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	×	×	
		11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	0.13 [×]	×	
		12. 1~ 1. 1	×	×	×	×	×	×	×	
	東海村 村松	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	×	×	
		11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	0.11 [×]	×	
		12. 1~ 1. 1	×	×	×	×	×	0.11 [×]	×	
	ひたちなか市 常陸那珂	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	0.37 [0.17]	×	
		11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	1.1 [0.48]	×	
		12. 1~ 1. 1	×	×	×	×	×	0.87 [0.40]	×	
	茨城町 広浦	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	0.19 [×]	×	
		11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	0.18 [×]	×	
		12. 1~ 1. 1	×	×	×	×	×	0.44 [0.18]	×	
鉾田市 造谷	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	×	×		
	11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	0.14 [×]	×		
	12. 1~ 1. 1	×	×	×	×	×	0.18 [×]	×		
原子力 機構 原科研	周辺監視区域境界 (MS-2)	9.30~11. 4	×	×	×	×	×	×	×	
		11. 4~12. 2	×	×	×	×	×	×	×	
		12. 2~12.30	×	×	×	×	×	×	×	
	東海村 須和間	9.30~11. 4	×	×	×	×	×	0.66 [0.30]	×	
		11. 4~12. 2	×	×	×	×	×	0.41 [0.18]	×	
		12. 2~12.30	×	×	×	×	×	0.49 [0.21]	×	
	〃 亀下	9.30~11. 4	×	×	×	×	×	0.65 [0.29]	×	
		11. 4~12. 2	×	×	×	×	×	0.66 [0.29]	×	
		12. 2~12.30	×	×	×	×	×	0.20 [×]	×	

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu
原子力 機構 サイクル 工研	東海村 舟石川	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	0.23 [×]	×	×
		11. 1~12. 2	×	×	×	×	×	×	×	
		12. 2~12.30	×	×	×	×	×	×	×	
	ひたちなか市長砂	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	0.14 [×]	×	×
		11. 1~12. 2	×	×	×	×	×	×	×	
		12. 2~12.30	×	×	×	×	×	×	×	
〃 高野	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	×	×	×	
	11. 1~12. 2	×	×	×	×	×	×	×		
	12. 2~12.30	×	×	×	×	×	×	×		
原子力 機構 大洗	周辺監視区域境界 (P-2)	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	0.23 [0.10]	×	/
		11. 1~12. 2	×	×	×	×	×	0.73 [0.33]	×	
		12. 2~ 1. 6	×	×	×	×	×	0.41 [0.18]	×	
	〃 (P-6)	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	0.16 [×]	×	/
		11. 1~12. 2	×	×	×	×	×	0.15 [×]	×	
		12. 2~ 1. 6	×	×	×	×	×	0.16 [×]	×	
原 電	東海村 船場	10. 2~11. 6	×	×	×	×	×	×	×	/
		11. 6~12. 4	×	×	×	×	×	×	×	
		12. 4~ 1. 1	×	×	×	×	×	×	×	
	日立市 留	10. 2~11. 6	×	×	×	×	×	×	×	/
		11. 6~12. 4	×	×	×	×	×	×	×	
		12. 4~ 1. 1	×	×	×	×	×	×	×	

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。
 なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは [] に記載。

大気塵埃中の¹³⁷Cs経月変化 (mBq/m³)



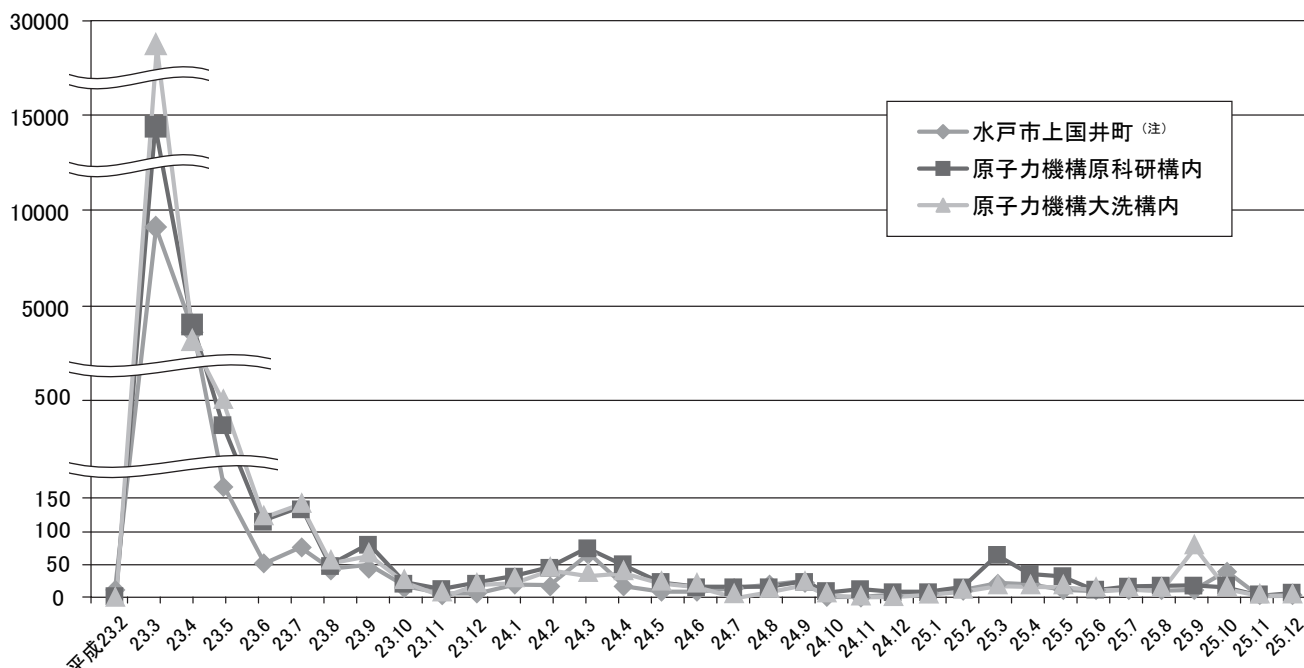
1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (Bq/m ²)						
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	水戸市 上国井町	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	42 [19]	×
		11. 1~12. 2	×	×	×	×	×	1.5 [0.67]	×
		12. 2~ 1. 6	×	×	×	×	×	2.0 [0.85]	×
原子力機構 原科研	構 内	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	15 [6.9]	×
		11. 1~12. 2	×	×	×	×	×	2.0 [0.83]	×
		12. 2~ 1. 6	×	×	×	×	×	6.3 [2.6]	×
原子力機構 大洗	構 内	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	12 [5.4]	×
		11. 1~12. 2	×	×	×	×	×	1.8 [0.81]	×
		12. 2~ 1. 6	×	×	×	×	×	2.6 [1.1]	×

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは [] に記載。

降下塵中の¹³⁷Cs経月変化 (Bq/m²)



(注) 平成25年3月26日より水戸市愛宕町から水戸市上国井町に地点変更。

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果（¹³¹I）

測定者	採取地点	採取月日	核種	分析値 (Bq/L)
県	茨城県央クーラーステーション	10.1	¹³¹ I	×
	里美クーラーステーション	10.1	¹³¹ I	×

(注) 県内全域調査の地点で実施。

1-4 海洋における放射能測定結果

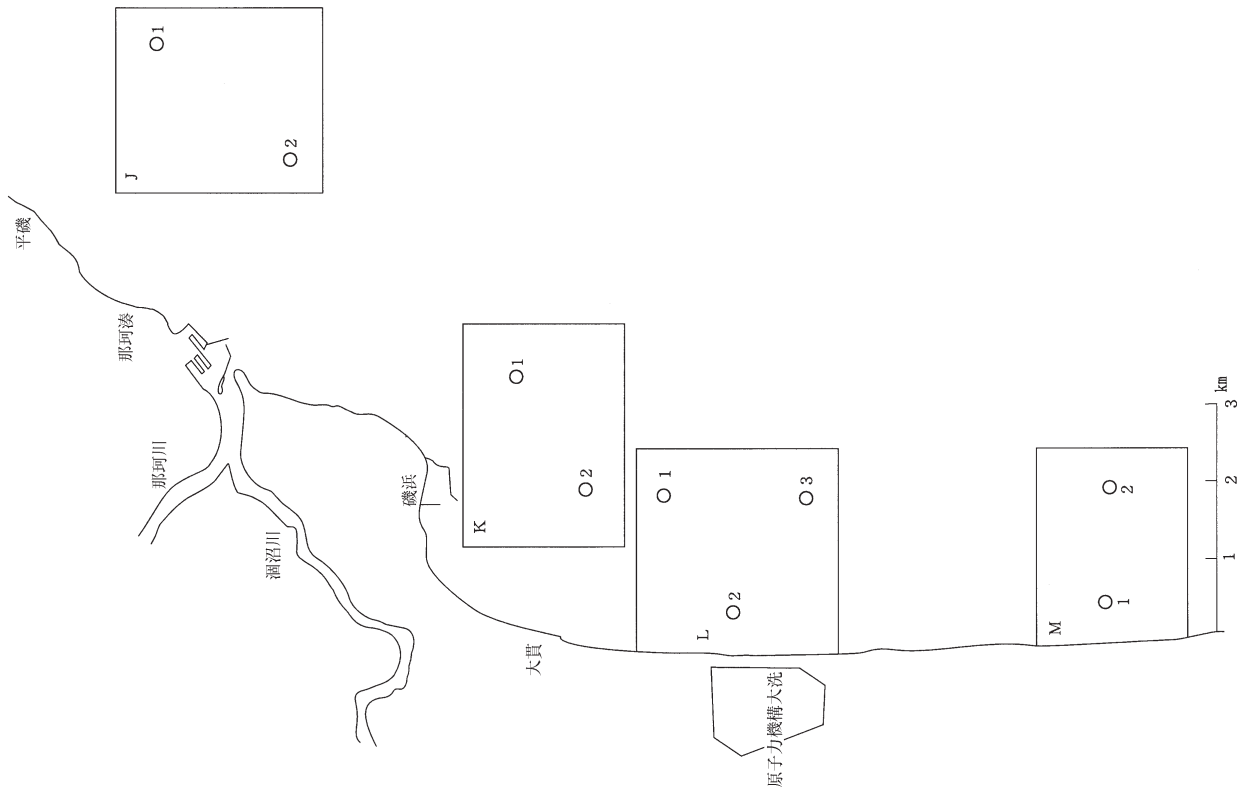
1-4-1 海水中の放射性核種分析結果（³H）

測定者	採水海域	採水月日	水温 (℃)	塩素量 (%)	核種	分析値 (Bq/L)
県	久慈沖 (A)	10.15	21.1	18.38	³ H	×
	原子力機構サイクル工研沖 (G)	10.15	21.0	18.40	³ H	×
	阿字ヶ浦沖 (I)	10.15	21.0	18.17	³ H	×
	那珂湊沖 (J)	10.15	21.1	17.38	³ H	×
	大貫沖 (K)	10.15	21.2	17.16	³ H	×
	再処理排水放出口周辺 (P)	10.21	18.9	12.87	³ H	×
原子力機構原科研	原子力機構原科研沖 (C)	10.29	18.0	15.67	³ H	×
原子力機構 サイクル工研	原子力機構サイクル工研沖 (F)	10.21	18.8	14.31	³ H	×
	長砂沖 (H)	10.21	19.2	13.37	³ H	×
	再処理排水放出口周辺 (P)	10.21	18.9	12.89	³ H	×
原子力機構大洗	原子力機構大洗沖 (L)	10.28	17.9	15.25	³ H	×
	〃 (M)	10.28	17.9	15.94	³ H	×
原電	原電沖 (B)	10.8	21.4	14.63	³ H	×

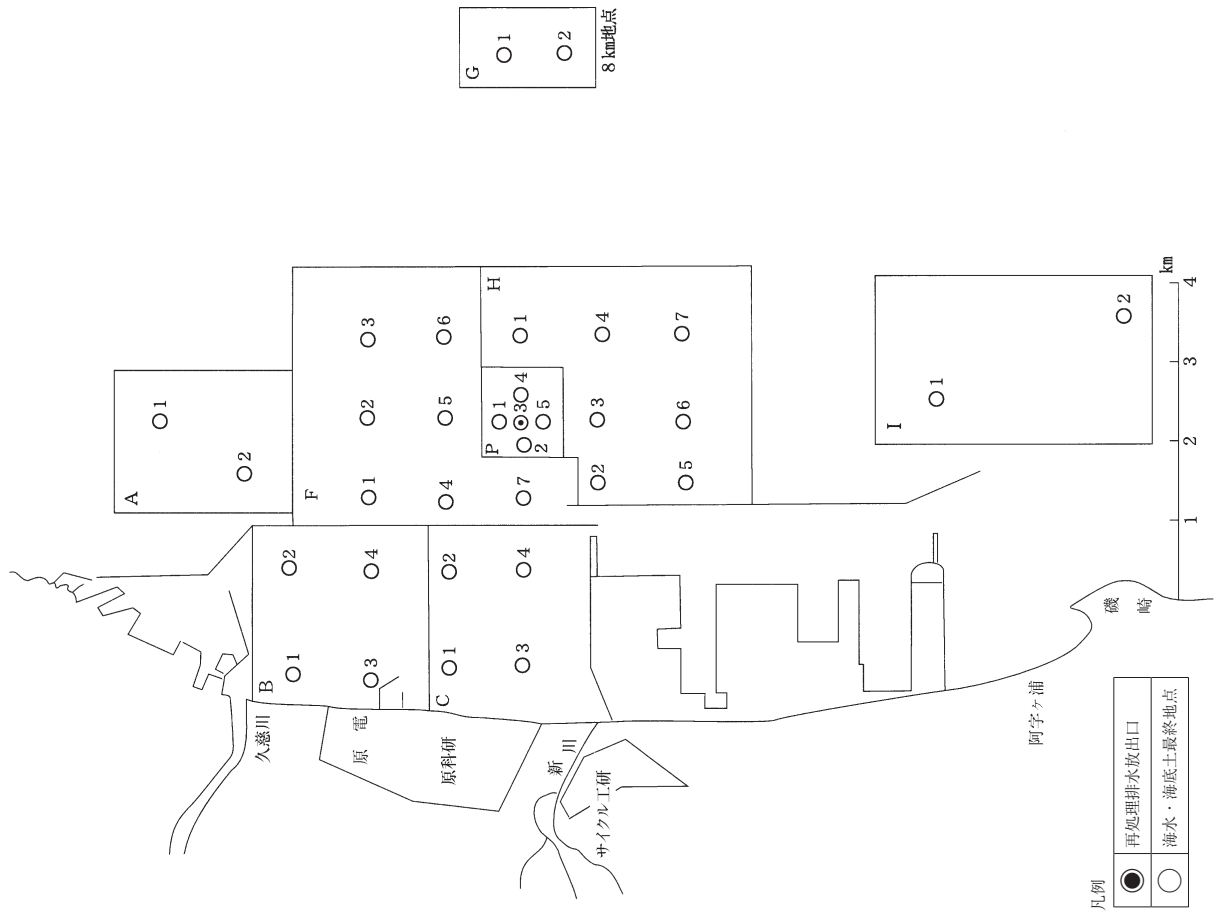
(注1) 採水海域：() 内は採取海域記号。採取地点は26ページの図を参照。

(注2) 表層水を採取。

海水採取地点（大洗地区）



海水採取地点（東海地区）



2 敷地内における測定結果

2-1 空間 γ 線量率測定結果

2-1-1 モニタリングステーション

測定者	評価対象	平常の変動幅（上限）
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値（nGy/時）				
		種別	10月	11月	12月	平均
原子力機構 サイクル工研	S T - 1	最大	73	79	70	
		平均	67	66	65	66

（注1） 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質放出の影響を含む。

（注2） 最大値79nGy/時は、11月11日16時に観測されたものであり、降雨の影響である。

2-1-2 モニタリングポスト

測定者	評価対象	平常の変動幅（上限）
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値（nGy/時）				
		種別	10月	11月	12月	平均
原子力機構 大洗	構内 (P-8)	最大	94	98	93	
		平均	84	84	83	84

（注1） 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質放出の影響を含む。

（注2） 最大値98nGy/時は、11月11日5時に観測されたものであり、降雨の影響である。

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu
原子力機構 原科研	MS-1	9.30~11.4	×	×	×	×	×	×	×	
		11.4~12.2	×	×	×	×	×	×	×	
		12.2~12.30	×	×	×	×	×	×	×	
原子力機構 サイクル工研	ST-1	10.1~11.1	×	×	×	×	×	0.17 [×]	×	×
		11.1~12.2	×	×	×	×	×	×	×	
		12.2~12.30	×	×	×	×	×	×	×	
原子力機構 大洗	構内	10.1~11.1	×	×	×	×	×	0.12 [×]	×	
		11.1~12.2	×	×	×	×	×	2.1 [0.92]	×	
		12.2~1.6	×	×	×	×	×	0.42 [0.18]	×	

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。
 なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは [] に記載。

3 放出源における測定結果

3-1 排 気

3-1-1 排気中の放射性核種分析結果

(主要放出核種)

測定者	施設名	項目	放 出 状 況				分析核種 及びDL
			10 月	11 月	12 月	平 均	
(注2) 原 子 力 機 構 原 科 研	J R R - 2	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H 1.2×10 ⁻⁴ ~ 1.4×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		放 出 量 実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	
		不 検 出 分 (GBq)	5.2×10 ⁻¹	4.9×10 ⁻¹	5.0×10 ⁻¹	計 1.5	
	J R R - 3	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)					希ガス (⁴¹ Ar) 1.3×10 ⁻³ Bq/cm ³
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)					
		放 出 量 実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	
		不 検 出 分 (GBq)	0	0	0	計 0	
	J R R - 4	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H 3.5×10 ⁻⁵ ~ 3.8×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
		放 出 量 実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	
		不 検 出 分 (GBq)	4.0	4.0	4.0	計 1.2×10	
	J R R - 4	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)					希ガス (⁴¹ Ar) 1.1×10 ⁻³ ~ 1.2×10 ⁻³ Bq/cm ³
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)					
		放 出 量 実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	
		不 検 出 分 (GBq)	0	0	0	計 0	
	N S R R	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	×	3.3×10 ⁻³	2.3×10 ⁻³		希ガス (⁴¹ Ar) 2.2×10 ⁻³ ~ 3.1×10 ⁻³ Bq/cm ³
			×	2.3×10 ⁻⁴	1.1×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁴	
		放 出 量 実 測 分 (GBq)	0	4.4	9.2×10 ⁻²	計 4.5	
			4.0	5.1	3.9×10 ⁻¹	計 9.5	
最 高 濃 度 (Bq/cm ³)		×	×	×		¹³¹ I 6.6×10 ⁻⁹ ~ 1.8×10 ⁻⁸ Bq/cm ³	
		×	×	×	×		
放 出 量 実 測 分 (GBq)		0	0	0	計 0		
		9.4×10 ⁻⁵	7.5×10 ⁻⁵	9.4×10 ⁻⁵	計 2.6×10 ⁻⁴		

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
(注2) 原子力機構 燃料試験施設	燃料試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	8.7×10 ⁻³	9.5×10 ⁻³	×		希ガス (85Kr) 6.3×10 ⁻³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	7.1×10 ⁻³	7.0×10 ⁻³	×	6.8×10 ⁻³			
		放出量	実測分 (GBq)	3.3×10 ⁻¹	5.8	0	計 6.1	7.6×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	3.2×10 ²	3.0×10 ²	2.9×10 ²	計 9.1×10 ²		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		131I 1.3×10 ⁻⁹		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	8.9×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	6.9×10 ⁻⁵	8.5×10 ⁻⁵	8.9×10 ⁻⁵	計 2.4×10 ⁻⁴		
	燃料サイクル安全工学 研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス (138Xe) 9.0×10 ⁻⁴		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	1.7×10 ²	1.6×10 ²	1.6×10 ²	計 4.9×10 ²		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		131I 5.0×10 ⁻¹⁰		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
放出量		実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	3.8×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	1.4×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴	1.6×10 ⁻⁴	計 4.9×10 ⁻⁴			
原子力機構 燃料サイクル工研	再処理施設	主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		85Kr 2.4×10 ⁻³	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	6.2×10 ²	7.1×10 ²	6.9×10 ²	計 2.0×10 ³	
		主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.3×10 ⁻⁴	9.8×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁴		3H 3.7×10 ⁻⁵	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	1.2×10 ⁻⁴	8.3×10 ⁻⁵	9.5×10 ⁻⁵	9.6×10 ⁻⁵		
			放出量	実測分 (GBq)	2.8×10	2.8×10	2.4×10	計 8.0×10	Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0	
		主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		14C 4.0×10 ⁻⁵	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	9.5	1.4×10	1.0×10	計 3.4×10	

測定者	施設名		項目	放出状況				分析核種 及びDL		
				10月	11月	12月	平均			
原子力 機構 サイクル 工研	再処 理 施設	主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10^{-8}		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
				不検出分 (GBq)	8.7×10^{-3}	1.3×10^{-2}	9.2×10^{-3}	計 3.1×10^{-2}	Bq/cm ³	
		副排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10^{-8}		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
				不検出分 (GBq)	8.7×10^{-3}	1.3×10^{-2}	9.2×10^{-3}	計 3.1×10^{-2}	Bq/cm ³	
		第一付属排気筒	第一付属排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁸⁵ Kr	
				平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.4×10^{-3}	
				放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
					不検出分 (GBq)	1.9×10^2	1.7×10^2	1.8×10^2	計 5.4×10^2	Bq/cm ³
	第一付属排気筒		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10^{-5}		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
				不検出分 (GBq)	26	31	24	計 81	Bq/cm ³	
	第一付属排気筒		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.0×10^{-5}		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
				不検出分 (GBq)	28	33	26	計 8.7	Bq/cm ³	
	第一付属排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I			
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10^{-8}			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
			不検出分 (GBq)	2.6×10^{-3}	3.1×10^{-3}	2.4×10^{-3}	計 8.1×10^{-3}	Bq/cm ³		
第一付属排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I				
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10^{-8}				
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0				
		不検出分 (GBq)	2.6×10^{-3}	3.1×10^{-3}	2.4×10^{-3}	計 8.1×10^{-3}	Bq/cm ³			

測定者	施設名		項目	放出状況				分析核種 及びDL	
				10月	11月	12月	平均		
原子力 機構 サイクル 工研	再処 理施 設	第二 付属 排気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁸⁵ Kr	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.4×10 ⁻³	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	2.3×10 ²	2.2×10 ²	2.3×10 ²	計 6.8×10 ²	
			最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁵	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	3.1	3.9	3.1	計 1.0×10	
			最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.0×10 ⁻⁵	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	3.4	4.2	3.3	計 1.1×10	
	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I			
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁸			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	3.1×10 ⁻³	3.9×10 ⁻³	3.1×10 ⁻³	計 1.0×10 ⁻²			
	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I			
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁸			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	3.1×10 ⁻³	3.9×10 ⁻³	3.1×10 ⁻³	計 1.0×10 ⁻²			
	高レベル 放射性物質 研究施設 (CPF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	[⁸⁵ Kr] [¹³³ Xe]		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	1.6×10 ²	1.6×10 ²	1.6×10 ²	計 4.8×10 ²		
最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×		³ H			
平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁵			
放出量		実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³		
	不検出分 (GBq)	2.3	2.3	2.8	計 7.4				

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
原子力機構サイクル工研	高レベル放射性物質研究施設(CPF)	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	3.7×10 ⁻⁸
			不検出分(GBq)	2.3×10 ⁻³	2.3×10 ⁻³	2.8×10 ⁻³	計 7.4×10 ⁻³	Bq/cm ³
(注3) 原子力機構大洗	J M T R	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×	{主に ⁴¹ Ar}	
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	2.7×10 ⁻³
			不検出分(GBq)	2.0×10 ²	1.9×10 ²	2.0×10 ²	計 5.9×10 ²	Bq/cm ³
	H T T R	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×	{主に ⁸⁸ Kr ¹³⁸ Xe}	
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分(GBq)	1.3×10 ²	8.3×10	1.3×10 ²	計 3.4×10 ²	Bq/cm ³
	H T T R	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.2×10 ⁻⁹	
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分(GBq)	7.2×10 ⁻⁵	8.3×10 ⁻⁵	8.6×10 ⁻⁵	計 2.4×10 ⁻⁴	Bq/cm ³
	照射燃料体試験施設(FMF)	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		³ H	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.2×10 ⁻⁵	
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分(GBq)	1.0	1.1	7.8×10 ⁻¹	計 2.9	Bq/cm ³
照射燃料体試験施設(FMF)	最高濃度(Bq/cm ³)					希ガス		
	平均濃度(Bq/cm ³)					{主に ⁸⁵ Kr ¹³³ Xe}		
	放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	1.2×10 ⁻³	
		不検出分(GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
照射燃料体試験施設(FMF)	最高濃度(Bq/cm ³)					¹³¹ I		
	平均濃度(Bq/cm ³)					9.3×10 ⁻¹⁰		
	放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0		
		不検出分(GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
(注3) 原子力機構大洗	高速実験炉「常陽」	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁴¹ Ar ⁸⁵ Kr ¹³³ Xe〕 1.3×10 ⁻³ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
			不検出分 (GBq)	1.3×10 ²	1.3×10 ²	1.3×10 ²		計 3.9×10 ²	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 2.3×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
			不検出分 (GBq)	9.7×10 ⁻⁵	1.5×10 ⁻⁴	1.2×10 ⁻⁴		計 3.7×10 ⁻⁴	
(注4) 原子力機構那珂	JT-60 〔臨界プラズマ〕 実験棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					³ H 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)							
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
			不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0		
(注5) 原子力研究所	東海発電所	排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 1.4×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
		不検出分 (GBq)		1.9×10 ⁻⁴	1.8×10 ⁻⁴	1.6×10 ⁻⁴	計 5.3×10 ⁻⁴		
		その他排気口	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³⁷ Cs 1.2×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
	放出量		実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
			不検出分 (GBq)	1.6×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻⁴	計 4.5×10 ⁻⁴		
	東海発電所		排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 1.6×10 ⁻⁹ Bq/cm ³
				平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
		放出量		実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (GBq)	2.0×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴	計 5.8×10 ⁻⁴		
その他排気口		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³⁷ Cs 1.6×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
		不検出分 (GBq)	2.1×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴	計 6.0×10 ⁻⁴			

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
(注5) 原電	東海第二発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁸⁵ Kr ¹³³ Xe〕	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³
			不検出分 (GBq)	7.1×10 ²	6.9×10 ²	7.1×10 ²	計 2.1×10 ³	Bq/cm ³
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.0×10 ⁻⁹	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	2.2×10 ⁻³	2.1×10 ⁻³	1.9×10 ⁻³	計 6.2×10 ⁻³	
住友鋁山	技術センター	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
(注6) JCO	第1管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	第2管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	第3管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
固体廃棄物処理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					U		
	平均濃度 (Bq/cm ³)					3.7×10 ⁻¹⁰		
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
		不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0		

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
三	転換工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	成形工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
原	第1廃棄物 処理所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	第2廃棄物 処理所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
燃	燃料加工 試験棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
積水メ ディカル	集合排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.9×10 ⁻⁵	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁶	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
積水メデイカル	第4棟 気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.0×10 ⁻⁵	2.0×10 ⁻⁵	2.0×10 ⁻⁵		³ H 1.9×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.9×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻⁵			
		放出量	実測分 (GBq)	3.7×10 ⁻³	1.8×10 ⁻³	2.5×10 ⁻³		計 8.0×10 ⁻³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	1.3×10 ⁻⁴	4.6×10 ⁻⁵	2.2×10 ⁻⁵		¹⁴ C 3.7×10 ⁻⁶ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.0×10 ⁻⁵	6.0×10 ⁻⁶	4.5×10 ⁻⁶	6.6×10 ⁻⁶			
		放出量	実測分 (GBq)	1.3×10 ⁻¹	5.4×10 ⁻²	2.2×10 ⁻²		計 2.0×10 ⁻¹	
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微	
(注7) N	照射後試験棟 (F棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁸⁵ Kr〕		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	2.0×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	1.1×10 ²	1.0×10 ²	1.1×10 ²	計 3.2×10 ²		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 2.8×10 ⁻¹⁰ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	7.1×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微			
	D	化学分析棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.8×10 ⁻⁹	×	×		¹³¹ I 6.1×10 ⁻¹⁰ ~	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	1.9×10 ⁻⁹	×	×	1.4×10 ⁻⁹		
			放出量	実測分 (GBq)	3.4×10 ⁻⁵	0	0	計 3.4×10 ⁻⁵	2.4×10 ⁻⁹ Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
C	ウラン実験棟 (U棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 2.0×10 ⁻¹¹ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	2.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
	燃料試験棟 (A棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 4.1×10 ⁻¹¹ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
放出量		実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微			

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
(注8) 東	原子炉棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					⁴¹ Ar	
		平均濃度 (Bq/cm ³)					4.0×10 ⁻³	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0	
大	ライナック棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³ N+ ¹⁵ O	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.0×10 ⁻³	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	3.6×10 ⁻²	8.0×10 ⁻²	7.3×10 ⁻²	計 1.9×10 ⁻¹	
原	加工工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.3×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
燃	廃棄物処理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.3×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
工	HTR燃料 製造施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.3×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
三 菱 マ テ リ ア ル	開発試験 第Ⅰ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
開発試験 第Ⅱ棟	開発試験 第Ⅱ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
(注9) 日本核燃	照射後 試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.8×10 ⁻³	×	×		希ガス 〔 ⁸⁵ Kr〕 〔 ¹³³ Xe〕 6.7×10 ⁻⁵ ～ 1.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	6.6×10 ⁻⁵	×	×	2.2×10 ⁻⁵		
		放出量	実測分 (GBq)	1.8	0	0		計 1.8
			不検出分 (GBq)	1.9	1.8	1.9	計 5.6	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 1.8×10 ⁻⁹ ～ 2.2×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	5.0×10 ⁻⁵	4.7×10 ⁻⁵	4.8×10 ⁻⁵	計 1.5×10 ⁻⁴	

(注1) 平均濃度は、検出された放出量を月間排気量で除した値。

(注2) 原子力機構原科研

JRR-3：10月～12月は施設定期検査，原子炉停止，希ガスの放出なし。

JRR-4：10月～12月は施設定期検査，原子炉停止，希ガスの放出なし。

(注3) 原子力機構大洗

JMTR, HTTR, 高速実験炉「常陽」：10月～12月は施設定期検査。

照射燃料集合体試験施設（FMF）：10月～12月は放出を伴う運転なし。

(注4) 原子力機構那珂

JT-60実験棟：JT-60SAに向けた改造工事のためJT-60の運転なし。

(注5) 原電

東海発電所その他排気口：使用済燃料冷却池建屋，サービス建屋等からの排気。

(注6) JCO

固体廃棄物処理棟：今期は核燃料物質等の処理がなく運転をしなかったため，放出なし。

(注7) NDC

化学分析棟（R棟）で検出された¹³¹Iは，チャコールフィルタの吸着試験に伴って検出されたもの。

(注8) 東大

原子炉棟：今期は放出を伴う運転なし。

(注9) 日本核燃

10月は燃料ペレット溶解試験を実施。

3-1-1' 排気中の放射性核種分析結果（その他検出された核種）

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL
			10月	11月	12月	平均	
原電	(注1) 東海発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.3×10 ⁻⁵	6.9×10 ⁻⁶	4.7×10 ⁻⁶	計 2.4	³ H
		平均濃度 (Bq/cm ³)	9.6×10 ⁻⁶	5.6×10 ⁻⁶	4.2×10 ⁻⁶		2.8×10 ⁻⁷
		放出量(実測分) (GBq)	1.2	6.8×10 ⁻¹	5.0×10 ⁻¹		Bq/cm ³
	(注2) 東海第二発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	5.1×10 ⁻⁶	4.0×10 ⁻⁶	3.8×10 ⁻⁶	計 7.9	³ H
		平均濃度 (Bq/cm ³)	4.6×10 ⁻⁶	3.5×10 ⁻⁶	3.4×10 ⁻⁶		3.1×10 ⁻⁷
		放出量(実測分) (GBq)	3.2	2.3	2.4		Bq/cm ³
	(注3) 廃棄物処理建屋	最高濃度 (Bq/cm ³)			3.2×10 ⁻⁷	計 3.1×10 ⁻²	³ H
		平均濃度 (Bq/cm ³)			1.4×10 ⁻⁷		2.9×10 ⁻⁷
		放出量(実測分) (GBq)			3.1×10 ⁻²		Bq/cm ³

(注1) 炉内グラファイトの不純物 (⁶Li) の放射化による。月間平均濃度の過去最大値は、1.4×10⁻³Bq/cm³。

(注2) 冷却材中の重水素の放射化による。月間平均濃度の過去最大値は、1.4×10⁻⁴Bq/cm³。

(注3) 可燃性廃棄物の焼却処理等による。月間平均濃度の過去最大値は、4.5×10⁻⁵Bq/cm³。

3-1-2 排気中の全β放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
N	材料試験棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 3.0×10 ⁻¹⁰ 〜 1.7×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		放出量 不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
	D	化学分析棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 3.0×10 ⁻¹¹ 〜 9.7×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
			放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			放出量 不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
C	燃料試験棟 (A棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 4.5×10 ⁻¹¹ 〜 1.2×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		放出量 不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
東北大	ホットラボ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co ⁵⁹ Fe 2.5×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		放出量 不検出分 (GBq)	7.1×10 ⁻⁵	6.9×10 ⁻⁵	7.1×10 ⁻⁵	計 2.1×10 ⁻⁴		
日揮	第2研究棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co等 1.7×10 ⁻⁹	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		放出量 不検出分 (GBq)	1.2×10 ⁻⁵	9.4×10 ⁻⁶	1.0×10 ⁻⁵	計 1.0×10 ⁻⁵		
三菱マテリアル	開発試験棟 第IV棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co等 1.5×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		放出量 不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		

3-1-2' 排気中の全β放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				D L		
			10月	11月	12月	平均			
原子力機構 原研	J R R - 2	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		3.3×10 ⁻¹⁰ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	6.1×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
	J R R - 3	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		6.9×10 ⁻¹¹ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.8×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
	J R R - 4	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		3.0×10 ⁻¹⁰ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.3×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
	N S R R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.4×10 ⁻¹⁰ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.8×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
	燃料試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		3.5×10 ⁻¹¹ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.1×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
	燃料サイクル 安全工学 研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		2.2×10 ⁻¹¹ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	6.4×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³		
	原子力機構 サイクル工研	再処 理施 設	主排 気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹ ~
				平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
第 一 属 排 気 筒		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³		
第 二 属 排 気 筒		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³		
原子力機構 大洗	J M T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.1×10 ⁻¹¹ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³		
	H T T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.7×10 ⁻¹¹ ~		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³		

測定者	施設名	項目	放出状況				D L
			10月	11月	12月	平均	
原子力機構大洗	照射燃料集合体試験施設(FMF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		2.9×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
	高速実験炉「常陽」	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		2.7×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
原電	東海第二所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.2×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
	廃棄物処理建屋	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		5.8×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
東大	原子炉棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.0×10 ⁻⁷
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
NDC	照射後試験棟(F棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		6.0×10 ⁻¹¹
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.5×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³

3-1-3 排気中の全α放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
(注) 核管センター	開発棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					Pu, U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)						
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	0	0	0		計 0
	新分析棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu, U 1.7×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
原子力機構原科研	燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu 1.2×10 ⁻¹¹ ~ 3.6×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
原子力機構サイクル工研	プルトニウム燃料第一開発室, プルトニウム燃料第二開発室, プルトニウム燃料第三開発室, プルトニウム廃棄物処理開発施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu 1.5×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	5.5×10 ⁻⁵	5.3×10 ⁻⁵	6.6×10 ⁻⁵		計 1.7×10 ⁻⁴

(注) 核管センター：開発棟については、設備解体のため給排気停止。

3-2 排水

3-2-1 排水中の放射性核種分析結果

測定者	評価対象	排出基準
施設者	月平均濃度	法令値

(主要放出核種)

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
(注1) 原子力 機構 原子 科 研	第1	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 2.2×10 ⁻³ ~ 3.6×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (MBq)	6.5×10 ⁻²	微	微		計 6.5×10 ⁻²
	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)	3.8×10 ⁻²	1.3×10 ⁻¹	2.1×10 ⁻¹	1.1×10 ⁻¹	³ H 4.2×10 ⁻² ~ 1.9×10 ⁻¹ Bq/cm ³	
		放出量	実測分 (MBq)	6.4×10 ³	1.6×10 ⁴	2.1×10 ⁴		計 4.3×10 ⁴
			不検出分 (MBq)	3.0×10	2.6×10	4.0		計 6.0×10
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁷ Be 2.0×10 ⁻² ~ 2.8×10 ⁻² Bq/cm ³	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (MBq)	6.8	3.3	3.4		計 1.4×10
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹⁴ C 1.0×10 ⁻¹ ~ 1.3×10 ⁻¹ Bq/cm ³	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (MBq)	2.7×10	2.0×10 ²	1.7×10 ²		計 4.0×10 ²
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 2.0×10 ⁻³ ~ 3.6×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (MBq)	6.9×10 ⁻¹	5.6	3.8		計 1.0×10
		平均濃度 (Bq/cm ³)	5.1×10 ⁻⁶	5.2×10 ⁻⁵	×	2.8×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs 2.4×10 ⁻³ ~ 3.5×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		放出量	実測分 (MBq)	5.1×10 ⁻²	2.2	0		計 2.3
			不検出分 (MBq)	8.1×10 ⁻¹	4.0	3.7		計 8.5

測定者	排水溝	項目		放出状況				分析核種 及びDL
				10月	11月	12月	平均	
(注1) 原子力機構原科研	第3	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁶⁰ Co 2.4×10 ⁻³ ~ 3.6×10 ⁻³ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	5.0×10 ⁻²	微	計 5.0×10 ⁻²	
(注2) 原子力機構サイクル工研	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	Pu(a) 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	U 1.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	
(注3) 原子力機構大洗	北地区	平均濃度 (Bq/cm ³)				1.1×10 ⁻²	6.2×10 ⁻³	³ H 1.1×10 ⁻¹ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	2.4×10 ³	計 2.4×10 ³	
			不検出分 (MBq)	0	0	4.7×10 ⁻¹	計 4.7×10 ⁻¹	
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	×	⁶⁰ Co 2.9×10 ⁻³ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	0	0	2.0	計 2.0	
	平均濃度 (Bq/cm ³)				×	×	¹³⁷ Cs 4.0×10 ⁻³ Bq/cm ³	
	放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0		
		不検出分 (MBq)	0	0	2.8	計 2.8		
	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁶⁰ Co 1.8×10 ⁻³ Bq/cm ³	
	放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0		
		不検出分 (MBq)	4.6×10 ⁻²	微	微	計 4.6×10 ⁻²		
平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	¹³⁷ Cs 1.8×10 ⁻³ Bq/cm ³		
放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0			
	不検出分 (MBq)	4.6×10 ⁻²	微	微	計 4.6×10 ⁻²			

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
(注4) 那原子力機構	貯水槽	平均濃度 (Bq/cm ³)			×	×	³ H	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.2×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	0	3.5×10 ⁻¹	計 3.5×10 ⁻¹	Bq/cm ³
(注5) 原電	東海発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	7.1×10 ⁻¹	6.4×10 ⁻¹	1.1	計 2.5	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹³⁷ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	8.5×10 ⁻¹	6.9×10 ⁻¹	1.4	計 2.9	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹⁵² Eu	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.5×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	3.5	3.0	5.8	計 1.2×10	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹⁵⁴ Eu	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.1×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	2.2	1.7	3.3	計 7.2	Bq/cm ³
電	東海第二発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	1.6×10 ⁻¹	×	2.3×10 ⁻²	1.2×10 ⁻¹	³ H	
		放出量	実測分 (MBq)	5.4×10 ⁴	0	1.3×10 ³	計 5.5×10 ⁴	4.9×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	4.8×10 ⁻¹	1.3×10	1.1×10	計 2.4×10	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁴ Mn	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	1.3×10	1.8	2.1	計 1.7×10	Bq/cm ³
平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁸ Co			
放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	6.8×10 ⁻³		
	不検出分 (MBq)	1.2×10	1.8	1.9	計 1.6×10	Bq/cm ³		

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
(注5) 原電	東海第二 発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.2×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	1.4×10	2.0	2.4	計 1.8×10	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	⁸⁹ Sr		
		放出量	実測分 (MBq)	(3ヶ月合成試料)				計 0	8.1×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)				計 1.3	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	⁹⁰ Sr		
		放出量	実測分 (MBq)	(3ヶ月合成試料)				計 0	6.3×10 ⁻⁵
			不検出分 (MBq)				計 1.4×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
J C O	廃水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.4×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	3.1×10 ⁻¹	3.2×10 ⁻¹	2.1×10 ⁻¹	計 8.4×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Th, Pa		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	4.7×10 ⁻¹	4.7×10 ⁻¹	3.1×10 ⁻¹	計 1.3	Bq/cm ³	
(注6) 三菱 原燃	排水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.0×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	6.7×10 ⁻¹	7.2×10 ⁻¹	3.0×10 ⁻¹	計 1.7	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.1×10 ⁻³	×	×	1.0×10 ⁻³	Th, Pa		
		放出量	実測分 (MBq)	5.5×10 ⁻¹	0	0	計 5.5×10 ⁻¹	1.0×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	1.3	1.8	7.5×10 ⁻¹	計 3.9	Bq/cm ³	
	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)					U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.0×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
(注6) 三菱原燃	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)					Th, Pa	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
N D C	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)	2.6×10 ⁻⁴	×	2.5×10 ⁻⁴	2.5×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	1.0×10 ⁻²	0	9.9×10 ⁻³	計 2.0×10 ⁻²	2.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	0	微	0	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.3×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁸ Co	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.3×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	U	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	4.8×10 ⁻²	4.8×10 ⁻²	4.8×10 ⁻²	計 1.4×10 ⁻¹	Bq/cm ³
原 燃 工	排水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	U	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	2.7×10 ⁻¹	4.1×10 ⁻²	1.1×10 ⁻¹	計 4.2×10 ⁻¹	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Th, Pa	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	6.6×10 ⁻¹	1.0×10 ⁻¹	2.6×10 ⁻¹	計 1.0	Bq/cm ³
(注7) 三菱マテリアル	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)		×		×	U	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.2×10 ⁻¹	0	計 1.2×10 ⁻¹	Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
(注7) 三菱マテリアル	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)		×		×	Th, Pa	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.4×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	4.4×10 ⁻¹	0	計 4.4×10 ⁻¹	Bq/cm ³
積水メデイカル	調整槽	平均濃度 (Bq/cm ³)	1.9	1.8	2.0	1.9	³ H	
		放出量	実測分 (MBq)	3.2×10 ³	3.0×10 ³	3.4×10 ³	計 9.7×10 ³	2.0×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.5	1.4	1.2	1.4	¹⁴ C	
		放出量	実測分 (MBq)	2.5×10 ³	2.5×10 ³	2.1×10 ³	計 7.0×10 ³	2.0×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
住友鉱山	屋外排水槽	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	U	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Th, Pa	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	7.7×10 ⁻³	9.9×10 ⁻³	9.9×10 ⁻³	計 2.8×10 ⁻²	Bq/cm ³

(注1) 原子力機構原科研

第1：希釈倍率3.0×10³倍。

第2：希釈倍率9.8×10倍。

¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

第3：希釈倍率1.1×10倍。

(注2) 原子力機構サイクル工研

第2：Pu (α), Uは月合成試料。

(注3) 原子力機構大洗

北地区：希釈倍率3.5×10³倍。

10月, 11月は排水の放出なし。

(注4) 原子力機構那珂

貯水槽：希釈倍率1.5×10³倍。

10月, 11月は排水の放出なし。

(注5) 原電

東海発電所：希釈倍率2.8×10倍。

東海第二発電所：希釈倍率2.0×10²倍。

³Hは月合成試料。⁸⁹Sr, ⁹⁰Srは3ヶ月合成試料。

(注6) 三菱原燃

排水貯槽：今期は排水の放出なし。

(注7) 三菱マテリアル

排水貯槽：10月, 12月は排水の放出なし。

3-2-1' 排水中の放射性核種分析結果

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
県	原子力機構 原 科 研 (第 1)	濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	⁶⁰ Co 3.3×10 ⁻⁵ ~ 4.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		採水月日	10.2	11.1	12.3			
		濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※			
		採水月日	10.17	11.19	12.17			
	(注1)	濃度 (Bq/cm ³)	1.6×10 ⁻³	6.2×10 ⁻⁴	4.5×10 ⁻²	4.6×10 ⁻¹	³ H 3.3×10 ⁻⁴ ~ 5.9×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			採水月日	10.2	11.1			12.3
			濃度 (Bq/cm ³)	2.7	5.7×10 ⁻⁴			1.1×10 ⁻²
			採水月日	10.17	11.19			12.17
		濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	⁷ Be 3.1×10 ⁻⁴ ~ 5.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
			採水月日	10.2	11.1			12.3
			濃度 (Bq/cm ³)	※	※			※
			採水月日	10.17	11.19			12.17
		濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	¹⁴ C 2.2×10 ⁻³ ~ 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			採水月日	10.2	11.1			12.3
			濃度 (Bq/cm ³)	※	※			※
			採水月日	10.17	11.19			12.17
	濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	⁶⁰ Co 3.2×10 ⁻⁵ ~ 4.4×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		採水月日	10.2	11.1			12.3	
		濃度 (Bq/cm ³)	※	※			※	
		採水月日	10.17	11.19			12.17	
	濃度 (Bq/cm ³)	6.8×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁴	6.2×10 ⁻⁵	6.9×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs 2.5×10 ⁻⁵ ~ 6.2×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		採水月日	10.2	11.1			12.3	
		濃度 (Bq/cm ³)	4.5×10 ⁻⁵	4.6×10 ⁻⁵			※	
		採水月日	10.17	11.19			12.17	

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
県	(注2) 原子力機構 原科研 (第3)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	※	⁶⁰ Co 3.4×10 ⁻⁵ ~ 4.5×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		採水月日	10.16	11.6	12.25				
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×					
		採水月日	10.23	11.20					
	原子力機構 サイクル工研 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	4.4×10 ⁻⁶	1.1×10 ⁻⁵	1.0×10 ⁻⁵	8.5×10 ⁻⁶	U 3.6×10 ⁻⁶ ~ 5.5×10 ⁻⁶ Bq/cm ³		
		採水月日	10.11	11.8	12.5				
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			※	Pu(α) 2.7×10 ⁻⁶ ~ 3.6×10 ⁻⁶ Bq/cm ³
		採水月日	10.11	11.8	12.5				
	(注3) 原子力機構 大洗 (北地区)	濃度 (Bq/cm ³)	3.6×10 ⁻⁴	6.0×10 ⁻⁴	6.7×10 ⁻⁴	6.0×10 ⁻⁴	³ H 3.1×10 ⁻⁴ ~ 3.3×10 ⁻⁴ Bq/cm ³		
		採水月日	10.2	11.1	12.3				
		濃度 (Bq/cm ³)	8.6×10 ⁻⁴	4.3×10 ⁻⁴	6.7×10 ⁻⁴				
		採水月日	10.17	11.19	12.17				
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	※	⁶⁰ Co 3.3×10 ⁻⁵ ~ 4.5×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		採水月日	10.2	11.1	12.3				
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×				
		採水月日	10.17	11.19	12.17				
	(注4) 原電 (東海)	濃度 (Bq/cm ³)	6.3×10 ⁻⁵	6.6×10 ⁻⁵	×	7.9×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs 3.3×10 ⁻⁵ ~ 6.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		採水月日	10.2	11.1	12.3				
		濃度 (Bq/cm ³)	5.3×10 ⁻⁵	4.7×10 ⁻⁵	1.8×10 ⁻⁴				
		採水月日	10.17	11.19	12.17				
(注4) 原電 (東海)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	※	⁶⁰ Co 6.1×10 ⁻⁵ ~ 8.5×10 ⁻⁵ Bq/cm ³			
	採水月日	10.2	11.19	12.3					
	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×					
	採水月日	10.17	11.26	12.17					

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			10月	11月	12月	平均	
県	原電 (注4) (東海)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	1.2×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 9.3×10 ⁻⁵ ~ 1.6×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	10.2	11.19	12.3		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		採水月日	10.17	11.26	12.17		
	〃 (東海第二)	濃度 (Bq/cm ³)	1.7×10 ⁻¹	3.4×10 ⁻⁴	×	2.9×10 ⁻²	³ H 3.2×10 ⁻⁴ ~ 1.6×10 ⁻³ Bq/cm ³
		採水月日	10.2	11.19	12.3		
		濃度 (Bq/cm ³)	3.4×10 ⁻⁴	×	×		
		採水月日	10.17	11.26	12.17		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁴ Mn 4.5×10 ⁻⁵ ~ 7.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.2	11.19	12.3		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		採水月日	10.17	11.26	12.17		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 4.9×10 ⁻⁵ ~ 7.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.2	11.19	12.3		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		採水月日	10.17	11.26	12.17		
	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹³⁷ Cs 6.0×10 ⁻⁵ ~ 1.6×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
	採水月日	10.2	11.19	12.3			
	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			
	採水月日	10.17	11.26	12.17			
JCO	濃度 (Bq/cm ³)	1.3×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴	1.3×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻⁴	U 3.2×10 ⁻⁵ ~ 4.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
	採水月日	10.8	11.8	12.5			
三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	7.2×10 ⁻⁵	1.2×10 ⁻⁴	1.8×10 ⁻⁴	1.2×10 ⁻⁴	U 2.3×10 ⁻⁵ ~ 4.2×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
	採水月日	10.4	11.1	12.5			

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			10月	11月	12月	平均	
県	原燃工	濃度 (Bq/cm ³)	1.1×10 ⁻⁵	2.0×10 ⁻⁵	1.6×10 ⁻⁵	1.6×10 ⁻⁵	U 8.5×10 ⁻⁶ ~ 1.2×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.3	11.13	12.9		
	ND C	濃度 (Bq/cm ³)	※	5.4×10 ⁻⁵	8.8×10 ⁻⁵	6.2×10 ⁻⁵	⁶⁰ Co 3.8×10 ⁻⁵ ~ 4.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.22	11.28	12.26		
		濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	⁵⁸ Co 4.2×10 ⁻⁵ ~ 5.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.22	11.28	12.26		
		濃度 (Bq/cm ³)	4.2×10 ⁻⁴	3.2×10 ⁻⁴	6.0×10 ⁻⁴	4.5×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 3.8×10 ⁻⁵ ~ 7.5×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.22	11.28	12.26		
	積水メデイカル	濃度 (Bq/cm ³)	2.2	7.0×10 ⁻¹	1.7	1.9	³ H 9.3×10 ⁻³ ~ 2.0×10 ⁻² Bq/cm ³
		採水月日	10.2	11.1	12.3		
		濃度 (Bq/cm ³)	2.2	2.3	2.3		
		採水月日	10.17	11.19	12.17	9.3×10 ⁻¹	¹⁴ C 7.9×10 ⁻³ ~ 9.6×10 ⁻³ Bq/cm ³
		濃度 (Bq/cm ³)	9.8×10 ⁻¹	7.4×10 ⁻¹	8.0×10 ⁻¹		
		採水月日	10.2	11.1	12.3		
濃度 (Bq/cm ³)		1.0	1.1	9.7×10 ⁻¹			
採水月日		10.17	11.19	12.17			

- (注1) 原子力機構原科研(第2): ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。
(注2) 原子力機構原科研(第3): 12月の2回目は排水の放出なし。
(注3) 原子力機構大洗(北地区): ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。
(注4) 原電(東海): ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

3-2-1” 排水中の放射性核種分析結果

(その他検出された核種)

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
(注1) 原子力 機構 原科研	第1	平均濃度 (Bq/cm ³)	/	/	6.6×10 ⁻⁸	/	¹³⁷ Cs 3.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
		放出量(実測分) (MBq)	/	/	6.6×10 ⁻³	計 6.6×10 ⁻³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	/	5.9×10 ⁻⁸	/	/	²³² Th 3.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
		放出量(実測分) (MBq)	/	6.5×10 ⁻³	/	計 6.5×10 ⁻³		
	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)	1.5×10 ⁻⁶	/	/	/	²² Na 4.1×10 ⁻³ ~ 4.4×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		放出量(実測分) (MBq)	2.6×10 ⁻¹	/	/	計 2.6×10 ⁻¹		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.9×10 ⁻⁵	/	1.7×10 ⁻⁵	/	⁵⁴ Mn 3.0×10 ⁻³ ~ 4.0×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		放出量(実測分) (MBq)	3.2	/	1.7	計 4.9		
平均濃度 (Bq/cm ³)		(3ヶ月合成試料)				1.0×10 ⁻⁷	⁹⁰ Sr 6.1×10 ⁻⁵ ~ 6.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
放出量(実測分) (MBq)		(3ヶ月合成試料)				計 3.9×10 ⁻²		
平均濃度 (Bq/cm ³)	/	2.2×10 ⁻⁶	/	/	/	¹³⁴ Cs 2.2×10 ⁻³ Bq/cm ³		
放出量(実測分) (MBq)	/	2.6×10 ⁻¹	/	計 2.6×10 ⁻¹				
(注2) 原電	東海発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	7.0×10 ⁻³	/	/	/	³ H 4.8×10 ⁻² Bq/cm ³	
		放出量(実測分) (MBq)	2.1×10	/	/	計 2.1×10		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	(3ヶ月合成試料)				5.5×10 ⁻⁶	⁹⁰ Sr 6.2×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		放出量(実測分) (MBq)	(3ヶ月合成試料)				計 5.5×10 ⁻²	
	東海第二 発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	1.0×10 ⁻⁶	/	/	/	³⁶ Cl 1.4×10 ⁻² Bq/cm ³	
		放出量(実測分) (MBq)	3.5×10 ⁻¹	/	/	計 3.5×10 ⁻¹		

(注1) 原子力機構原科研

第1：希釈倍率3.0×10³倍。

¹³⁷Cs：東京大学からの廃液。

²³²Th：第4研究棟からの廃液。

第2：希釈倍率9.8×10倍。

²²Na, ⁵⁴Mn：J-PARC施設からの廃液。

⁹⁰Sr, ¹³⁴Cs：放射性廃棄物処理施設からの廃液。

¹³⁴Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

(注2) 原電

³H, ³⁶Clは月合成資料, ⁹⁰Srは3ヶ月合成試料。

東海発電所：希釈倍率2.9×10倍 (³H), 2.8×10倍 (⁹⁰Sr)。

東海第二発電所：希釈倍率2.0×10²倍。

³⁶Clは雑固体減容処理設備の排ガス洗浄廃液より検出。(東海発電所の燃料被覆材及び減速材(黒鉛)中の不純物(³⁵Cl)の放射化)

参考) 排液中又は排水中の濃度限度

試験研究の用に供する原子炉等の設置、運転等に関する規則等の規定に基づき、線量限度等を定める告示
(昭和63年7月26日科学技術庁告示第20号、平成17年11月30日文部科学省告示第163号により一部改正)

核種	濃度限度 ^(注1) (Bq/cm ³)	核種	濃度限度 (Bq/cm ³)	核種	濃度限度 (Bq/cm ³)
³ H	6×10 ^(注2)	⁶⁵ Zu	2×10 ⁻¹	¹³⁴ Cs	6×10 ⁻²
⁷ Be	3×10	⁸⁷ Y	2	¹³⁷ Cs	9×10 ⁻²
¹⁴ C	2	⁸⁹ Sr	3×10 ⁻¹	¹⁴⁴ Ce	2×10 ⁻¹
²² Na	3×10 ⁻¹	⁹⁰ Sr	3×10 ⁻²	¹⁵² Eu	6×10 ⁻¹
³⁵ S	1	⁹⁵ Zr	9×10 ⁻¹	¹⁵⁴ Eu	4×10 ⁻¹
³⁶ Cl	9×10 ⁻¹	⁹⁵ Nb	1	¹⁹² Ir	6×10 ⁻¹
⁵¹ Cr	2×10	^{99m} Tc	4×10	²³² Th	4×10 ⁻³
⁵⁴ Mn	1	¹⁰³ Ru	1	²³⁴ Th	2×10 ⁻¹
⁵⁷ Co	4×10	¹⁰⁶ Ru	1×10 ⁻¹	U	2×10 ⁻²
⁵⁸ Co	1	^{110m} Ag	3×10 ⁻¹	²³⁷ Np	9×10 ⁻³
⁵⁹ Fe	4×10 ⁻¹	¹²⁹ I	9×10 ⁻³	²³⁹ Pu	4×10 ⁻³
⁶⁰ Co	2×10 ⁻¹	¹³¹ I	4×10 ⁻²	²⁴¹ Am	5×10 ⁻³

(注1) 濃度限度は3ヶ月平均濃度であり、³H以外の核種はその核種において最も低い値である。

(注2) 水としての濃度限度。有機物(メタンを除く)としての濃度限度は2×10Bq/cm³。

3-2-2 排水中の全β放射能測定結果

測定者	評価対象	判断基準
施設者	月最高濃度	2×10^{-2} Bq/cm ³
	月平均濃度	4×10^{-3} Bq/cm ³
県	測定毎濃度	2×10^{-2} Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
原子力機構原科研	第1	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 2.0×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.5×10^{-5} Bq/cm ³	
	第2	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co, ¹³⁷ Cs 1.9×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.4×10^{-5} Bq/cm ³	
	第3	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 2.0×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.5×10^{-5} Bq/cm ³	
(注1) 原子力機構サイクル工研	第1	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	4.4×10^{-6}		U 1.8×10^{-4} Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	2.7×10^{-6}	1.6×10^{-6}		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	3.6×10^{-2}		計 3.6×10^{-2}
			不検出分 (MBq)	8.3×10^{-3}	1.9×10^{-2}	0		計 2.7×10^{-2}
(注2) 原子力機構大洗	北地区	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.9×10^{-4}	×	2.2×10^{-4}		⁶⁰ Co, ¹³⁷ Cs 2.0×10^{-4}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
(注3) 原子力機構那珂	貯水槽	最高濃度 (Bq/cm ³)			×		全β 3.6×10^{-3}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)			×	×	Bq/cm ³	
メデイカル水積調整槽	調整槽	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		全β 2.0×10^{-4}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	

(注1) 原子力機構サイクル工研：希釈倍率 1.2×10^2 倍。連続採取による合成試料。

(注2) 原子力機構大洗：福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(注3) 原子力機構那珂：希釈倍率 1.5×10^3 倍。10月、11月は排水の放出なし。

3-2-2' 排水中の全β放射能測定結果

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			10月	11月	12月	平均
県	原子力機構原科研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		採水月日	10.2	11.1	12.3	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
		採水月日	10.17	11.19	12.17	
	〃 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	2.2×10 ⁻⁴	2.1×10 ⁻⁴	×	2.7×10 ⁻⁴
		採水月日	10.2	11.1	12.3	
		濃度 (Bq/cm ³)	5.9×10 ⁻⁴	×	×	
		採水月日	10.17	11.19	12.17	
	〃 (注1) (第3)	濃度 (Bq/cm ³)	2.4×10 ⁻⁴	2.5×10 ⁻⁴	2.6×10 ⁻⁴	×
		採水月日	10.16	11.6	12.25	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×		
		採水月日	10.23	11.20		
	原子力機構サイクル工研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	4.9×10 ⁻⁴	4.4×10 ⁻⁴	7.1×10 ⁻⁴	5.4×10 ⁻⁴
		採水月日	10.2	11.1	12.3	
		濃度 (Bq/cm ³)	4.4×10 ⁻⁴	5.8×10 ⁻⁴	5.5×10 ⁻⁴	
		採水月日	10.17	11.19	12.17	
	〃 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	2.3×10 ⁻⁴	×	2.7×10 ⁻⁴	2.3×10 ⁻⁴
		採水月日	10.11	11.8	12.5	
	原子力機構大洗 (北地区)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	2.1×10 ⁻⁴
		採水月日	10.2	11.1	12.3	
濃度 (Bq/cm ³)		2.2×10 ⁻⁴	×	2.4×10 ⁻⁴		
採水月日		10.17	11.19	12.17		
三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	3.7×10 ⁻⁴	1.2×10 ⁻³	5.8×10 ⁻⁴	7.0×10 ⁻⁴	
	採水月日	10.4	11.1	12.5		
	濃度 (Bq/cm ³)	4.9×10 ⁻⁴	4.3×10 ⁻⁴	1.1×10 ⁻³		
	採水月日	10.17	11.22	12.17		

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			10月	11月	12月	平均
県	原燃工 (注2)	濃度 (Bq/cm ³)	3.2×10 ⁻⁴	3.9×10 ⁻⁴	7.7×10 ⁻⁴	4.6×10 ⁻⁴
		採水月日	10.3	11.13	12.9	
		濃度 (Bq/cm ³)	5.3×10 ⁻⁴		7.3×10 ⁻⁴	
		採水月日	10.17		12.20	
	JCO	濃度 (Bq/cm ³)	2.9×10 ⁻⁴	2.7×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻⁴	3.7×10 ⁻⁴
		採水月日	10.8	11.8	12.5	
		濃度 (Bq/cm ³)	3.4×10 ⁻⁴	3.9×10 ⁻⁴	4.3×10 ⁻⁴	
		採水月日	10.10	11.15	12.12	
	NDC	濃度 (Bq/cm ³)	6.6×10 ⁻⁴	5.7×10 ⁻⁴	9.0×10 ⁻⁴	7.1×10 ⁻⁴
		採水月日	10.22	11.28	12.26	
	積水メディカル	濃度 (Bq/cm ³)	9.2×10 ⁻⁴	×	×	4.7×10 ⁻⁴
		採水月日	10.2	11.1	12.3	
		濃度 (Bq/cm ³)	4.9×10 ⁻⁴	5.4×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻⁴	
		採水月日	10.17	11.19	12.17	
住友鉱山	濃度 (Bq/cm ³)	3.9×10 ⁻⁴	3.6×10 ⁻⁴	2.5×10 ⁻⁴	3.3×10 ⁻⁴	
	採水月日	10.9	11.5	12.17		

(注1) 原子力機構原科研(第3):12月の2回目は排水の放出なし。

(注2) 原燃工:11月の2回目は排水の放出なし。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果

測定者	評価対象	判断基準
施設者	3ヶ月放出量	保安規定に定める3ヶ月当たりの最大放出量
県	測定毎濃度	保安規定に定める最大放出濃度

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
原子力機構サイクル工研	再処	平均濃度 (Bq/cm ³)		6.9×10	9.9×10	7.8×10	³ H	
		放出量	実測分 (MBq)	0	9.3×10 ⁴	5.8×10 ⁴	計 1.5×10 ⁵	3.7
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁸⁹ Sr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	3.0	1.3	計 4.3	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁰ Sr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.5	6.4×10 ⁻¹	計 2.1	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Zr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.5×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	3.4	1.5	計 4.9	Bq/cm ³
	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Nb		
	放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³	
		不検出分 (MBq)	0	2.4	1.0	計 3.4	Bq/cm ³	
	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁰³ Ru		
	放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³	
		不検出分 (MBq)	0	1.5	6.4×10 ⁻¹	計 2.1	Bq/cm ³	
	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁰⁶ Ru - ¹⁰⁶ Rh		
	放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.2×10 ⁻²	
		不検出分 (MBq)	0	4.3×10	1.9×10	計 6.2×10	Bq/cm ³	

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
原子力機構 サイクル 工事	再処理工場	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹²⁹ I	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.4×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.9	8.1×10 ⁻¹	計 2.7	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³¹ I	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.4	1.0	計 3.4	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁴ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.5	6.4×10 ⁻¹	計 2.1	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁷ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.4	1.0	計 3.4	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁴¹ Ce	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	3.0	1.3	計 4.3	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁴⁴ Ce - ¹⁴⁴ Pr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	3.0×10	1.3×10	計 4.3×10	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	Pu (α)	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.7×10 ⁻⁵
			不検出分 (MBq)	0	5.0×10 ⁻²	2.1×10 ⁻²	計 7.1×10 ⁻²	Bq/cm ³

(注) 10月は排水の放出なし。

⁸⁹Sr, ⁹⁰Sr, ¹²⁹I及びPu (α) は月合成試料。

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			10月	11月	12月	平均	
県	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)		8.2×10	9.0×10	3.7×10	³ H 9.5×10 ⁻² ~ 1.3×10 ⁻¹ Bq/cm ³
		採水月日		11.11	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)		5.2×10			
		採水月日		11.25			
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Zr 2.2×10 ⁻⁴ ~ 3.2×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		11.11	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)		×			
		採水月日		11.25			
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Nb 2.2×10 ⁻⁴ ~ 4.1×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		11.11	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)		×			
		採水月日		11.25			
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁰⁶ Ru 8.2×10 ⁻⁴ ~ 9.9×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		11.11	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)		×			
		採水月日		11.25			
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³¹ I 1.2×10 ⁻³ ~ 4.1×10 ⁻³ Bq/cm ³
		採水月日		11.11	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)		×			
		採水月日		11.25			
濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁴ Cs 1.6×10 ⁻⁴ ~ 2.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³		
採水月日		11.11	12.4				
濃度 (Bq/cm ³)		×					
採水月日		11.25					

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			10月	11月	12月	平均	
県	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)		×	1.8×10 ⁻⁴	7.7×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs 1.1×10 ⁻⁴ ~ 1.5×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		11.11	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)		1.3×10 ⁻⁴			
		採水月日		11.25			
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁴⁴ Ce 5.9×10 ⁻⁴ ~ 7.5×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		11.11	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)		×			
		採水月日		11.25			
		濃度 (Bq/cm ³)		2.2×10 ⁻⁵	5.3×10 ⁻⁵	2.1×10 ⁻⁵	Pu (α) 9.9×10 ⁻⁶ ~ 1.8×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日		11.11	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)		4.9×10 ⁻⁵			
		採水月日		11.25			

(注) 10月の1, 2回目, 12月の2回目は排水の放出なし。

参 考 法 令 値

核燃料物質の加工の事業に関する規則等の規定に基づき、線量限度等を定める告示（平成12年12月26日科学技術庁告示第13号、平成17年11月22日経済産業省告示第293号により一部改正）第9条第2～4項（再処理施設に適用）

海洋放出に起因する線量限度は3ヶ月間につき250マイクロシーベルトとするに基づき、原子力機構サイクル工研再処理施設保安規定では、次表のとおり放出の基準を定めている。

なお、本基準の「1年間の最大放出量」で放射性液体廃棄物を海洋へ放出した場合の実効線量は、年間約5.4マイクロシーベルトに相当する。また、「3ヶ月当たりの最大放出量」は、「1年間の最大放出量」の4分の1に当たる。「最大放出濃度」及び「1日当たりの最大放出量」は、これらを守るための日常の運転管理に係る基準である。

区 分	最 大 放 出 濃 度 (Bq/cm ³)	1 日 当 た り の 最 大 放 出 量 (GBq)	3 ヶ 月 当 た り の 最 大 放 出 量 (GBq)	1 年 間 の 最 大 放 出 量 (GBq)
全α放射能	3.0×10^{-2}	1.1×10^{-2}	1.0	4.1
全β放射能 (³ Hを除く)	1.2×10	3.7	2.4×10^2	9.6×10^2
⁸⁹ Sr	(注1) 2.3×10^{-1}	(注2) 7.0×10^{-2}	4.1	1.6×10
⁹⁰ Sr	(注1) 4.8×10^{-1}	(注2) 1.4×10^{-1}	8.1	3.2×10
⁹⁵ Zr - ⁹⁵ Nb	5.9×10^{-1}	1.7×10^{-1}	1.0×10	4.1×10
¹⁰³ Ru	9.3×10^{-1}	2.7×10^{-1}	1.6×10	6.4×10
¹⁰⁶ Ru - ¹⁰⁶ Rh	7.4	2.1	1.3×10^2	5.1×10^2
¹³⁴ Cs	8.5×10^{-1}	2.5×10^{-1}	1.5×10	6.0×10
¹³⁷ Cs	7.8×10^{-1}	2.3×10^{-1}	1.4×10	5.5×10
¹⁴¹ Ce	8.1×10^{-2}	2.4×10^{-2}	1.5	5.9
¹⁴⁴ Ce - ¹⁴⁴ Pr	1.7	5.2×10^{-1}	3.0×10	1.2×10^2
³ H	2.5×10^4	7.4×10^3	4.7×10^5	1.9×10^6
¹²⁹ I	(注1) 3.7×10^{-1}	(注2) 1.1×10^{-1}	6.7	2.7×10
¹³¹ I	1.6	5.2×10^{-1}	3.0×10	1.2×10^2
Pu (α)	(注1) 3.0×10^{-2}	(注2) 1.1×10^{-2}	5.9×10^{-1}	2.3

(注1) 1ヶ月平均1日最大放出濃度

(注2) 1ヶ月平均1日最大放出量

3-2-4 再処理施設排水中の全β放射能測定結果

測定者	評価対象	再処理排水に係わる低減化目標値
施設者	月最高濃度	10 Bq/cm ³
	月平均濃度	4 Bq/cm ³
県	測定毎濃度	10 Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
原子力機構サイクル工研	再処理施設	最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×		2.2×10 ⁻² Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (MBq)	0	3.0×10	1.3×10		計 4.3×10

(注) 10月は排水の放出なし。

3-2-4' 再処理施設排水中の全β放射能測定結果

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			10月	11月	12月	平均
県	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×
		採水月日		11.11	12.4	
		濃度 (Bq/cm ³)		×		
		採水月日		11.25		

(注) 10月の1, 2回目, 12月の2回目は排水の放出なし。

3-2-5 排水中の全 γ 放射能連続測定結果

測定者	排水溝	項目		放出状況			
				10月	11月	12月	平均
県	原子力機構 原科研 (第2)	降雨時	最高濃度 (Bq/cm ³)	4.4×10^{-2}	1.2×10^{-1}	3.7×10^{-2}	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		降雨時以外	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	排水期時間	最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×
	原子力機構 大洗 (北地区)	降雨時	最高濃度 (Bq/cm ³)	9.1×10^{-2}	7.5×10^{-2}	6.4×10^{-2}	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		降雨時以外	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
	原電 (東海第二)	降雨時	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
降雨時以外		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	

(注1) 原子力機構サイクル工研：10月は排水の放出なし。

(注2) 測定値は、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

平成25年度第3 四半期における排水から検出された核種を福島第一原子力発電所事故起因とする理由

事業所名	排水溝名	福島第一原子力発電所事故起因とする核種名	福島第一原子力発電所事故起因とする（各事業所起因でない）理由
原子力機構 大洗	北地区 (JMTR, HTTR, 常陽, FMF)	^{137}Cs	(JMTR, HTTR及び常陽) ○それぞれの原子炉は、施設定期検査中であり、放射性物質の放出を伴う運転等は実施されていない。 (FMF) ○燃料ピン切断作業やピンバンクチャータ試験等の放射性物質の放出を伴う運転は実施されなかった。 (全施設共通) ○管理区域からの排水については、 ^3H 以外は検出されていない。 ○主要核種である ^{60}Co が検出されていない。
原電	東海発電所	^{137}Cs	○廃止措置中であり、全燃料が取り出されている。 ○放射性物質の所外放出を伴うような設備の損傷はない。 ○ ^{60}Co 等の放射化生成物は放出前の排水測定において検出されていない。

参考 1 原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果

1. 調査目的

再処理施設低レベル廃液の海洋放出に伴う放出口周辺海域における放射能水準の変動を詳細に把握するため、放出口を中心とした一定海域について海水の放射性物質濃度の調査を行う。

2. 調査方法

放出口周辺、東西 3 km、南北10kmの海域において表層30地点で採水し、全 β 放射能（30地点）、トリチウム（30地点）、 ^{137}Cs （7地点）について分析する。

本調査は、原則として毎月上旬に定期的を実施する他、排水中の全 β 放射能濃度が、 $6.11\text{Bq}/\text{cm}^3$ を超えた場合に実施する。

3. 調査結果

当期の調査は、10月15日、11月1日及び12月9日に実施した。

その結果、上記海域の海水中放射性物質濃度の平均値は、全 β 放射能について $0.040\text{ Bq}/\text{L}$ 、トリチウムについて検出限界値（ $40\text{Bq}/\text{L}$ ）未満、 ^{137}Cs について $0.016\text{Bq}/\text{L}$ であった。なお、放出排水の全 β 放射能濃度が、 $6.11\text{Bq}/\text{cm}^3$ を超えることはなかった。

なお、東京電力福島第一原子力発電所事故の放射性物質放出の影響により ^{137}Cs が検出された。

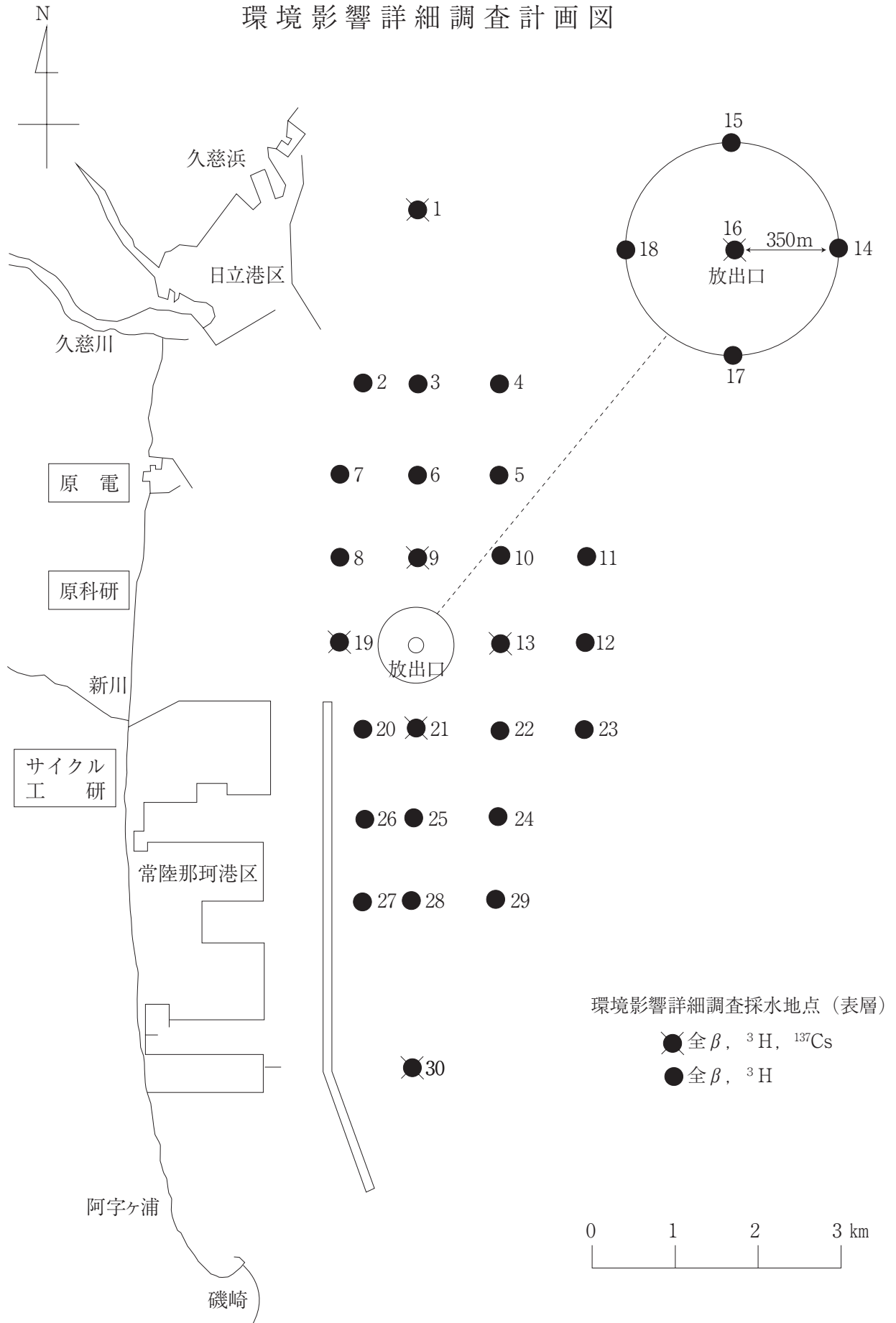
採水地点別濃度 (3ヶ月平均値)

採水地点	全β放射能	トリチウム	¹³⁷ Cs
	(Bq/L)	(Bq/L)	(Bq/L)
1	×	×	0.017
2	×	×	
3	×	×	
4	×	×	
5	×	×	
6	×	×	
7	0.041	×	
8	×	×	
9	×	×	0.016
10	0.041	×	
11	0.043	×	
12	0.041	×	
13	0.042	×	0.017
19	×	×	0.015
20	×	×	
21	0.041	×	0.016
22	0.041	×	
23	0.041	×	
24	×	×	
25	×	×	
26	×	×	
27	0.040	×	
28	×	×	
29	0.042	×	
30	×	×	0.014
放出点	0.040	×	0.016

(注1) 検出限界値：全β放射能 0.04 Bq/L
 トリチウム 40 Bq/L

(注2) 放出点：放出口周辺5地点(14~18)の平均値

環境影響詳細調査計画図



参考2 主要施設運転状況

事業所名	施設名	10月	11月	12月
(注1) 原子力機構 原科研	J R R - 2	残存施設の維持管理		
	J R R - 3	施設定期検査		
(注2) 原子力機構 サイクル工研	再処理施設	施設定期検査		
(注3) 原子力機構 大洗	J M T R	施設定期検査		
	H T T R	施設定期検査		
	高速実験炉 「常陽」	施設定期検査		
(注4) 原電	東海発電所	廃止措置		
	東海第二発電所	第25回定期検査		

(注1) 原子力機構原科研

J R R - 2 : 平成8年12月19日に共同利用運転を終了し解体工事に着手。原子炉本体を密封するとともに周辺機器の撤去を終了し、平成16年4月より残存施設の維持管理中。

J R R - 3 : 施設定期検査 (平成22年11月20日から受検)。

平成25年11月7～8日：長期停止に伴う機能維持に係る施設定期検査を受検し合格した。

(注2) 原子力機構サイクル工研

再処理施設：施設定期検査 (平成19年7月30日から受検)。

(注3) 原子力機構大洗

J M T R : 施設定期検査 (平成18年9月1日から受検)。

H T T R : 施設定期検査 (平成23年2月1日から受検)。

高速実験炉「常陽」：施設定期検査 (平成19年5月15日から受検)。

(注4) 原電

東海発電所：平成10年3月31日 発電 (運転) 停止。

平成13年12月4日 廃止措置着手。

東海第二発電所：平成23年5月21日 第25回定期検査開始。

再処理施設処理状況（せん断処理について記載）

処 理 期 間	対 象 発 電 所 名	炉 型 式 (PWR,BWR又はATR)	処 理 量 (T)	平 均 燃 焼 度 (MWD/T)	冷 却 日 数 (年)
計					

第167報（平成25年度第4四半期環境放射線監視結果）

I 監視結果の評価

茨城県環境放射線監視計画に基づく監視結果は下記のとおりである。

記

1 短期的変動調査結果（平成26年1月～平成26年3月）

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、一部の空間ガンマ線量率が平常の変動幅を上回った。また、同様に、大気塵埃及び降下塵から¹³⁷Csなどの放射性核種が検出された。

さらに、原子力施設の排水からも、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による放射性核種が検出された。

2 長期的変動調査結果（平成25年10月～平成26年3月）

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、サーベイ（空間ガンマ線量率）の測定結果が事故前の測定値を上回り、積算線量の測定結果も平常の変動幅を上回った。また、同様に、土壌、飲料水、海水、海底土などから¹³⁷Csなどの放射性核種が検出された。

3 線量の推定結果（平成25年4月～平成26年3月）

平成25年度の推定結果は以下のとおりである。

(1) 放出源情報に基づく実効線量について、気体廃棄物による実効線量は、外部被ばくによるものが0.0001ミリシーベルト以下、内部被ばくによるものが0.0002ミリシーベルト以下であった。また、液体廃棄物による実効線量は、外部被ばくによるものが0.0000ミリシーベルト、内部被ばくによるものが0.0049ミリシーベルト以下であった。

(2) 積算線量による外部被ばく実効線量は、0.34～1.1ミリシーベルトと推定される。

なお、各地点の自然放射線による外部被ばく実効線量は、0.18～0.34ミリシーベルトであるため、福島第一原子力発電所事故の影響による追加の積算線量の外部被ばく実効線量は、0.088～0.84ミリシーベルトであったと推定される。

Ⅱ 監視結果の概要

Ⅱ－１ 短期的変動調査結果

評価対象期間：平成26年1月から平成26年3月

短期的変動調査は、原子力施設から平常稼働時に放出される放射性物質の他に、事故等により環境へ放出される放射線・放射性物質の有無や環境への影響の有無を早期に把握するために行っている。

前四半期と同様に、空間ガンマ線量率、大気塵埃、降下塵などの測定結果において、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響が見られた。

１ 環境における測定結果

１－１ 空間ガンマ線量率測定結果（88～98ページ）

空間の放射線（ガンマ線）の測定は、98地点のモニタリングステーション、モニタリングポストにおいて行っている。評価の対象となっている月平均値は、37nGy/時～220nGy/時の間にあり、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、98地点中11地点において平常の変動幅（上限値：100nGy/時）を上回った。

なお、1時間値の最大値（原子力機構原科研測定周辺の監視区域境界（MP-19）：1月2日及び2月4日）は230nGy/時であった。

一般環境（事業所周辺監視区域境界及び敷地内を除く）

（単位：nGy/時）

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値（平成22年度）	事故後1時間値の最大値
東海地区 <21> （東海村，那珂市，常陸大宮市（根本））	43～92	110（亀下：2月4日，3月20日）	80（亀下：11月）	3,600（豊岡：平成23年3月15日）
日立地区 <6> （日立市（久慈，大沼，留），常陸太田市（磯部，真弓，久米））	47～73	90（久慈：3月20日）	73（磯部：11月）	3,900（久慈：平成23年3月15日）
ひたちなか地区 <8> （ひたちなか市）	55～90	110（常陸那珂：2月4日，3月20日）	78（馬渡：7月）	3,700（堀口：平成23年3月15日）
大洗地区 <15> （大洗町，銚田市（造谷，荒地，田崎，樺山，上富田，徳宿），茨城町（広浦，海老沢，谷田部），水戸市（吉沢，大場））	49～88	100（造谷：1月9日，2月4日，3月20日） （成田(P-4)：3月20日）	71（荒地：12月）	3,100（広浦：平成23年3月15日）
比較対照地区 <1> （水戸市石川）	62～63	83（2月4日）	72（7月）	1,500（平成23年3月15日）
原電又は原子力機構大洗から10～30km圏内地区 <22> （日立市（十王，平和，中里），常陸太田市（里美，町田，松平），常陸大宮市（野上），銚田市（銚田，大蔵），茨城町（下飯沼），水戸市（鯉淵），城里町，笠間市，小美玉市，石岡市，かすみがうら市，行方市，鹿嶋市）	37～81	110（鹿嶋市津賀：1月22日）		

注) < >内は地点数

事業所周辺監視区域境界

（単位：nGy/時）

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値（平成22年度）	事故後1時間値の最大値
東海地区 <14> （原子力機構原科研，原子力機構サイクル工研，原電）	注2) 72～220	230（原科研MP-19：1月2日，2月4日）	77（サイクル工研MP-8：7月）	5,200（原科研MP-19：平成23年3月15日）
大洗地区 <11> （原子力機構大洗）	注2) 68～170	180（P-11：1月9日，2月4日，3月20日）	69（P-6：7月）	3,100（P-11，P-12：平成23年3月21日）

注1) < >内は地点数

注2) 福島第一原子力発電所事故の影響により，松林等が存在している場所では，空間ガンマ線量率が高くなる。

1-2 大気中放射能測定結果

1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果（99～101ページ）

東海村村松など15地点（東海村6地点，ひたちなか市3地点，日立市1地点，銚田市1地点，茨城町1地点，大洗町2地点，水戸市1地点）において1ヶ月分を採取したものを測定した結果，福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により， ^{134}Cs が6地点， ^{137}Cs が8地点で

検出された。

(検出状況)

(単位：mBq/m³)

検出核種	分析値	事故前の最高値 ^{注)}	事故後の最高値
¹³⁴ Cs	<0.1 ~ 1.7	<0.1	2,800 (ひたちなか市長砂：平成23年3月)
¹³⁷ Cs	<0.1 ~ 4.1	<0.1	3,800 (東海村村松：平成23年3月)

注) 平成元年以降の最高値。なお、JCO臨界事故時のデータを除く。(以下、同様)

1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果 (102ページ)

戸田市上国井町など3地点において1ヶ月分を採取したものを測定した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、¹³⁴Cs、¹³⁷Csが全地点で検出された。

(検出状況)

(単位：Bq/m²)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
¹³⁴ Cs	0.74 ~ 6.1	<0.4	25,000 (原子力機構大洗構内：平成23年3月)
¹³⁷ Cs	1.8 ~ 15	<0.4	27,000 (原子力機構大洗構内：平成23年3月)

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳(原乳)中の放射性核種分析結果 (¹³¹I) (103ページ)

茨城県央クーラーステーションなど2地点における測定結果は、全て不検出であった。

1-4 海洋における放射能測定結果

1-4-1 海水中の放射性核種分析結果 (³H) (103ページ)

久慈沖(A)など12海域における測定結果は、全て不検出であった。

2 主な原子力施設の敷地内における測定結果

2-1 空間ガンマ線量率測定結果 (104ページ)

評価対象としている月平均値は、東海地区(原子力機構サイクル工研)が63nGy/時から64nGy/時、大洗地区(原子力機構大洗)が77nGy/時から81nGy/時であった。

なお、1時間値の最大値(原子力機構大洗測定のP-8：3月)は、110nGy/時であった。

(検出状況)

(単位：nGy/時)

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値(平成22年度)	事故後1時間値の最大値
東海地区<1> (原子力機構サイクル工研)	63~64	82(3月20日)	52(7月)	4,000(平成23年3月15日)
大洗地区<1> (原子力機構大洗)	77~81	110(3月20日)	63(1月)	2,900(平成23年3月15日)

注) < >内は地点数

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果 (105ページ)

原子力機構原科研など3地点において1ヶ月分を採取したものを測定した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs が1地点、 ^{137}Cs が2地点で検出された。

(検出状況)

(単位：mBq/m³)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	<0.1 ~ 0.24	<0.1	2,300 (原子力機構大洗：平成23年3月)
^{137}Cs	<0.1 ~ 0.60	<0.1	2,400 (原子力機構大洗：平成23年3月)

3 放出源における測定結果

3-1 排気中の放射能測定結果

排気中に含まれる放射性物質については、原子力事業者が放射性核種分析、全ベータ放射能測定、全アルファ放射能測定を行っている。

主要放出核種の放射性核種分析結果は、過去のレベル又はそれ以下であった。全ベータ放射能及び全アルファ放射能については不検出であった。

3-1-1 放射性核種分析結果 (主要放出核種) (106~116ページ)

測定対象の42排気筒のうち、今期に放出のなかった5排気筒を除いた原子力機構原科研JRR-2、原子力機構サイクル工研再処理施設の主排気筒など37排気筒において希ガス (^{41}Ar , ^{85}Kr など)、 ^3H など各施設の放出核種を測定したところ、下記の7排気筒で検出されたが、過去と同じレベル又はそれ以下であった。

(検出状況)

(単位：Bq/cm³)

測定者	施設名	核種名	3ヶ月平均濃度	3ヶ月平均濃度 過去最大値	参考管理目標値
原子力機構 原科研	NSRR 燃料試験施設	希ガス	9.4×10^{-6}	6.6×10^{-4}	1.9×10^{-1}
		希ガス	5.5×10^{-3}	1.4×10^{-2}	7.8×10^{-2}
原子力機構 サイクル工研	再処理施設・主排気筒	^3H	9.9×10^{-5}	2.6×10^{-3}	2.4×10^{-1}
積水 メデイカル	第4棟排気筒	^3H	1.9×10^{-5}	2.2×10^{-5}	7.4×10^{-4}
		^{14}C	4.6×10^{-6}	2.3×10^{-5}	1.6×10^{-4}
N D C	照射後試験棟 (F棟)	希ガス	2.1×10^{-3}	3.2×10^{-3}	4.8×10^{-3}
	化学分析棟 (R棟)	^{131}I	1.4×10^{-9}	2.1×10^{-8}	7.4×10^{-8}
日本核燃	照射後試験施設	希ガス	6.7×10^{-4}	5.0×10^{-3}	5.2×10^{-3}

注) 検出された核種のみ記載

3-1-1' 放射性核種分析結果 (その他検出された核種) (117ページ)

原子力機構大洗JMT Rで ^{90}Sr が検出された。

また、原電東海発電所、東海第二発電所及び廃棄物処理建屋排気筒で ^3H が検出されたが、過去と同じレベル又はそれ以下であった。

3-1-2, 3-1-2' 全ベータ放射能測定結果 (118~120ページ)

NDC材料試験棟及び原子力機構原科研JRR-3など23排気筒において測定した結果、いずれも不検出であった。

3-1-3 全アルファ放射能測定結果 (121ページ)

核管センター新分析棟など3排気筒における測定結果は、いずれも不検出であった。

3-2 排水中の放射能測定結果

排水中に含まれる放射性物質の測定は、放射性核種分析、全ベータ放射能測定、再処理施設排水中の放射性核種分析、再処理施設排水中の全ベータ放射能測定、排水中の全ガンマ放射能測定によって行っている。

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{137}Cs 及び全ガンマ放射能が検出された。

3-2-1 放射性核種分析結果 (主要放出核種) (122~127ページ)

原子力事業者は、今期に放出のなかった原子力機構那珂貯水槽、三菱原燃排水貯槽及び三菱マテリアル排水貯槽を除く原子力機構原科研第1排水溝、原子力機構サイクル工研第2排水溝など14排水溝において ^{60}Co などの核種を測定している。下記の5排水溝で検出されたが、全て法令値(133ページ)以下であった。

(検出状況)

(単位: Bq/cm³)

測定者	排水溝名	核種名	3ヶ月平均濃度	法令値	3ヶ月平均濃度 /法令値
原子力機構 原科研	第2排水溝	^3H	1.4×10^{-1}	$6 \times 10^{\text{注1)}$	1/430
		^7Be	9.5×10^{-5}	3×10	1/320,000
		^{137}Cs	4.5×10^{-5}	9×10^{-2}	1/2,000
原子力機構 大洗	北地区	^3H	1.5×10^{-2}	$6 \times 10^{\text{注1)}$	1/4,000
原電	東海第二発電所	^3H	2.4×10^{-2}	$6 \times 10^{\text{注1)}$	1/2,500
三菱原燃	排水ポンド	U	5.3×10^{-4}	2×10^{-2}	1/38
積水メディカル	調整槽	^3H	2.1	$2 \times 10^{\text{注2)}$	1/9.5
		^{14}C	1.3	2	1/1.5

注) 検出された核種のみ記載。

注1) 水としての法令値

注2) 有機物(メタンを除く)としての法令値

3-2-1' 放射性核種分析結果 (主要放出核種) (128~131ページ)

県は原子力機構原科研第1排水溝など12排水溝で測定している。原子力機構原科研第2排水溝など10排水溝で ^3H , ^{14}C , ^{58}Co , ^{60}Co , ^{137}Cs 又はUの6核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

なお、原子力機構大洗北地区、原電東海発電所及び東海第二発電所において検出された ^{137}Cs は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響である。

3-2-1 放射性核種分析結果（その他検出された核種）（132ページ）

原子力事業者が測定した14排水溝において、主要放出核種以外の核種として原子力機構原科研第1排水溝など5排水溝で、 ^{36}Cl 、 ^{54}Mn 、 ^{90}Sr 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{232}Th 又は ^{238}U の7核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

3-2-2, 3-2-2' 全ベータ放射能測定結果（134～136ページ）

原子力事業者、県は今期に放出のなかった原子力機構那珂貯水槽を除く原子力機構原科研第1排水溝及び原子力機構サイクル工研第1排水溝など12排水溝において測定している。12排水溝で検出されたが、監視委員会が定めた判断基準を全て下回っていた。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果（137～140ページ）

原子力機構サイクル工研が ^3H など14核種について分析した結果、 ^3H 及び $\text{Pu}(a)$ の2核種が検出されたが、法令値（141ページ）以下であった。

また、県が ^3H など9核種について測定した結果、 ^3H 及び $\text{Pu}(a)$ の2核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

（検出状況）

（単位：MBq）

測定者	排水溝名	核種名	3ヶ月放出量	法令値	3ヶ月放出量／法令値
原子力機構 サイクル工研	再処理施設	^3H	7.4×10^4	4.7×10^8	1/6,400
		$\text{Pu}(a)$	5.8×10^{-2}	5.9×10^2	1/10,000

備考 県の測定では、 ^3H 及び $\text{Pu}(a)$ を検出。3ヶ月間の最大濃度はそれぞれ 2.6×10 及び $7.6 \times 10^{-5} \text{Bq/cm}^3$ であり、参考として法令（保安規定）に定める最大放出濃度（それぞれ 2.5×10^4 及び $3.0 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ ）と比較すると、それぞれ1/960及び1/390以下であった。

3-2-4 再処理施設排水中の全ベータ放射能測定結果（142ページ）

原子力機構サイクル工研、県測定とも、不検出であった。

3-2-5 排水中の全ガンマ放射能連続測定結果（143ページ）

原子力機構原科研第2排水溝などの4排水溝で測定したところ、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、2排水溝で検出された。

II-2 長期的変動調査結果

評価対象期間：平成25年10月から平成26年3月

長期的変動調査は、原子力施設からの放射性物質の影響による周辺環境における放射線と放射性物質のレベル、蓄積傾向及び地域分布の状況などの長期的変動の有無を把握するために行っている。

なお、サーベイ、積算線量、土壌などの測定結果において、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響が見られた。

1 環境における測定結果

1-1 空間ガンマ線量率測定結果

1-1-1 サーベイ結果（145～149ページ）

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、全ての地点で事故前の測定値を上回った。

（検出状況）

（単位：nGy/時）

測定地点	地点数	測定値	事故前の最高値 （平成22年度）	事故後の最高値 ^{注2)}
東海地区	36	52～120	47	
大洗地区	18	57～120	64	
比較対照地区	2	74～75	40	

注1) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、サーベイ（空間ガンマ線量率）が高くなる傾向にある。

注2) 事故後は県内全域の特別調査を実施しており、同地点における平成23年度の測定結果（最高値）はない。

1-1-2 積算線量測定結果（150～160ページ）

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、全ての地点で平常の変動幅の上限を上回った。

（検出状況）

（単位：mGy/6ヶ月）

		地点数	測定値	事故前の最高値 （平成22年度上期）	事故後の最高値 （平成23年度上期）
行政 区域	東海地区	65	47	0.20～0.59	0.22
	大洗地区		15	0.25～0.63	0.18
	比較対照地区		3	0.25～0.38	0.17
施設 境界	東海地区	28	20	0.24～1.8	0.22
	大洗地区		8	0.42～2.1	0.13

注) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、積算線量が高くなる傾向にある。

1-2 漁網表面吸収線量率の測定結果（161ページ）

東海沖において22時間曳航し、測定した結果は、不検出であった。

1-3 大気中の放射能測定結果

1-3-1 降下塵中の放射性核種分析結果 (161~163ページ)

水戸市上国井町など3地点で1ヶ月分を採取したものを分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が全地点で検出された。

(検出状況)

(単位：Bq/m³)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	0.67 ~ 19	<0.4	25,000 (原子力機構大洗構内:平成23年3月)
^{137}Cs	1.5 ~ 42	<0.4	27,000 (原子力機構大洗構内:平成23年3月)

1-4 陸土中の放射能測定結果

1-4-1 土壌中の放射性核種分析結果 (164ページ)

水戸市見川など8地点で採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が全地点で検出された。

(検出状況)

(単位：Bq/kg・乾)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値 ^{注)}
^{134}Cs	34 ~ 530	<1	
^{137}Cs	83 ~ 1,300	85 (東海村須和間:平成5年度)	

注) 事故後は県内全域の特別調査を実施しており、同地点における平成23年度の測定結果(最高値)はない。

1-4-2 河底土中の放射性核種分析結果 (164ページ)

東海村新川河口で採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が検出された。

(検出状況)

(単位：Bq/kg・乾)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	11	<1	120 (東海村新川河口:平成23年6月)
^{137}Cs	25	1.5 (東海村新川河口:平成2年度)	140 (東海村新川河口:平成23年6月)

1-4-3 海岸砂中の放射性核種分析結果 (164ページ)

大洗町大貫など3地点で採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が全地点で検出された。

(検出状況)

(単位：Bq/kg・乾)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	1.4 ~ 3.4	<1	48(日立市久慈:平成23年7月)
^{137}Cs	3.4 ~ 8.7	0.57 (大洗町大貫:平成4年度)	53(日立市久慈:平成23年7月)

1-5 陸水中の放射能測定結果

1-5-1 河川水及び湖沼水中の放射性核種分析結果（165ページ）

那珂川下流など7地点で採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs が5地点、 ^{137}Cs が6地点で検出された。

(検出状況)

(単位：Bq/L)

検出核種	分析値 ^{注)}	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	<0.004 ~ 0.021	<0.004	0.42 (濁沼 (北松川) : 平成23年6月)
^{137}Cs	<0.004 ~ 0.043	<0.004	0.49 (那珂川下流 : 平成23年6月)

注) 福島第一原子力発電所事故を踏まえて実施している測定では、河川水等をそのまま測定しているため、検出限界値が約0.5Bq/Lとなっているが、本測定では蒸発乾固して測定しているため、検出限界値が0.004Bq/Lとなっている。

1-5-2 飲料水中の放射性核種分析結果（165ページ）

水戸市上国井町など10地点で採取、測定した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs が2地点、 ^{137}Cs が3地点で検出された。

(検出状況)

(単位：Bq/L)

検出核種	分析値 ^{注1)}	事故前の最高値	事故後の最高値 ^{注2)}
^{134}Cs	<0.004 ~ 0.0065	<0.004	
^{137}Cs	<0.004 ~ 0.014	<0.004	

注1) 福島第一原子力発電所事故を踏まえて実施している測定では、飲料水等をそのまま測定しているため、検出限界値が約0.5Bq/Lとなっているが、本測定では蒸発乾固して測定しているため、検出限界値が0.004Bq/Lとなっている。なお、この測定結果は、国が定める飲料水の基準値 (10Bq/L) を十分に下回っている。

注2) 事故後は県内全域の特別調査を実施しており、同地点における平成23年度の測定結果 (最高値) はない。

1-6 海洋における放射能測定結果

1-6-1 海水中の放射性核種分析結果（166ページ）

久慈沖 (A) など12海域で採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs が10海域及び ^{137}Cs が全海域で検出された。また、 ^{90}Sr が1海域で検出されたが、過去のレベルと同程度であった。

(検出状況)

(単位：Bq/L)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値 ^{注)}
^{90}Sr	<0.004 ~ 0.0048	0.0051 (サイクル工研沖 : 平成2年)	
^{134}Cs	<0.004 ~ 0.023	<0.004	
^{137}Cs	0.0075 ~ 0.046	0.0048 (久慈沖 : 平成元年)	

注) 事故後は県内全域の特別調査を実施しており、同地点における平成23年度の測定結果 (最高値) はない。

1-6-2 海底土中の放射性核種分析結果（167～168ページ）

久慈沖 (A) など12海域で採取、分析した (ただしPu分析は9海域) 結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が全海域で検出された。また、Puが

9 海域で検出されたが、過去のレベルと同程度であった。

(検出状況)

(単位：Bq/kg・乾)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	1.0 ~ 26	<0.4	110 (再処理排水放出口周辺：平成23年7月)
^{137}Cs	2.8 ~ 63	4.7 (再処理排水放出口周辺：平成3年)	530 (サイクル工研沖：平成24年2月)
Pu	0.22 ~ 0.90	1.8 (阿字ヶ浦沖：平成3年)	1.3 (サイクル工研沖：平成24年2月)

1-7 排水口近辺土砂中の放射性核種分析結果 (170ページ)

原子力機構原科研第1排水口付近など6地点において採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{137}Cs が5地点で検出された。

(検出状況)

(単位：Bq/kg・乾)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{137}Cs	1.3 ~ 2.5	<1	34 (原子力機構大洗：平成23年7月)

2 敷地内における測定結果

2-1 空間ガンマ線量測定結果

2-1-1 積算線量測定結果 (171ページ)

敷地内における積算線量の測定結果は、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により平常の変動幅の上限を上回った。

(検出状況)

(単位：mGy/6ヶ月)

測定地点	測定値	平常の変動幅 (上限)	事故前の最高値 (平成22年度上期)	事故後の最高値 (平成23年度上期)
原子力機構原科研 MS-1	0.80	0.19	0.17	1.7

注) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、積算線量が高くなる傾向にある。

II-3 線量の推定結果

評価対象期間：平成25年4月から平成26年3月

線量の推定は、原子力施設周辺地域住民の被ばく線量を推定評価し、法律で定める線量限度（1mSv）を十分に下回っているかどうかを確認するために行っている。

1 放出源情報に基づく被ばく線量の推定（県内原子力施設からの影響による外部被ばく実効線量）

（173～176ページ）

主な原子力施設の排気及び排水中に含まれる放射性核種の分析結果から推定した被ばく線量（実効線量）は、外部被ばく線量が、0.0000～0.0001mSv、内部被ばく線量が0.0000～0.0049mSvであった。

これらの値は、法令値（公衆の年間実効線量限度1ミリシーベルト）を大幅に下回っている。

（単位：mSv）

地区名	気体廃棄物による実効線量		液体廃棄物による実効線量	
	外部被ばく線量	内部被ばく線量	外部被ばく線量	内部被ばく線量
東海地区	0.0000～0.0001 (0.0000～0.0001)	0.0000～0.0002 (0.0000～0.0001)	0.0000 (0.0000)	0.0000～0.0049 (0.0000～0.0044)
大洗地区	0.0000～0.0001 (0.0000～0.0001)	0.0000 (0.0000)	/	0.0000～0.0002 (0.0000～0.0002)

注) () 内は、前年度の値

2 実測に基づく被ばく実効線量

(1) 積算線量による外部被ばく線量（177ページ）

平成25年度における積算線量の実測値は、福島第一原子力発電所事故前から存在していた自然放射線によるものと、当該事故で放出された放射性物質によるものとを足し合わせたものとなっている。

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、積算線量による外部被ばく実効線量は、一般の生活環境に設置している行政区域61地点の測定結果から、0.34～1.1mSvと推定される。

なお、各地点における自然放射線（福島第一原子力発電所事故以前の過去5年間（平成17年度～平成21年度）の実効線量の平均値より算出）による外部被ばく実効線量は、0.18～0.34mSvであるため、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による追加の外部被ばく実効線量は、0.088～0.84mSvと推定され、年間1mSvを下回る。

（単位：mSv）

		実測に基づく 実効線量 (A)	自然放射線による 実効線量 (B)	福島原発事故による 実効線量 (A - B)	地点数	
行政 区域	東海地区	0.34～1.0	0.18～0.34	0.088～0.81	44	61
	大洗地区	0.42～1.1	0.19～0.29	0.14～0.84	14	
	比較対照地点	0.44～0.63	0.20～0.26	0.24～0.37	3	

【参考】

上記の外部被ばく実効線量は、測定地点に滞在し続けたと仮定した場合(24時間365日)の値である。なお、福島第一原子力発電所事故を受けて国が用いている、1日のうち屋外に8時間、屋内*に16時間滞在するという生活パターンを仮定して計算した場合、福島第一原子力発電所事故による追加の外部被ばく実効線量は、0.053～0.50mSvと推定される。(※屋内は屋外の線量の0.4倍として計算)

積算線量計の設置場所において、樹木等が多く存在している場所では、積算線量が高くなる傾向にあるが、いずれの値も線量計の設置地点における計算値であり、設置された学校等の施設全体を代表する値ではない。

(2) 環境試料中の放射性核種分析結果に基づく成人の預託実効線量 (178ページ)

監視計画に基づいた環境試料中の放射性核種分析結果から推定した預託実効線量は次表のとおりである。

これらの値は、過去の核実験等による影響に加え、福島第一原子力発電所事故による放射性物質放出の影響が大部分と推定される。

なお、福島第一原子力発電所事故を踏まえた預託実効線量の評価において考慮すべき環境試料の種類、採取地点、頻度等は、現時点において国から具体的に示されておらず、監視計画に基づく環境試料の種類、採取地点、頻度等と異なる可能性がある。

このため、監視計画に基づく環境試料を用いて推定した預託実効線量は参考値として示したものである。

地区名	預託実効線量 (mSv)		
	牛乳, 野菜, 精米, 飲料水	魚類, 貝類, 海藻類	合計
東海地区	0.0028	0.0031	0.0059
大洗地区	0.0023	0.0024	0.0047
比較対照地点 (水戸地区)	0.0010	—	0.0010

注) 以下の試料を用いて内部被ばく線量を算出した。

牛乳8試料 (2地点で⁹⁰Sr, ¹³⁷Csを年2回, ¹³¹Iを年4回)

野菜18試料 (9地点でキャベツ, ホウレン草, ハクサイの⁹⁰Sr, ¹³⁷Cs, ¹³¹Iを年2回) *1

精米7試料 (7地点で⁹⁰Sr, ¹³⁷Csを年1回) *1

飲料水12試料 (6地点で³Hを年2回) *1, *2

魚類24試料 (4海域でシラス, チダイ, ヒラメ, カレイの⁵⁴Mnなど9核種を年2回) *1

貝類15試料 (2海域でハマグリ, アワビ, ウバ貝の⁵⁴Mnなど9核種を年2回) *1, *3

海藻類24試料 (3海域でアラメ, ヒジキ, ワカメの⁵⁴Mnなど9核種を年2回) *1, *3

*1 その他の核種として¹³⁴Csが検出されたため算出に追加

*2 その他の核種として¹³⁷Csが検出されたため算出に追加

*3 その他の核種として^{110m}Agが検出されたため算出に追加

参考 1

原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果（197～199ページ）

本調査は、原子力機構サイクル工研が、再処理施設の低レベル放射性廃液の海洋放出に伴う放出口周辺海域における放射能水準の変動を詳細に把握するために毎月実施しているものであり、放出口を中心とした30地点で海水を採取し、全地点で全ベータ放射能及び³H濃度、7地点で¹³⁷Cs濃度の測定を行っている。

調査の結果、放射性物質濃度の平均値は、全ベータ放射能について0.040Bq/L、³Hについて検出限界値未満、¹³⁷Csについて0.017Bq/Lであった。検出された全ベータ放射能、¹³⁷Csは福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

（測定結果）

区 分	地点数	分 析 値
海 水 の 全 ベ ー タ 放 射 能	30	0.040Bq/L
海 水 中 の ³ H 分 析	30	不検出
海 水 中 の ¹³⁷ Cs 分 析	7	0.017Bq/L

Ⅲ 測 定 結 果

Ⅲ－１ 短期的変動調査結果

１ 環境における測定結果

１－１ 空間 γ 線量率測定結果

１－１－１ モニタリングステーション

測 定 者	評 価 対 象	平常の変動幅（上限）
県 施 設 者	月 平 均 値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種 別	1 月	2 月	3 月	平 均
県	東 海 村 石 神	最 大	79	83	84	
		平 均	68	67	67	67
	〃 豊 岡	最 大	80	87	90	
		平 均	69	68	68	68
	〃 舟 石 川	最 大	80	86	89	
		平 均	66	65	66	66
	〃 押 延	最 大	71	77	72	
		平 均	59	57	58	58
	〃 村 松	最 大	83	88	91	
		平 均	70	69	69	69
	〃 三 菱 原 燃	最 大	65	71	71	
		平 均	53	52	52	52
	〃 原 燃 工	最 大	75	78	85	
		平 均	67	66	65	66
	那 珂 市 横 堀	最 大	69	78	74	
		平 均	57	56	56	56
	〃 門 部	最 大	67	68	72	
		平 均	51	50	50	50
	〃 菅 谷	最 大	89	94	96	
		平 均	80	78	78	79
〃 本 米 崎	最 大	66	71	74		
	平 均	53	52	52	52	
〃 額 田	最 大	63	70	68		
	平 均	53	52	52	52	
〃 鴻 巣	最 大	61	68	67		
	平 均	45	43	44	44	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	1月	2月	3月	平均
県	那珂市後台	最大	63	73	70	
		平均	52	50	50	51
	〃 瓜連	最大	68	75	72	
		平均	54	52	53	53
	ひたちなか市馬渡	最大	83	86	87	
		平均	69	67	68	68
	〃 常陸那珂	最大	100	110 (注3)	110 (注3)	
		平均	90	87	88	88
	〃 阿字ヶ浦	最大	80	86	86	
		平均	67	66	66	66
	〃 堀口	最大	90	92	94	
		平均	75	71	73	73
	〃 佐和	最大	71	82	79	
		平均	59	56	57	57
	〃 柳沢	最大	76	80	80	
		平均	63	62	60	62
	日立市久慈	最大	86	89	90 (注4)	
		平均	73	71	70	71
	〃 大沼	最大	79	85	83	
		平均	68	67	66	67
	〃 十王	最大	75	75	76	
		平均	61	58	59	59
	〃 平和	最大	67	72	73	
		平均	56	54	55	55
	〃 中里	最大	60	64	64	
		平均	47	46	47	47
	常陸太田市磯部	最大	71	77	78	
		平均	58	57	57	57
〃 真弓	最大	62	66	64		
	平均	50	50	49	50	
〃 久米	最大	61	62	65		
	平均	48	47	47	47	
〃 里美	最大	59	61	73		
	平均	44	40	44	43	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	1月	2月	3月	平均
県	常陸太田市 町 田	最大	72	74	82	
		平均	56	55	56	56
	〃 松 平	最大	55	56	60	
		平均	38	37	38	38
	常陸大宮市 根 本	最大	65	71	71	
		平均	49	47	48	48
	〃 野 上	最大	61	64	72	
		平均	48	47	48	48
	大 洗 町 大 貫	最大	79	82	94	
		平均	66	65	65	65
	〃 磯 浜	最大	67	70	71	
		平均	56	56	55	56
	鉾 田 市 造 谷	最大	100 (注5)	100 (注5)	100 (注5)	
		平均	88	85	86	86
	〃 荒 地	最大	86	92	93	
		平均	70	70	69	70
	〃 田 崎	最大	77	80	80	
		平均	63	61	61	62
	〃 縦 山	最大	82	86	86	
		平均	67	65	65	66
	〃 上 富 田	最大	73	78	74	
		平均	61	58	59	59
	〃 徳 宿	最大	72	78	77	
		平均	61	59	59	60
	〃 鉾 田	最大	75	77	77	
		平均	59	58	58	58
	〃 大 蔵	最大	90	86	89	
		平均	66	66	65	66
	茨 城 町 広 浦	最大	87	88	87	
		平均	73	71	71	72
〃 海 老 沢	最大	77	77	78		
	平均	65	63	63	64	
〃 谷 田 部	最大	75	73	71		
	平均	59	57	58	58	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	1月	2月	3月	平均
県	茨城町下飯沼	最大	70	67	65	
		平均	53	51	52	52
	水戸市吉沢	最大	64	68	66	
		平均	51	49	49	50
	〃大場	最大	76	80	81	
		平均	64	62	63	63
	〃石川	最大	75	83 ^(注6)	75	
		平均	63	62	62	62
	〃鯉淵	最大	82	86	80	
		平均	66	61	64	64
	城里町石塚	最大	68	73	72	
		平均	53	51	52	52
	笠間市大橋	最大	77	88	85	
		平均	63	60	63	62
	〃下郷	最大	90	93	86	
		平均	74	71	72	72
	小美玉市堅倉	最大	66	65	60	
		平均	46	43	45	45
	〃川戸	最大	58	63	59	
		平均	45	42	45	44
石岡市柏原	最大	95	97	88		
	平均	77	73	73	74	
〃三村	最大	90	95	87		
	平均	75	69	73	72	
かすみがうら市坂	最大	94	99	91		
	平均	80	73	75	76	
行方市芹沢	最大	73	75	72		
	平均	57	54	55	55	
〃蔵川	最大	66	64	69		
	平均	47	47	47	47	
鹿嶋市津賀	最大	110 ^(注7)	100	98		
	平均	81	80	80	80	
東海村須和間	最大	78	86	92		
	平均	65	64	64	64	

原子力
構造
科研

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	1月	2月	3月	平均
原子力機構 原研	東海村亀下	最大	100	110 (注8)	110 (注8)	
		平均	92	88	88	89
原子力機構 サイクル工研	舟石川	最大	66	69	74	
		平均	55	54	54	54
	ひたちなか市長砂	最大	80	85	92	
		平均	68	66	66	67
	高野	最大	67	71	79	
		平均	56	55	55	55
原子力機構 大洗	周辺監視区域境界 (P-2)	最大	110	110	120	
		平均	96	92	92	93
	〃 (P-6)	最大	82	85	93	
		平均	70	68	68	69
原電	東海村船場	最大	64	81	73	
		平均	54	53	53	53
	日立市留	最大	76	73	87	
		平均	65	63	64	64

(注1) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(注2) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、空間ガンマ線量率が高くなる傾向にある。

(注3) ひたちなか地区の一般環境における1時間値の最大値110nGy/時(県測定：ひたちなか市常陸那珂)が観測されたのは、2月4日18時及び3月20日13時であり、降雨の影響である。

(注4) 日立地区の一般環境における1時間値の最大値90nGy/時(県測定：日立市久慈)が観測されたのは、3月20日14時であり、降雨の影響である。

(注5) 大洗地区の一般環境における1時間値の最大値100nGy/時(県測定：鉾田市造谷)が観測されたのは、1月9日3時、2月4日18時及び3月20日13時であり、降雨の影響である。

(注6) 比較対照地点における1時間値の最大値83nGy/時(県測定：水戸市石川)が観測されたのは、2月4日17時であり、降雨の影響である。

(注7) 原電又は原子力機構大洗から10~30km圏内地区における1時間値の最大値110nGy/時(県測定：鹿嶋市津賀)が観測されたのは、1月22日4時であり、降雨の影響である。

(注8) 東海地区の一般環境における1時間値の最大値110nGy/時(原子力機構原研測定：東海村亀下)が観測されたのは、2月4日17時及び3月20日14時であり、降雨の影響である。

1-1-2 モニタリングポスト

測定者	評価対象	平常の変動幅 (上限)
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	1月	2月	3月	平均
原子力機構原科研	周辺監視区域境界 (MP-11)	最大	120	110	120	
		平均	110	100	100	100
	〃 (MP-16)	最大	130	130	130	
		平均	120	110	100	110
	〃 (MP-17)	最大	110	120	130	
		平均	99	94	94	96
	〃 (MP-18)	最大	220	180	160	
		平均	190	160	150	170
	〃 (MP-19)	最大	230 (注3)	230 (注3)	190	
		平均	220	200	180	200
原子力機構サイクル工研	周辺監視区域境界 (MP-1)	最大	120	130	140	
		平均	110	110	110	110
	〃 (MP-6)	最大	110	110	120	
		平均	97	93	94	95
	〃 (ST-5)	最大	100	110	120	
		平均	90	88	88	89
	〃 (MP-7)	最大	140	150	140	
		平均	130	130	120	130
	〃 (MP-8)	最大	130	140	140	
		平均	120	120	120	120
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-1)	最大	100	110	120	
		平均	89	86	86	87
	大洗町成田 (P-3)	最大	83	86	93	
		平均	70	68	69	69
	〃 (P-4)	最大	94	96	100 (注4)	
		平均	88	86	84	86
	周辺監視区域境界 (P-5)	最大	89	96	100	
		平均	79	77	76	77
	〃 (P-7)	最大	130	130	130	
		平均	120	110	110	110

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	1月	2月	3月	平均
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-11)	最大	180 ^(注5)	180 ^(注5)	180 ^(注5)	
		平均	170	160	160	160
	〃 (P-12)	最大	170	170	160	
		平均	160	150	150	150
	〃 (P-13)	最大	110	110	110	
		平均	100	98	96	98
	〃 (P-14)	最大	100	110	110	
		平均	91	89	87	89
	〃 (P-15)	最大	110	120	120	
		平均	99	96	96	97
	〃 (P-16)	最大	92	95	100	
		平均	80	78	78	79
原電	周辺監視区域境界 (A)	最大	82	87	92	
		平均	74	72	72	73
	〃 (B)	最大	100	110	120	
		平均	95	91	91	92
	〃 (C)	最大	95	100	110	
		平均	87	84	84	85
	〃 (D)	最大	120	130	130	
		平均	110	100	98	100
東海村豊岡	最大	92	98	100		
	平均	84	81	81	82	

(注1) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(注2) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、空間ガンマ線量率が高くなる傾向にある。

(注3) 東海地区の事業所周辺監視区域境界における1時間値の最大値230nGy/時(原子力機構原科研測定:MP-19)が観測されたのは、1月2日7時、2月4日18時である。1月2日は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響によるものであり、2月4日は降雨の影響である。

(注4) 大洗地区の一般環境における1時間値の最大値100nGy/時(原子力機構大洗測定:大洗町成田P-4)が観測されたのは、3月20日13時であり、降雨の影響である。

(注5) 大洗地区の事業所周辺監視区域境界における1時間値の最大値180nGy/時(原子力機構大洗測定:P-11)が観測されたのは、1月9日3時、2月4日12時及び3月20日13時であり、降雨の影響である。

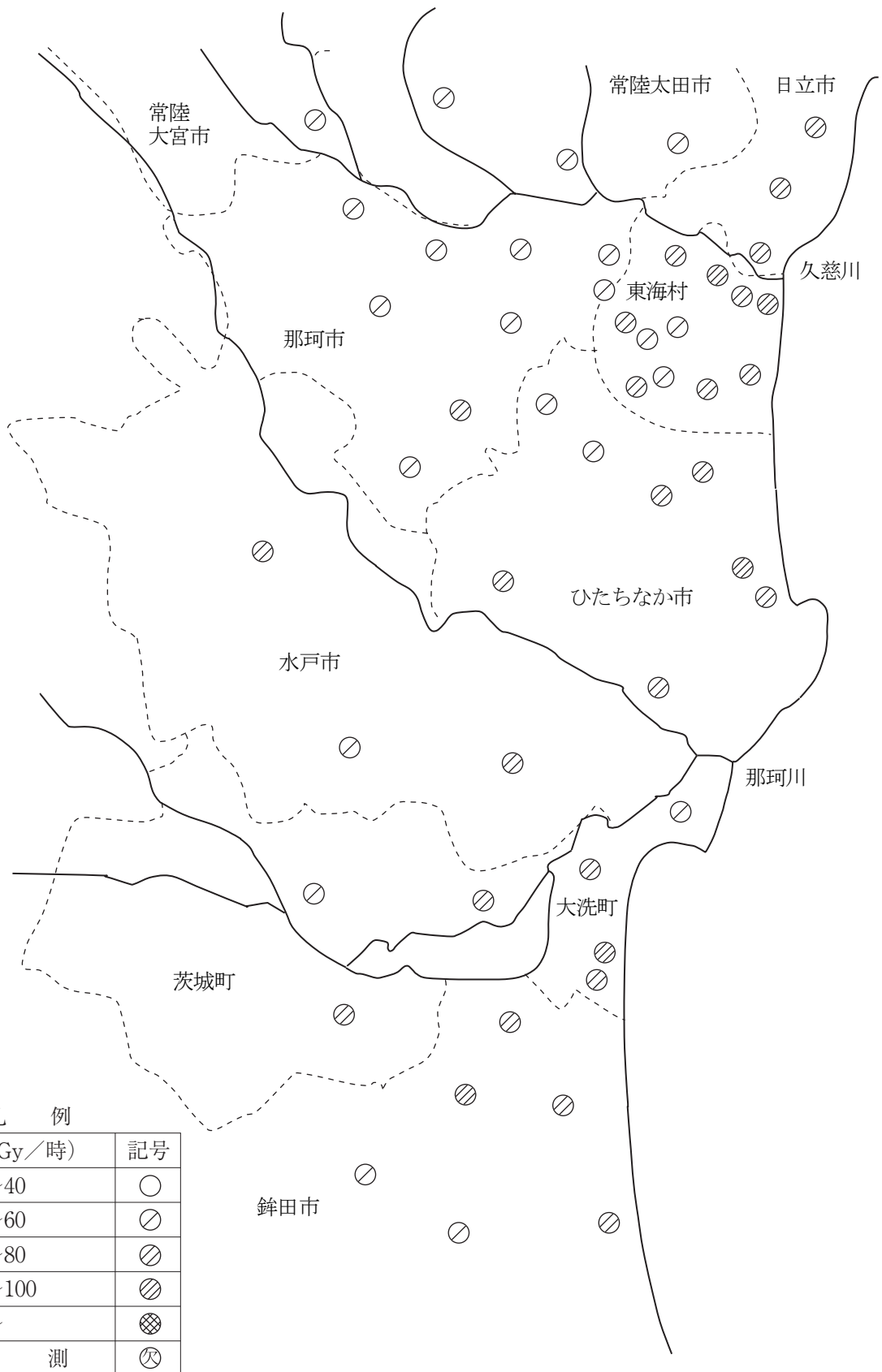


図1 原電又は原子力機構大洗から10km圏内の一般環境における空間 γ 線量率測定結果(3ヶ月平均値)
(事業所周辺監視区域境界を除く)



図2 原電又は原子力機構から10~30km圏内地区における空間γ線量率測定結果(3ヶ月平均値)

平成25年度第4四半期におけるモニタリングステーション, モニタリング
ポストにおいて測定した空間線量率の経月変化

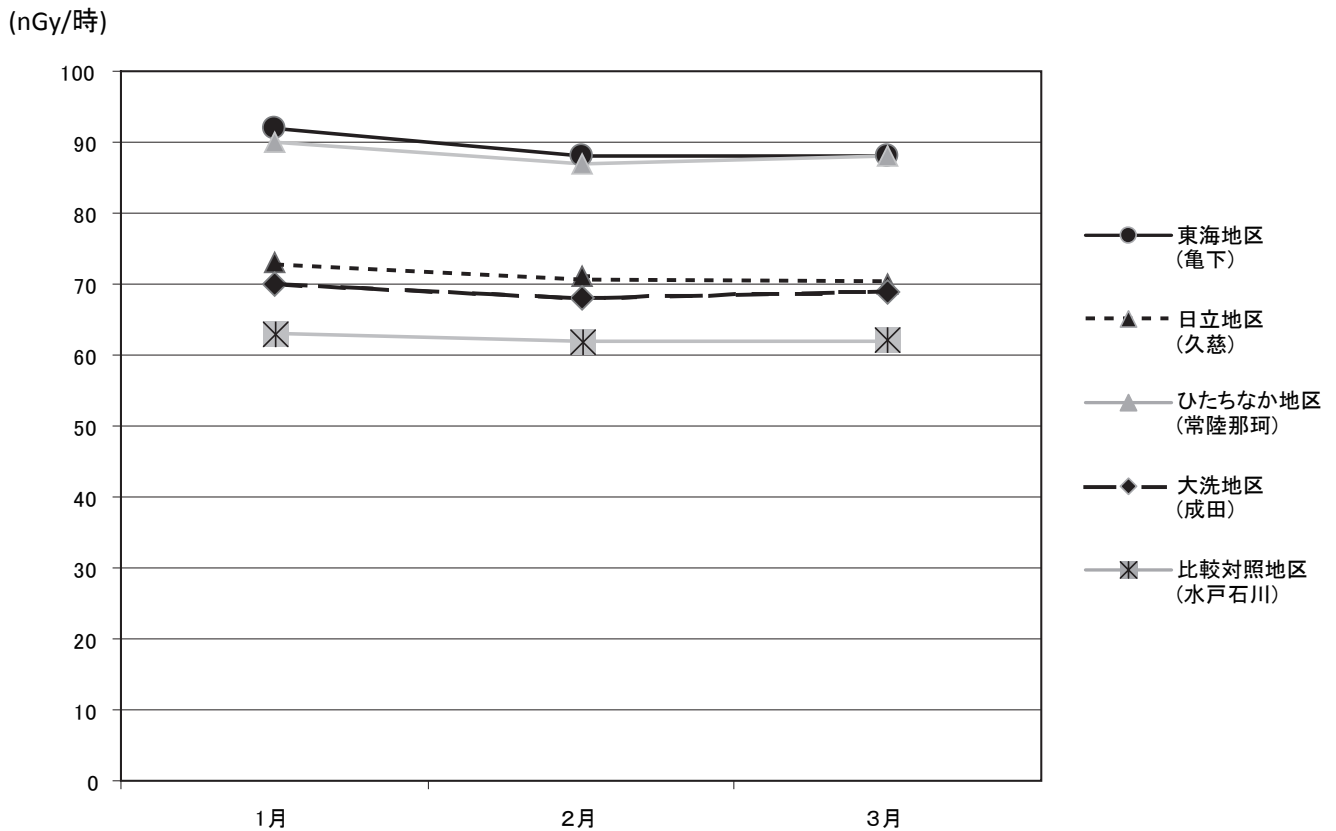


図1 空間ガンマ線量率測定結果の一般環境における月平均値の経月変化

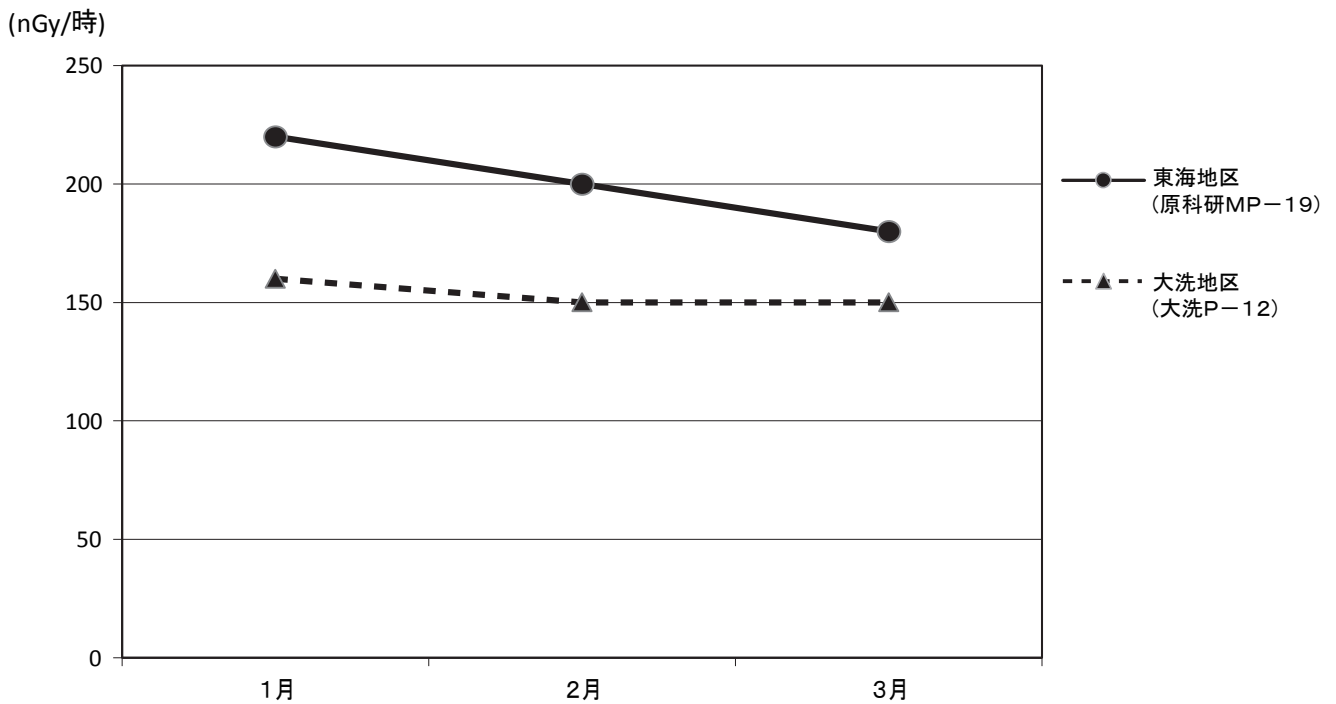
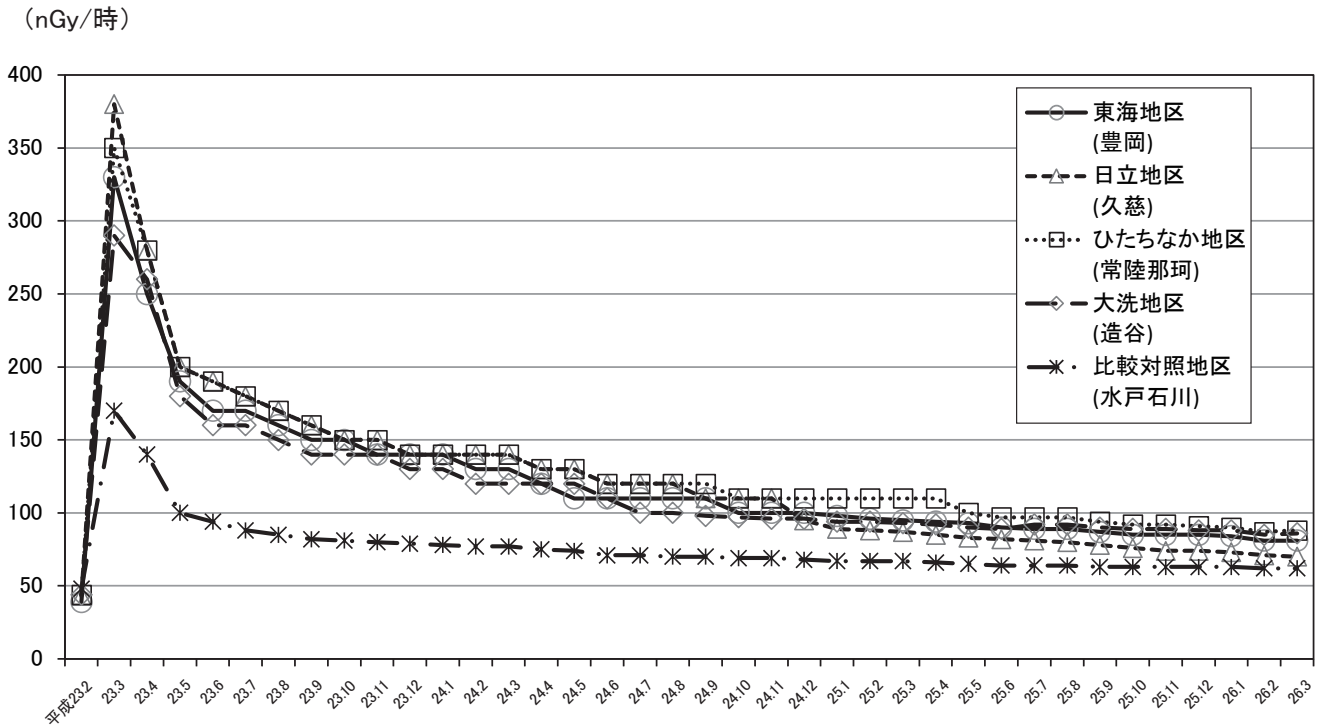
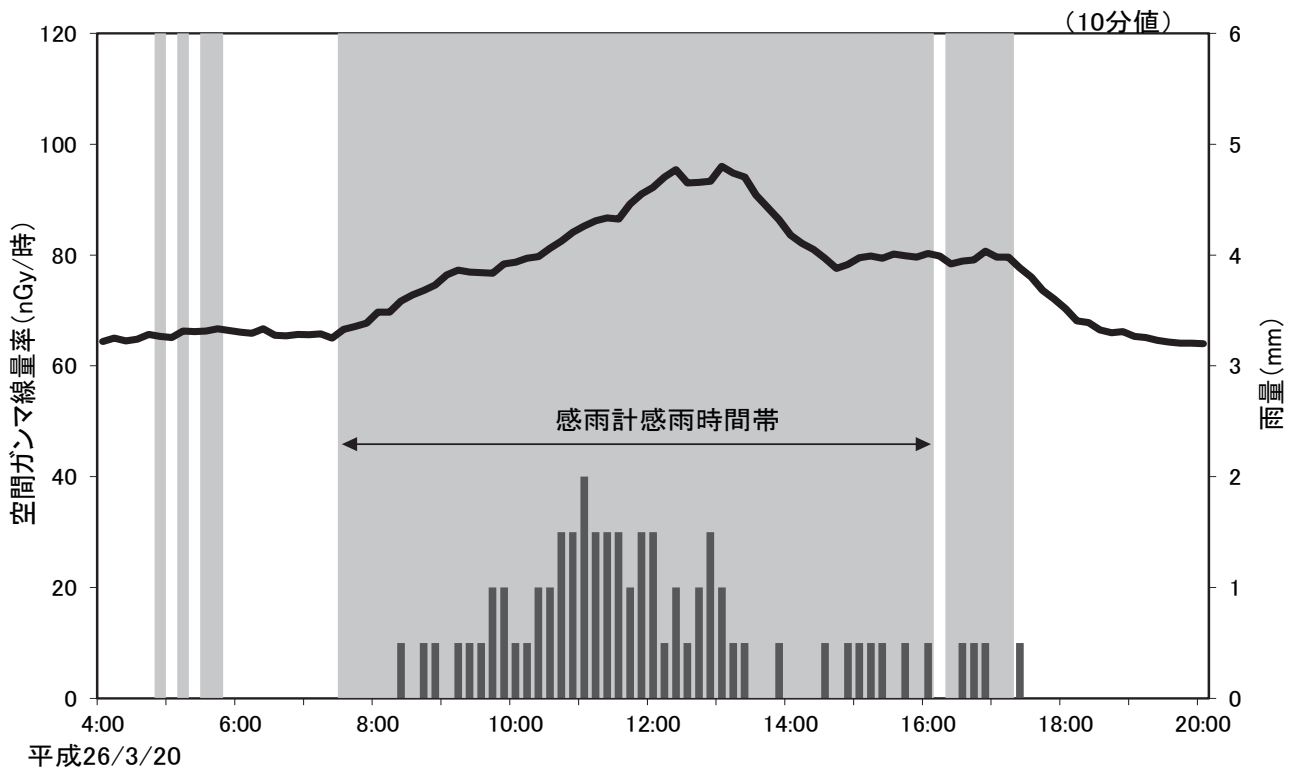


図2 空間ガンマ線量率測定結果の事業所周辺監視区域境界の経月変化

空間ガンマ線量率測定結果の一般環境における月平均値の経月変化
 (福島第一原子力発電所事故前(平成23年2月)から平成26年3月まで)



今期の測定の中で降雨によって最大値が観測された局における
 空間線量率の時系列 (大貫局)



(注)
 当該グラフにおける空間ガンマ線量率の上昇の原因は降雨によるもの。
 降雨により空間線量率が上昇するのは、自然放射性核種(ラドンとトリウムから生まれた核種)が雨により地表に落下するためであり、それらの核種の半減期は短いことから、雨が止んでから短時間で線量率は降雨前の水準に戻る。

1-2 大気中放射能測定結果

1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

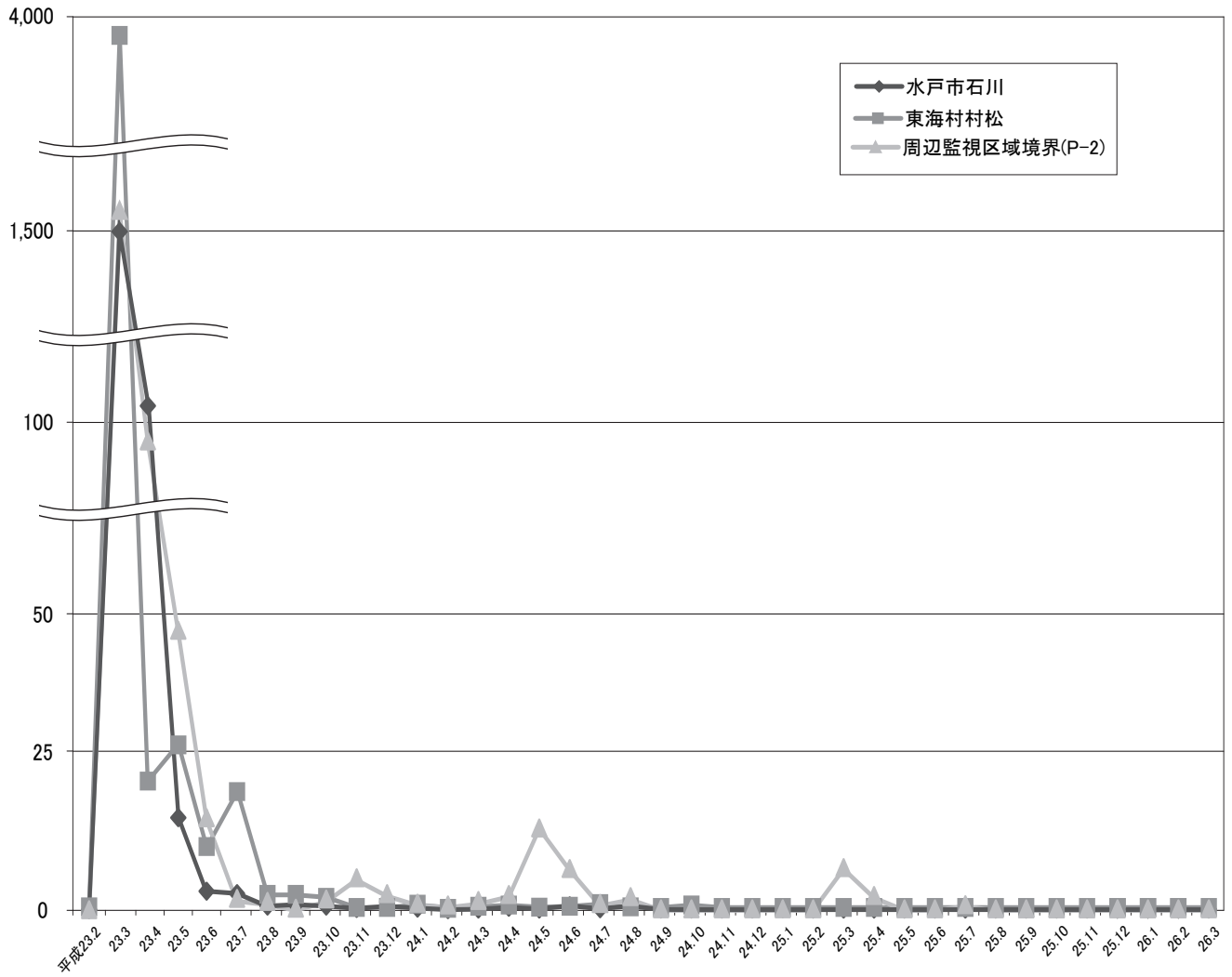
測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)								
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu	
県	水戸市 石川	1. 1~ 2. 1	×	×	×	×	×	×	×		
		2. 1~ 3. 1	×	×	×	×	×	×	×		
		3. 1~ 4. 1	×	×	×	×	×	×	×		
	東海村 村松	1. 1~ 2. 1	×	×	×	×	×	×	×		
		2. 1~ 3. 1	×	×	×	×	×	×	×		
		3. 1~ 4. 1	×	×	×	×	×	×	×		
	ひたちなか市 常陸那珂	1. 1~ 2. 1	×	×	×	×	×	0.27 [0.11]	×		
		2. 1~ 3. 1	×	×	×	×	×	×	×		
		3. 1~ 4. 1	×	×	×	×	×	×	×		
	茨城町 広浦	1. 1~ 2. 1	×	×	×	×	×	0.80 [0.35]	×		
		2. 1~ 3. 1	×	×	×	×	×	0.44 [0.17]	×		
		3. 1~ 4. 1	×	×	×	×	×	0.28 [0.11]	×		
	鉾田市 造谷	1. 1~ 2. 1	×	×	×	×	×	0.16 [×]	×		
		2. 1~ 3. 1	×	×	×	×	×	0.14 [×]	×		
		3. 1~ 4. 1	×	×	×	×	×	0.13 [×]	×		
	原子力 機構 原科研	周辺監視区域境界 (MS-2)	12.30~ 2. 3	×	×	×	×	×	×	×	
			2. 3~ 3. 3	×	×	×	×	×	×	×	
			3. 3~ 3.31	×	×	×	×	×	0.11 [×]	×	
東海村 須和間		12.30~ 2. 3	×	×	×	×	×	0.50 [0.21]	×		
		2. 3~ 3. 3	×	×	×	×	×	0.42 [0.18]	×		
		3. 3~ 3.31	×	×	×	×	×	4.1 [1.7]	×		
〃 亀下		12.30~ 2. 3	×	×	×	×	×	0.39 [0.17]	×		
		2. 3~ 3. 3	×	×	×	×	×	0.38 [0.16]	×		
		3. 3~ 3.31	×	×	×	×	×	1.5 [0.61]	×		

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu
原子力 機構 サイクル 工研	東海村 舟石川	12.30～1.31	×	×	×	×	×	×	×	
		1.31～2.28	×	×	×	×	×	×	×	×
		2.28～4.1	×	×	×	×	×	×	×	
	ひたちなか市長砂	12.30～1.31	×	×	×	×	×	×	×	
		1.31～2.28	×	×	×	×	×	×	×	×
		2.28～4.1	×	×	×	×	×	×	×	
	〃 高野	12.30～1.31	×	×	×	×	×	×	×	
		1.31～2.28	×	×	×	×	×	×	×	×
		2.28～4.1	×	×	×	×	×	×	×	
原子力 機構 大洗	周辺監視区域境界 (P-2)	1.6～2.3	×	×	×	×	×	0.36 [0.15]	×	
		2.3～3.3	×	×	×	×	×	0.42 [0.16]	×	
		3.3～4.1	×	×	×	×	×	0.69 [0.27]	×	
	〃 (P-6)	1.6～2.3	×	×	×	×	×	0.34 [0.14]	×	
		2.3～3.3	×	×	×	×	×	0.14 [※]	×	
		3.3～4.1	×	×	×	×	×	0.45 [0.17]	×	
原 電	東海村 船場	1.1～2.5	×	×	×	×	×	×	×	
		2.5～3.5	×	×	×	×	×	×	×	
		3.5～4.2	×	×	×	×	×	×	×	
	日立市 留	1.1～2.5	×	×	×	×	×	×	×	
		2.5～3.5	×	×	×	×	×	×	×	
		3.5～4.2	×	×	×	×	×	×	×	

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは [] に記載。

大気塵埃中の¹³⁷Cs経月変化 (mBq/m³)



1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (Bq/m ²)						
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	水戸市 上国井町	1. 6～ 2. 3	×	×	×	×	×	1.8 [0.74]	×
		2. 3～ 3. 3	×	×	×	×	×	9.9 [4.1]	×
		3. 3～ 4. 1	×	×	×	×	×	5.1 [1.9]	×
原子力 機構 原科研	内	1. 6～ 2. 3	×	×	×	×	×	7.2 [3.0]	×
		2. 3～ 3. 3	×	×	×	×	×	15 [6.1]	×
		3. 3～ 4. 1	×	×	×	×	×	7.3 [2.8]	×
原子力 機構 大洗	内	1. 6～ 2. 3	×	×	×	×	×	2.7 [1.0]	×
		2. 3～ 3. 3	×	×	×	×	×	8.1 [3.3]	×
		3. 3～ 4. 1	×	×	×	×	×	5.1 [2.0]	×

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは [] に記載。

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果（¹³¹I）

測定者	採取地点	採取月日	核種	分析値 (Bq/L)
県	茨城県央クーラーステーション	1.7	¹³¹ I	×
	里美クーラーステーション	1.7	¹³¹ I	×

(注) 県内全域調査の地点で実施。

1-4 海洋における放射能測定結果

1-4-1 海水中の放射性核種分析結果（³H）

測定者	採水海域	採水月日	水温 (℃)	塩素量 (%)	核種	分析値 (Bq/L)
県	久慈沖 (A)	1.14	13.2	18.44	³ H	×
	原子力機構サイクル工研沖 (G)	1.14	13.6	18.91	³ H	×
	阿字ヶ浦沖 (I)	1.14	13.3	18.89	³ H	×
	那珂湊沖 (J)	1.14	12.3	18.37	³ H	×
	大貫沖 (K)	1.14	11.5	18.53	³ H	×
	再処理排水放出口周辺 (P)	1.14	12.8	18.66	³ H	×
原子力機構原科研	原子力機構原科研沖 (C)	1.17	13.1	18.38	³ H	×
原子力機構 サイクル工研	原子力機構サイクル工研沖 (F)	1.14	12.3	18.17	³ H	×
	長砂沖 (H)	1.14	12.7	18.62	³ H	×
	再処理排水放出口周辺 (P)	1.14	12.8	18.44	³ H	×
原子力機構大洗	原子力機構大洗沖 (L)	1.16	10.7	18.27	³ H	×
	〃 (M)	1.16	11.7	18.33	³ H	×
原電	原電沖 (B)	1.8	9.6	17.76	³ H	×

(注1) 採水海域：() 内は採取海域記号。採取地点は169ページの図を参照。

(注2) 表層水を採取。

2 敷地内における測定結果

2-1 空間 γ 線量率測定結果

2-1-1 モニタリングステーション

測定者	評価対象	平常の変動幅（上限）
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値（nGy/時）				
		種別	1月	2月	3月	平均
原子力機構 サイクル工研	S T - 1	最大	72	76	82	
		平均	64	63	63	63

（注1）測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質放出の影響を含む。

（注2）最大値 82nGy/時は、3月20日14時に観測されたものであり、降雨の影響である。

2-1-2 モニタリングポスト

測定者	評価対象	平常の変動幅（上限）
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値（nGy/時）				
		種別	1月	2月	3月	平均
原子力機構 大洗	構内 (P - 8)	最大	94	98	110	
		平均	81	79	77	79

（注1）測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質放出の影響を含む。

（注2）最大値 110nGy/時は、3月20日13時に観測されたものであり、降雨の影響である。

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu
原子力機構 原科構研	MS-1	12.30~2.3	×	×	×	×	×	×	×	
		2.3~3.3	×	×	×	×	×	×	×	
		3.3~3.31	×	×	×	×	×	×	×	
原子力機構 サイクル工研	ST-1	12.30~1.31	×	×	×	×	×	×	×	×
		1.31~2.28	×	×	×	×	×	0.14 [×]	×	
		2.28~4.1	×	×	×	×	×	×	×	
原子力機構 大構洗	構内	1.6~2.3	×	×	×	×	×	0.18 [×]	×	
		2.3~3.3	×	×	×	×	×	0.60 [0.24]	×	
		3.3~4.1	×	×	×	×	×	0.25 [0.11]	×	

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。
 なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは [] に記載。

3 放出源における測定結果

3-1 排 気

3-1-1 排気中の放射性核種分析結果

(主要放出核種)

測定者	施設名	項目	放 出 状 況				分析核種 及びDL
			1 月	2 月	3 月	平 均	
(注2) 原 子 力 機 構 原 科 研	J R R - 2	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H 1.4×10 ⁻⁴ ~ 1.8×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
		放 出 量 実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	
		不 検 出 分 (GBq)	5.3×10 ⁻¹	5.3×10 ⁻¹	5.6×10 ⁻¹	計 1.6	
	J R R - 3	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)					希ガス (⁴¹ Ar) 1.3×10 ⁻³ Bq/cm ³
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)					
		放 出 量 実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	
		不 検 出 分 (GBq)	0	0	0	計 0	
	J R R - 4	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H 4.3×10 ⁻⁵ ~ 4.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
		放 出 量 実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	
		不 検 出 分 (GBq)	4.2	4.2	4.2	計 1.3×10	
	N S R R	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)					希ガス (⁴¹ Ar) 1.2×10 ⁻³ Bq/cm ³
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)					
		放 出 量 実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	
		不 検 出 分 (GBq)	0	0	0	計 0	
	N S R R	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	2.2×10 ⁻³	2.2×10 ⁻³	2.3×10 ⁻³		希ガス (⁴¹ Ar) 2.2×10 ⁻³ Bq/cm ³
			5.4×10 ⁻⁶	7.3×10 ⁻⁶	1.5×10 ⁻⁵	9.4×10 ⁻⁶	
		放 出 量 実 測 分 (GBq)	1.6×10 ⁻²	4.1×10 ⁻²	7.9×10 ⁻²	計 1.4×10 ⁻¹	2.2×10 ⁻³ Bq/cm ³
			2.2×10 ⁻¹	2.5×10 ⁻¹	6.0×10 ⁻¹	計 1.1	
		最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 6.7×10 ⁻⁹ ~ 1.6×10 ⁻⁸ Bq/cm ³
			×	×	×	×	
		放 出 量 実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	1.6×10 ⁻⁸ Bq/cm ³
			8.8×10 ⁻⁵	7.9×10 ⁻⁵	8.3×10 ⁻⁵	計 2.5×10 ⁻⁴	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			1月	2月	3月	平均			
(注2) 原子力機構 燃料サイクル 研究施設	燃料試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	1.1×10 ⁻²	×		希ガス (⁸⁵ Kr) 6.3×10 ⁻³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	6.5×10 ⁻³	×	5.5×10 ⁻³			
		放出量	実測分 (GBq)	0	6.1	0	計 6.1	7.6×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	3.1×10 ²	2.6×10 ²	1.4×10 ²	計 7.1×10 ²		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 7.9×10 ⁻¹⁰		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	7.2×10 ⁻⁸ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	8.2×10 ⁻⁵	8.0×10 ⁻⁵	5.4×10 ⁻⁵	計 2.2×10 ⁻⁴		
	燃料サイクル 安全工学 研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス (¹³⁸ Xe) 9.0×10 ⁻⁴		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	1.7×10 ²	1.5×10 ²	1.7×10 ²	計 4.9×10 ²		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 5.7×10 ⁻¹⁰		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
放出量		実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	8.9×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	1.7×10 ⁻⁴	1.2×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻⁴	計 4.3×10 ⁻⁴			
原子力機構 燃料サイクル 研究施設	再処理 施設	主 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	⁸⁵ Kr 2.4×10 ⁻³		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		×	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	6.6×10 ²	5.3×10 ²	5.4×10 ²	計 1.7×10 ³	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	1.1×10 ⁻⁴	1.1×10 ⁻⁴	1.8×10 ⁻⁴		³ H 3.7×10 ⁻⁵		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	9.4×10 ⁻⁵	9.2×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁴	9.9×10 ⁻⁵			
		放出量	実測分 (GBq)	2.4×10	2.0×10	2.9×10	計 7.3×10	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C 4.0×10 ⁻⁵		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	1.0×10	8.9	1.0×10	計 2.9×10		

測定者	施設名		項目	放出状況				分析核種 及びDL		
				1月	2月	3月	平均			
原子力 機構 サイ クル 工 研	再 処 理 施 設	主 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10^{-8}		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
				不検出分 (GBq)	9.6×10^{-3}	8.2×10^{-3}	9.5×10^{-3}	計 2.7×10^{-2}	Bq/cm ³	
		主 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10^{-8}		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
				不検出分 (GBq)	9.6×10^{-3}	8.2×10^{-3}	9.5×10^{-3}	計 2.7×10^{-2}	Bq/cm ³	
		第 一 付 属 排 気 筒	第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁸⁵ Kr	
				平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.4×10^{-3}	
				放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
					不検出分 (GBq)	1.9×10^2	1.7×10^2	1.8×10^2	計 5.4×10^2	Bq/cm ³
	第 一 付 属 排 気 筒		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10^{-5}		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
				不検出分 (GBq)	2.7	2.6	3.1	計 8.4	Bq/cm ³	
	第 一 付 属 排 気 筒		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.0×10^{-5}		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
				不検出分 (GBq)	2.9	2.8	3.3	計 9.0	Bq/cm ³	
	第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I			
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10^{-8}			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
			不検出分 (GBq)	2.7×10^{-3}	2.6×10^{-3}	3.1×10^{-3}	計 8.4×10^{-3}	Bq/cm ³		
第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I				
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10^{-8}				
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0				
		不検出分 (GBq)	2.7×10^{-3}	2.6×10^{-3}	3.1×10^{-3}	計 8.4×10^{-3}	Bq/cm ³			

測定者	施設名		項目	放出状況				分析核種及びDL	
				1月	2月	3月	平均		
原子力機構 サイクル 工研	再処理施設	第二付属気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁸⁵ Kr	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.4×10 ⁻³	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	2.3×10 ²	2.1×10 ²	2.3×10 ²	計 6.7×10 ²	
			最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁵	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	3.3	3.3	4.0	計 1.1×10		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.0×10 ⁻⁵		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	3.6	3.5	4.3	計 1.1×10		
	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I			
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁸			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	3.3×10 ⁻³	3.3×10 ⁻³	4.0×10 ⁻³	計 1.1×10 ⁻²			
	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I			
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁸			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	3.3×10 ⁻³	3.3×10 ⁻³	4.0×10 ⁻³	計 1.1×10 ⁻²			
	高レベル放射性物質研究施設 (CPF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	[⁸⁵ Kr] [¹³³ Xe]		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	1.6×10 ²	1.5×10 ²	1.1×10 ²	計 4.2×10 ²		
最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×		³ H			
平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁵			
放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³			
	不検出分 (GBq)	2.3	2.3	2.0	計 6.6				

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
原子力機構サイクル工研	高レベル放射性物質研究施設(CPF)	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	3.7×10 ⁻⁸
			不検出分(GBq)	2.3×10 ⁻³	2.3×10 ⁻³	2.0×10 ⁻³	計 6.6×10 ⁻³	Bq/cm ³
(注3) 原子力機構大洗	J M T R	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×	[主に ⁴¹ Ar]	
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	2.7×10 ⁻³
			不検出分(GBq)	1.9×10 ²	1.6×10 ²	2.0×10 ²	計 5.5×10 ²	Bq/cm ³
	H T T R	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×	[主に ⁸⁸ Kr, ¹³⁸ Xe]	
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分(GBq)	1.2×10 ²	1.1×10 ²	1.3×10 ²	計 3.6×10 ²	Bq/cm ³
	H T T R	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	1.3×10 ⁻⁹
			不検出分(GBq)	9.7×10 ⁻⁵	7.3×10 ⁻⁵	7.3×10 ⁻⁵	計 2.4×10 ⁻⁴	Bq/cm ³
	照射燃料集試験施設(FMF)	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		³ H	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	1.7×10 ⁻⁵
			不検出分(GBq)	9.3×10 ⁻¹	9.3×10 ⁻¹	1.1	計 3.0	Bq/cm ³
照射燃料集試験施設(FMF)	最高濃度(Bq/cm ³)					希ガス		
	平均濃度(Bq/cm ³)					[主に ⁸⁵ Kr, ¹³³ Xe]		
	放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	1.3×10 ⁻³	
		不検出分(GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
照射燃料集試験施設(FMF)	最高濃度(Bq/cm ³)					¹³¹ I		
	平均濃度(Bq/cm ³)							
	放出量	実測分(GBq)	0	0	0	計 0	4.7×10 ⁻¹⁰	
		不検出分(GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			1月	2月	3月	平均			
(注3) 原子力機構大洗	高速実験炉「常陽」	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁴¹ Ar, ⁸⁵ Kr, ¹³³ Xe〕 1.3×10 ⁻³ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
			不検出分 (GBq)	1.3×10 ²	1.3×10 ²	1.3×10 ²		計 3.9×10 ²	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 2.1×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
			不検出分 (GBq)	1.4×10 ⁻⁴	1.6×10 ⁻⁴	1.7×10 ⁻⁴		計 4.7×10 ⁻⁴	
(注4) 原子力機構那珂	JT-60 〔臨界プラズマ〕 実験棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					³ H 1.9×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)							
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
			不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0		
(注5) 原電	東海発電所	排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 1.5×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
				不検出分 (GBq)	1.9×10 ⁻⁴	1.6×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴		計 5.4×10 ⁻⁴
		その他排気口	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³⁷ Cs 1.3×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
				不検出分 (GBq)	1.6×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴	1.6×10 ⁻⁴		計 4.7×10 ⁻⁴
	東海発電所	排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 1.6×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
				不検出分 (GBq)	2.1×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻⁴		計 6.0×10 ⁻⁴
		その他排気口	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³⁷ Cs 1.6×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0				
	不検出分 (GBq)	2.2×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴	2.1×10 ⁻⁴	計 6.2×10 ⁻⁴				

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
(注5) 原電	東海第二発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁸⁵ Kr, ¹³³ Xe〕	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³ Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	7.0×10 ²	6.3×10 ²	7.2×10 ²	計 2.1×10 ³	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.8×10 ⁻⁹	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	2.0×10 ⁻³	1.8×10 ⁻³	1.8×10 ⁻³	計 5.6×10 ⁻³	
住友鋁山	技術センター	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
(注6) JCO	第1管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	第2管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	第3管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
固体廃棄物処理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					U		
	平均濃度 (Bq/cm ³)					3.7×10 ⁻¹⁰		
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
		不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0		

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
三	転換工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	成形工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
原	第1廃棄物 処理所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	第2廃棄物 処理所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
燃	燃料加工 試験棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
積水メ ディカル	集合排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.9×10 ⁻⁵	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁶	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL		
			1月	2月	3月	平均			
積水メデイカル	第4棟 気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.1×10 ⁻⁵	2.0×10 ⁻⁵	2.0×10 ⁻⁵		³ H		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.9×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻⁵		
		放出量	実測分 (GBq)	3.3×10 ⁻³	1.2×10 ⁻³	1.8×10 ⁻³	計 6.3×10 ⁻³	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	2.7×10 ⁻⁵	1.2×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵		¹⁴ C		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	5.3×10 ⁻⁶	4.3×10 ⁻⁶	4.3×10 ⁻⁶	4.6×10 ⁻⁶	3.7×10 ⁻⁶		
		放出量	実測分 (GBq)	4.6×10 ⁻²	1.9×10 ⁻²	2.2×10 ⁻²	計 8.7×10 ⁻²	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
(注7) N	照射後試験棟 (F棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	4.9×10 ⁻³	2.1×10 ⁻³	2.4×10 ⁻³		希ガス		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	2.2×10 ⁻³	2.0×10 ⁻³	2.0×10 ⁻³	2.1×10 ⁻³	(主に ⁸⁵ Kr)		
		放出量	実測分 (GBq)	1.0×10 ¹	6.0×10 ⁻¹	1.3×10 ⁰	計 1.2×10 ¹	2.0×10 ⁻³	
			不検出分 (GBq)	1.1×10 ²	9.6×10 ¹	1.1×10 ²	計 3.2×10 ²	Bq/cm ³	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.6×10 ⁻¹⁰		
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	4.0×10 ⁻¹⁰		
		不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³		
	D	化学分析棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	8.3×10 ⁻¹⁰	3.2×10 ⁻⁹	1.7×10 ⁻⁹		¹³¹ I	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	1.0×10 ⁻⁹	2.2×10 ⁻⁹	1.1×10 ⁻⁹	1.4×10 ⁻⁹	8.4×10 ⁻¹⁰	
			放出量	実測分 (GBq)	3.4×10 ⁻⁶	2.7×10 ⁻⁵	8.1×10 ⁻⁶	計 3.9×10 ⁻⁵	1.7×10 ⁻⁹
				不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³
C	ウラン実験棟 (U棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.8×10 ⁻¹⁰		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	2.0×10 ⁻¹⁰	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³	
	燃料試験棟 (A棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.4×10 ⁻¹¹		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	5.6×10 ⁻¹¹	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
(注8) 東	原子炉棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					⁴¹ Ar	
		平均濃度 (Bq/cm ³)					4.0×10 ⁻³	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0	
大	ライナック棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³ N+ ¹⁵ O	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.0×10 ⁻³	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	3.6×10 ⁻²	4.5×10 ⁻²	6.8×10 ⁻²	計 1.5×10 ⁻¹	
原	加工工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.3×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
燃	廃棄物処理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.3×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
工	HTR燃料 製造施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.3×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
三 菱 マ テ リ ア ル	開発試験 第Ⅰ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
開発試験 第Ⅱ棟	開発試験 第Ⅱ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			1月	2月	3月	平均			
(注9) 日本核燃	照射後 試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	1.4×10 ⁻²	×		希ガス 〔 ⁸⁵ Kr, ¹³³ Xe〕 6.7×10 ⁻⁵ ～ 1.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	2.0×10 ⁻³	×	6.7×10 ⁻⁴			
		放出量	実測分 (GBq)	0	5.0×10	0		計 5.0×10	
			不検出分 (GBq)	1.9	1.8	1.9		計 5.6	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			¹³¹ I 1.8×10 ⁻⁹ ～ 2.2×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0			計 0
			不検出分 (GBq)	5.0×10 ⁻⁵	4.5×10 ⁻⁵	5.0×10 ⁻⁵			計 1.5×10 ⁻⁴

(注1) 平均濃度は、検出された放出量を月間排気量で除した値。

(注2) 原子力機構原科研

JRR-3：1月～3月は施設定期検査，原子炉停止，希ガスの放出なし。

JRR-4：1月～3月は施設定期検査，原子炉停止，希ガスの放出なし。

(注3) 原子力機構大洗

JMTR, HTTR, 高速実験炉「常陽」：1月～3月は施設定期検査。

照射燃料集合体試験施設 (FMF)：1月～3月は放出を伴う運転なし。

(注4) 原子力機構那珂

JT-60実験棟：JT-60SAに向けた改造工事のためJT-60の運転なし。

(注5) 原電

東海発電所その他排気口：使用済燃料冷却池建屋，サービス建屋等からの排気。

(注6) JCO

固体廃棄物処理棟：今期は核燃料物質等の処理がなく運転をしなかったため，放出なし。

(注7) NDC

照射後試験棟 (F棟)：希ガス (主に⁸⁵Kr) は，使用済燃料棒の照射後試験に伴って検出されたもの。

化学分析棟 (R棟)：¹³¹Iは，チャコールフィルタの吸着試験に伴って検出されたもの。

(注8) 東大

原子炉棟：今期は放出を伴う運転なし。

(注9) 日本核燃

2月はピンパンクチャ試験を実施。

3-1-1' 排気中の放射性核種分析結果（その他検出された核種）

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
(注1) 原子力機構大洗	J M T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	(3ヶ月合成試料)					⁹⁰ Sr 1.3×10 ⁻¹² Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)					1.5×10 ⁻¹²	
		放出量(実測分) (GBq)					計 3.1×10 ⁻⁷	
(注2) 原電	東海発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	4.2×10 ⁻⁶	4.2×10 ⁻⁶	8.7×10 ⁻⁶	計 1.5	³ H 1.5×10 ⁻⁷ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	3.4×10 ⁻⁶	3.1×10 ⁻⁶	5.9×10 ⁻⁶			
		放出量(実測分) (GBq)	4.3×10 ⁻¹	3.6×10 ⁻¹	7.4×10 ⁻¹			
	東海第二発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	3.2×10 ⁻⁶	3.1×10 ⁻⁶	3.1×10 ⁻⁶	計 5.4	³ H 1.5×10 ⁻⁷ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	2.8×10 ⁻⁶	2.7×10 ⁻⁶	2.7×10 ⁻⁶			
		放出量(実測分) (GBq)	1.9	1.7	1.8			
	廃棄物処理建屋	最高濃度 (Bq/cm ³)	3.0×10 ⁻⁷			計 3.9×10 ⁻²	³ H 2.3×10 ⁻⁷ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	2.3×10 ⁻⁷					
		放出量(実測分) (GBq)	3.9×10 ⁻²					

(注1) 原子力機構大洗

J M T R：⁹⁰Sr 炉内構造物等に付着するウラン不純物からの放出。

(注2) 原電

東海発電所：³H 炉内グラファイトの不純物(⁶Li)の放射化による。月間平均濃度の過去最大値は、1.4×10⁻³Bq/cm³。

東海第二発電所：³H 冷却材中の重水素の放射化による。月間平均濃度の過去最大値は、1.4×10⁻⁴Bq/cm³。

廃棄物処理建屋：³H 可燃性廃棄物の焼却処理等による。月間平均濃度の過去最大値は、4.5×10⁻⁵Bq/cm³。

3-1-2 排気中の全β放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
N	材料試験棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 3.2×10 ⁻¹⁰ ~ 7.8×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
D	化学分析棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 3.6×10 ⁻¹¹ ~ 6.6×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
C	燃料試験棟 (A棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 3.6×10 ⁻¹¹ ~ 6.0×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
東 北 大	ホットラボ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co ⁵⁹ Fe 2.5×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	7.1×10 ⁻⁵	6.6×10 ⁻⁵	7.1×10 ⁻⁵		計 2.1×10 ⁻⁴
日 揮	第2研究棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co等 1.6×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	9.9×10 ⁻⁶	9.4×10 ⁻⁶	1.0×10 ⁻⁵		計 9.8×10 ⁻⁶
三 菱 マ テ リ ア ル	開発試験 第IV棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co等 1.5×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微

3-1-2' 排気中の全β放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				D L	
			1月	2月	3月	平均		
原子力機構 原研	J R R - 2	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		3.2×10 ⁻¹⁰ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.7×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
	J R R - 3	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		5.5×10 ⁻¹¹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.1×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
	J R R - 4	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		2.2×10 ⁻¹⁰ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	5.7×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
	N S R R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.6×10 ⁻¹⁰ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.4×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
	燃料試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		2.7×10 ⁻¹¹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.8×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
	燃料サイクル 安全工学 研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.9×10 ⁻¹¹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.9×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
原子力機構 サイクル工研	再処 理施 設	主排 気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹ ~
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
	第 一 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
	第 二 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
原子力機構 大洗	J M T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.0×10 ⁻¹¹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
	H T T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.0×10 ⁻¹¹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	

測定者	施設名	項目	放出状況				D L
			1月	2月	3月	平均	
原子力機構大洗	照射燃料集合体試験施設(FMF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
	高速実験炉「常陽」	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.4×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
原電	東海第二所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.3×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
	廃棄物処理建屋	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		6.4×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
東大	原子炉棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.0×10 ⁻⁷
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
NDC	照射後試験棟(F棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		4.9×10 ⁻¹¹
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	8.0×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³

3-1-3 排気中の全α放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
(注) 核管センター	開発棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					Pu, U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)						
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	0	0	0		計 0
	新分析棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu, U 1.6×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
原子力機構原科研	燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu 9.1×10 ⁻¹² ~ 1.5×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
原子力機構サイクル工研	プルトニウム燃料第一開発室, プルトニウム燃料第二開発室, プルトニウム燃料第三開発室, プルトニウム廃棄物処理開発施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu 1.5×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	5.3×10 ⁻⁵	5.3×10 ⁻⁵	6.6×10 ⁻⁵		計 1.7×10 ⁻⁴

(注) 核管センター：開発棟については、設備解体のため給排気停止。

3-2 排水

3-2-1 排水中の放射性核種分析結果

測定者	評価対象	排出基準
施設者	月平均濃度	法令値

(主要放出核種)

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
(注1) 原子力 機構 原子 科 研	第1	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³
	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)	2.2×10 ⁻¹	1.4×10 ⁻¹	7.1×10 ⁻²	1.4×10 ⁻¹	³ H	
		放出量	実測分 (MBq)	2.2×10 ⁴	1.7×10 ⁴	9.2×10 ³	計 4.8×10 ⁴	9.5×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	1.1	0	6.0	計 7.1	~ 1.9×10 ⁻¹ Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	2.3×10 ⁻⁴	9.5×10 ⁻⁵	⁷ Be	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	2.8×10	計 2.8×10	2.0×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	2.7	1.2	1.4	計 5.3	~ 3.0×10 ⁻² Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹⁴ C	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻¹
			不検出分 (MBq)	2.4×10 ²	3.2×10 ²	1.7×10 ²	計 7.3×10 ²	~ 1.3×10 ⁻¹ Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.0×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	4.5	6.1	3.6	計 1.4×10	~ 3.1×10 ⁻³ Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	5.3×10 ⁻⁵	6.1×10 ⁻⁵	2.9×10 ⁻⁵	4.5×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	1.5×10 ⁻²	1.8	9.8×10 ⁻²	計 1.9	2.0×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	5.2	5.5	3.7	計 1.4×10	~ 3.2×10 ⁻³ Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目		放出状況				分析核種及びDL
				1月	2月	3月	平均	
(注1) 原子力機構原研	第3	平均濃度 (Bq/cm ³)		×		×	×	⁶⁰ Co 2.4×10 ⁻³ ~ 3.0×10 ⁻³ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	0	微	計 微	
(注2) 原子力機構サイクル工研	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	Pu(a) 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	U 1.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	
(注3) 原子力機構大洗	北地区	平均濃度 (Bq/cm ³)		2.5×10 ⁻²	1.3×10 ⁻²	4.6×10 ⁻³	1.5×10 ⁻²	³ H 9.7×10 ⁻² Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	1.7×10 ³	1.1×10 ³	3.6×10	計 2.8×10 ³	
			不検出分 (MBq)	0	0	1.4×10 ²	計 1.4×10 ²	
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁶⁰ Co 2.5×10 ⁻³ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	1.8	2.3	4.3	計 8.4	
	南地区	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁶⁰ Co 1.8×10 ⁻³ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	¹³⁷ Cs 1.8×10 ⁻³ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
(注4) 那原子力機構	貯水槽	平均濃度 (Bq/cm ³)					³ H	
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
		放出量 不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0		
(注5) 原電	東海発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co	
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	6.8×10 ⁻³	
		放出量 不検出分 (MBq)	7.0×10 ⁻¹	4.1×10 ⁻¹	8.6×10 ⁻¹	計 2.0	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹³⁷ Cs	
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.1×10 ⁻³	
		放出量 不検出分 (MBq)	8.4×10 ⁻¹	5.2×10 ⁻¹	9.9×10 ⁻¹	計 2.4	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹⁵² Eu	
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.5×10 ⁻²	
		放出量 不検出分 (MBq)	3.7	2.2	4.2	計 1.0×10	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹⁵⁴ Eu	
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.1×10 ⁻²	
		放出量 不検出分 (MBq)	2.2	1.3	2.6	計 6.1	Bq/cm ³	
	電	東海第二発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	2.8×10 ⁻²	9.6×10 ⁻³	2.9×10 ⁻²	2.4×10 ⁻²	³ H
			放出量 実測分 (MBq)	1.9×10 ³	6.4×10 ²	3.1×10 ³	計 5.6×10 ³	5.0×10 ⁻²
			放出量 不検出分 (MBq)	0	0	9.4×10 ⁻¹	計 9.4×10 ⁻¹	Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁴ Mn
			放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	6.9×10 ⁻³
			放出量 不検出分 (MBq)	2.4	2.4	3.4	計 8.2	Bq/cm ³
電	東海第二発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁸ Co	
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	6.8×10 ⁻³	
		放出量 不検出分 (MBq)	2.3	2.3	3.6	計 8.2	Bq/cm ³	

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			1月	2月	3月	平均			
(注5) 原電	東海第二 発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.1×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	2.7	2.8	4.2	計 9.7	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	⁸⁹ Sr		
		放出量	実測分 (MBq)	(3ヶ月合成試料)				計 0	4.6×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)				計 5.1×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	⁹⁰ Sr		
		放出量	実測分 (MBq)	(3ヶ月合成試料)				計 0	6.1×10 ⁻⁵
			不検出分 (MBq)				計 7.0×10 ⁻²	Bq/cm ³	
J C O	廃水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.4×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	3.2×10 ⁻¹	1.1×10 ⁻¹	2.1×10 ⁻¹	計 6.4×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Th, Pa		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	4.7×10 ⁻¹	1.6×10 ⁻¹	3.2×10 ⁻¹	計 9.5×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
(注6) 三菱 原燃	排水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	6.8×10 ⁻⁴	×	5.3×10 ⁻⁴	U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	9.1×10 ⁻¹	0	計 9.1×10 ⁻¹	4.0×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	2.4×10 ⁻¹	2.6×10 ⁻¹	5.3×10 ⁻¹	計 1.0	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Th, Pa		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	6.1×10 ⁻¹	1.7	1.3	計 3.6	Bq/cm ³	
	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)					U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.0×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	

測定者	排水溝	項目		放出状況				分析核種及びDL
				1月	2月	3月	平均	
(注6) 三菱原燃	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)						Th, Pa
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
(注7) N D C	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)				×	×	¹³⁷ Cs
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	0	0	微	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	×	⁶⁰ Co
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.3×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	0	0	微	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	×	⁵⁸ Co
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.3×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	0	0	微	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	×	U
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	0	4.8×10 ⁻²	計 4.8×10 ⁻²	Bq/cm ³
原 燃 工	排水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	U
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	4.1×10 ⁻²	7.4×10 ⁻²	7.7×10 ⁻²	計 1.9×10 ⁻¹	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	Th, Pa
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	1.0×10 ⁻¹	1.8×10 ⁻¹	1.9×10 ⁻¹	計 4.7×10 ⁻¹	Bq/cm ³
(注8) 三菱マテリアル	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)						U
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			1月	2月	3月	平均	
(注8) 三菱マテリアル	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)					Th, Pa
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.4×10 ⁻³
		放出量 不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
積水メデイカル	調整槽	平均濃度 (Bq/cm ³)	1.8	2.2	2.4	2.1	³ H
		放出量 実測分 (MBq)	2.0×10 ³	2.6×10 ³	2.5×10 ³	計 7.1×10 ³	2.0×10 ⁻²
		放出量 不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.4	1.3	1.3	1.3	¹⁴ C
		放出量 実測分 (MBq)	1.6×10 ³	1.6×10 ³	1.4×10 ³	計 4.5×10 ³	2.0×10 ⁻²
		放出量 不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
(注9) 住友鋳山	屋外排水槽	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	U
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.4×10 ⁻⁴
		放出量 不検出分 (MBq)	0	微	微	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	Th, Pa
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
		放出量 不検出分 (MBq)	0	9.9×10 ⁻³	9.4×10 ⁻³	計 1.9×10 ⁻²	Bq/cm ³

(注1) 原子力機構原科研

第1：希釈倍率 6.2×10³倍。

第2：希釈倍率 5.4×10倍。

第3：希釈倍率 1.1×10倍。

2月は排水の放出なし。

(注2) 原子力機構サイクル工研

第2：Pu(a), Uは月合成試料。

(注3) 原子力機構大洗

北地区：希釈倍率 3.6×10²倍。

(注4) 原子力機構那珂

貯水槽：今期は排水の放出なし。

(注5) 原電

東海発電所：希釈倍率 2.8×10倍。

東海第二発電所：希釈倍率 2.0×10²倍。

³Hは月合成試料。⁸⁹Sr, ⁹⁰Srは3ヶ月合成試料。

(注6) 三菱原燃

排水貯槽：今期は排水の放出なし。

(注7) NDC

排水貯槽：1月, 2月は排水の放出なし。

(注8) 三菱マテリアル

排水貯槽：今期は排水の放出なし。

(注9) 住友鋳山

屋外排水槽：1月は排水の放出なし。

3-2-1' 排水中の放射性核種分析結果

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL		
			1月	2月	3月	平均			
県	原子力機構 原 科 研 (第 1)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 3.2×10 ⁻⁵ ~ 3.6×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		採水月日	1.7	2.4	3.4				
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×				
		採水月日	1.20	2.18	3.19				
	(注1)	濃度 (Bq/cm ³)	9.6×10 ⁻⁴	8.3×10 ⁻⁴	1.0×10 ⁻³	7.9×10 ⁻²	³ H 3.2×10 ⁻⁴ ~ 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³		
			採水月日	1.7	2.4			3.4	
			濃度 (Bq/cm ³)	7.2×10 ⁻⁴	4.7×10 ⁻¹			6.7×10 ⁻⁴	
			採水月日	1.20	2.18			3.19	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁷ Be 2.8×10 ⁻⁴ ~ 4.2×10 ⁻⁴ Bq/cm ³		
			採水月日	1.7	2.4			3.4	
			濃度 (Bq/cm ³)	×	×			×	
			採水月日	1.20	2.18			3.19	
		(第 2)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹⁴ C 2.2×10 ⁻³ ~ 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³	
				採水月日	1.7	2.4			3.4
				濃度 (Bq/cm ³)	×	×			×
				採水月日	1.20	2.18			3.19
	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 3.3×10 ⁻⁵ ~ 4.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³			
		採水月日	1.7	2.4			3.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×			×		
		採水月日	1.20	2.18			3.19		
濃度 (Bq/cm ³)	×	8.2×10 ⁻⁵	4.9×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 3.3×10 ⁻⁵ ~ 4.1×10 ⁻⁵ Bq/cm ³				
	採水月日	1.7	2.4			3.4			
	濃度 (Bq/cm ³)	4.3×10 ⁻⁴	6.1×10 ⁻⁵			1.5×10 ⁻⁴			
	採水月日	1.20	2.18			3.19			

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			1月	2月	3月	平均	
県	(注2) 原子力機構 原科研 (第3)	濃度 (Bq/cm ³)	×		×	×	⁶⁰ Co
		採水月日	1.29		3.5		2.9×10^{-5}
		濃度 (Bq/cm ³)			×		~
		採水月日			3.12		3.6×10^{-5} Bq/cm ³
	原子力機構 サイクル工研 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	6.5×10^{-6}	1.1×10^{-5}	1.3×10^{-5}	1.0×10^{-5}	U
		採水月日	1.10	2.7	3.7		4.8×10^{-6}
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		~
		採水月日	1.10	2.7	3.7		5.9×10^{-6} Bq/cm ³
	(注3) 原子力機構 大洗 (北地区)	濃度 (Bq/cm ³)	1.1×10^{-3}	7.4×10^{-4}	8.5×10^{-4}	6.8×10^{-4}	³ H
		採水月日	1.7	2.4	3.4		2.8×10^{-4}
		濃度 (Bq/cm ³)	×	5.2×10^{-4}	5.6×10^{-4}		~
		採水月日	1.20	2.18	3.19		3.6×10^{-4} Bq/cm ³
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co
		採水月日	1.7	2.4	3.4		3.2×10^{-5}
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		~
		採水月日	1.20	2.18	3.19		4.6×10^{-5} Bq/cm ³
		濃度 (Bq/cm ³)	6.4×10^{-5}	7.8×10^{-5}	×	6.1×10^{-5}	¹³⁷ Cs
		採水月日	1.7	2.4	3.4		3.3×10^{-5}
		濃度 (Bq/cm ³)	8.6×10^{-5}	×	×		~
		採水月日	1.20	2.18	3.19		6.3×10^{-5} Bq/cm ³
(注4) 原電 (東海)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co	
	採水月日	1.15	2.4	3.4		6.1×10^{-5}	
	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		~	
	採水月日	1.20	2.18	3.19		9.1×10^{-5} Bq/cm ³	

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
県	(注4) 原電 (東海)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	1.4×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs	
		採水月日	1.15	2.4	3.4		1.1×10 ⁻⁴	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	2.0×10 ⁻⁴	×		~	1.6×10 ⁻⁴
		採水月日	1.20	2.18	3.19		Bq/cm ³	
	(注5) 〃 (東海第二)	濃度 (Bq/cm ³)	×	1.4×10 ⁻³	×	5.0×10 ⁻⁴	³ H	
		採水月日	1.15	2.4	3.4		2.7×10 ⁻⁴	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		~	3.4×10 ⁻⁴
		採水月日	1.20	2.18	3.19		Bq/cm ³	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁴ Mn	
		採水月日	1.15	2.4	3.4		5.0×10 ⁻⁵	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		~	7.5×10 ⁻⁵
		採水月日	1.20	2.18	3.19		Bq/cm ³	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co	
		採水月日	1.15	2.4	3.4		4.8×10 ⁻⁵	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		~	7.7×10 ⁻⁵
		採水月日	1.20	2.18	3.19		Bq/cm ³	
	JCO	濃度 (Bq/cm ³)	2.1×10 ⁻⁴	2.6×10 ⁻⁴	×	1.8×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs	
		採水月日	1.15	2.4	3.4		6.4×10 ⁻⁵	
		濃度 (Bq/cm ³)	3.4×10 ⁻⁴	×	×		~	1.6×10 ⁻⁴
		採水月日	1.20	2.18	3.19		Bq/cm ³	
三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	1.2×10 ⁻⁴	1.3×10 ⁻⁴	8.7×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁴	U		
	採水月日	1.10	2.7	3.6		2.4×10 ⁻⁵		
三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	1.0×10 ⁻⁴	1.7×10 ⁻³	4.1×10 ⁻⁵	6.1×10 ⁻⁴	U		
	採水月日	1.9	2.5	3.6		1.6×10 ⁻⁵		
						~	2.6×10 ⁻⁴	
							Bq/cm ³	

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			1月	2月	3月	平均	
県	原燃工	濃度 (Bq/cm ³)	6.0×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵	1.6×10 ⁻⁵	3.0×10 ⁻⁵	U 9.7×10 ⁻⁶ ~ 2.1×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	1.23	2.13	3.4		
	(注6) NDC	濃度 (Bq/cm ³)			8.2×10 ⁻⁵	2.7×10 ⁻⁵	⁶⁰ Co 4.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日			3.19		
		濃度 (Bq/cm ³)			×	1.5×10 ⁻⁵	⁵⁸ Co 4.4×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日			3.19		
		濃度 (Bq/cm ³)			2.0×10 ⁻⁴	6.6×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs 4.6×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日			3.19		
	積水 メデイカル	濃度 (Bq/cm ³)	1.9	2.0	2.4	2.2	³ H 1.3×10 ⁻² ~ 2.0×10 ⁻² Bq/cm ³
		採水月日	1.7	2.4	3.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	1.7	2.2	2.8		
		採水月日	1.20	2.18	3.28		
		濃度 (Bq/cm ³)	9.1×10 ⁻¹	9.7×10 ⁻¹	1.0	1.0	¹⁴ C 9.1×10 ⁻³ ~ 1.0×10 ⁻² Bq/cm ³
		採水月日	1.7	2.4	3.4		
濃度 (Bq/cm ³)		1.1	8.9×10 ⁻¹	1.1			
採水月日		1.20	2.18	3.28			

- (注1) 原子力機構原科研(第2): ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。
(注2) 原子力機構原科研(第3): 1月の2回目, 2月の1, 2回目は排水の放出なし。
(注3) 原子力機構大洗(北地区): ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。
(注4) 原電(東海): ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。
(注5) 原電(東海第二): ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。
(注6) NDC: 1月, 2月は排水の放出なし。

3-2-1" 排水中の放射性核種分析結果

(その他検出された核種)

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
(注1) 原子力 機構 原研	第1	平均濃度 (Bq/cm ³)	/	5.2×10 ⁻⁸	/	/	¹³⁷ Cs 5.7×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
		放出量(実測分) (MBq)	/	4.0×10 ⁻³	/	計 4.0×10 ⁻³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	/	1.7×10 ⁻⁷	/	/	²³² Th 3.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
		放出量(実測分) (MBq)	/	1.3×10 ⁻²	/	計 1.3×10 ⁻²		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	/	2.1×10 ⁻⁷	/	/	²³⁸ U 1.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		放出量(実測分) (MBq)	/	1.6×10 ⁻⁴	/	計 1.6×10 ⁻⁴		
	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)	1.1×10 ⁻⁵	/	/	/	⁵⁴ Mn 3.2×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		放出量(実測分) (MBq)	1.1	/	/	計 1.1		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	(3ヶ月合成試料)				2.6×10 ⁻⁸	⁹⁰ Sr 5.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		放出量(実測分) (MBq)	(3ヶ月合成試料)				計 9.0×10 ⁻³	
	第3	平均濃度 (Bq/cm ³)	/	/	1.5×10 ⁻⁴	/	¹³⁴ Cs 2.3×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		放出量(実測分) (MBq)	/	/	2.2×10 ⁻²	計 2.2×10 ⁻²		
平均濃度 (Bq/cm ³)		/	/	4.2×10 ⁻⁴	/	¹³⁷ Cs 2.7×10 ⁻³ Bq/cm ³		
放出量(実測分) (MBq)		/	/	6.3×10 ⁻²	計 6.3×10 ⁻²			
(注2) 原電	東海発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	(3ヶ月合成試料)				2.8×10 ⁻⁶	⁹⁰ Sr 5.9×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		放出量(実測分) (MBq)	(3ヶ月合成試料)				計 2.3×10 ⁻²	
	東海第二発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	/	/	3.9×10 ⁻⁶	/	³⁶ Cl 1.4×10 ⁻² Bq/cm ³	
		放出量(実測分) (MBq)	/	/	4.1×10 ⁻¹	計 4.1×10 ⁻¹		

(注1) 原子力機構原研

第1：希釈倍率6.2×10³倍。

¹³⁷Cs, ²³⁸U：東京大学からの廃液。

²³²Th：第4研究棟からの廃液。

第2：希釈倍率5.4×10倍。

⁵⁴Mn：J-PARC施設からの廃液。

⁹⁰Sr：再処理特別研究棟，放射性廃棄物処理施設からの廃液。

第3：希釈倍率1.1×10倍。

¹³⁴Cs, ¹³⁷Cs：バックエンド技術開発建家からの廃液。

(注2) 原電

東海発電所：希釈倍率2.8×10倍。

東海第二発電所：希釈倍率2.1×10²倍。³⁶Clは月合成試料。

³⁶Clは雑固体減容処理設備の排ガス洗浄廃液より検出。(東海発電所の燃料被覆材及び減速材(黒鉛)中の不純物(³⁵Cl)の放射化)

参考) 排液中又は排水中の濃度限度

試験研究の用に供する原子炉等の設置、運転等に関する規則等の規定に基づき、線量限度等を定める告示
(昭和63年7月26日科学技術庁告示第20号、平成17年11月30日文部科学省告示第163号により一部改正)

核種	濃度限度 ^(注1) (Bq/cm ³)	核種	濃度限度 (Bq/cm ³)	核種	濃度限度 (Bq/cm ³)
³ H	6×10 ^(注2)	⁶⁵ Zu	2×10 ⁻¹	¹³⁴ Cs	6×10 ⁻²
⁷ Be	3×10	⁸⁷ Y	2	¹³⁷ Cs	9×10 ⁻²
¹⁴ C	2	⁸⁹ Sr	3×10 ⁻¹	¹⁴⁴ Ce	2×10 ⁻¹
²² Na	3×10 ⁻¹	⁹⁰ Sr	3×10 ⁻²	¹⁵² Eu	6×10 ⁻¹
³⁵ S	1	⁹⁵ Zr	9×10 ⁻¹	¹⁵⁴ Eu	4×10 ⁻¹
³⁶ Cl	9×10 ⁻¹	⁹⁵ Nb	1	¹⁹² Ir	6×10 ⁻¹
⁵¹ Cr	2×10	^{99m} Tc	4×10	²³² Th	4×10 ⁻³
⁵⁴ Mn	1	¹⁰³ Ru	1	²³⁴ Th	2×10 ⁻¹
⁵⁷ Co	4×10	¹⁰⁶ Ru	1×10 ⁻¹	U	2×10 ⁻²
⁵⁸ Co	1	^{110m} Ag	3×10 ⁻¹	²³⁷ Np	9×10 ⁻³
⁵⁹ Fe	4×10 ⁻¹	¹²⁹ I	9×10 ⁻³	²³⁹ Pu	4×10 ⁻³
⁶⁰ Co	2×10 ⁻¹	¹³¹ I	4×10 ⁻²	²⁴¹ Am	5×10 ⁻³

(注1) 濃度限度は3ヶ月平均濃度であり、³H以外の核種はその核種において最も低い値である。

(注2) 水としての濃度限度。有機物(メタンを除く)としての濃度限度は2×10Bq/cm³。

3-2-2 排水中の全β放射能測定結果

測定者	評価対象	判断基準
施設者	月最高濃度	2×10^{-2} Bq/cm ³
	月平均濃度	4×10^{-3} Bq/cm ³
県	測定毎濃度	2×10^{-2} Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
(注1) 原子力機構原科研	第1	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 2.0×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.6×10^{-5} Bq/cm ³	
	第2	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co, ¹³⁷ Cs 2.0×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.6×10^{-5} Bq/cm ³	
	第3	最高濃度 (Bq/cm ³)	×		×		⁶⁰ Co 2.3×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×		×	×	2.6×10^{-5} Bq/cm ³	
(注2) サ原子力機構工研	第1	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.8×10^{-4} Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (MBq)	1.8×10^{-2}	3.1×10^{-2}	1.8×10^{-2}		計 6.7×10^{-2}
(注3) 大原子力機構洗構	北地区	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.4×10^{-4}	2.2×10^{-4}	×		⁶⁰ Co, ¹³⁷ Cs 2.0×10^{-4}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
(注4) 那原子力機構珂構	貯水槽	最高濃度 (Bq/cm ³)					全β	
		平均濃度 (Bq/cm ³)					Bq/cm ³	
メ積ダイカル水	調整槽	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.6×10^{-4}	×	×		全β 2.0×10^{-4}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	

(注1) 原子力機構原科研：第3排水溝の2月は排水の放出なし。

(注2) 原子力機構サイクル工研：希釈倍率 1.1×10^2 倍。連続採取による合成試料。

(注3) 原子力機構大洗：福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(注4) 原子力機構那珂：今期は排水の放出なし。

3-2-2' 排水中の全β放射能測定結果

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			1月	2月	3月	平均
県	原子力機構原科研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	×	3.2×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻⁴	2.2×10 ⁻⁴
		採水月日	1.7	2.4	3.4	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	2.1×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻⁴	
		採水月日	1.20	2.18	3.19	
	〃 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	2.2×10 ⁻⁴	×	×	2.6×10 ⁻⁴
		採水月日	1.7	2.4	3.4	
		濃度 (Bq/cm ³)	4.3×10 ⁻⁴	×	2.9×10 ⁻⁴	
		採水月日	1.20	2.18	3.19	
	(注1) 〃 (第3)	濃度 (Bq/cm ³)	2.7×10 ⁻⁴		×	1.1×10 ⁻⁴
		採水月日	1.29		3.5	
		濃度 (Bq/cm ³)			×	
		採水月日			3.12	
	原子力機構サイクル工研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	5.4×10 ⁻⁴	5.9×10 ⁻⁴	6.7×10 ⁻⁴	5.9×10 ⁻⁴
		採水月日	1.7	2.4	3.4	
		濃度 (Bq/cm ³)	6.0×10 ⁻⁴	5.9×10 ⁻⁴	5.6×10 ⁻⁴	
		採水月日	1.20	2.18	3.19	
	〃 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	2.5×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻⁴	×	2.2×10 ⁻⁴
		採水月日	1.10	2.7	3.7	
	原子力機構大洗 (北地区)	濃度 (Bq/cm ³)	2.4×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻⁴	×	2.1×10 ⁻⁴
		採水月日	1.7	2.4	3.4	
濃度 (Bq/cm ³)		2.3×10 ⁻⁴	×	2.1×10 ⁻⁴		
採水月日		1.20	2.18	3.19		
三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	4.8×10 ⁻⁴	9.9×10 ⁻⁴	5.8×10 ⁻⁴	7.2×10 ⁻⁴	
	採水月日	1.9	2.5	3.6		
	濃度 (Bq/cm ³)	1.4×10 ⁻³	5.7×10 ⁻⁴	2.9×10 ⁻⁴		
	採水月日	1.23	2.18	3.14		

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			1月	2月	3月	平均
県	原燃工 (注2)	濃度 (Bq/cm ³)	1.2×10 ⁻³	8.1×10 ⁻⁴	5.2×10 ⁻⁴	6.7×10 ⁻⁴
		採水月日	1.23	2.13	3.4	
		濃度 (Bq/cm ³)		7.9×10 ⁻⁴	6.7×10 ⁻⁴	
		採水月日		2.19	3.13	
	JCO (注3)	濃度 (Bq/cm ³)	8.0×10 ⁻⁴	3.0×10 ⁻⁴	2.8×10 ⁻⁴	4.6×10 ⁻⁴
		採水月日	1.10	2.7	3.6	
		濃度 (Bq/cm ³)	9.6×10 ⁻⁴		3.9×10 ⁻⁴	
		採水月日	1.29		3.13	
	NDC (注4)	濃度 (Bq/cm ³)			4.7×10 ⁻⁴	1.6×10 ⁻⁴
		採水月日			3.19	
	積水メディカル	濃度 (Bq/cm ³)	6.0×10 ⁻⁴	6.8×10 ⁻⁴	8.9×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻⁴
		採水月日	1.7	2.4	3.4	
		濃度 (Bq/cm ³)	2.8×10 ⁻⁴	2.6×10 ⁻⁴	×	
		採水月日	1.20	2.18	3.28	
住友鉱山 (注5)	濃度 (Bq/cm ³)		2.1×10 ⁻⁴	2.5×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴	
	採水月日		2.13	3.19		

(注1) 原子力機構原科研(第3): 1月の2回目, 2月の1,2回目は排水の放出なし。

(注2) 原燃工: 1月の2回目は排水の放出なし。

(注3) JCO: 2月の2回目は排水の放出なし。

(注4) NDC: 1月, 2月は排水の放出なし。

(注5) 住友鉱山: 1月は排水の放出なし。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果

測定者	評価対象	判断基準
施設者	3ヶ月放出量	保安規定に定める3ヶ月当たりの最大放出量
県	測定毎濃度	保安規定に定める最大放出濃度

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
原子力機構サイクル工研	再処理工	平均濃度 (Bq/cm ³)	7.1×10	2.1×10		5.1×10	³ H	
		放出量	実測分 (MBq)	6.2×10 ⁴	1.2×10 ⁴	0	計 7.4×10 ⁴	3.7
			不検出分 (MBq)	0	2.2×10	0	計 2.2×10	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	⁸⁹ Sr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	1.9	1.3	0	計 3.2	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	⁹⁰ Sr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	9.6×10 ⁻¹	6.4×10 ⁻¹	0	計 1.6	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	⁹⁵ Zr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.5×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	2.2	1.5	0	計 3.7	Bq/cm ³
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	⁹⁵ Nb		
	放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³	
		不検出分 (MBq)	1.6	1.0	0	計 2.6	Bq/cm ³	
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹⁰³ Ru		
	放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³	
		不検出分 (MBq)	9.6×10 ⁻¹	6.4×10 ⁻¹	0	計 1.6	Bq/cm ³	
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹⁰⁶ Ru- ¹⁰⁶ Rh		
	放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.2×10 ⁻²	
		不検出分 (MBq)	2.8×10	1.9×10	0	計 4.7×10	Bq/cm ³	

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
原子力機構サイクル工研	再処理工	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹²⁹ I	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.4×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	1.2	8.2×10 ⁻¹	0	計 2.0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹³¹ I	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	1.6	1.0	0	計 2.6	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹³⁴ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	9.6×10 ⁻¹	6.4×10 ⁻¹	0	計 1.6	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹³⁷ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	1.6	1.0	0	計 2.6	Bq/cm ³
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹⁴¹ Ce		
	放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻³	
		不検出分 (MBq)	1.9	1.3	0	計 3.2	Bq/cm ³	
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹⁴⁴ Ce- ¹⁴⁴ Pr		
	放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻²	
		不検出分 (MBq)	1.9×10	1.3×10	0	計 3.2×10	Bq/cm ³	
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	1.0×10 ⁻⁴		6.2×10 ⁻⁵	Pu (α)		
	放出量	実測分 (MBq)	0	5.8×10 ⁻²	0	計 5.8×10 ⁻²	3.7×10 ⁻⁵	
		不検出分 (MBq)	3.2×10 ⁻²	0	0	計 3.2×10 ⁻²	Bq/cm ³	

(注) 3月は排水の放出なし。

⁸⁹Sr, ⁹⁰Sr, ¹²⁹I及びPu (α) は月合成試料。

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			1月	2月	3月	平均	
県	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)	7.3×10	2.0×10		2.6×10	³ H 5.6×10 ⁻² ~ 1.2×10 ⁻¹ Bq/cm ³
		採水月日	1.28	2.4			
		濃度 (Bq/cm ³)	4.8×10	1.8×10			
		採水月日	1.31	2.27			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	⁹⁵ Zr 2.2×10 ⁻⁴ ~ 2.8×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	1.28	2.4			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×			
		採水月日	1.31	2.27			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	⁹⁵ Nb 1.4×10 ⁻⁴ ~ 3.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	1.28	2.4			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×			
		採水月日	1.31	2.27			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹⁰⁶ Ru 7.7×10 ⁻⁴ ~ 1.1×10 ⁻³ Bq/cm ³
		採水月日	1.28	2.4			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×			
		採水月日	1.31	2.27			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹³¹ I 2.2×10 ⁻⁴ ~ 3.4×10 ⁻³ Bq/cm ³
		採水月日	1.28	2.4			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×			
		採水月日	1.31	2.27			
濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹³⁴ Cs 1.5×10 ⁻⁴ ~ 1.9×10 ⁻⁴ Bq/cm ³		
採水月日	1.28	2.4					
濃度 (Bq/cm ³)	×	×					
採水月日	1.31	2.27					

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			1月	2月	3月	平均	
県	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹³⁷ Cs 1.2×10 ⁻⁴ ～ 1.5×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	1.28	2.4			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×			
		採水月日	1.31	2.27			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹⁴⁴ Ce 5.0×10 ⁻⁴ ～ 5.9×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	1.28	2.4			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×			
		採水月日	1.31	2.27			
		濃度 (Bq/cm ³)	1.3×10 ⁻⁵	2.5×10 ⁻⁴		7.6×10 ⁻⁵	Pu (α) 6.9×10 ⁻⁶ ～ 4.8×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	1.28	2.4			
		濃度 (Bq/cm ³)	3.5×10 ⁻⁵	1.6×10 ⁻⁴			
		採水月日	1.31	2.27			

(注) 3月は排水の放出なし。

参 考 法 令 値

核燃料物質の加工の事業に関する規則等の規定に基づき、線量限度等を定める告示（平成12年12月26日科学技術庁告示第13号、平成17年11月22日経済産業省告示第293号により一部改正）第9条第2～4項（再処理施設に適用）

海洋放出に起因する線量限度は3ヶ月間につき250マイクロシーベルトとするに基づき、原子力機構サイクル工研再処理施設保安規定では、次表のとおり放出の基準を定めている。

なお、本基準の「1年間の最大放出量」で放射性液体廃棄物を海洋へ放出した場合の実効線量は、年間約5.4マイクロシーベルトに相当する。また、「3ヶ月当たりの最大放出量」は、「1年間の最大放出量」の4分の1に当たる。「最大放出濃度」及び「1日当たりの最大放出量」は、これらを守るための日常の運転管理に係る基準である。

区 分	最 大 放 出 濃 度 (Bq/cm ³)	1 日 当 た り の 最 大 放 出 量 (GBq)	3 ヶ 月 当 た り の 最 大 放 出 量 (GBq)	1 年 間 の 最 大 放 出 量 (GBq)
全α放射能	3.0×10^{-2}	1.1×10^{-2}	1.0	4.1
全β放射能 (³ Hを除く)	1.2×10	3.7	2.4×10^2	9.6×10^2
⁸⁹ Sr	(注1) 2.3×10^{-1}	(注2) 7.0×10^{-2}	4.1	1.6×10
⁹⁰ Sr	(注1) 4.8×10^{-1}	(注2) 1.4×10^{-1}	8.1	3.2×10
⁹⁵ Zr - ⁹⁵ Nb	5.9×10^{-1}	1.7×10^{-1}	1.0×10	4.1×10
¹⁰³ Ru	9.3×10^{-1}	2.7×10^{-1}	1.6×10	6.4×10
¹⁰⁶ Ru - ¹⁰⁶ Rh	7.4	2.1	1.3×10^2	5.1×10^2
¹³⁴ Cs	8.5×10^{-1}	2.5×10^{-1}	1.5×10	6.0×10
¹³⁷ Cs	7.8×10^{-1}	2.3×10^{-1}	1.4×10	5.5×10
¹⁴¹ Ce	8.1×10^{-2}	2.4×10^{-2}	1.5	5.9
¹⁴⁴ Ce - ¹⁴⁴ Pr	1.7	5.2×10^{-1}	3.0×10	1.2×10^2
³ H	2.5×10^4	7.4×10^3	4.7×10^5	1.9×10^6
¹²⁹ I	(注1) 3.7×10^{-1}	(注2) 1.1×10^{-1}	6.7	2.7×10
¹³¹ I	1.6	5.2×10^{-1}	3.0×10	1.2×10^2
Pu (α)	(注1) 3.0×10^{-2}	(注2) 1.1×10^{-2}	5.9×10^{-1}	2.3

(注1) 1ヶ月平均1日最大放出濃度

(注2) 1ヶ月平均1日最大放出量

3-2-4 再処理施設排水中の全β放射能測定結果

測定者	評価対象	再処理排水に係わる低減化目標値
施設者	月最高濃度	10 Bq/cm ³
	月平均濃度	4 Bq/cm ³
県	測定毎濃度	10 Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			1月	2月	3月	平均		
原子力機構サイクル工研	再処理施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×			2.2×10 ⁻² Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (MBq)	1.9×10	1.3×10	0		計 3.2×10

(注) 3月は排水の放出なし。

3-2-4' 再処理施設排水中の全β放射能測定結果

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			1月	2月	3月	平均
県	原子力機構サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×
		採水月日	1.28	2.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×		
		採水月日	1.31	2.27		

(注) 3月は排水の放出なし。

3-2-5 排水中の全 γ 放射能連続測定結果

測定者	排水溝	項目		放出状況			
				1月	2月	3月	平均
県	原子力機構 原科研 (第2)	降雨時	最高濃度 (Bq/cm ³)	7.5×10^{-2}	1.2×10^{-1}	2.5×10^{-1}	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	2.7×10^{-2}	2.5×10^{-2}	2.8×10^{-2}	2.7×10^{-2}
		降雨時以外	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	排水期時間	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×
	原子力機構 大洗 (北地区)	降雨時	最高濃度 (Bq/cm ³)	6.6×10^{-2}	1.0×10^{-1}	1.8×10^{-1}	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		降雨時以外	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
	原電 (東海第二)	降雨時	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
降雨時以外		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	

(注1) 原子力機構サイクル工研：3月は排水の放出なし。

(注2) 測定値は、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

平成25年度第4 四半期における排水から検出された核種を福島第一原子力発電所事故起因とする理由

事業所名	排水溝名	福島第一原子力発電所事故起因とする核種名	福島第一原子力発電所事故起因とする（各事業所起因でない）理由
大 原 力 機 構 洗 電	北地区 (JMTR, HTTR, 常陽, FMF)	^{137}Cs	(JMTR, HTTR及び常陽) ○それぞれの原子炉は、施設定期検査中であり、放射性物質の放出を伴う運転等は実施されていない。 (FMF) ○燃料ピン切断作業やピンバンクチャータ試験等の放射性物質の放出を伴う運転は実施されなかった。 (全施設共通) ○管理区域からの排水については、 ^3H 以外は検出されていない。 ○主要核種である ^{60}Co が検出されていない。
	東海発電所	^{137}Cs	○廃止措置中であり、全燃料が取り出されている。 ○放射性物質の所外放出を伴うような設備の損傷はない。 ○ ^{60}Co 等の放射化生成物は放出前の排水測定において検出されていない。
電	東海第二発電所	^{137}Cs	○東北地方太平洋沖地震により停止し、平成23年5月21日から第25回定期検査中である。 ○放射性物質の所外放出を伴うような設備の損傷はない。 ○ ^{60}Co 等の放射化生成物は放出前の排水測定において検出されていない。

Ⅲ－２ 長期的変動調査結果

１ 環境における測定結果

１－１ 空間γ線量測定結果

１－１－１ サーベイ

測定者	測定地点		測定値 (nGy/時)	
			平成25年10月	平成26年1月
県	東海村	舟石川	84	
	〃	須和間	120	
	〃	豊岡	91	
	〃	外宿	120	
	常陸太田市	真弓	60	
	〃	佐竹	71	
	日立市	河原子	62	
	那珂市	額田	79	
	〃	瓜連	80	
	ひたちなか市	部田野	99	
	〃	宮前		75
	大洗町	成田	99	
	〃	磯浜	100	110
	〃	旧陣屋		110
	茨城町	若宮	61	57
	鉾田市	大谷川	89	
	〃	旭中学校	95	
	〃	舟木	120	
	〃	徳宿	110	
	水戸市	石川	75	
原子力機構 原科研	東海村	舟石川	77	74
	〃	須和間	81	80
	〃	照沼	76	78
	ひたちなか市	稲田	56	52
	〃	宮前	70	

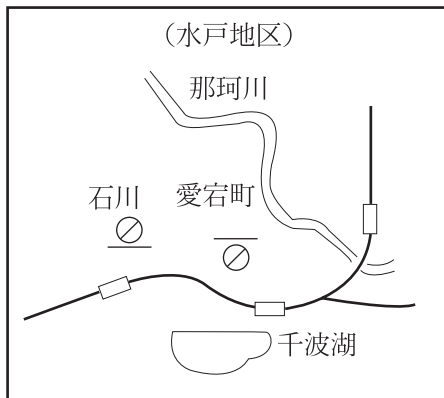
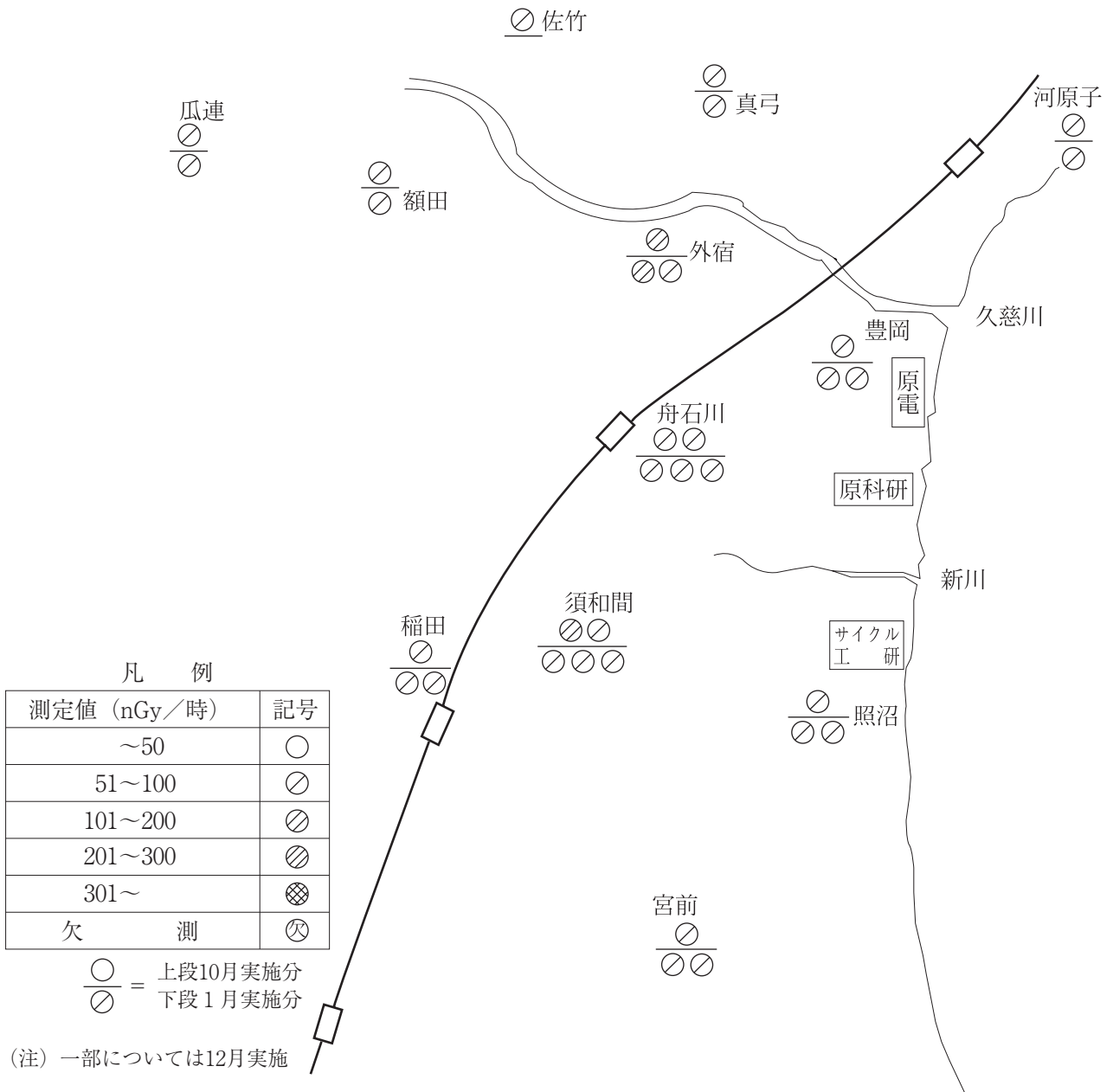
測定者	測定地点		測定値 (nGy/時)	
			平成25年10月	平成26年1月
原子力機構大洗	大洗町	原子力機構南グラウンド	120	
	〃	旧陣屋	70	
	銚田市	大谷川	110	69
	〃	旭中学校	97	89
	〃	舟木		79
	〃	徳宿		80
原子力機構サイクル工研	東海村	舟石川		73
	〃	須和間		78
	〃	豊岡		74
	〃	外宿		110
	〃	照沼		74
	ひたちなか市	稲田		53
	〃	部田野		89
	〃	宮前		68
	水戸市	愛宕町		74
原電	東海村	舟石川		91
	〃	須和間		98
	〃	豊岡		91
	〃	外宿		86
	那珂市	額田		70
	〃	瓜連		70
	常陸太田市	真弓		81
	日立市	河原子		72

(注1) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含み、宇宙線成分の大部分を除く。

(注2) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、空間ガンマ線量率が高くなる傾向にあるが、いずれの値も測定地点における計測値であり、その地域全体を代表する値ではない。

サーベイ（空間ガンマ線量率）分布図（平成25年10月、26年1月）

【東海地区】

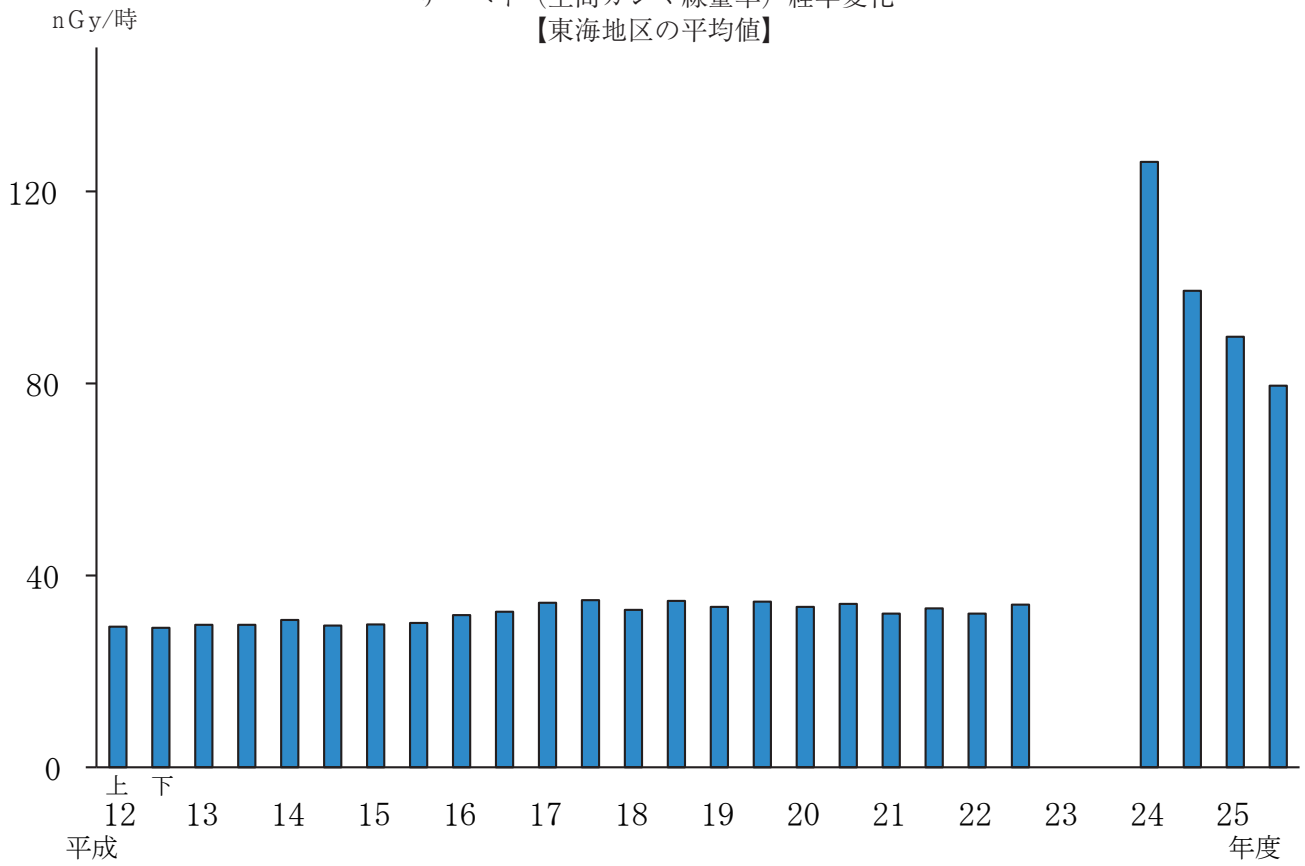


サーベイ（空間ガンマ線量率）分布図（平成25年10月，26年1月）

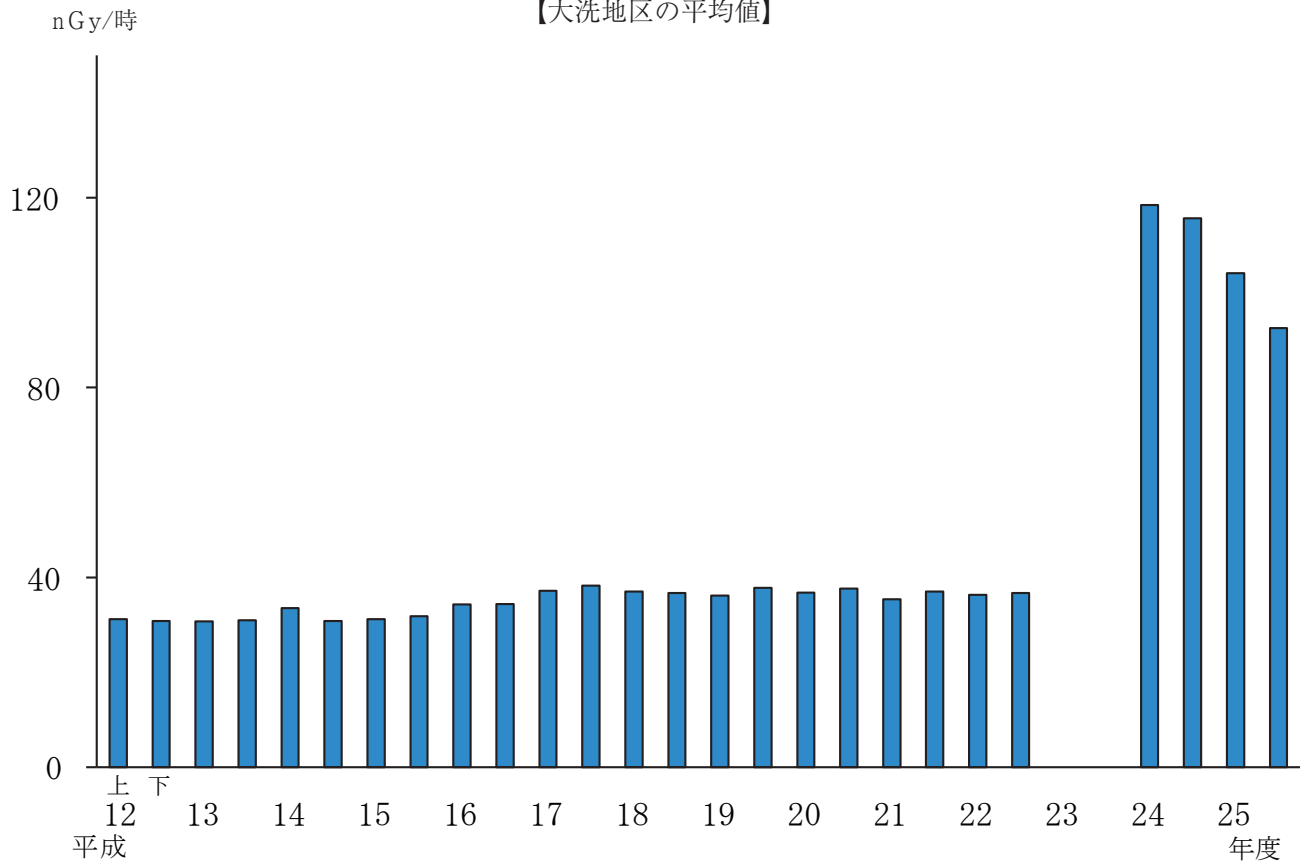
【大洗地区】



サーベイ（空間ガンマ線量率）経年変化
【東海地区の平均値】



サーベイ（空間ガンマ線量率）経年変化
【大洗地区の平均値】



(注) 平成23年度は県内全域で特別調査を実施。本グラフからは割愛。

1-1-2 積算線量測定結果

測定者	評価対象	平常の変動幅の上限
県・施設者	6ヶ月積算値	下表の各地点の値

区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値 (mGy)		平常の変動幅 (上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法	
					3ヶ月	計			
行政区域	東 東 海 地 区	県	東 海 村 原子力科学館	9.25 ~ 12.19 (85)	0.19 (0.20)	0.40 (0.39)	0.16	蛍光ガラス 線量計	
				12.19 ~ 3.26 (97)	0.21 (0.19)				
			〃 東 海 中 学 校	9.25 ~ 12.19 (85)	0.16 (0.17)	0.33	0.15	〃	
				12.19 ~ 3.26 (97)	0.17 (0.16)				
			〃 舟石川小学校	9.25 ~ 12.19 (85)	0.17 (0.18)	0.35	0.17	〃	
				12.19 ~ 3.26 (97)	0.18 (0.17)				
			那 珂 市 第 一 中 学 校	9.25 ~ 12.19 (85)	0.10 (0.11)	0.21 (0.22)	0.15	〃	
				12.19 ~ 3.26 (97)	0.11				
			〃 額 田 小 学 校	9.25 ~ 12.19 (85)	0.10 (0.11)	0.21 (0.22)	0.18	〃	
				12.19 ~ 3.26 (97)	0.11				
			〃 第 二 中 学 校	9.25 ~ 12.19 (85)	0.10 (0.11)	0.21 (0.22)	0.13	〃	
				12.19 ~ 3.26 (97)	0.11				
			〃 本米崎小学校	9.25 ~ 12.19 (85)	0.11 (0.12)	0.24	0.17	〃	
				12.19 ~ 3.26 (97)	0.13 (0.12)				
			〃 笠松運動公園	9.25 ~ 12.19 (85)	0.12	0.25 (0.24)	0.15	〃	
				12.19 ~ 3.26 (97)	0.13 (0.12)				
			〃 瓜連小学校	9.25 ~ 12.19 (85)	0.10	0.20	0.16	〃	
				12.19 ~ 3.26 (97)	0.10				
			原子力機構 原科研	東 海 村 新 川 下 流	9.19 ~ 12.19 (91)	0.23	0.45	0.19	〃
					12.19 ~ 3.20 (91)	0.22			
			〃 宿	9.19 ~ 12.19 (91)	0.16	0.32	0.18	〃	
				12.19 ~ 3.20 (91)	0.16				
			〃 阿漕ヶ浦南西	9.19 ~ 12.19 (91)	0.26	0.51	0.12	〃	
				12.19 ~ 3.20 (91)	0.25				

区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値 (mGy)		平常の変動幅 (上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法
					3ヶ月	計		
行政区域	東 東 海 地 区	原子力機構 原 科 研	東 海 村 阿 漕 ヶ 浦 西	9.19～12.19 (91)	0.14	0.28	0.17	蛍光ガラス 線量計
				12.19～3.20 (91)	0.14			
			〃 白 方	9.19～12.19 (91)	0.17	0.33	0.18	〃
				12.19～3.20 (91)	0.16			
			〃 原電グラウンド北西	9.19～12.19 (91)	0.14	0.27	0.19	〃
				12.19～3.20 (91)	0.13			
			〃 川 根	9.19～12.19 (91)	0.17	0.34	0.18	〃
				12.19～3.20 (91)	0.17			
			〃 須 和 間	9.19～12.19 (91)	0.12	0.24	0.17	〃
				12.19～3.20 (91)	0.12			
			〃 亀 下	9.19～12.19 (91)	0.18	0.36	0.22	〃
				12.19～3.20 (91)	0.18			
		〃 東 海 中 学 校	9.19～12.19 (91)	0.18	0.35	0.14	〃	
			12.19～3.20 (91)	0.17				
		原子力機構 サイクル工研	〃 照 沼 公 民 館	9.25～12.25 (91)	0.17	0.34	0.23	T L D
				12.25～3.26 (91)	0.17			
			〃 川 根 公 民 館	9.25～12.25 (91)	0.21	0.39	0.21	〃
				12.25～3.26 (91)	0.18			
			〃 須 和 間 公 民 館	9.25～12.25 (91)	0.20	0.39	0.19	〃
				12.25～3.26 (91)	0.19			
			〃 外 宿 公 民 館	9.25～12.25 (91)	0.15	0.30	0.19	〃
				12.25～3.26 (91)	0.15			
			〃 中 丸 小 学 校	9.25～12.25 (91)	0.18	0.35	0.18	〃
				12.25～3.26 (91)	0.17			
〃 東 海 中 学 校	9.25～12.25 (91)		0.20	0.38	0.15	〃		
	12.25～3.26 (91)		0.18					

区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値 (mGy)		平常の変動幅 (上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法	
					3ヶ月	計			
行政区域	東海地区	原子力工学機構	東海村 合同庁舎 (旧役場)	9.25～12.25 (91)	0.17	0.33	0.23	TLD	
				12.25～3.26 (91)	0.16				
		〃	東海中学校	9.19～12.19 (91)	0.16	0.31	0.14	〃	
				12.19～3.19 (90)	0.15				
		〃	原電グラウンド	9.19～12.19 (91)	0.26	0.51 (0.52)	0.21	〃	
				12.19～3.19 (90)	0.25 (0.26)				
		〃	豊岡	9.19～12.19 (91)	0.15	0.30	0.26	〃	
				12.19～3.19 (90)	0.15				
		〃	二軒茶屋	9.19～12.19 (91)	0.13	0.25 (0.26)	0.17	〃	
				12.19～3.19 (90)	0.12 (0.13)				
		日立地区	日立県	日立市 日立商業高等学校	9.25～12.19 (85)	0.24 (0.26)	0.51	0.15	蛍光ガラス線量計
					12.19～3.26 (97)	0.27 (0.25)			
	〃			日立第二高等学校	9.25～12.19 (85)	0.16 (0.17)	0.33	0.17	〃
					12.19～3.26 (97)	0.17 (0.16)			
	〃			大久保小学校	9.25～12.19 (85)	0.13 (0.14)	0.27	0.15	〃
					12.19～3.26 (97)	0.14 (0.13)			
	常陸太田市 峰山中学校		9.25～12.19 (85)	0.12 (0.13)	0.26	0.18	〃		
			12.19～3.26 (97)	0.14 (0.13)					
	原電区		日立市 留	9.19～12.19 (91)	0.16	0.31	0.18	TLD	
				12.19～3.19 (90)	0.15				
			〃	東小沢小学校	9.19～12.19 (91)	0.19	0.36 (0.37)	0.19	〃
					12.19～3.19 (90)	0.17 (0.18)			
		〃	金沢小学校	9.19～12.19 (91)	0.14	0.27	0.15	〃	
				12.19～3.19 (90)	0.13				
地味な区	県	ひたちなか市 勝田中央	9.26～12.20 (85)	0.18 (0.19)	0.37	0.13	蛍光ガラス線量計		
			12.20～3.27 (97)	0.19 (0.18)					

区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値 (mGy)		平常の変動幅 (上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法
					3ヶ月	計		
行政区域	東 ひ た ち な か 市	県	ひたちなか市 漁業無線局	9.26～12.20 (85)	0.25 (0.26)	0.52 (0.51)	0.17	蛍光ガラス線量計
				12.20～3.27 (97)	0.27 (0.25)			
		〃	阿字ヶ浦中学校	9.26～12.20 (85)	0.28 (0.30)	0.59	0.15	〃
				12.20～3.27 (97)	0.31 (0.29)			
		〃	那珂湊支所 (旧那珂湊総合支所)	9.26～12.20 (85)	0.18 (0.20)	0.38 (0.39)	0.16	〃
				12.20～3.27 (97)	0.20 (0.19)			
		〃	長砂公民館	9.25～12.25 (91)	0.15	0.29	0.20	TLD
				12.25～3.26 (91)	0.14			
		〃	足崎公民館	9.25～12.25 (91)	0.16	0.31	0.21	〃
				12.25～3.26 (91)	0.15			
		〃	前渡小学校	9.25～12.25 (91)	0.13	0.24	0.22	〃
				12.25～3.26 (91)	0.11			
	〃	高野小学校	9.25～12.25 (91)	0.16	0.31	0.21	〃	
			12.25～3.26 (91)	0.15				
	〃	佐野小学校	9.25～12.25 (91)	0.11	0.21	0.17	〃	
			12.25～3.26 (91)	0.10				
	〃	市役所	9.25～12.25 (91)	0.18	0.35	0.20	〃	
			12.25～3.26 (91)	0.17				
	大 洗 地 区	大 洗 町 南 中 学 校	9.26～12.20 (85)	0.17 (0.18)	0.35	0.15	蛍光ガラス線量計	
			12.20～3.27 (97)	0.18 (0.17)				
		〃	大洗小学校 (旧磯浜小学校)	9.26～12.20 (85)	0.14 (0.15)	0.30	0.17	〃
				12.20～3.27 (97)	0.16 (0.15)			
		〃	銚田市旭北小学校	9.26～12.20 (85)	0.19 (0.21)	0.40	0.15	〃
				12.20～3.27 (97)	0.21 (0.19)			
〃		旭南小学校	9.26～12.20 (85)	0.30 (0.32)	0.63	0.18	〃	
			12.20～3.27 (97)	0.33 (0.31)				

区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値 (mGy)		平常の変動幅 (上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法		
					3ヶ月	計				
行政区域	大洗地区	県	銚田市舟木小学校	9.26～12.20(85)	0.20 (0.22)	0.42	0.13	蛍光ガラス線量計		
				12.20～3.27(97)	0.22 (0.20)					
			水戸市稲荷第一小学校	9.26～12.20(85)	0.13 (0.14)	0.27			0.17	〃
				12.20～3.27(97)	0.14 (0.13)					
			茨城町若宮	9.26～12.20(85)	0.12 (0.13)	0.25			0.15	〃
				12.20～3.27(97)	0.13 (0.12)					
		〃 沼前小学校	9.26～12.20(85)	0.13 (0.14)	0.28	0.16	〃			
			12.20～3.27(97)	0.15 (0.14)						
		〃 明光中学校	9.26～12.20(85)	0.15 (0.16)	0.32	0.15	〃			
			12.20～3.27(97)	0.17 (0.16)						
		原子力機構大洗	大洗町南中学校	9.18～12.18(91)	0.17	0.33	0.19	TLD		
				12.18～3.19(91)	0.16					
			〃 北松川	9.18～12.18(91)	0.15	0.28	0.20	〃		
				12.18～3.19(91)	0.13					
			銚田市上釜	9.18～12.18(91)	0.21	0.40	0.15	〃		
				12.18～3.19(91)	0.19					
		大洗町成田	9.18～12.18(91)	0.17	0.33	0.15	〃			
			12.18～3.19(91)	0.16						
	〃 夏海	9.18～12.18(91)	0.13	0.26	0.22	〃				
		12.18～3.19(91)	0.13							
	銚田市下太田	9.18～12.18(91)	0.14	0.26	0.16	〃				
		12.18～3.19(91)	0.12							
	比較対照地点	県	水戸市第五中学校	9.26～12.20(85)	0.15 (0.16)	0.31	0.17	蛍光ガラス線量計		
				12.20～3.27(97)	0.16 (0.15)					
原子力機構		水戸地方气象台	9.19～12.19(91)	0.13	0.25	0.15	〃			
			12.19～3.20(91)	0.12						

区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値 (mGy)		平常の変動幅 (上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法			
					3ヶ月	計					
行政区域	対比 照地 点較	原子力 サイク ル工機 研構	水戸市石川 (旧環境監視センター)	9.25～12.25 (91)	0.20	0.38	0.20	TLD			
				12.25～3.26 (91)	0.18						
施設 境 界	東 海	原子力 機 構 原 科 研	周辺監視区域境界 (MP-11)	9.19～12.19 (91)	0.48	0.94	0.19	蛍光ガラス 線量計			
				12.19～3.20 (91)	0.46						
			〃 (Pu研裏)	9.19～12.19 (91)	0.17	0.34	0.15	〃			
				12.19～3.20 (91)	0.17						
			〃 (MP-17)	9.19～12.19 (91)	0.26	0.51	0.16	〃			
				12.19～3.20 (91)	0.25						
			〃 (MP-18)	9.19～12.19 (91)	0.89	1.8	0.18	〃			
				12.19～3.20 (91)	0.86						
			〃 (MS-2)	9.19～12.19 (91)	0.36	0.71	0.20	〃			
				12.19～3.20 (91)	0.35						
	地 区	原子力 機 構 サイ クル 工 研	原子力 機 構 サイ クル 工 研	〃 (S-1)	9.25～12.25 (91)	0.37	0.73	0.20	TLD		
					12.25～3.26 (91)	0.36					
				〃 (S-6)	9.25～12.25 (91)	0.47	0.90	0.17	〃		
					12.25～3.26 (91)	0.43					
				〃 (S-8)	9.25～12.25 (91)	0.40	0.80	0.17	〃		
					12.25～3.26 (91)	0.40					
				〃 (S-11)	9.25～12.25 (91)	0.26	0.53	0.18	〃		
					12.25～3.26 (91)	0.27					
				原子力 機 構 那 珂	原子力 機 構 那 珂	〃 (MP-1)	9.13～12.13 (91)	0.13	0.24	0.15	〃
							12.13～3.14 (91)	0.11			
〃 (MP-2)	9.13～12.13 (91)	0.15	0.29			0.25	〃				
	12.13～3.14 (91)	0.14									
原 電	原 電	〃 (MP-A)	9.19～12.19 (91)	0.23	0.43 (0.44)	0.21	〃				
			12.19～3.19 (90)	0.20 (0.21)							

区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値 (mGy)		平常の変動幅 (上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法				
					3ヶ月	計						
施設境界	東海地区	原電	周辺監視区域境界 (MP-B)	9.19～12.19(91)	0.24	0.46 (0.47)	0.23	TLD				
				12.19～3.19(90)	0.22 (0.23)							
			〃 (MP-C)	9.19～12.19(91)	0.27	0.52 (0.53)			0.24	〃		
				12.19～3.19(90)	0.25 (0.26)							
			〃 (MP-D)	9.19～12.19(91)	0.29	0.55			0.20	〃		
				12.19～3.19(90)	0.26							
		NDC	N	敷地境界(南側)	10.1～1.6(97)	0.17 (0.16)	0.31		0.18	〃		
					1.6～4.1(85)	0.14 (0.15)						
			C	〃(東側)	10.1～1.6(97)	0.15 (0.14)	0.27				0.19	〃
					1.6～4.1(85)	0.12 (0.13)						
		東大地区	東大	周辺監視区域境界 (MB-1)	10.3～1.16(105)	0.25 (0.22)	0.44		0.24	〃		
					1.16～4.7(81)	0.19 (0.22)						
	〃 (MB-2)			10.3～1.16(105)	0.61 (0.53)	1.1 (1.0)	0.24	〃				
				1.16～4.7(81)	0.45 (0.51)							
	〃 (MB-4)			10.3～1.16(105)	0.27 (0.23)	0.48 (0.47)	0.22	〃				
				1.16～4.7(81)	0.21 (0.24)							
	大洗地区		原子力機構大洗	〃 (敷地北)	9.18～12.18(91)	0.28	0.53	0.18	〃			
					12.18～3.19(91)	0.25						
				〃 (北門)	9.18～12.18(91)	0.22	0.42				0.16	〃
					12.18～3.19(91)	0.20						
				〃 (敷地東)	9.18～12.18(91)	1.1	2.1				0.16	〃
					12.18～3.19(91)	0.99						
		〃 (敷地南)	9.18～12.18(91)	0.38	0.74	0.14	〃					
			12.18～3.19(91)	0.36								
〃 (敷地西)		9.18～12.18(91)	0.29	0.56	0.16	〃						
		12.18～3.19(91)	0.27									

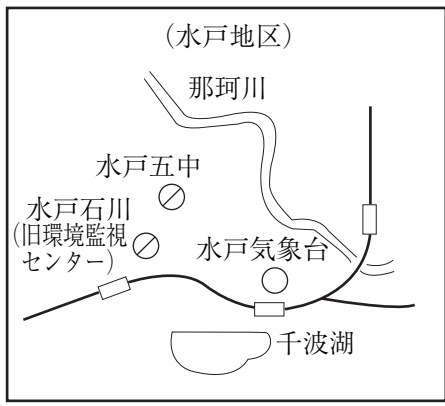
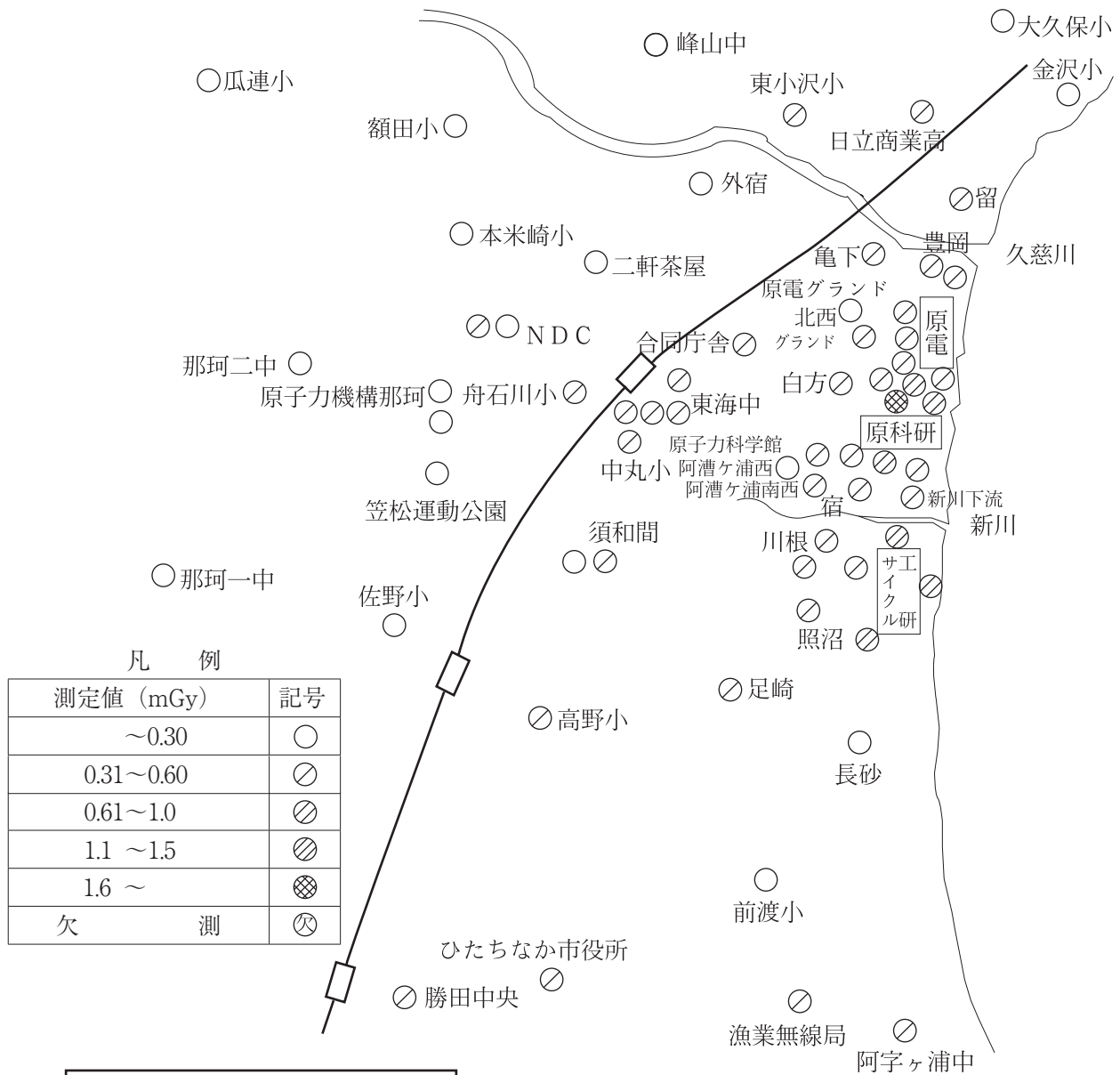
区分	地区名		測定者	測定地点	測定期間	測定値 (mGy)		平常の変動幅 (上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法
						3ヶ月	計		
施設境界	大洗地区	原子力機構大洗	原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (排水監視施設)	9.18～12.18(91)	0.43	0.84	0.17	TLD
					12.18～3.19(91)	0.41			
				〃 (No.1)	9.18～12.18(91)	0.46	0.89	0.17	〃
					12.18～3.19(91)	0.43			
				〃 (No.2)	9.18～12.18(91)	0.33	0.63	0.16	〃
					12.18～3.19(91)	0.30			

- (注1) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含み、宇宙線成分及びTLD・蛍光ガラス線量計の自己汚染の寄与分を除く。
- (注2) 3ヶ月間の測定値の()は91日当りに換算した値で、6ヶ月間合計の測定値の()は91日当りに換算した3ヶ月間の測定値を合計した場合である。なお、()書きがないものは、91日当りに換算しても値が変わらない場合である。
- (注3) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、積算線量が高くなる傾向にあるが、いずれの値も線量計の設置地点における計測値であり、設置された学校等の施設全体を代表する値ではない。

積算線量（TLD・蛍光ガラス線量計）分布図（平成25年10月～26年3月）

【東海地区】

⊙ 日立二高

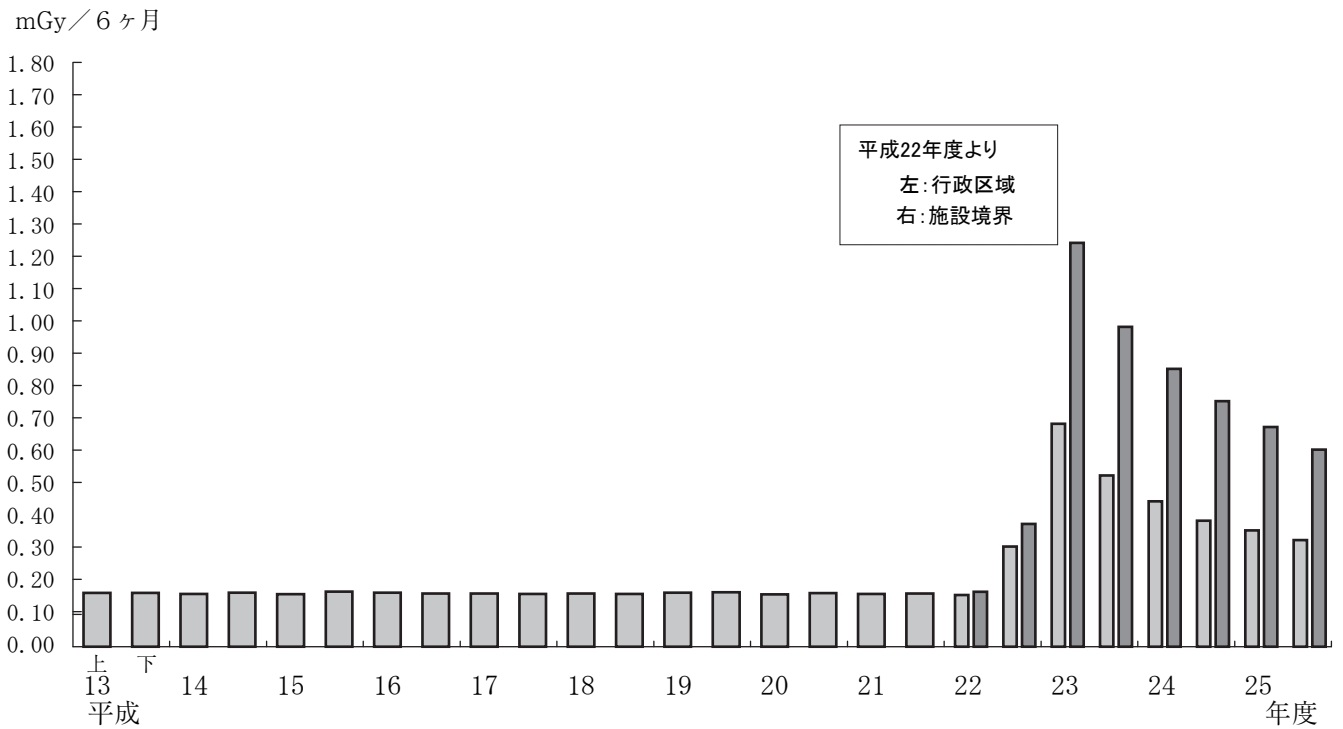


積算線量（TLD・蛍光ガラス線量計）分布図（平成25年10月～26年3月）

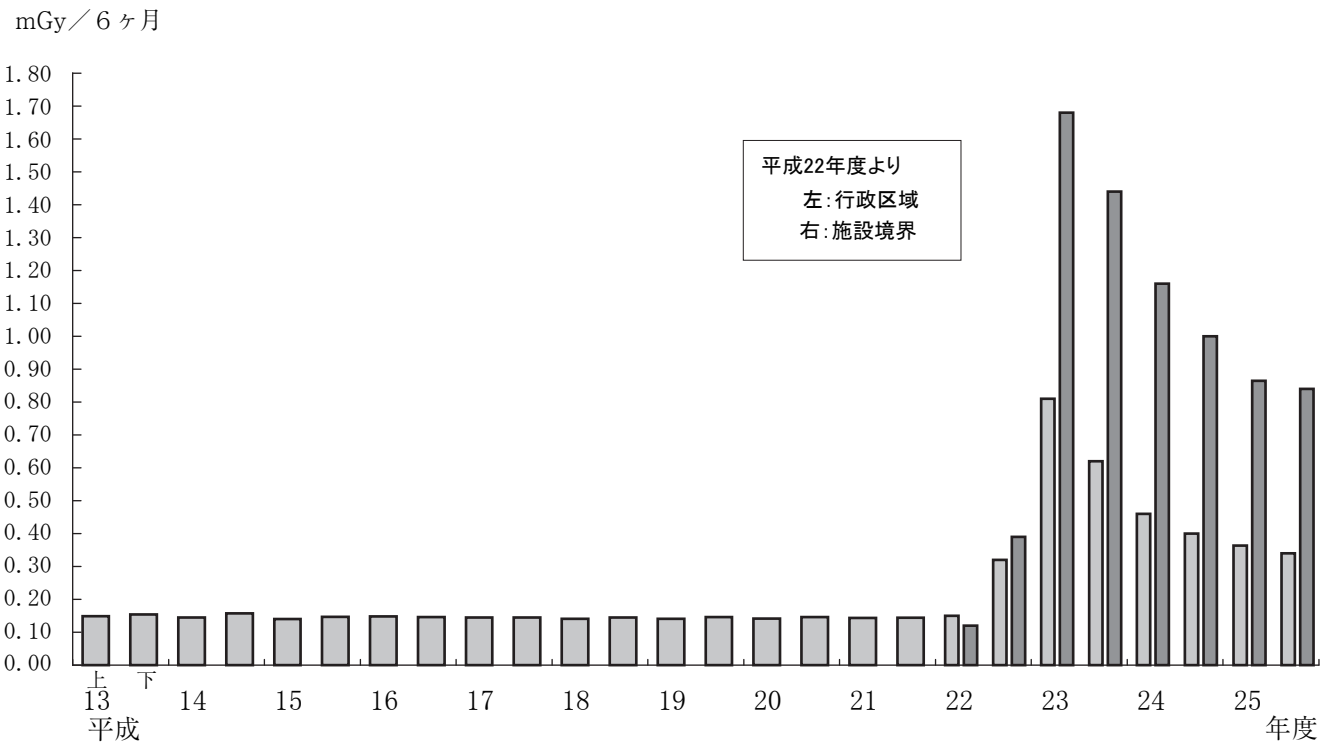
【大洗地区】



積算線量経年変化
【東海地区の平均値】



積算線量経年変化
【大洗地区の平均値】



1-2 漁網表面吸収線量率の測定結果

測定者	項目	採取地点	測定期間 (曳航時間)	測定値
原子力機構 サイクル 力機工 研	γ (nGy/時)	東海沖にて曳航	1.8 ~ 3.4 (22時間)	×
	β (nGy/時)			×

1-3 大気中放射能測定結果

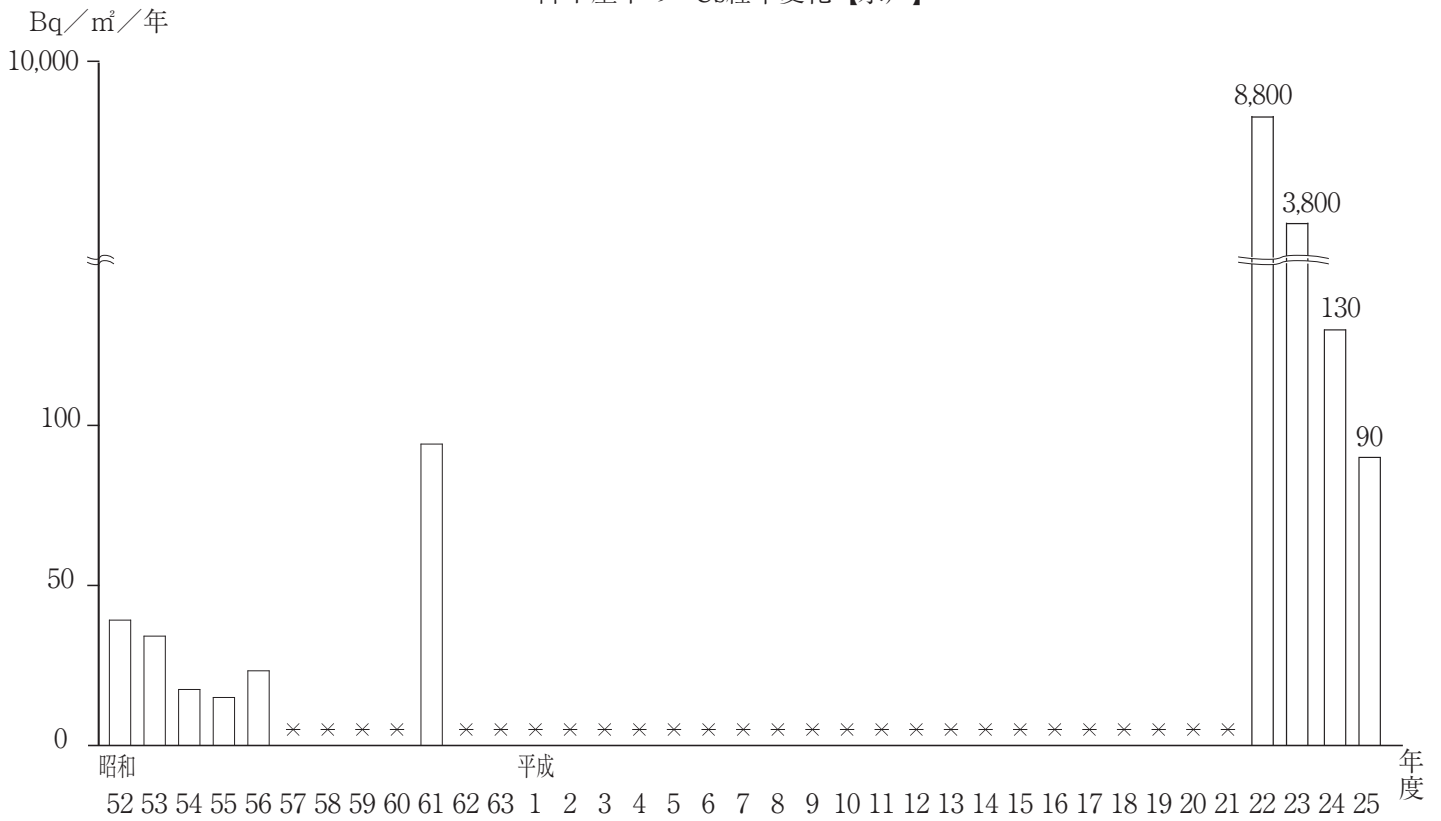
1-3-1 降下塵中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (Bq/m ²)						
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	水戸市上国井町	10.1~11.1	×	×	×	×	×	42 [19]	×
		11.1~12.2	×	×	×	×	×	1.5 [0.67]	×
		12.2~1.6	×	×	×	×	×	2.0 [0.85]	×
		1.6~2.3	×	×	×	×	×	1.8 [0.74]	×
		2.3~3.3	×	×	×	×	×	9.9 [4.1]	×
		3.3~4.1	×	×	×	×	×	5.1 [1.9]	×
原子力機構 原科研	原子力機構 原科研構内	10.1~11.1	×	×	×	×	×	15 [6.9]	×
		11.1~12.2	×	×	×	×	×	2.0 [0.83]	×
		12.2~1.6	×	×	×	×	×	6.3 [2.6]	×
		1.6~2.3	×	×	×	×	×	7.2 [3.0]	×
		2.3~3.3	×	×	×	×	×	15 [6.1]	×
		3.3~4.1	×	×	×	×	×	7.3 [2.8]	×

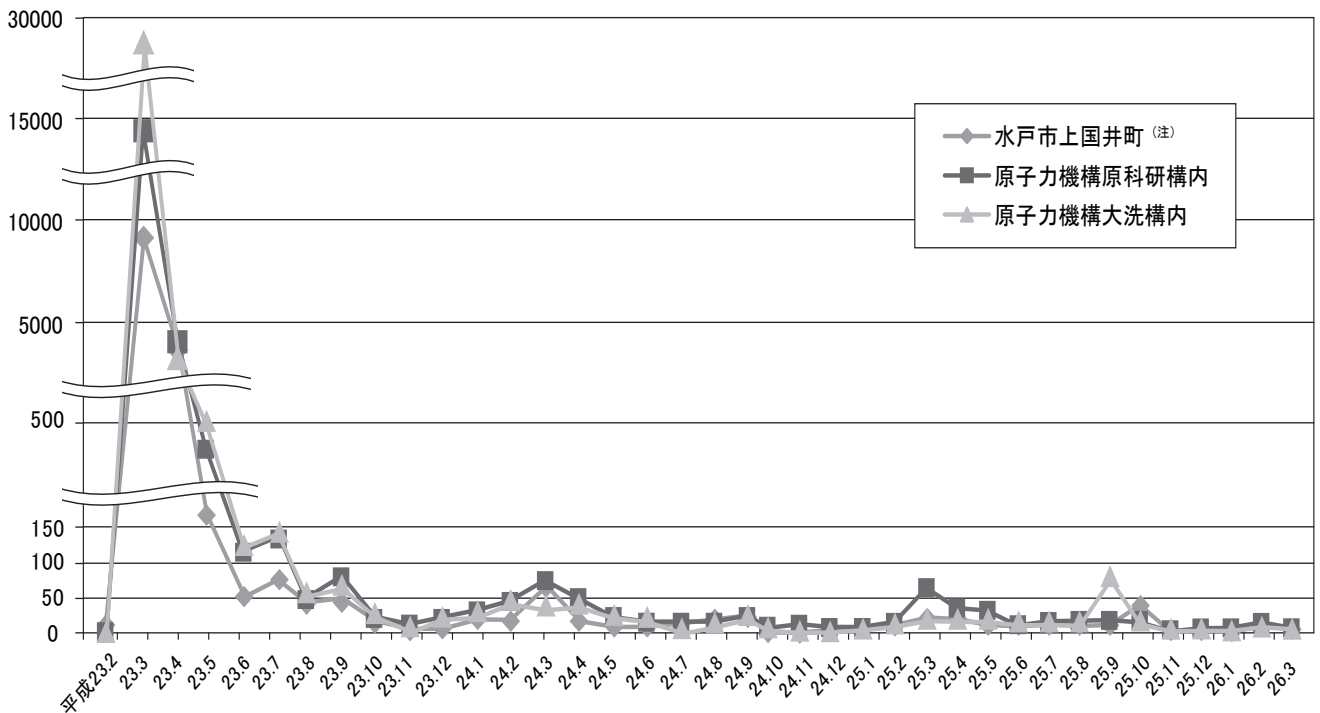
測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (Bq/m ²)						
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
原子力 機構 大洗	原子力機構 大洗構内	10.1~11.1	×	×	×	×	×	12 [5.4]	×
		11.1~12.2	×	×	×	×	×	1.8 [0.81]	×
		12.2~1.6	×	×	×	×	×	2.6 [1.1]	×
		1.6~2.3	×	×	×	×	×	2.7 [1.0]	×
		2.3~3.3	×	×	×	×	×	8.1 [3.3]	×
		3.3~4.1	×	×	×	×	×	5.1 [2.0]	×

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。
 なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは [] に記載。

降下塵中の¹³⁷Cs経年変化【水戸】



降下塵中の¹³⁷Cs経月変化 (Bq/m³)



(注) 平成25年3月26日より水戸市愛宕町から水戸市上国井町に地点変更。

1-4 陸土中の放射能測定結果

1-4-1 土壌中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	分析値 (Bq/kg・乾)				
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	水戸市見川	11.12	×	×	×	120 [51]	×
	那珂市横堀	11.12	×	×	×	83 [34]	×
	東海村舟石川	11.12	×	×	×	90 [37]	×
	ひたちなか市 常陸那珂	11.12	×	×	×	710 [310]	×
原子力機構 原科研	東海村須和間	11.6	×	×	×	1300 [530]	×
原子力機構 サイクル工研	ひたちなか市長砂	11.20	×	×	×	590 [260]	×
原子力機構 大洗	銚田市飛沢	11.6	×	×	×	270 [120]	×
原電	日立市留	11.8	×	×	×	210 [87]	×

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。
 なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは [] に記載。

1-4-2 河底土中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	分析値 (Bq/kg・乾)				
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
原子力機構 サイクル工研	東海村新川河口	10.7	×	×	×	25 [11]	×

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。
 なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは [] に記載。

1-4-3 海岸砂中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	分析値 (Bq/kg・乾)				
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	大洗町大貫	1.7	×	×	×	8.7 [3.4]	×
原子力機構 サイクル工研	日立市久慈	1.10	×	×	×	3.4 [1.4]	×
	ひたちなか市 阿字ヶ浦	1.10	×	×	×	3.6 [1.5]	×

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。
 なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは [] に記載。

1-5 陸水中の放射能測定結果

1-5-1 河川水及び湖沼水中の放射性核種分析結果

測定者	採水地点	採水月日	水温(℃)	塩素量(%)	核種分析値(Bq/L)					
					³ H	⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	那珂川下流(国田大橋)	10.8	23.3	/	×	×	×	×	×	×
	久慈川下流(榭橋)	10.11	21.3	/	×	×	×	×	0.013 [0.0064]	×
原子力機構 原科研	新川中流(宮前橋)	10.8	22.4	/	×	×	×	×	0.026 [0.012]	×
原子力機構 サイクル工研	新川河口	10.7	21.6	0.568	×	×	×	×	0.043 [0.021]	×
	阿漕ヶ浦	10.7	22.1	/	×	×	×	×	0.029 [0.014]	×
原子力機構 大洗	那珂川下流(中河内)	10.3	21.8	/	×	×	×	×	0.0062 [×]	×
	濁沼(北松川)	10.3	23.0	1.45	×	×	×	×	0.032 [0.015]	×

(注1) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは[]に記載。

(注2) 福島第一原子力発電所事故を踏まえて実施している測定では、河川水等をそのまま測定しているため、検出限界値が約0.5Bq/Lとなっているが、本測定では蒸発乾固して測定しているため、検出限界値が0.004Bq/Lとなっている。

1-5-2 飲料水中の放射性核種分析結果

測定者	種別	採水地点	採水月日	水温(℃)	核種分析値(Bq/L)					
					⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	U
県	水	水戸市上国井町(那珂川) ^(注3)	10.8	24.0	×	×	×	0.011 [0.0065]	×	/
原子力機構 原科研		東海村須和間(久慈川)	10.3	22.0	×	×	×	×	×	/
原子力機構 サイクル工研	道	ひたちなか市長砂(那珂川)	10.9	22.7	×	×	×	0.0041 [×]	×	/
原子力機構 大洗	水	大洗町北松川(地下水)	10.3	19.2	×	×	×	×	×	/
原電		日立市留(久慈川)	10.22	20.0	×	×	×	×	×	/
県	井	東海村村松	10.11	20.8	×	×	×	0.014 [0.0057]	×	×
JCO		東海村舟石川	10.9	19.0	/	/	/	/	/	×
	三菱原燃 原燃工	東海村村松	10.9	25.0	/	/	/	/	/	×
東海村舟石川		10.9	23.0	/	/	/	/	/	×	
東海村川根	10.18	16.0	/	/	/	/	/	×		

(注1) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは[]に記載。

(注2) 福島第一原子力発電所事故を踏まえて実施している測定では、飲料水等をそのまま測定しているため、検出限界値が約0.5Bq/Lとなっているが、本測定では蒸発乾固して測定しているため、検出限界値が0.004Bq/Lとなっている。なお、この測定結果は、国が定める飲料水の基準値(10Bq/L)を十分に下回っている。

(注3) 平成25年度より、水戸市愛宕町から水戸市上国井町に地点変更。

1-6 海洋における放射能測定結果

1-6-1 海水中の放射性核種分析結果

測定者	採水海域	採水 月日	分 析 値 (Bq/L)							¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru			
県	久慈沖(A)	10.15	×	×	×	×	×	×	×	0.013 [0.0063]	×
	サイクル工研沖(G)	10.15	×	×	×	×	×	×	×	0.0075 [×]	×
	阿字ヶ浦沖(I)	10.15	×	×	×	×	×	×	×	0.0084 [×]	×
	那珂湊沖(J)	10.15	×	×	×	×	×	×	×	0.014 [0.0040]	×
	大貫沖(K)	10.15	×	×	×	×	×	×	×	0.012 [0.0048]	×
	再処理排水 放出口周辺(P)	10.21	×	×	×	×	×	×	×	0.033 [0.014]	×
原子力機構 原科 研	原科 研 沖(C)	10.29	×	×	0.0048	×	×	×	×	0.035 [0.015]	×
原子力機構 サイクル工研	原子力機構 サイクル工研沖(F)	10.21	×	×	×	×	×	×	×	0.017 [0.0076]	×
	長砂沖(H)	10.21	×	×	×	×	×	×	×	0.015 [0.0061]	×
	再処理排水 放出口周辺(P)	10.21	×	×	×	×	×	×	×	0.046 [0.023]	×
原子力機構 大 洗	原子力機構 大 洗 沖(L)	10.28	×	×	×	×	×	×	×	0.030 [0.013]	×
	〃(M)	10.28	×	×	×	×	×	×	×	0.029 [0.013]	×
原 電	原 電 沖(B)	10. 8	×	×	×	×	×	×	×	0.019 [0.0086]	×

(注1) 採水海域：() 内は採取海域記号。採取地点は169ページの図を参照。表層水を採取。

(注2) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは[]に記載。

1 - 6 - 2 海底土中の放射性核種分析結果

測定者	採取海域	採取 月日	分 析 値 (Bq/kg・乾)									
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu	
県	久慈沖(A)	1.14	×	×	×	×	×	×	×	15 [5.9]	×	0.51
	サイクル工研沖(G)	1.14	×	×	×	×	×	×	×	63 [26]	×	0.65
	阿字ヶ浦沖(I)	1.14	×	×	×	×	×	×	×	13 [5.4]	×	0.90
	那珂湊沖(J)	1.14	×	×	×	×	×	×	×	27 [11]	×	0.52
	大貫沖(K)	1.14	×	×	×	×	×	×	×	11 [4.3]	×	0.27
	再処理排水 放出口周辺(P)	1.14	×	×	×	×	×	×	×	23 [9.3]	×	0.57
原子力機構 原科 研	原科 研 沖(C)	1.17	×	×	×	×	×	×	×	8.9 [3.4]	×	0.22
原子力機構 サイクル工 研	原子力機構 サイクル工研沖(F)	1.20	×	×	×	×	×	×	×	16 [6.5]	×	0.30
	長砂沖(H)	1.20	×	×	×	×	×	×	×	5.7 [2.3]	×	0.25
	再処理排水 放出口周辺(P)	1.14	×	×	×	×	×	×	×	19 [7.6]	×	0.45
原子力機構 大 洗	原子力機構 大洗沖(L)	1.16	×	×	×	×	×	×	×	7.9 [3.0]	×	
	〃(M)	1.16	×	×	×	×	×	×	×	2.8 [1.0]	×	
原 電	原 電 沖(B)	1.8	×	×	×	×	×	×	×	6.3 [1.6]	×	

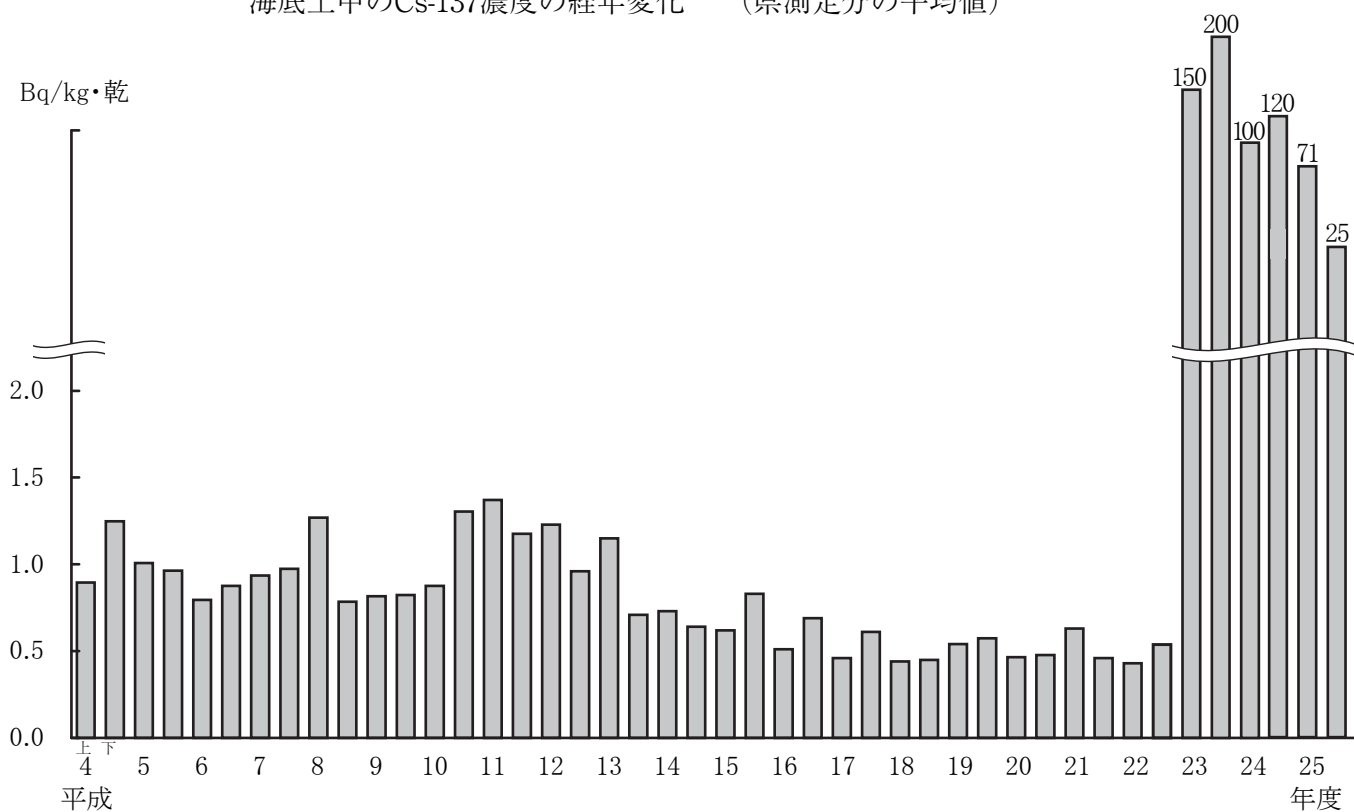
(注1) 採取海域：() 内は採取海域記号。採取地点は169ページの図を参照。

(注2) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

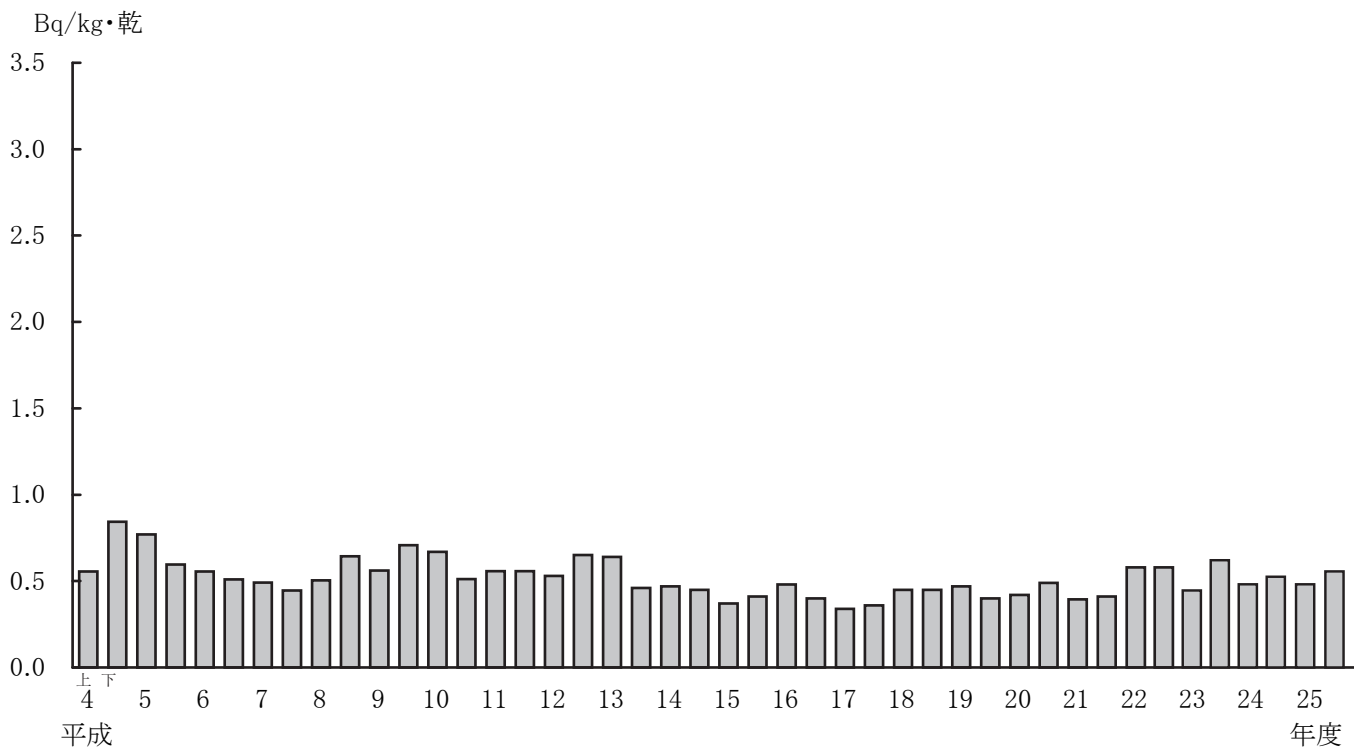
なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは[]に記載。

(注3) Puは、²³⁸Puが検出されておらず、また、過去の最大値(1.8 Bq/kg・乾)より低い値であったため、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響とは判断できない。

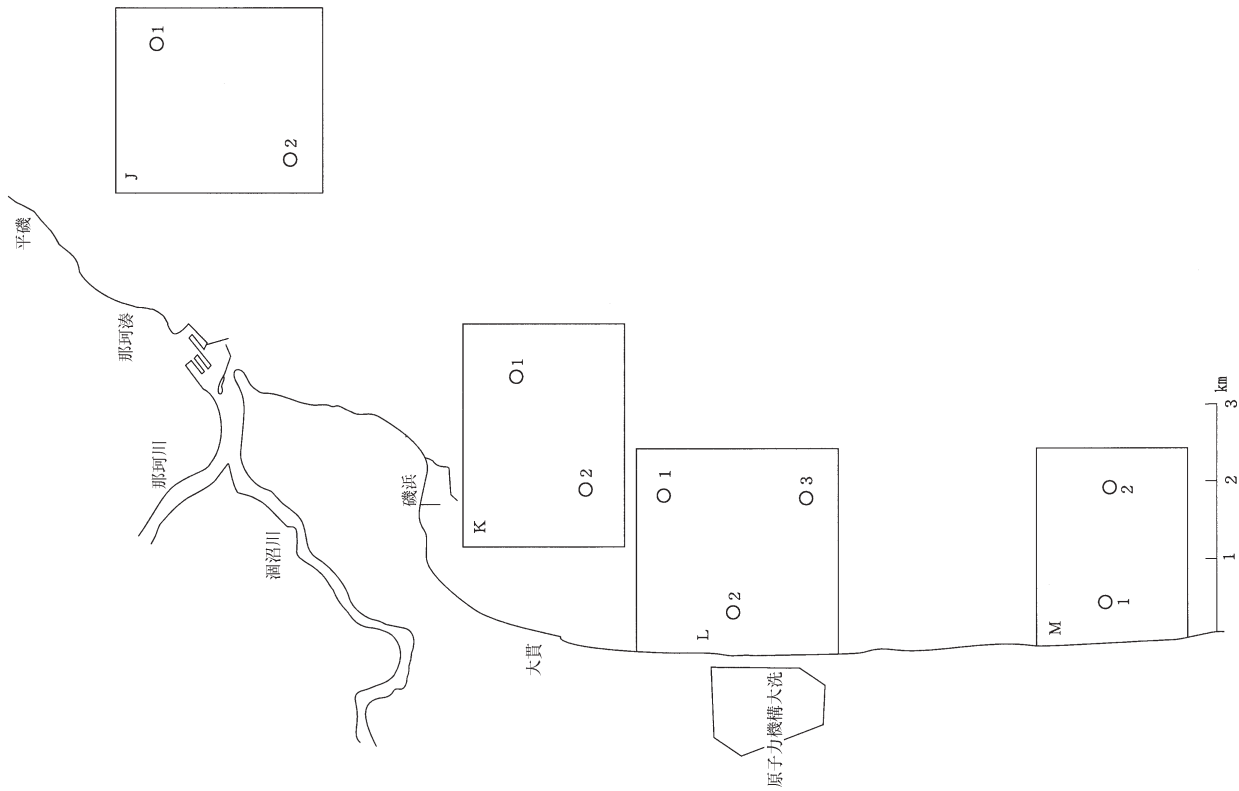
海底土中のCs-137濃度の経年変化 (県測定分の平均値)



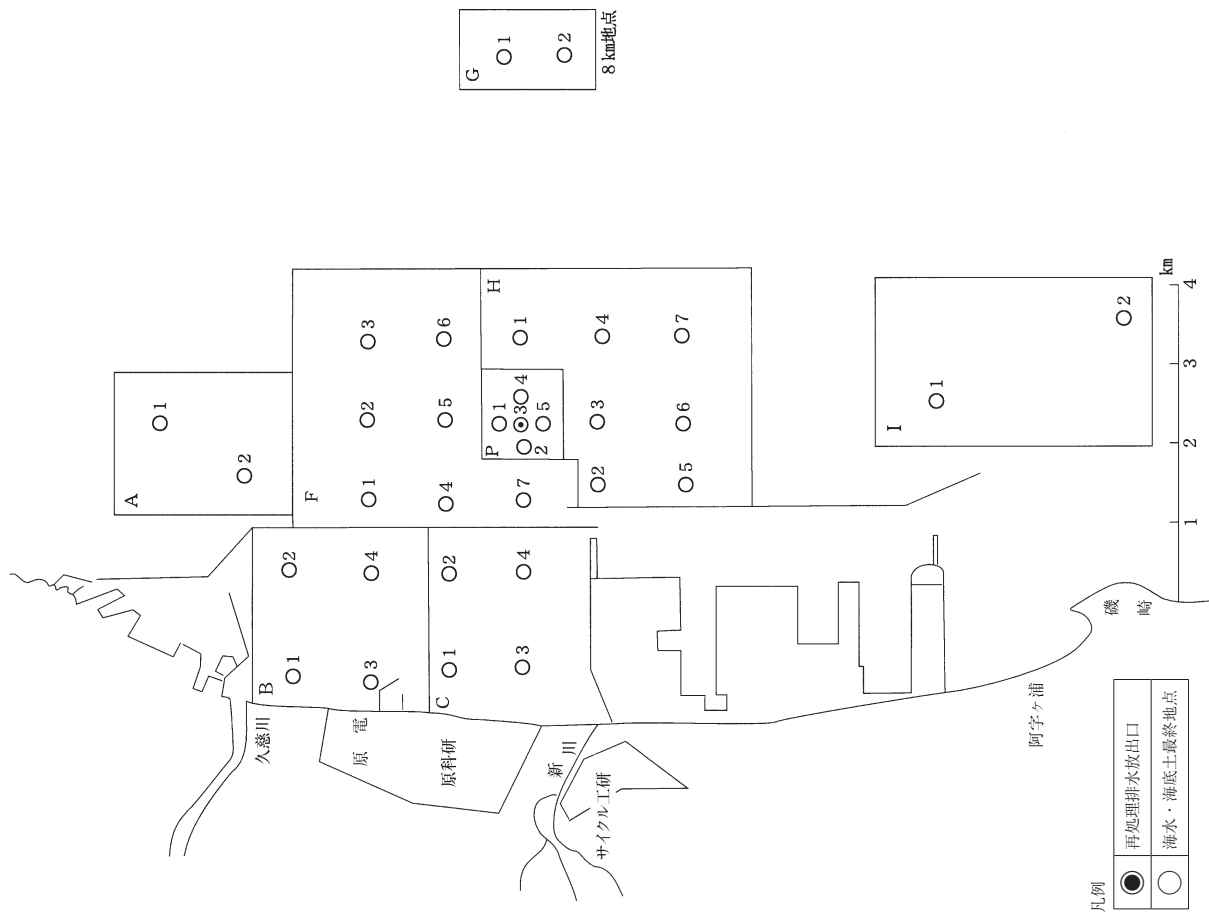
海底土中のPu濃度の経年変化 (県測定分の平均値)



海水・海底土採取地点（大洗地区）



海水・海底土採取地点（東海地区）



1-7 排水口近辺土砂中の放射性核種分析結果

測定者	排水溝	採取 月日	分 析 値 (Bq/kg・乾)							
			⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁵² Eu	¹⁵⁴ Eu	U
原子力機構 原科研	第 ^(注2) 1	1.16	/	/	×	/	1.3 [×]	/	/	/
	第 2	1.16	/	/	×	/	1.9 [×]	/	/	/
	第 ^(注3) 3	—	/	/	—	/	/	/	/	/
原子力機構 大洗	原子力機構大洗	1.14	/	/	×	/	2.5 [×]	/	/	/
原 電	東海発電所	1.23	/	/	×	×	1.8 [×]	×	×	/
	東海第二発電所 ^(注2)	1.23	×	×	×	/	1.5 [×]	/	/	/
J C O	JCO・三菱原燃・ 原燃工・積水メデ ィカル共同排水溝	1.16	/	/	/	/	/	/	/	×

(注1) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは [] に記載。

(注2) 原子力機構原科研の第1排水溝及び東海第二発電所排水溝：¹³⁷Csは報告核種ではないが検出されたため記載。

(注3) 原子力機構原科研第3排水溝：高波等により海岸が浸食されたため採取できなかった。

2 敷地内における測定結果

2-1 空間 γ 線量測定結果

2-1-1 積算線量測定結果

測定者	評価対象	平常の変動幅の上限
施設者	6ヶ月積算値	下表の各地点の値

測定者	測定地点	測定期間	測定値 (mGy)		平常の変動幅 (上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法
			3ヶ月	計		
原子力機構 原 科 研	MS-1	9.19~12.19(91)	0.41	0.80	0.19	蛍光ガラス 線 量 計
		12.19~ 3.20(91)	0.39			

- (注1) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含み、宇宙線成分及びTLD・蛍光ガラス線量計の自己汚染の寄与分を除く。
- (注2) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、積算線量が高くなる傾向にある。

Ⅲ－3 線量の推定結果

1 放出源情報に基づく実効線量

1-1 放射性気体廃棄物による実効線量

事業所名	原子力機構原科研	原子力機構サイクル工研	原子力機構大洗		原電		
評価対象施設名	JRR-2, JRR-3, JRR-4, 燃料試験施設, NSRR, NUCEF	再処理施設	JMTR, HTTR	高速実験炉「常陽」	東海発電所排気筒	東海発電所 その他排気口	東海第二発電所
評価対象期間	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日

	最大値 (mSv)	排気筒からの		最大値 (mSv)	排気筒からの		最大値 (mSv)	排気筒からの		最大値 (mSv)	排気筒からの		最大値 (mSv)	排気筒からの		最大値 (mSv)	排気筒からの					
		方位	距離 (km)		方位	距離 (km)		方位	距離 (km)		方位	距離 (km)		方位	距離 (km)		方位	距離 (km)				
周辺監視区域外における実効線量	0.0001	NUCEF 南西	0.3	0.0000	南西	0.5	0.0001	JMTR 南西	0.4	0.0000	南東	0.3	0.0000 [0.0000]	南西 [南西]	1.1 [1.1]	0.0000 [0.0000]	南西 [北西]	1.1 [0.7]	0.0000 [0.0000]	南西 [南西]	1.3 [1.3]	
	0.0000	燃料試験施設 南西	1.2	0.0002	南西	0.8	0.0000	HTTR 北西	0.5	0.0000	南西	1.0	/	/	/	/	/	/	/	0.0000 [0.0000]	南西 [南西]	2.4 [3.3]
	計	0.0001			0.0002			0.0001			0.0000			0.0000 [0.0000]			0.0000 [0.0000]			0.0000 [0.0000]		

気象条件	原科研観測 平成25年4月1日～ 平成26年3月31日	サイクル工研観測 平成25年4月1日～ 平成26年3月31日	原子力機構大洗観測 平成25年4月1日～平成26年3月31日	原電観測 ^(注2) 平成25年4月1日～平成26年3月31日
------	-----------------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------	--

(注1) 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響については評価に含めていない。

(注2) 原電：参考として [] 内に昭和56年4月から昭和57年3月までの気象条件による評価結果を示す。

1-2 放射性液体廃棄物による実効線量

事業所名	原子力機構原科研 ^(注)	原子力機構サイクル工研	原子力機構大洗		原電		積水メディカル
評価対象施設名	原科研第1, 第2, 第3排水溝	再処理施設	原子力機構大洗北地区排水溝	原子力機構大洗南地区排水溝	東海発電所	東海第二発電所	燃料3社共同排水溝
評価対象期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日	平成25年4月1日～平成26年3月31日	平成25年4月1日～平成26年3月31日	平成25年4月1日～平成26年3月31日	平成25年4月1日～平成26年3月31日	平成25年4月1日～平成26年3月31日	平成25年4月1日～平成26年3月31日

	最大値 (mSv)	最大値 (mSv)	最大値 (mSv)	最大値 (mSv)	最大値 (mSv)	最大値 (mSv)	最大値 (mSv)
内部被ばくによる 預託実効線量	0.0006	0.0000	0.0002	0.0000	0.0034	0.0004	0.0049
外部被ばくによる 実効線量		0.0000					
計	0.0006	0.0000	0.0002	0.0000	0.0034	0.0004	0.0049

(注) ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含めて評価している。

2 積算線量による外部被ばく実効線量

評価対象期間：平成25年4月～平成26年3月

		実測に基づく実効線量 (mSv) (A)	自然放射線による実効線量 (mSv) (B)	福島原発事故による実効線量 (mSv) (A-B)	地点数	備考	
行政区 域	東海地区	東海地区	0.34～0.86	0.18～0.34	0.10～0.70	27	61 東海村，那珂市 日立市，常陸太田市 ひたちなか市 大洗町，銚田市， 水戸市（旧常澄村），茨城町 水戸市
		日立地区	0.43～0.86	0.19～0.29	0.15～0.63	7	
	ひたちなか地	0.36～1.0	0.22～0.31	0.088～0.81	10		
	大洗地区	0.42～1.1	0.19～0.29	0.14～0.84	14		
	比較対照地点	0.44～0.63	0.20～0.26	0.24～0.37	3		
施設境 界	東海地区	原子力機構 原科研	0.57～3.0	0.22～0.29	0.34～2.7	5	21
		原子力機構 サイクル工研	0.93～1.6	0.22～0.28	0.70～1.4	4	
		原電	0.71～0.94	0.28～0.34	0.42～0.68	4	
	大洗地区	原子力機構 大洗	0.67～3.3	0.18～0.22	0.46～3.1	8	

(注1) γ 線による外部被ばく実効線量。

(注2) 実効線量への換算は、0.8Sv/Gyとして算出した。(110～118ページ参照)

(注3) 宇宙線成分及び積算線量計の自己汚染の寄与を除く。

3 環境試料中の放射性核種分析結果に基づく成人の預託実効線量

東海・大洗地区

項目	核種		³ H	⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³¹ I	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	Pu	¹³⁷ Cs	¹³⁴ Cs	^{110m} Ag	単位	備考	
	地区	核種																	
牛乳	東海		ne			ne				ne	ne						mSv		
	大洗		ne			ne				ne	ne						〃		
野菜	東海		ne			0.0001				ne	0.0004			0.0003			〃		
	大洗		ne			0.0001				ne	ne			ne			〃		
精米	東海		ne			ne				ne	0.0010			0.0008			〃		
	大洗		ne			ne				ne	0.0013			0.0009			〃		
飲料水	東海		ne								0.0001			0.0001			〃		
	大洗		ne														〃		
魚類	東海		ne	ne	ne	ne	ne	ne	ne	ne	0.0017	ne	ne	0.0011			〃		
	大洗		ne	ne	ne	ne	ne	ne	ne	ne	0.0013	ne	ne	0.0009			〃		
貝類	東海		ne	ne	ne	ne	ne	ne	ne	ne	0.0000	ne	0.0000	ne	0.0000	0.0000	〃		
	大洗		ne	ne	ne	0.0000	ne	ne	ne	ne	0.0000	ne	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	〃		
海藻類	東海		ne	ne	ne	0.0000	ne	ne	ne	ne	0.0002	ne	0.0000	0.0001	0.0000	0.0000	〃		
	大洗		ne	ne	ne	0.0000	ne	ne	ne	ne	0.0001	ne	0.0000	0.0001	0.0000	0.0000	〃		
合計	東海		ne	ne	ne	0.0001	ne	ne	ne	ne	0.0034	ne	0.0000	0.0024	0.0000	0.0000	合計	0.0059	mSv
	大洗		ne	ne	ne	0.0001	ne	ne	ne	ne	0.0027	ne	0.0000	0.0019	0.0000	0.0000	合計	0.0047	mSv

比較対照地点

項目	核種		³ H	⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³¹ I	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	Pu	¹³⁷ Cs	¹³⁴ Cs	^{110m} Ag	単位	備考	
	地区	核種																	
牛乳	水戸		ne			ne				ne	ne						mSv		
野菜	水戸		ne			ne				ne	0.0003			0.0003			〃		
精米	水戸		ne			ne				ne	ne			ne			〃		
飲料水	水戸		ne								0.0002			0.0002			〃		
合計	水戸		ne	ne	ne	ne		ne	ne	ne	0.0005			0.0005			合計	0.0010	mSv

(注1) ne: 核種分析結果がすべて検出限界未満のため、求められず。
(注2) 資料 (P.119~P.124) 及び線量算出要領 (抜粋) (P.155~P.159) に基づき算出

資料 線量の推定に用いた測定結果

1 放出源における放出量

1-1 放射性気体廃棄物

測定者	施設名	核種	放出量 (GBq)	
			実測分	不検出分
原子力機構 原 科 研	J R R - 3	希ガス (⁴¹ Ar)	0	0
	J R R - 4	〃	0	0
	N S R R	〃	4.6	1.1×10
	燃料試験施設	希ガス (⁸⁵ Kr)	2.6×10	3.6×10 ³
	N U C E F	希ガス (¹³⁸ Xe)	0	2.0×10 ³
	計		3.1×10	5.6×10 ³
	J R R - 2	³ H	0	4.1
	J R R - 3	〃	0	4.9×10
	計		0	5.3×10
	N S R R	¹³¹ I	0	9.9×10 ⁻⁴
	燃料試験施設	〃	0	9.3×10 ⁻⁴
	N U C E F	〃	0	1.9×10 ⁻³
	計		0	3.8×10 ⁻³
原子力機構 サイクル工研	再処理施設	希ガス (⁸⁵ Kr)	0	1.3×10 ⁴
	〃	³ H	3.8×10 ²	7.4×10
	〃	¹⁴ C	0	2.1×10 ²
	〃	¹³¹ I	0	1.9×10 ⁻¹
	〃	¹²⁹ I	0	1.9×10 ⁻¹
原子力機構 大 機 構	J M T R	希ガス (⁴¹ Ar)	0	2.2×10 ³
	H T T R	希ガス (⁸⁸ Kr, ¹³⁸ Xe)	0	1.4×10 ³
	計		0	3.6×10 ³
	H T T R	³ H	0	1.3×10
	H T T R	¹³¹ I	0	9.5×10 ⁻⁴
	高速実験炉「常陽」	希ガス (⁴¹ Ar, ⁸⁵ Kr, ¹³³ Xe)	0	1.6×10 ³
	〃	¹³¹ I	0	1.9×10 ⁻³
原 電	東海発電所 排気筒	⁶⁰ Co	0	2.1×10 ⁻³
	〃	¹³⁷ Cs	0	1.8×10 ⁻³
	東海発電所 その他排気口	⁶⁰ Co	0	2.3×10 ⁻³
	〃	¹³⁷ Cs	0	2.5×10 ⁻³
	東海第二発電所	希ガス	0	8.4×10 ³
	〃	¹³¹ I	0	2.3×10 ⁻²

1 - 2 放射性液体廃棄物

測定者	施設名	核種	放出量 (GBq)	
			実測分	不検出分
原 子 力 機 構 原 科 研	第 1 排水溝	^{60}Co	0	1.1×10^{-4}
	〃	^3H	1.3×10^{-2}	
	〃	^{137}Cs	1.1×10^{-5}	
	〃	^{232}Th	3.9×10^{-5}	
	〃	^{238}U	1.6×10^{-7}	
	第 2 排水溝	^3H	2.7×10^2	1.4×10^{-1}
	〃	^7Be	6.6×10^{-2}	6.4×10^{-2}
	〃	^{14}C	0	2.8
	〃	^{60}Co	2.7×10^{-4}	6.4×10^{-2}
	〃	^{137}Cs (注1)	1.5×10^{-2}	5.5×10^{-2}
	〃	^{22}Na	7.0×10^{-4}	
	〃	^{54}Mn	8.2×10^{-3}	
	〃	^{90}Sr	8.0×10^{-4}	
	〃	^{134}Cs (注2)	2.6×10^{-4}	
	第 3 排水溝	^{60}Co	0	5.0×10^{-5}
〃	^{134}Cs	2.2×10^{-5}		
〃	^{137}Cs	7.3×10^{-5}		
計	^3H	2.7×10^2	1.4×10^{-1}	
〃	^7Be	6.6×10^{-2}	6.4×10^{-2}	
〃	^{14}C	0	2.8	
〃	^{60}Co	2.7×10^{-4}	6.4×10^{-2}	
〃	^{137}Cs (注1)	1.5×10^{-2}	5.5×10^{-2}	
〃	^{22}Na	7.0×10^{-4}		
〃	^{54}Mn	8.2×10^{-3}		
〃	^{90}Sr	8.0×10^{-4}		
〃	^{134}Cs (注2)	2.8×10^{-4}		
〃	^{232}Th	3.9×10^{-5}		
〃	^{238}U	1.6×10^{-7}		
ク機原 ル構子 工サ 研イ力	再 処 理 施 設	^3H	4.9×10^2	4.4×10^{-2}
	〃	^{89}Sr	0	1.7×10^{-2}
	〃	^{90}Sr	0	8.2×10^{-3}

測定者	施設名	核種	放出量 (GBq)	
			実測分	不検出分
原子力機構 サイクル工研	再処理施設	^{95}Zr	0	1.9×10^{-2}
	〃	^{95}Nb	0	1.3×10^{-2}
	〃	^{103}Ru	0	8.2×10^{-3}
	〃	^{106}Ru - ^{106}Rh	0	2.4×10^{-1}
	〃	^{129}I	8.8×10^{-4}	9.5×10^{-3}
	〃	^{131}I	0	1.3×10^{-2}
	〃	^{134}Cs	0	8.2×10^{-3}
	〃	^{137}Cs	0	1.3×10^{-2}
	〃	^{141}Ce	0	1.7×10^{-2}
	〃	^{144}Ce - ^{144}Pr	0	1.7×10^{-1}
	〃	Pu (a)	8.1×10^{-5}	2.3×10^{-4}
原子力機構 大洗	北地区排水溝	^3H	6.5	1.8×10^{-1}
	〃	^{60}Co	0	1.7×10^{-2}
	〃	^{137}Cs	0	2.6×10^{-2}
	南地区排水溝	^{60}Co	0	1.1×10^{-4}
	〃	^{137}Cs	0	1.1×10^{-4}
原 電	東海発電所	^3H	5.9×10^{-2}	
	〃	^{60}Co	0	9.0×10^{-3}
	〃	^{90}Sr	2.1×10^{-4}	
	〃	^{137}Cs	0	1.1×10^{-2}
	〃	^{152}Eu	0	4.6×10^{-2}
	〃	^{154}Eu	0	2.7×10^{-2}
	東海第二発電所	^3H	8.7×10	5.1×10^{-2}
	〃	^{51}Cr	0	3.3×10^{-1}
	〃	^{54}Mn	0	4.6×10^{-2}
	〃	^{58}Co	0	4.6×10^{-2}
	〃	^{60}Co	0	5.3×10^{-2}
	〃	^{36}Cl	1.2×10^{-3}	
積水 デカ	排水調整槽	^3H	2.7×10	0
	〃	^{14}C	2.3×10	0

(注1) 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(注2) 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

2 積算線量

2-1 自然放射線の寄与も含む積算線量

区分	地区名		測定者	測定地点	測定値 ^(注1) (mGy)	実効線量 ^(注2) (mSv)
行政区域	東海	東海地区	県	東海村原子力科学館	0.85	0.68
				〃 東海中学校	0.71	0.57
				〃 舟石川小学校	0.74	0.59
				那珂市第一中学校	0.46	0.37
				〃 額田小学校	0.46	0.37
				〃 第二中学校	0.45	0.36
				〃 本米崎小学校	0.51	0.41
				〃 笠松運動公園	0.51	0.41
				〃 瓜連小学校	0.42	0.34
		原子力機構 原科研	東海村新川下流	0.98	0.78	
			〃 宿	0.68	0.54	
			〃 阿漕ヶ浦南西	1.1	0.86	
			〃 阿漕ヶ浦西	0.60	0.48	
			〃 白方	0.68	0.54	
			〃 原電グラウンド北西	0.56	0.45	
			〃 川根	0.73	0.58	
			〃 須和間	0.50	0.40	
			〃 亀下	0.75	0.60	
	原子力機構 サイクル工研	東海村照沼公民館	0.70	0.56		
		〃 川根公民館	0.78	0.62		
		〃 須和間公民館	0.77	0.62		
		〃 外宿公民館	0.59	0.47		
		〃 中丸小学校	0.70	0.56		
		〃 合同庁舎	0.66	0.53		
	原電	東海村原電グラウンド	1.1	0.85		
		〃 豊岡	0.59	0.47		
		〃 二軒茶屋	0.52	0.42		
		(平均)	0.67	0.53		
	日立	日立地区	県	日立市日立商業高等学校	1.1	0.86
				〃 日立第二高等学校	0.70	0.56
				〃 大久保小学校	0.58	0.46
				常陸太田市峰山中学校	0.55	0.44
		原電	日立市留	0.65	0.52	
			〃 東小沢小学校	0.75	0.60	
			〃 金沢小学校	0.54	0.43	
		(平均)	0.69	0.55		

区分	地区名		測定者	測定地点	測定値 ^(注1) (mGy)	実効線量 ^(注2) (mSv)	
行政区域	東海	ひたちなか地区	県	ひたちなか市勝田中央	0.78	0.62	
				〃 漁業無線局	1.1	0.87	
				〃 阿字ヶ浦中学校	1.3	1.0	
				〃 那珂湊支所 (旧那珂湊総合支所)	0.81	0.65	
			原子力機構サイクル工研	ひたちなか市長砂公民館	0.62	0.50	
				〃 足崎公民館	0.64	0.51	
				〃 前渡小学校	0.49	0.39	
				〃 高野小学校	0.63	0.50	
				〃 佐野小学校	0.45	0.36	
				〃 市役所	0.75	0.60	
	(平均)				0.75	0.60	
	大洗地区	県	大洗町南中学校	0.74	0.59		
			〃 大洗小学校 (旧磯浜小学校)	0.63	0.50		
			銚田市旭北小学校	0.85	0.68		
			〃 旭南小学校	1.4	1.1		
			〃 舟木小学校	0.91	0.73		
			水戸市稲荷第一小学校	0.56	0.45		
			茨城町若宮	0.52	0.42		
			〃 沼前小学校	0.59	0.47		
			〃 明光中学校	0.65	0.52		
		原子力機構大洗	大洗町北松川	0.56	0.45		
			銚田市上釜	0.80	0.64		
			大洗町成田	0.69	0.55		
			〃 夏海	0.53	0.42		
			銚田市下太田	0.53	0.42		
		(平均)				0.71	0.57
		比較対照地点	県	水戸市第五中学校	0.66	0.53	
原科研			水戸市水戸气象台	0.55	0.44		
サイクル工研	水戸市石川(旧環境監視センター)		0.79	0.63			
(平均)				0.67	0.53		
施設境界	原子力機構原科研	原子力機構原科研	周辺監視区域境界 (MP-11)	2.0	1.6		
			〃 (プル研裏)	0.71	0.57		
			〃 (MP-17)	1.1	0.87		
			〃 (MP-18)	3.7	3.0		
			〃 (MS-2)	1.5	1.2		
		(平均)				1.8	1.5

区分	地区名		測定者	測定地点	測定値 ^(注1) (mGy)	実効線量 ^(注2) (mSv)
施設境界	東海地区	原子力機構 サイクル 工 研	サ イ ク ル 工 機 構	周辺監視区域境界 (S-1)	1.5	1.2
				〃 (S-6)	2.0	1.6
				〃 (S-8)	1.7	1.4
				〃 (S-11)	1.2	0.93
				(平均)	1.6	1.3
	東海地区	原 電	原 電	周辺監視区域境界 (MP-A)	0.89	0.71
				〃 (MP-B)	0.98	0.78
				〃 (MP-C)	1.1	0.86
				〃 (MP-D)	1.2	0.94
				(平均)	1.0	0.83
	東海地区	大洗地区	原子力機構 大洗	周辺監視区域境界 (敷地北)	1.1	0.88
				〃 (北門)	0.84	0.67
				〃 (敷地東)	4.2	3.3
				〃 (敷地南)	1.5	1.2
				〃 (敷地西)	1.1	0.90
〃 (排水監視施設)				1.7	1.4	
周辺監視区域境界 (No.1)				1.9	1.5	
〃 (No.2)				1.3	1.1	
(平均)	1.7	1.4				

(注1) 測定値：年間積算（91日当りに換算した3ヶ月間の換算値を使用した年間積算線量）。

(注2) 実効線量：γ線による外部被ばく実効線量。実効線量への換算は、0.8Sv/Gyとし、測定地点毎に0.8を掛けて算出した。

区分	地 区 名		測定者	測 定 地 点	測定値 ^(注1) (mGy)	実効線量 ^(注2) (mSv)	
行 政 区 域	東 海	ひたちなか地区	県	ひたちなか市勝田中央	0.42	0.34	
				〃 漁業無線局	0.82	0.66	
				〃 阿字ヶ浦中学校	1.0	0.81	
				〃 那珂湊支所 (旧那珂湊総合支所)	0.42	0.34	
			原子力機構サイクル工研	ひたちなか市長砂公民館	0.26	0.21	
				〃 足崎公民館	0.27	0.22	
				〃 前渡小学校	0.11	0.088	
				〃 高野小学校	0.28	0.22	
				〃 佐野小学校	0.15	0.12	
				〃 市役所	0.41	0.33	
	(平 均)				0.41	0.33	
	大 洗 地 区	県	大洗町南中学校	0.39	0.31		
			〃 大洗小学校 (旧磯浜小学校)	0.35	0.28		
			銚田市旭北小学校	0.55	0.44		
			〃 旭南小学校	1.1	0.84		
			〃 舟木小学校	0.64	0.51		
			水戸市稲荷第一小学校	0.24	0.19		
			茨城町若宮	0.20	0.16		
			〃 沼前小学校	0.33	0.26		
			〃 明光中学校	0.32	0.26		
			原子力機構大洗	大洗町北松川	0.21	0.17	
		銚田市上釜		0.55	0.44		
		大洗町成田		0.43	0.34		
		〃 夏海		0.17	0.14		
		銚田市下太田		0.29	0.23		
		(平 均)				0.41	0.33
		比 較 対 照 地 点	県	水戸市第五中学校	0.38	0.30	
原科研			水戸市水戸气象台	0.30	0.24		
サイクル工 研			水戸市石川(旧環境監視センター)	0.46	0.37		
(平 均)				0.38	0.30		
施 設 境 界	原子力機構原科研	原子力機構原科研	周辺監視区域境界 (MP-11)	1.7	1.3		
			〃 (プル研裏)	0.43	0.34		
			〃 (MP-17)	0.81	0.65		
			〃 (MP-18)	3.4	2.7		
			〃 (MS-2)	1.1	0.91		
		(平 均)				1.5	1.2

区分	地区名		測定者	測定地点	測定値 ^(注1) (mGy)	実効線量 ^(注2) (mSv)
施設境界	東海地区	原子力機構 サイクル 工研	サ イ ク ル 工 機 構 研	周辺監視区域境界 (S-1)	1.2	0.92
				〃 (S-6)	1.7	1.4
				〃 (S-8)	1.4	1.1
				〃 (S-11)	0.88	0.70
				(平均)	1.3	1.0
	東海地区	原電	原 電	周辺監視区域境界 (MP-A)	0.53	0.42
				〃 (MP-B)	0.58	0.46
				〃 (MP-C)	0.68	0.54
				〃 (MP-D)	0.85	0.68
				(平均)	0.62	0.50
	東海地区	大洗地区	原子力機構 大洗	周辺監視区域境界 (敷地北)	0.83	0.66
				〃 (北門)	0.58	0.46
				〃 (敷地東)	3.9	3.1
				〃 (敷地南)	1.3	1.0
				〃 (敷地西)	0.82	0.66
〃 (排水監視施設)				1.5	1.2	
周辺監視区域境界 (No.1)				1.6	1.3	
〃 (No.2)				1.1	0.84	
(平均)	1.4	1.2				

(注1) 測定値：年間積算（91日当たりに換算した3ヶ月間の換算値を使用した年間積算線量）。ただし、自然放射線の寄与分としては、各地点における平成17年度から平成21年度の5年間の測定値の平均値とした。

(注2) 実効線量：γ線による外部被ばく実効線量。実効線量への換算は、0.8Sv/Gyとし、測定地点毎に0.8を掛けて算出した。

2-3 自然放射線量（各地点における過去5年間（平成17年度から平成21年度）の積算線量）

区分	地区名	測定者	測定地点	(mGy)					平均値 (mGy)	実効線量換算 (mSv)	
				H17	H18	H19	H20	H21			
行政区域	東海地区	県	東海村原子力科学館	0.30	0.31	0.30	0.29	0.30	0.30	0.24	
			〃 東海中学校	0.24	0.27	0.26	0.25	0.26	0.26	0.21	
			〃 舟石川小学校	0.32	0.31	0.32	0.33	0.32	0.32	0.26	
			那珂市第一中学校	0.27	0.27	0.27	0.25	0.25	0.26	0.21	
			〃 額田小学校	0.34	0.33	0.34	0.32	0.32	0.33	0.26	
			〃 第二中学校	0.24	0.25	0.26	0.25	0.24	0.25	0.20	
			〃 本米崎小学校	0.32	0.31	0.32	0.32	0.32	0.32	0.26	
			〃 笠松運動公園	0.28	0.28	0.29	0.28	0.28	0.28	0.22	
		〃 瓜連小学校	0.25	0.25	0.25	0.26	0.24	0.25	0.20		
		原子力機構 原科研	東海村新川下流	0.34	0.33	0.35	0.36	0.35	0.35	0.28	
			〃 宿	0.32	0.32	0.34	0.33	0.32	0.33	0.26	
			〃 阿漕ヶ浦南西	0.21	0.20	0.22	0.23	0.24	0.22	0.18	
			〃 阿漕ヶ浦西	0.32	0.32	0.33	0.32	0.32	0.32	0.26	
			〃 白方	0.32	0.33	0.34	0.33	0.32	0.33	0.26	
			〃 原電グランド北西	0.35	0.35	0.36	0.35	0.35	0.35	0.28	
			〃 川根	0.32	0.33	0.34	0.32	0.32	0.33	0.26	
			〃 須和間	0.32	0.32	0.33	0.32	0.31	0.32	0.26	
		〃 亀下	0.40	0.41	0.42	0.42	0.41	0.41	0.33		
		原子力機構 サイクル工研	東海村照沼公民館	0.41	0.41	0.38	0.40	0.42	0.40	0.32	
			〃 川根公民館	0.38	0.37	0.40	0.38	0.38	0.38	0.30	
			〃 須和間公民館	0.34	0.32	0.36	0.33	0.35	0.34	0.27	
			〃 外宿公民館	0.38	0.36	0.38	0.35	0.40	0.37	0.30	
			〃 中丸小学校	0.31	0.31	0.33	0.31	0.32	0.32	0.26	
			〃 合同庁舎	0.41	0.38	0.43	0.39	0.39	0.40	0.32	
		原電	東海村原電グランド	0.36	0.36	0.36	0.34	0.35	0.35	0.28	
			〃 豊岡	0.44	0.42	0.42	0.41	0.43	0.42	0.34	
			〃 二軒茶屋	0.28	0.33	0.32	0.32	0.33	0.32	0.26	
		(平均)								0.33	0.26
		東海地区	県	日立市日立商業高等学校	0.31	0.31	0.30	0.31	0.31	0.31	0.25
				〃 日立第二高等学校	0.29	0.31	0.30	0.31	0.30	0.30	0.24
				〃 大久保小学校	0.28	0.27	0.28	0.28	0.28	0.28	0.22
				常陸太田市峰山中学校	0.35	0.35	0.36	0.36	0.36	0.36	0.29
			原電	日立市留	0.34	0.32	0.31	0.30	0.32	0.32	0.26
				〃 東小沢小学校	0.31	0.30	0.30	0.29	0.29	0.30	0.24
				〃 金沢小学校	0.26	0.24	0.24	0.24	0.24	0.24	0.19
			(平均)								0.30

区分	地区名		測定者	測定地点	(mGy)					平均値 (mGy)	実効線量換算 (mSv)
					H17	H18	H19	H20	H21		
行政区域	東海	ひたちなか地区	県	ひたちなか市勝田中央	0.36	0.36	0.36	0.36	0.36	0.36	0.29
				〃 漁業無線局	0.28	0.27	0.28	0.28	0.28	0.28	0.22
				〃 阿字ヶ浦中学校	0.28	0.29	0.29	0.30	0.29	0.29	0.23
				〃 那珂湊支所 (旧那珂湊総合支所)	0.39	0.39	0.39	0.40	0.40	0.39	0.31
			原子力機構サイクル工研	ひたちなか市長砂公民館	0.38	0.35	0.34	0.36	0.37	0.36	0.29
				〃 足崎公民館	0.37	0.37	0.38	0.36	0.35	0.37	0.30
				〃 前渡小学校	0.40	0.38	0.39	0.38	0.37	0.38	0.30
				〃 高野小学校	0.35	0.35	0.37	0.35	0.35	0.35	0.28
				〃 佐野小学校	0.29	0.28	0.32	0.30	0.29	0.30	0.24
				〃 市役所	0.35	0.34	0.36	0.32	0.33	0.34	0.27
	(平均)									0.34	0.27
	大洗地区	県	大洗町南中学校	0.35	0.35	0.36	0.36	0.35	0.35	0.28	
			〃 大洗小学校 (旧磯浜小学校)	0.28	0.29	0.28	0.28	0.29	0.28	0.22	
			銚田市旭北小学校 ^(注3)	0.29	0.30	0.30		0.32	0.30	0.24	
			〃 旭南小学校	0.35	0.35	0.34	0.34	0.35	0.35	0.28	
			〃 舟木小学校	0.27	0.27	0.26	0.27	0.27	0.27	0.22	
			水戸市稲荷第一小学校	0.32	0.31	0.32	0.32	0.32	0.32	0.26	
			茨城町若宮	0.32	0.32	0.32	0.32	0.33	0.32	0.26	
			〃 沼前小学校	0.26	0.27	0.26	0.26	0.25	0.26	0.21	
			〃 明光中学校	0.32	0.34	0.34	0.32	0.33	0.33	0.26	
原子力機構大洗		大洗町北松川	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35	0.28		
	銚田市上釜	0.26	0.25	0.26	0.25	0.25	0.25	0.20			
	大洗町成田	0.26	0.26	0.26	0.25	0.26	0.26	0.21			
	〃 夏海	0.38	0.37	0.36	0.34	0.35	0.36	0.29			
	銚田市下太田	0.24	0.23	0.24	0.25	0.24	0.24	0.19			
(平均)									0.30	0.24	
比較対照地点	県	水戸市第五中学校	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28	0.22		
		原科研	水戸市水戸气象台	0.24	0.24	0.26	0.27	0.26	0.25	0.20	
		サイクル工研	水戸市石川(旧環境監視センター)	0.32	0.34	0.35	0.33	0.32	0.33	0.26	
		(平均)									0.29
施設境界	原子力機構原科研	原子力機構原科研	周辺監視区域境界 (MP-11)	0.34	0.34	0.35	0.36	0.34	0.35	0.28	
			〃 (プル研裏)	0.27	0.28	0.29	0.29	0.28	0.28	0.22	
			〃 (MP-17)	0.28	0.28	0.30	0.29	0.28	0.29	0.23	
			〃 (MP-18)	0.30	0.30	0.31	0.31	0.31	0.31	0.25	
			〃 (MS-2)	0.35	0.35	0.37	0.36	0.36	0.36	0.29	
		(平均)									0.32

区分	地区名		測定者	測定地点	(mGy)					平均値 (mGy)	実効線量換算 (mSv)
					H17	H18	H19	H20	H21		
施設境界	東海地区	原子力機構 サイクル工研	原子力機構 サイクル工研	周辺監視区域境界 (S-1)	0.33	0.35	0.36	0.34	0.35	0.35	0.28
				〃 (S-6)	0.28	0.28	0.29	0.27	0.29	0.28	0.22
				〃 (S-8)	0.27	0.27	0.29	0.27	0.29	0.28	0.22
				〃 (S-11)	0.33	0.31	0.31	0.32	0.32	0.32	0.26
				(平均)						0.31	0.25
	東海地区	原子力機構 サイクル工研	原子力機構 サイクル工研	周辺監視区域境界 (MP-A)	0.38	0.37	0.36	0.35	0.36	0.36	0.29
				〃 (MP-B)	0.43	0.40	0.39	0.39	0.40	0.40	0.32
				〃 (MP-C)	0.44	0.42	0.40	0.42	0.41	0.42	0.34
				〃 (MP-D)	0.36	0.35	0.34	0.34	0.34	0.35	0.28
				(平均)						0.38	0.31
	東海地区	原子力機構 大洗地区	原子力機構 大洗	周辺監視区域境界 (敷地北)	0.28	0.26	0.27	0.28	0.28	0.27	0.22
				〃 (北門)	0.28	0.24	0.25	0.26	0.25	0.26	0.21
				〃 (敷地東)	0.28	0.26	0.26	0.27	0.27	0.27	0.22
				〃 (敷地南)	0.24	0.23	0.23	0.24	0.23	0.23	0.18
				〃 (敷地西)	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28	0.22
				〃 (排水監視施設)	0.25	0.26	0.25	0.27	0.24	0.25	0.20
				周辺監視区域境界 (No.1)	0.26	0.26	0.27	0.27	0.27	0.27	0.22
〃 (No.2)				0.25	0.24	0.25	0.25	0.25	0.25	0.20	
(平均)									0.26	0.21	

(注1) 測定値：年間積算（91日当たりに換算した3ヶ月間の換算値を使用した年間積算線量）。

(注2) 実効線量：γ線による外部被ばく実効線量。実効線量への換算は、0.8Sv/Gyとし、測定地点毎に0.8を掛けて算出した。

(注3) 旭北小学校は、平成20年度第1四半期に線量計紛失による欠測があったため、平成20年度を除く4年間の測定結果の平均値として算出した。

3 環境試料中の放射性核種分析結果

3-1 農畜産物中の放射性核種分析結果

3-1-1 牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果（⁹⁰Sr, ¹³⁴Cs, ¹³⁷Cs）

測定者	採取地点	採取月日	分析値 (Bq/L)	
			⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]
県	茨城県央クーラーステーション	4.16	×	×
		10.1	×	×
	里美クーラーステーション	4.16	×	×
		10.1	×	×

3-1-2 野菜中の放射性核種分析結果（⁹⁰Sr, ¹³¹I, ¹³⁴Cs, ¹³⁷Cs）

測定者	種類	採取地点	採取月日	分析値 (Bq/kg・生)		
				⁹⁰ Sr	¹³¹ I	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]
県	キャベツ	東海村舟石川	5.15	×	×	×
	ハクサイ		11.22	0.15	×	×
	キャベツ	東海村白方	6.20	0.097	×	×
	ホウレン草		11.1	×	×	0.60 [×]
	キャベツ	大洗町成田	5.22	0.084	×	×
	ハクサイ		12.4	0.058	×	×
	キャベツ	那珂市横堀	5.20	0.057	×	×
	ホウレン草		11.14	0.57	×	×
	キャベツ	水戸市石川	5.16	×	×	1.0 [0.56]
	ホウレン草		11.13	×	×	×
原子力機構原科研	ホウレン草	東海村須和間	4.4	0.067	×	0.88 [0.44]
	ホウレン草		11.8	0.094	×	1.4 [0.58]
原子力機構 サイクル工研	ホウレン草	ひたちなか市長砂	4.10	0.045	×	0.64 [×]
	ホウレン草		11.6	0.053	×	0.54 [×]
原子力機構大洗	ホウレン草	銚田市田崎	4.16	0.20	×	×
	ハクサイ		11.25	0.042	×	×
原電	ホウレン草	日立市留	4.26	0.043	×	1.7 [0.88]
	ホウレン草		10.22	0.078	×	1.1 [0.47]

3-1-3 精米中の放射性核種分析結果 (^{14}C , ^{90}Sr , ^{134}Cs , ^{137}Cs)

測定者	採取地点	採取月日	分析値(Bq/kg・生)		
			^{14}C	^{90}Sr	^{137}Cs [^{134}Cs]
県	東海村舟石川	11.22	90	×	0.49 [×]
	那珂市横堀	11.14	93	×	0.98 [0.43]
	水戸市石川	11.13	91	×	×
原子力機構原科研	東海村須和間	10.7	/	×	1.6 [0.72]
原子力機構 サイクル工研	ひたちなか市長砂	10.16	93	×	0.77 [×]
原子力機構大洗	鉾田市田崎	10.10	/	×	1.1 [0.52]
原電	日立市留	10.22	/	×	×

3-2 陸水中の放射性核種分析結果

3-2-1 飲料水(水道水)中の放射性核種分析結果 (^3H)

測定者	採取地点	採取月日	核種	分析値 (Bq/L)
県	水戸市上国井町 ^(注) (那珂川)	4.22	^3H	×
		10.8	^3H	×
原子力機構原科研	東海村須和間(久慈川)	4.18	^3H	×
		10.3	^3H	×
原子力機構 サイクル工研	ひたちなか市長砂(那珂川)	4.4	^3H	×
		10.9	^3H	×
原子力機構大洗	大洗町北松川(地下水)	4.30	^3H	×
		10.3	^3H	×
原電	日立市留(久慈川)	4.26	^3H	×
		10.22	^3H	×
積水メディカル	東海村村松(井戸水)	4.30	^3H	×
		11.29	^3H	×

(注) 平成25年度より水戸市愛宕町から水戸市上国井町に地点変更。

3-3 海産物中の放射性核種分析結果

3-3-1 魚類 (¹³⁷Cs他)

測定者	種類	部位	採取海域	採取月日	分析値(Bq/kg・生)								
					⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu(α)
県	シラス	全部	久慈沖	5.8	×	×	×	×	×	×	0.88 [0.41]	×	×
	〃	〃	〃	11.1	×	×	×	×	×	×	1.6 [0.68]	×	×
	〃	〃	大洗沖	4.30	×	×	×	×	×	×	0.43 [0.21]	×	×
	〃	〃	〃	10.28	×	×	×	×	×	×	1.4 [0.56]	×	×
	チダイ	可食部	久慈沖	5.10	×	×	×	×	×	×	2.9 [1.4]	×	×
	〃	〃	〃	10.21	×	×	×	×	×	×	1.7 [0.73]	×	×
	〃	〃	大洗沖	4.30	×	×	×	×	×	×	3.6 [1.8]	×	×
	〃	〃	〃	11.20	×	×	×	×	×	×	1.1 [0.45]	×	×
原子力機構 原科研	シラス	全部	東海沖	6.17	×	×	×	×	×	×	0.36 [×]	×	×
	〃	〃	〃	11.18	×	×	×	×	×	×	1.0 [0.42]	×	×
	ヒラメ	可食部	〃	7.17	×	×	×	×	×	×	3.5 [1.7]	×	×
	カレイ	〃	〃	11.26	×	×	×	×	×	×	1.9 [0.75]	×	×
原子力機構 サイクル工研	シラス	全部	東海沖	4.16	×	×	×	×	×	×	0.47 [0.22]	×	×
	〃	〃	〃	7.18	×	×	×	×	×	×	0.34 [×]	×	×
	(注1) 〃	〃	大洗沖	7.31	×	×	×	×	×	×	0.42 [×]	×	×
	(注1) 〃	〃	東海沖	11.1	×	×	×	×	×	×	1.0 [0.48]	×	×
	ヒラメ	可食部	〃	4.2	×	×	×	×	×	×	3.5 [1.8]	×	×
	〃	〃	〃	7.20	×	×	×	×	×	×	4.1 [1.9]	×	×
	(注2) 〃	〃	〃	12.12	×	×	×	×	×	×	1.7 [0.69]	×	×
	〃	〃	磯崎沖	2.24	×	×	×	×	×	×	1.8 [0.67]	×	×

測定者	種類	部位	採取海域	採取月日	分析値(Bq/kg・生)								
					⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu(α)
原子力機構大洗	シラス	全部	大洗沖	5.9	×	×	×	×	×	×	0.25 [×]	×	
	〃	〃	〃	10.29	×	×	×	×	×	×	1.4 [0.57]	×	
	ヒラメ	可食部	〃	5.10	×	×	×	×	×	×	2.1 [1.0]	×	
	〃	〃	〃	12.5	×	×	×	×	×	×	1.4 [0.56]	×	

(注1) 磯崎沖のシラスが採取不能のため、大洗沖及び東海沖のシラスを調査対象とした。

(注2) 磯崎沖の魚類(シラスを除く)が採取不能のため、東海沖のヒラメを調査対象とした。

3-3-2 貝類 (¹³⁷Cs他)

測定者	種類	部位	採取海域	採取月日	分析値(Bq/kg・生)								
					⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu(α)
県	(注3-1) ハマグリ	可食部	大洗	4.30	×	×	×	×	×	×	0.86 [0.43]	×	×
	(注3-2) 〃	〃	〃	10.30	×	×	×	×	×	×	0.87 [0.36]	×	0.0035
	(注3-3) ウバガイ	〃	〃	4.30	×	×	×	×	×	×	1.5 [0.79]	×	0.0042
	(注3-4) 〃	〃	〃	10.30	×	×	0.045	×	×	×	0.31 [×]	×	0.0045
	(注3-5) エゾアワビ	〃	久慈浜	6.18	×	×	×	×	×	×	0.37 [×]	×	0.0034
	(注3-6) 〃	〃	〃	9.4	×	×	×	×	×	×	0.34 [×]	×	0.0041
原子力機構サイクル工研	(注3-7) アワビ	〃	〃	6.18	×	×	×	×	×	×	×	×	0.0026
	(注3-8) 〃	〃	〃	8.20	×	×	×	×	×	×	×	×	0.0025
	(注1) (注3-9) ハマグリ	〃	大洗	4.30	×	×	×	×	×	×	0.21 [×]	×	×
	(注2) (注3-10) 〃	〃	〃	10.30	×	×	×	×	×	×	0.28 [×]	×	×
	(注2) (注3-11) 〃	〃	〃	1.28	×	×	×	×	×	×	×	×	×
大原子力機構大洗	(注3-12) ハマグリ	可食部	大洗	4.30	×	×	×	×	×	×	0.31 [×]	×	
	(注3-13) 〃	〃	〃	10.30	×	×	×	×	×	×	0.40 [×]	×	

測定者	種類	部位	採取海域	採取月日	分析値(Bq/kg・生)									
					⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu(α)	
大原子力機構 洗	(注3-14) ウバ貝	可食部	大洗	4.30	×	×	×	×	×	×	×	0.58 [0.26]	×	
	(注3-15) 〃	〃	〃	10.30	×	×	×	×	×	×	×	0.22 [×]	×	

(注1) 久慈浜の貝類が採取不能のため、大洗のハマグリを調査対象とした。

(注2) 磯崎の貝類が採取不能のため、大洗のハマグリを調査対象とした。

(注3) 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、その他の人工放射性核種 (^{110m}Ag) が検出された。

(注3-1) 0.50 Bq/kg・生

(注3-2) 0.38 Bq/kg・生

(注3-3) 0.20 Bq/kg・生

(注3-4) 0.11 Bq/kg・生

(注3-5) 0.55 Bq/kg・生

(注3-6) 0.61Bq/kg・生

(注3-7) 0.11 Bq/kg・生

(注3-8) 0.054 Bq/kg・生

(注3-9) 0.19 Bq/kg・生

(注3-10) 0.14 Bq/kg・生

(注3-11) 0.074 Bq/kg・生

(注3-12) 0.28 Bq/kg・生

(注3-13) 0.24 Bq/kg・生

(注3-14) 0.15 Bq/kg・生

(注3-15) 0.090 Bq/kg・生

3-3-3 海藻類 (¹³⁷Cs他)

測定者	種類	部位	採取海域	採取月日	分析値(Bq/kg・生)									
					⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu(α)	
県	アラメ	可食部	久慈浜	5.24	×	×	0.042	×	×	×	×	0.58 [0.27]	×	0.0021
	〃	〃	〃	12.9	×	×	×	×	×	×	×	0.70 [0.25]	×	0.0037
	〃	〃	〃	1.7	×	×	×	×	×	×	×	0.41 [×]	×	×
	(注1-1) 〃	〃	大洗	5.27	×	×	0.046	×	×	×	×	0.94 [0.42]	×	×
	(注1-2) 〃	〃	〃	10.15	×	×	0.062	×	×	×	×	0.62 [0.27]	×	0.0044
	ワカメ	〃	久慈浜	5.24	×	×	×	×	×	×	×	0.37 [×]	×	×
	ヒジキ	〃	大洗	8.6	×	×	0.072	×	×	×	×	2.0 [0.91]	×	×
	〃	〃	〃	12.5	×	×	0.051	×	×	×	×	0.74 [0.29]	×	×
原子力機構 サイクル工研	アラメ	〃	久慈浜	5.24	×	×	0.056	×	×	×	×	0.37 [×]	×	×
	(注1-3) 〃	〃	〃	7.9	×	×	0.054	×	×	×	×	0.48 [0.22]	×	×
	ワカメ	〃	〃	5.24	×	×	×	×	×	×	×	0.35 [×]	×	×
	〃	〃	〃	7.9	×	×	0.041	×	×	×	×	0.22 [×]	×	×
	(注1-4) アラメ	〃	磯崎	5.13	×	×	×	×	×	×	×	0.25 [×]	×	×

測定者	種類	部位	採取海域	採取月日	分析値(Bq/kg・生)								
					⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu(α)
原子力機構 サイクル工研	(注1-5) アラメ	可食部	磯崎	10.29	×	×	0.088	×	×	×	0.41 [×]	×	0.0045
	〃	〃	〃	2.27	×	×	×	×	×	×	0.35 [×]	×	×
	ワカメ	〃	〃	5.13	×	×	×	×	×	×	×	×	0.0022
原子力機構 大洗	(注1-6) アラメ	〃	大洗	5.27	×	×	0.052	×	×	×	0.39 [×]	×	/
	(注1-7) 〃	〃	〃	10.15	×	×	×	×	×	×	0.54 [0.20]	×	/
	ヒジキ	〃	〃	9.2	×	×	×	×	×	×	0.55 [0.23]	×	/
	〃	〃	〃	12.5	×	×	×	×	×	×	0.44 [0.20]	×	/
原電	アラメ	〃	久慈浜	4.12	×	×	×	×	×	×	3.4 [1.6]	×	/
	〃	〃	〃	7.1	×	×	0.072	×	×	×	3.5 [1.7]	×	/
	ワカメ	〃	〃	4.12	×	×	×	×	×	×	2.1 [1.1]	×	/
	〃	〃	〃	7.1	×	×	0.071	×	×	×	3.1 [1.5]	×	/

(注1) 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、その他の人工放射性核種 (^{110m}Ag) が検出された。

(注1-1) 0.012 Bq/kg・生

(注1-2) 0.016 Bq/kg・生

(注1-3) 0.031 Bq/kg・生

(注1-4) 0.038 Bq/kg・生

(注1-5) 0.12 Bq/kg・生

(注1-6) 0.081 Bq/kg・生

(注1-7) 0.14 Bq/kg・生

参考 1 原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果

1. 調査目的

再処理施設低レベル廃液の海洋放出に伴う放出口周辺海域における放射能水準の変動を詳細に把握するため、放出口を中心とした一定海域について海水の放射性物質濃度の調査を行う。

2. 調査方法

放出口周辺、東西 3 km、南北 10 km の海域において表層 30 地点で採水し、全 β 放射能 (30 地点)、トリチウム (30 地点)、 ^{137}Cs (7 地点) について分析する。

本調査は、原則として毎月上旬に定期的実施する他、排水中の全 β 放射能濃度が、 $6.11\text{Bq}/\text{cm}^3$ を超えた場合に実施する。

3. 調査結果

当期の調査は、1 月 8 日、2 月 6 日及び 3 月 4 日に実施した。

その結果、上記海域の海水中放射性物質濃度の平均値は、全 β 放射能について $0.040\text{Bq}/\text{L}$ 、トリチウムについて検出限界値 ($40\text{Bq}/\text{L}$) 未満、 ^{137}Cs について $0.017\text{Bq}/\text{L}$ であった。なお、放出排水の全 β 放射能濃度が、 $6.11\text{Bq}/\text{cm}^3$ を超えることはなかった。

なお、東京電力福島第一原子力発電所事故の放射性物質放出の影響により ^{137}Cs が検出された。

採水地点別濃度 (3ヶ月平均値)

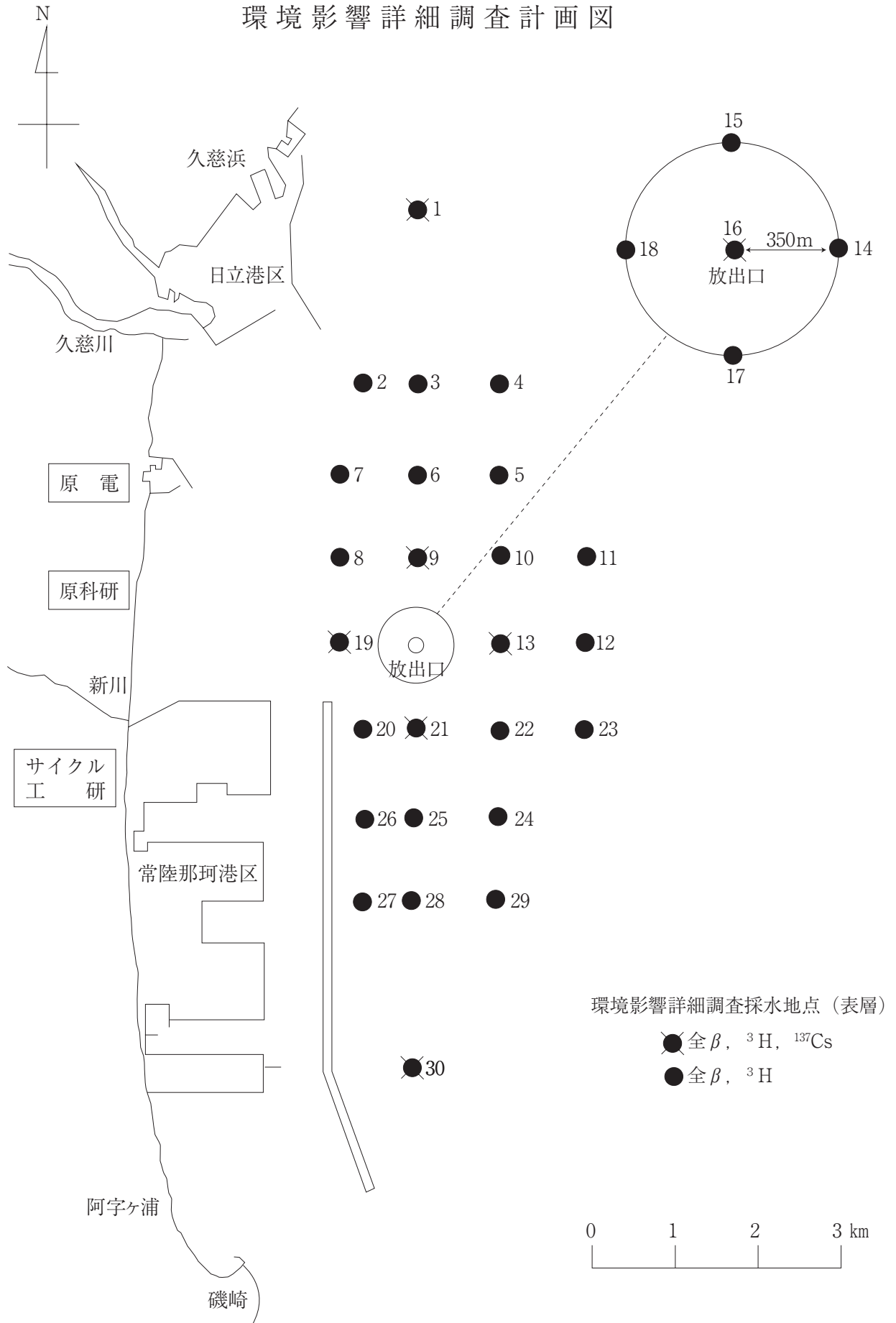
採水地点	全β放射能	トリチウム	¹³⁷ Cs
	(Bq/L)	(Bq/L)	(Bq/L)
1	×	×	0.021
2	×	×	
3	×	×	
4	×	×	
5	×	×	
6	0.041	×	
7	×	×	
8	×	×	
9	×	×	0.017
10	0.040	×	
11	0.040	×	
12	0.041	×	
13	0.040	×	0.017
19	×	×	0.017
20	×	×	
21	×	×	0.017
22	×	×	
23	0.041	×	
24	×	×	
25	×	×	
26	×	×	
27	×	×	
28	0.040	×	
29	×	×	
30	×	×	0.016
放出点	×	×	0.017

(注1) 検出限界値：全β放射能0.04 Bq/L

トリチウム 40 Bq/L

(注2) 放出点：放出口周辺5地点(14~18)の平均値

環境影響詳細調査計画図



参考2 主要施設運転状況（平成25年度）

□ : 運転

事業所名	施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(注1) 原子力機構 原子力科 研	JRR-2							残存施設の維持管理					
	JRR-3							施設定期検査					
(注2) 原子力機構 サイクル工研	再処理施設							施設定期検査					
	JMTR							施設定期検査					
(注3) 原子力機構 大 洗	HTR							施設定期検査					
	高速実験炉 「常陽」							施設定期検査					
(注4) 原 電	東海発電所							廃止措置					
	東海第二 発電所							第25回定期検査					

(注1) 原子力科 研

JRR-2：平成8年12月19日に共同利用運転を終了し解体工事に着手。原子炉本体を密封するとともに周辺機器の撤去を終了し、平成16年4月より残存施設の維持管理中。
JRR-3：施設定期検査（平成22年11月20日から受検）

(注2) サイクル工研

再処理施設：施設定期検査（平成19年7月30日から受検）

(注3) 原子力機構
大 洗

JMTR：施設定期検査（平成18年9月1日から受検）

HTR：施設定期検査（平成23年2月1日から受検）

高速実験炉「常陽」：施設定期検査（平成19年5月15日から受検）

(注4) 原 電

東海発電所：平成10年3月31日 発電（運転）停止

平成13年12月4日 廃止措置着手

東海第二発電所：平成23年5月21日 第25回定期検査開始

再処理施設処理状況（せん断処理について記載）

処 理 期 間	対 象 発 電 所 名	炉 型 式 (PWR,BWR又はATR)	処 理 量 (T)	平 均 燃 焼 度 (MWD/T)	冷 却 日 数 (年)
計					

別表1 環境試料の核種濃度検出限界

項目	単位	³ H	¹⁴ C	⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³¹ I	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	¹⁵² Eu	¹⁵⁴ Eu	U	Pu
塵埃	mBq/m ³			0.1		0.1		0.15	0.1	1		0.1	1				0.00015
降下塵	Bq/m ²			0.4		0.4	0.15	0.7	0.4	4		0.4	4				
牛乳	Bq/L						0.04				0.2	0.4					
野菜	Bq/kg・生						0.04				0.4	0.4					
精米	Bq/kg・生		2				0.04					0.4					
陸土	Bq/kg・乾			1		1				10		1	10				
陸水	Bq/L	20		0.008		0.008				0.02		0.004	0.02			0.1	
海水	Bq/L	20		0.008		0.008	0.004	0.04	0.02	0.02		0.004	0.02				
海底土	Bq/kg・乾			1		1	0.4	2	0.9	6		0.4	6				0.04
海産物	Bq/kg・生			0.2		0.2	0.04	0.4	0.2	0.8		0.2	0.8				0.002
排水口 近辺 土砂	Bq/kg・乾			1	1	1	0.2					1		5	3	20	0.04

別表2 排水中の全β・全γ検出限界

(1) 全β検出限界

測定項目	区分	単位	検出限界	備考
排水	淡水	Bq/cm ³	2×10 ⁻²	再処理
			2×10 ⁻⁴	その他

(2) 全γ検出限界

排水溝名	単位	検出限界
原子力機構原科研(第2)	Bq/cm ³	2×10 ⁻²
原子力機構サイクル工研(再処理)		2×10 ⁻¹
原子力機構大洗		6×10 ⁻²
原電(東海第二)		1×10 ⁻²

別表3 排気の不検出分放出量算出方法

事業所名	施設名		核種等	算出方法
原子力機構原科研	J	R R - 2	^3H	$Q \times DL$
	J	R R - 3	希ガス	〃
			^3H	〃
	J	R R - 4	希ガス	〃
	N	S R R	〃	〃
			^{131}I	〃
	燃料試験施設		希ガス	〃
			^{131}I	〃
燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)			〃	
燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)		希ガス	〃	
		^{131}I	〃	
		Pu	〃	
原子力機構 サイクル工研	プルトニウム燃料第一，第二第三開発施設，プルトニウム廃棄物処理開発施設		$\alpha(\text{Pu})$	〃
	再 処 理 施 設	主排気筒	希ガス	〃
			^3H	〃
			^{14}C	〃
			^{131}I	〃
			^{129}I	〃
		第一付属排気筒	希ガス	〃
			^3H	〃
			^{14}C	〃
			^{131}I	〃
			^{129}I	〃
	第二付属排気筒	^{85}Kr	〃	
		^3H	〃	
		^{14}C	〃	
		^{131}I	〃	
		^{129}I	〃	
	高レベル放射性物質研究施設 (CPF)		希ガス	〃
			^3H	〃
			^{131}I	〃

事業所名	施設名	核種等	算出方法
原子力機構大洗	J M T R	希ガス	Q×DL
	H T T R	希ガス	〃
		¹³¹ I	〃
		³ H	〃
	照射燃料集合体試験施設 (FMF)	希ガス	Q(ピンパンクチャー時)×DL
		¹³¹ I	Q×DL
	高速実験炉「常陽」	希ガス	〃
¹³¹ I		〃	
原子力機構那珂	J T - 60	³ H	(中性子発生量)
原 電	東 海 発 電 所	⁶⁰ Co	Q×DL
		¹³⁷ Cs	〃
	東 海 第 二 発 電 所	希ガス	〃
		¹³¹ I	〃
住 友 鋳 山	技 術 セ ン タ ー	U	〃
J C O	第 1 管 理 棟	〃	〃
	第 2 管 理 棟	〃	〃
	固 体 廃 棄 物 処 理 棟	〃	〃
	第 3 管 理 棟	〃	〃
三 菱 原 燃	転 換 工 場	〃	〃
	成 形 工 場	〃	〃
	第 1 廃 棄 物 処 理 所	〃	〃
	第 2 廃 棄 物 処 理 所	〃	〃
	燃 料 加 工 試 験 棟	〃	〃
N D C	照 射 後 試 験 棟	希ガス	〃
		¹³¹ I	〃
	化 学 分 析 棟	〃	〃
		β	〃
	ウ ラ ン 棟	U	〃
	燃 料 試 験 棟	〃	〃
材 料 試 験 棟	β	〃	
積水メディカル	集 合 排 気 棟	³ H	Q(開放系での取扱い時間における排気量)×DL+(実験動物 投与放射エネルギー)×(呼吸中排泄割合)
		¹⁴ C	
	第 4 棟 排 気 棟	³ H	
		¹⁴ C	

事業所名	施設名	核種等	算出方法
東大	原子炉棟	希ガス	(積算出力)×(放出割合)
	ライナック棟	$^{13}\text{N} + ^{15}\text{O}$	〃
東北大	ホットラボ棟	β	$Q \times DL$
日本核燃	照射後試験施設	希ガス	〃
核管センター	開発棟	α (Pu,U)	〃
	新分析棟	〃	〃
原燃工	加工工場	U	〃
	廃棄物処理棟	〃	〃
	HTR燃料製造施設	〃	〃
日揮	第2研究棟	β	〃
三菱マテリアル	開発試験第I棟	U	〃
	開発試験第II棟	〃	〃
	開発試験第IV棟	β	〃

注) Q：測定箇所における排気量

DL：検出限界

別表4 排水の不検出分放出量算出方法

事業所名	施設名	核種等	算出方法
原子力機構原科研	第 1	^{60}Co	$Q \times DL$
	第 2	^3H	〃
		^7Be	〃
		^{14}C	〃
		^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
第 3	^{60}Co	〃	
原子力機構 サイクル工研	第 1	全 β	〃
	第 2	Pu	〃
		U	〃
	再処理施設	^3H	〃
		^{89}Sr	〃
		^{90}Sr	〃
		^{95}Zr	〃
		^{95}Nb	〃
		^{103}Ru	〃
		$^{106}\text{Ru} - ^{106}\text{Rh}$	〃
		^{129}I	〃
		^{131}I	〃
		^{134}Cs	〃
		^{137}Cs	〃
		$^{144}\text{Ce} - ^{144}\text{Pr}$	〃
		^{141}Ce	〃
	Pu	〃	
全 β	〃		
原子力機構大洗	北 地 区	^3H	〃
		^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
	南 地 区	^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
原子力機構那珂	貯 水 槽	^3H , 全 β	〃
原 電	東 海 発 電 所	^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
		^{152}Eu	〃
		^{154}Eu	〃

事業所名	施設名	核種等	算出方法
原電	東海第二発電所	^3H	$Q \times DL$
		^{54}Mn	〃
		^{58}Co	〃
		^{60}Co	〃
		^{89}Sr	〃
		^{90}Sr	〃
JCO	廃水ポンド	U	〃
		Th, Pa	〃
三菱原燃	排水ポンド	U	〃
		Th, Pa	〃
	排水貯槽 (燃料加工試験棟)	U	〃
		Th, Pa	〃
NDC	排水貯槽	^{58}Co	〃
		^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
		U	〃
原燃工	排水ポンド	U	〃
		Th, Pa	〃
三菱マテリアル	排水貯槽	U	〃
		Th, Pa	〃
積水メディカル	調整槽	^3H	〃
		^{14}C	〃
住友鉱山	屋外排水槽	U	〃
		Th, Pa	〃

(注) Q：測定箇所における排水量
DL：検出限界

<用語・記号等の解説>

- 1 ※
測定データの全てが検出限界未満の濃度
- 2 -
欠測値
- 3 休止施設等
排気・排水口から放射性物質を含む排気又は排水の放出が全くない月は、最高濃度、平均濃度の欄は空欄（“ ”）に、放出量は“0”（ゼロ）。
- 4 /（スラント）
 - (1) 測定対象外
 - (2) 「その他検出された核種」が検出されない月及び3ヶ月平均濃度
- 5 測定結果の表記法
測定結果は原則として2桁とする。
放出源情報の測定結果は、原則として1位及び少数1位の2数字と10のべき数とする。
- 6 最高濃度（最大、最高値）
 - (1) 連続測定の場合
 - ア 空間線量（MS，MP）
「最大」は1時間値の最高値
 - イ 排気（希ガス等）
1日値（24時間平均値）の最高濃度
 - ウ 排水（全 γ ）
1時間値の最高濃度
 - (2) 連続採取，定期的測定の場合
排気（全 β ， ^3H ， ^{131}I ，U，Pu等），排水（全 β ）は測定値の最高濃度
- 7 平均濃度（平均）
 - (1) 連続測定の場合
 - ア 空間線量（MS，MP）
1時間値の単純平均値
 - イ 排気（希ガス等）
月平均値は1日値（24時間平均値）に排気量で重みを付けた加重平均値
 - ウ 排水（全 γ ）
1時間値の単純月間平均値
 - (2) 連続採取，定期的な測定の場合
排気（全 β ， ^3H ， ^{131}I ，U，Pu等），排水（全 β ）は測定値に排気，排水量で重みを付けた加重平均値
 - (3) バッチ測定の場合
排水（核種分析）の月平均値は測定値に排水量で重みを付けた加重平均値

- (4) 測定値の一部に検出限界未満がある場合、推定濃度（ある根拠によって推定した値又は検出限界値、ただし、排水（全 γ ）は“0”）排気、排水量で重みを付けた加重平均値
- (5) 排気、排水口から放射性物質を含む排気又は排水の放出が全くない月は、最高濃度、平均濃度の欄は空欄（“ ”）に、放出量は“0”（ゼロ）。

8 3ヶ月平均濃度（平均）

- (1) 放出源情報については3ヶ月加重平均値とし（施設者に限る）、その他については単純平均した値。
- (2) 検出限界未満“*”は推定濃度又は検出限界（環境項目）として平均。ただし、希釈効果がある場合は、希釈効果を考慮した値として平均し、希釈倍率を記載。

また、3ヶ月すべてが“*”の場合には3ヶ月平均値も“*”

- (3) 排気・排水が1ヶ月間放出が全くないときは、この月も値は0として計算。
- (4) 3ヶ月のうち1ヶ月でも欠測値“-”があった場合には平均値を求めず。

9 放出量

- (1) 放出量は測定された量（実測分）と検出限界未満で推定した量（不検出分）に分けて記載。
- (2) 不検出分

測定した値が検出限界未満の場合には「推定濃度」（ある根拠によって推定した値又は検出限界値）と排気・排出量より求めた値

- (3) “微”：不検出分として求めた値が次に定める場合

項 目	核 種 等	微と表示する限度
排気・排水	全 β , Pu	0.004MBq/月未満
	上記以外	0.04MBq/月未満

- (4) 放出量の3ヶ月総計

- ① 月毎の放出量の和を実測分、不検出分別に記載
- ② 不検出分に“微”がある場合、“微”は加算しない。ただし、3ヶ月全てが“微”又は“微”と0のみ
の場合は“微”。

10 放射性核種分析

排気・排水又は環境試料中に含まれる放射性核種の種類と量（濃度）を調べること。

本報告では、ゲルマニウム半導体検出器を用いた機器分析によってセシウム-137・ヨウ素-131などを、放射化学分析によってストロンチウム-90・プルトニウムを、液体シンチレーション測定装置を用いた分析によってトリチウム・炭素-14などをそれぞれ測定している。

11 主要放出核種

原子力施設から放出される放射性核種は、施設の種類・使用方法によって決まるので、その核種を把握しておけば放出の概略や異常の有無が判断できるとされる放出量が多い核種。

12 その他検出された核種

主要放出核種以外の検出された核種（検出された場合は報告することになっている）。

放出源における測定結果の記載については次のとおり。

- (1) 検出された月のみ記載。検出されない月又は3ヶ月平均濃度は“/”（スラント）を記載。
- (2) 測定値の一部に検出限界未満がある場合の平均濃度は、不検出分を0とした加重平均値。

13 検出限界（DL）

排気，排水の測定箇所における検出限界。

なお，最高濃度及び平均濃度はいずれも放出口における濃度に換算しているため，これらの値を下回る場合もある。

14 ne

測定結果が全て検出限界未満のため，線量評価せず。

15 平常の変動幅

- (1) 主旨……………平常時におけるモニタリングによって得られたデータは種々の要因で変動するが，その変動の幅を用いて，調査検討を要するデータを客観的に見出す。
- (2) 算出方法……………過去のデータをもとにバックグラウンド放射能（自然放射能及び過去の核実験等によるもの）の平均値に標準偏差の3倍値（ 3σ ）を加減して上限と下限を定める。なお，過去のデータが少なく，このような統計処理が適当でない場合は，最大値と最小値をもって上下限とする。
MP，MSの空間線量率については，同様に東海，大洗地区ごとに，平常の変動幅の上限を統計的に求めた後，評価の分かりやすさなどの点から，統一的に100nGy/時としている。
- (3) 調査検討を要するデータの選択と措置……………平常の変動幅の上限を超えたものについて，試料採取，処理，分析，測定等原因の詳細な調査検討を行う。
- (4) 見直し……………従来の傾向として，バックグラウンドレベルは経年的に変動が見られるので，平常の変動幅は適宜見なおしを行う。

＜本報告書の解説＞

環境放射線の監視の目的は、東海・大洗地区にある原子力施設周辺の環境保全を図るとともに、公衆の安全と健康を確保するため、原子力事業所の平常稼動時において、

(1) 周辺公衆の線量を推定評価し、線量限度を十分に下回っているかどうかを確認する。

(線量推定評価)

(2) 環境における放射線と放射性物質の水準及び分布の長期的変動を把握する。(長期的変動調査)

(3) 放射性物質の予期しない放出による環境への影響を早期に把握する。(短期的変動調査)

ことを目的とし、「茨城県環境放射線監視計画」により、測定地点・頻度・測定者等が定められている。(表1参照)

なお、本計画は施設の増設や国のモニタリング指針等の改正に伴い、適宜見直しを行っている。

この監視計画に基づき県及び各原子力事業所が測定した結果を取りまとめたものが、本報告書である。

以下に、各測定項目の解説を示す。

I 短期的変動調査（3ヶ月毎）

1 環境における測定結果

原子力施設の敷地外での測定結果を示す。(なお、敷地内であっても周辺監視区域境界は「環境における測定結果」として取り扱う。以下同様。)

1-1 空間 γ 線量率測定結果

1-1-1 モニタリングステーション

固定放射線観測局で24時間連続測定している測定結果から、その月の1時間平均値及び最高値を示す。

※ 放射線測定装置と気象観測装置等が設置されているのがモニタリングステーション、放射線測定装置のみがモニタリングポスト。

1-1-2 モニタリングポスト

モニタリングステーションと同じ。

1-2 大気中放射能測定結果

1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

集塵器で吸引した大気中の塵埃中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果

大型水盤に降下した雨水や塵等に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果

乳牛から採乳した原乳中の ^{131}I の分析結果を示す。

1-4 海洋における放射能測定結果

1-4-1 海水中の放射性核種分析結果

海水に含まれる ^3H の分析結果を示す。

2 敷地内における測定結果

原子力施設の敷地内での測定結果を示す。以下同様。

2-1 空間 γ 線量率測定結果

2-1-1 モニタリングステーション

24時間連続測定している測定結果から、その月の1時間平均値及び最高値を示す。

2-1-2 モニタリングポスト

モニタリングステーションと同じ。

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

吸塵器で吸引した大気中の塵埃に付着した放射性物質の核種分析結果を示す。

3 放出源における測定結果

原子力事業所の各施設から放出される排気・排水についての測定結果を示す。

3-1 排 気

3-1-1 排気中の放射性核種分析結果

各原子力事業所の主な施設から放出される排気中の主要放出核種の核種分析結果を示す。

3-1-1' 排気中の放射性核種分析結果（その他検出された核種）

主要放出核種以外で検出された核種について、その分析結果を示す。

3-1-2 排気中の全 β 放射能測定結果

各原子力事業所の施設から放出される排気中の全 β 測定結果を示す。

3-1-2' 排気中の全 β 放射能測定結果

各原子力事業所の主要施設から放出される排気中の全 β 測定結果を示す。

3-1-3 排気中の全 α 放射能測定結果

各原子力事業所の施設から放出される排気中の全 α 測定結果を示す。

3-2 排 水

3-2-1 排水中の放射性核種分析結果

各原子力事業所の排水溝から放出される排水中の主要放出核種の核種分析結果を示す。

3-2-1' 排水中の放射性核種分析結果

県が測定した原子力事業所の主な排水溝から放出される排水中の核種分析結果を示す。

3-2-1'' 排水中の放射性核種分析結果（その他検出された核種）

主要放出核種以外で検出された核種について、その分析結果を示す。

3-2-2 排水中の全 β 放射能測定結果

各原子力事業所の排水溝から放出される排水中の全 β 測定結果を示す。

3-2-2' 排水中の全 β 放射能測定結果

県が測定した主な排水溝から放出される排水中の全 β 放射能測定結果を示す。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果

原子力機構サイクル工研再処理施設保安規定で定められている核種についての核種分析結果を示す。

3-2-4 再処理施設排水中の全 β 放射能測定結果

原子力機構サイクル工研再処理排水の全 β 測定結果を示す。

3-2-5 排水中の全 γ 放射能連続測定結果

県が連続測定した主要排水溝の排水中の全ガンマ測定結果を示す。

II 長期的変動調査結果（6ヶ月毎）

1 環境における測定結果

1-1 空間 γ 線量測定結果

1-1-1 サーベイ結果

定点で定期的に測定した線量率の測定結果を示す。

1-1-2 積算線量測定結果

3ヶ月間連続して測定した線量の2回分（半年分）の測定結果を示す。

1-2 漁網表面吸収線量率の測定結果

船で一定期間曳航した漁網のガンマ及びベータの測定結果を示す。

1-3 大気中放射能測定結果

1-3-1 降下塵中の放射性核種分析結果

大型水盤中に落下した雨水や塵等に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-4 陸土中の放射能測定結果

1-4-1 土壌中の放射性核種分析結果

畑土等の土壌に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-4-2 河底土中の放射性核種分析結果

河川の底土に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-4-3 海岸砂中の放射性核種分析結果

海岸砂に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-5 陸水中の放射能測定結果

1-5-1 河川水及び湖沼水中の放射性核種分析結果

河川水や湖沼水中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-5-2 飲料水中の放射性核種分析結果

水道水や井戸水中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-6 海洋における放射能測定結果

1-6-1 海水中の放射性核種分析結果

海水中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-6-2 海底土中の放射性核種分析結果

海底土に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-7 排水口近辺土砂中の放射性核種分析結果

各原子力事業所の排水口近辺の土砂に含まれる主要放出核種の測定結果を示す。

2 敷地内における測定結果

2-1 空間 γ 線量測定結果

2-1-1 積算線量測定結果

3ヶ月間連続して測定した線量の2回分（半年分）の測定結果を示す。

Ⅲ 線量の推定結果（1年間）

1 積算線量による外部被ばく実効線量

1年間の各地点の積算線量値を地域毎に区分し、年間の外部被ばく実効線量を示す。

2 環境試料中の放射性核種分析結果に基づく成人の預託実効線量

牛乳・葉菜・米・魚介類等の核種分析結果から、成人の預託実効線量を示す。

3 放出源情報に基づく実効線量

3-1 放射性気体廃棄物による実効線量

原子力機構や原電等4事業所における主要施設から放出される年間の総排気量から外部被ばく実効線量並びに内部被ばく預託実効線量を示す。

3-2 放射性液体廃棄物による実効線量

原子力機構や原電等5事業所における主要排水溝から放出される年間の総排水量から内部被ばくによる預託実効線量並びに外部被ばくによる実効線量を示す。

表1 調査目的別測定項目及び頻度

測定項目	測定頻度	対象核種等
1. 線量評価		
積算線量	年4回	空間 γ
原乳	年2回	^{90}Sr , ^{131}I , γ 放射体
葉菜	〃	^{90}Sr , ^{131}I , γ 放射体〈収穫時：ホウレン草, ハクサイ, キャベツ〉
精米	年1回	^{90}Sr , ^{14}C (一部), γ 放射体
飲料水	年2回	^3H
魚類	2種年2回	^{90}Sr , Pu (一部), γ 放射体〈収穫時：シラス及びヒラメ, カレイ, イシモチ, チダイ, スズキ〉
貝類	〃	^{90}Sr , Pu (一部), γ 放射体〈収穫時：アワビ, ハマグリ, コタマ貝, 赤貝, ウバ貝〉
海藻類	〃	^{90}Sr , Pu (一部), γ 放射体〈収穫時：ヒジキ, ワカメ, アラメ〉
排気	連続	主要放出核種 (施設者)
排水	〃	主要放出核種 (施設者)
2. 短期的変動調査		
空間線量率(ステーション)	連続	空間 γ
空間線量率(ポスト)	〃	空間 γ
塵埃	連続・年4回	Pu (一部施設者), γ 放射体
降下塵	毎月	γ 放射体
原乳	年4回	^{131}I
海水	〃	^3H , 〈水温, 塩素量〉
排気	連続	放出核種 (施設者), 全 β (施設者), 全 α (施設者)
排水	連続・毎月	放出核種, 全 β , 全 γ (県)
3. 長期的変動調査		
空間線量率(サーベイ)	年2回	空間 γ
積算線量	年4回	空間 γ
降下塵	毎月	γ 放射体
土壌	年2回	γ 放射体
河底土	〃	γ 放射体 (施設者)
海岸砂	〃	γ 放射体
河川水	〃	^3H , γ 放射体
湖沼水	〃	^3H , γ 放射体 (施設者)
飲料水	〃	γ 放射体 (施設者), ^3H (積水メディカル), U (JCO, 三菱原燃, 原燃工)
海水	〃	^{90}Sr , γ 放射体
海底土	〃	^{90}Sr , γ 放射体, 一部 Pu
排水口近辺土砂	〃	主要放出核種
漁網	〃	β 線, γ 線〈共にサーベイメーター表示〉 (施設者)

※1. γ 放射体： ^{54}Mn , ^{60}Co , ^{95}Zr , ^{95}Nb , ^{106}Ru , ^{137}Cs , ^{144}Ce

2. 海底土中の Pu 測定は、河口及び一部排水口付近の海域のみ。

3. Pu : $^{239,240}\text{Pu}$

4. 対象核種等欄の () : 分担を示し, 表示なしは県, 施設者による。

《参考資料》

1. 線量評価について

1 監視計画における位置づけ

1 監視の目的（抜粋）

東海・大洗地区にある原子力施設周辺の環境保全を図るとともに、公衆の安全と健康を確保するため、原子力事業所の平常稼働時において、

(1) 周辺公衆の線量を推定評価し、線量限度を十分に下回っているかどうかを確認する。

2 計画の方針

(1) 環境放射線の監視は、次に掲げるところにより行う。

ア 空間線量測定結果及び環境試料中の核種分析結果に基づき、周辺公衆の線量を推定評価する。

(2) 排気及び排水の監視は、次に掲げるところにより行う。

ア 放出量と線量評価モデルを用い、線量を推定する。

3 調査計画（抜粋）

監視の目的、計画の方針に沿って、測定・分析の計画を以下のとおり定める。

表1 調査目的・測定項目・頻度

測定項目	測定頻度	対 象	核 種
1. 線量評価			
積算線量	年 4 回	空間	γ
牛 乳	年 2 回	^{90}Sr , ^{131}I	γ 放射体
野 菜	〃	^{90}Sr , ^{131}I	γ 放射体〔収穫時：ホウレン草、ハクサイ、キャベツ〕
精 米	年 1 回	^{90}Sr	γ 放射体
飲 料 水	年 2 回	^3H	
魚 類	2種年2回	^{90}Sr , γ 放射体, Pu	〔収穫時：シラス及びヒラメ、カレイ、イシモチ、チダイ、スズキ〕
貝 類	〃	^{90}Sr , γ 放射体, Pu	〔収穫時：アワビ、ハマグリ、コタマ貝、赤貝、ウバ貝〕
海 藻 類	〃	^{90}Sr , γ 放射体, Pu	〔収穫時：ヒジキ、ワカメ、アラメ〕
排 気	連 続	主要放出核種（施設者）	
排 水	〃	主要放出核種（施設者）	

注 牛乳の ^{131}I については、年4回の測定である。

4 評価方法

各調査機関から報告された資料に基づいて、次の手順で評価を行う。

(1) 線量の評価

周辺公衆の線量を推定し、線量限度を十分に下回っているかどうかを確認する。

ア 評価の頻度

原則として年1回

イ 推定の方法

(ア) 積算線量測定結果に基づく外部被ばくによる実効線量の推計

a 対象項目

積算線量

- b 各測定点毎に四半期毎の値を積算し、年間線量を求め、その結果から対象地区（別表1）別に平均した年間線量を求め当該地区の実効線量を算出する。

(イ) 環境試料中の放射性核種分析結果に基づく、内部被ばくによる預託実効線量の推定。

a 対象項目

牛乳・野菜・精米・飲料水・魚類・貝類・海藻類

b 対象核種

別表2のとおり

- c 四半期毎に報告された環境試料の放射性核種分析結果の年間平均値を求め、当該試料中の放射性物質濃度とする。

- d 線量計算方式は、線量算出要領による他「環境放射線モニタリングに関する指針（平成13年3月原子力安全委員会）」による。

- e 東海地区と大洗地区別に線量を求める。

(ウ) 放出源情報に基づく内部、外部被ばくによる実効線量の推定。

a 対象施設及び核種

別表3のとおり

- b 施設者は、各々の排気、排水について年間に得られた情報に基づいて、内部、外部被ばくによる実効線量推定を行い報告する。

- c 推定計算式は、各施設の計算式による。

(エ) 線量の推定

以上の結果に基づき線量を総合的に推定する。

別表1 積算線量による線量評価地域区分

地 区 名		市 町 村 名 ・ 事 業 所 名	
行政 区 域	東 海	東 海 地 区	東海村, 那珂市
		日 立 地 区	日立市, 常陸太田市
		ひたちなか地区	ひたちなか市
	大 洗 地 区	大洗町, 銚田市, 水戸市 (旧常澄村), 茨城町	
	比 較 対 照 地 点	水戸市	
施設 境界	東 海 地 区	原子力機構原科研, 原子力機構サイクル工研, 原電	
	大 洗 地 区	原子力機構大洗	

別表2 環境試料中の放射性核種分析結果に基づく線量推定のための主な核種

項 目	対 象 核 種
牛 乳	^{90}Sr , ^{131}I , γ 放射体
野 菜	^{90}Sr , ^{131}I , γ 放射体
精 米	^{90}Sr , γ 放射体
飲 料 水	^3H
魚 類	^{90}Sr , γ 放射体, Pu
貝 類	^{90}Sr , γ 放射体, Pu
海 藻 類	^{90}Sr , γ 放射体, Pu

(注1) γ 放射体: ^{54}Mn , ^{60}Co , ^{95}Zr , ^{95}Nb , ^{106}Ru , ^{137}Cs , ^{144}Ce

(注2) Pu: $^{239,240}\text{Pu}$

別表3 放出源情報に基づく線量推定のための主な核種

事業所名	施設名	排 気	排 水
原子力機構 原 科 研	J R R - 2	^3H	/
	J R R - 3	希ガス (^{41}Ar), ^3H	
	J R R - 4	希ガス (^{41}Ar)	
	N S R R	希ガス (^{41}Ar , ^{135}Xe), ^{131}I	
	N U C E F	希ガス (^{138}Xe), ^{131}I	
	第 1 排水溝	/	^{60}Co
	第 2 排水溝		^3H , ^7Be , ^{14}C , ^{60}Co , ^{137}Cs
	第 3 排水溝		^{60}Co
原子力機構 サイクル工研	再処理施設	希ガス (^{88}Kr), ^3H , ^{14}C , ^{129}I , ^{131}I	^3H , ^{90}Sr , ^{95}Zr , ^{95}Nb , ^{106}Ru , ^{129}I , ^{131}I , ^{137}Cs , ^{144}Ce , Pu
原子力機構 大 洗	J M T R	希ガス (^{41}Ar), ^{131}I	/
	H T T R	希ガス (^{88}Kr , ^{138}Xe), ^3H , ^{131}I	/
	原子力機構大洗 北地区排水溝	/	^3H , ^{60}Co , ^{137}Cs
	高速実験炉 「常陽」	希ガス (^{41}Ar , ^{85}Kr , ^{133}Xe), ^{131}I	/
	原子力機構大洗 南地区排水溝	/	^{60}Co , ^{137}Cs
原 電	東海発電所	^{60}Co , ^{137}Cs	^{60}Co , ^{137}Cs , ^{152}Eu , ^{154}Eu
	東海第二発電所	希ガス (^{85}Kr , ^{133}Xe), ^{131}I	^3H , ^{51}Cr , ^{54}Mn , ^{58}Co , ^{60}Co
積水メディカル	燃料 3 社 共同排水溝	/	^3H , ^{14}C

2 線 量

(1) 線 量

線量とは、放射線を人体に受けた場合、その吸収線量レベルでの生物学的影響の程度を考慮にいれて、人が受けた放射線の量をシーベルト（Sv）という単位で表したものである。

放射線の種類が異なっても、人体への影響が同じであるならば、放射線の量は、同一のシーベルト（Sv）で表わせる。

吸収線量（D）と線量（H）の関係は、線質係数をQ、修正係数をNとすれば次のとおりである。

$$H = D \times Q \times N$$

(2) 実効線量

実効線量とは、各臓器によって異なる影響を全身に対して評価できるような量として定義されている。

$$\text{実効線量} = \sum_T \omega_T H_T$$

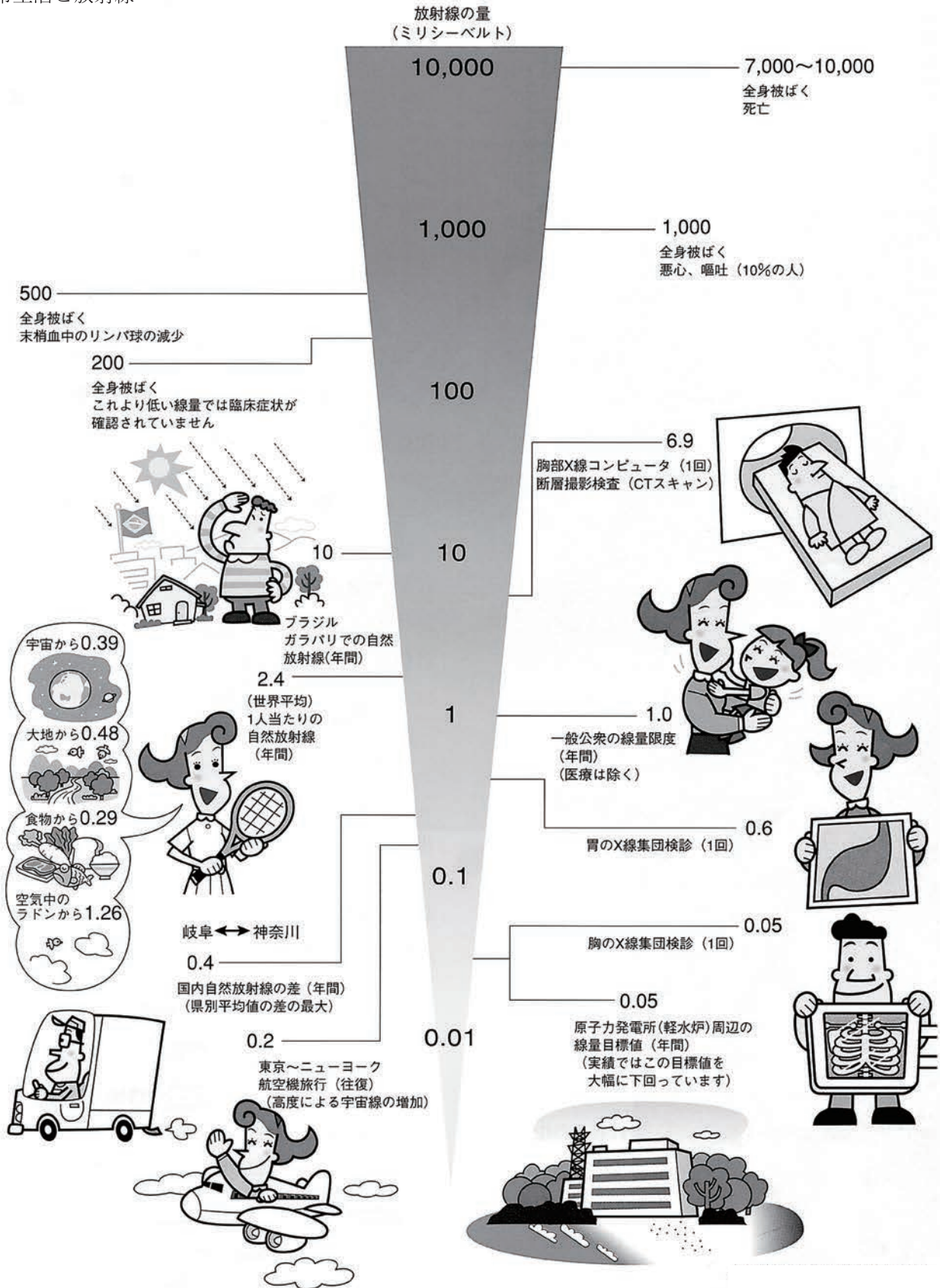
ω_T : 組織・臓器Tの組織荷重係数
 H_T : 組織・臓器Tにおける等価線量

(3) 預託実効線量

放射性物質を体内に取り込んだ時から50年間の1つの臓器の総線量を預託線量という。

また、臓器の預託線量に、その臓器に適用される荷重係数を乗じ、すべての臓器について合計したものを預託実効線量という。

内部被ばくに関しては、線量限度と比較するのは、ある放射性核種に起因する1年間に摂取した放射性核種による預託線量と決められている。



(注1) 本図中の数値は実効線量当量または実効線量で記載。
 (注2) 自然放射線の量については、呼吸によるラドンの効果を含めた場合の値。

3 放射線量測定結果に基づく線量

(1) 放出源情報に基づく線量

各評価対象施設とも国の安全審査に用いた線量計算モデルを用いて算出しているが、これらは概ね「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針」（平成13年3月原子力安全委員会）に基づいている。

（「環境放射能測定データ報告要領」参照）

(2) 環境試料測定結果に基づく線量

（「線量算出要領」参照）

参考

- 1) 国際放射線防護委員会の線量限度の勧告値^(注1)
(ICRP Publication 60)

		勧告値 (mSv)	
確率的影響	実効線量	(組織・臓器の等価線量) × (組織・臓器の荷重係数) を被ばくした全ての組織・臓器について加算したもの 1年間につき 1 ^(注1)	
確定的影響	等価線量	眼の水晶体	1年間につき 15
		皮膚(任意の表面 1 cm ²)	1年間につき 50

一般公衆の線量限度

(注1) この限度は特定の期間の外部被ばくからの該当する線量と、同一期間内の摂取による50年預託線量(子供に対しては70歳まで)との合計に適用される。

(注2) 特殊な状況では、5年間にわたる平均が年あたり1 mSvを超えなければ、単一年にこれよりも高い実効線量が許される。

- 2) 試験研究の用に供する原子炉等の設置、運転等に関する規則等の規定に基づき、線量限度等を定める件
(平成12年12月26日科学技術庁告示第15号により一部改訂)

	告示値 (mSv)	
実効線量限度	1年間につき	1
眼の水晶体の等価線量限度	1年間につき	15
皮膚の等価線量限度	1年間につき	50

※ 周辺監視区域外の線量限度

- 3) 核燃料物質の加工の事業に関する規制等の規定に基づき、線量限度等を定める件
(平成12年12月26日科学技術庁告示第18号により一部改訂)

	告示値 (mSv)	
実効線量限度	1年間につき	1
	再処理は3ヶ月につき	0.25
眼の水晶体の等価線量限度	1年間につき	15
皮膚の等価線量限度	1年間につき	50

※ 周辺監視区域外の線量限度

- 4) 発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針について
(平成13年3月 原子力安全委員会)

	目標値 (μSv)	
実効線量限度	1年間につき	50

※ 現実的と考えられる計算方法及びパラメータにより算出。

- ① 気体廃棄物については放射性希ガスからのガンマ線による外部被ばく及び放射性ヨウ素の体内摂取による内部被ばく。
- ② 液体廃棄物については、海産物を摂取するところによる内部被ばく。

2. 環境放射能測定データ報告要領（抜粋）

II 放出源情報に基づく線量の報告

1. 評価対象施設

線量算出の対象とした施設名を記載する。

例1 JRR-2, JRR-3, JRR-4, NSRR

例2 高速実験炉「常陽」

例3 第1, 第2, 第3排水溝

例4 再処理施設

2. 評価対象期間

線量算出に用いた放出量の集計対象期間を記載する。

例 平成4年4月1日～平成5年3月31日

3. 実効線量

(1) 放射性気体廃棄物による実効線量

① 外部被ばくによる実効線量

ア 周辺監視区域外における実効線量の最大値

評価対象期間中の放射性希ガスの環境への放出量（検出限界未満の不検出分を含めるが「微」は含めない）により、評価対象施設の線量計算モデルを用い、周辺監視区域外における実効線量を算出し最大値を記載する。

イ 排気筒からの方位及び距離

周辺監視区域外において実効線量が最大となる地点を、排気筒が複数ある場合には基準となる排気筒を明示のうえ、排気筒からの方位及び距離で記載する。

例 JRR-2 南々西 0.6 km

② 内部被ばくによる預託実効線量

評価対象期間中の放射性核種の環境への放出量（3.(1)①アに準拠）により、評価対象施設の線量計算モデルを用い、内部被ばくによる預託実効線量を算出し最大値を記載する。

排気筒からの方位及び距離は①イに準拠して記載する。

(2) 放射性液体廃棄物による実効線量

① 内部被ばくによる預託実効線量

評価対象期間中の放射性核種の環境への放出量（3.(1)①アに準拠）により、評価対象施設の線量計算モデルを用い、内部被ばくによる預託実効線量を算出し最大値を記載する。

② 外部被ばくによる実効線量（再処理施設のみ適用）

評価対象期間中の放射性核種の環境への放出量（3. (1)①アに準拠）により，評価対象施設の線量計算モデルを用い，外部被ばくによる実効線量を算出し最大値を記載する。

4. 必要に応じ算出すべき等価線量

原則として，甲状腺等の預託等価線量は平常時のモニタリングにおいては算定の必要性はないが，施設からの予期せぬ放出等により線量が相当に上昇する可能性があって算定の必要が生じた場合には，評価対象施設の線量計算モデルを用い，預託等価線量を算出し最大値を記載する。（様式は47pの参考資料に準ずる。）

5. その他

- (1) 線量の算出に用いた放出量を対象核種毎に実測分，不検出分別に記載する。
- (2) 線量は，小数第5位を四捨五入して記載する。
- (3) 排気筒からの距離は，小数第2位を四捨五入して記載する。
- (4) 線量の算出に用いた気象データ等の資料及び評価方法に関する説明を“考察”に記載する。

3. 線量算出要領（抜粋）

I 放出源情報に基づく線量

排気・排水とも各事業所が定める算出方法に基づく。

II 環境試料測定結果に基づく線量

1. 実効線量

1) 外部被ばくによる実効線量

(1) 地区の設定

地区の設定は、監視計画「別表1 積算線量による線量評価地域区分」による。

(2) 実効線量

評価対象期間中の積算線量測定結果（宇宙線成分及び積算線量計の自己汚染の寄与を除く）から、各地点毎に四半期毎の値を積算し、年間線量を求め、それらを対象地区（別表1）別に平均した年間線量として整理し、その結果から当該地区の実効線量を算出し、表1に記載する。なお、算出にあたっては、「環境放射線モニタリングに関する指針」（平成13年3月原子力安全委員会。以下「モニタリング指針」という。）に準じ、 $0.8(\text{Sv}/\text{Gy})$ の換算値を使用する。

2) 内部被ばくによる預託実効線量

(1) 地区の設定

地区の設定は、那珂川を境界とし、以北を東海地区、以南を大洗地区とし、水戸は比較対象地点とする。

(2) 預託実効線量

評価対象期間中の環境試料中の放射性核種分析結果から、東海、大洗地区別に各種目毎の平均値を求め、下記3.内部被ばく線量計算モデル及び使用パラメータ又は「モニタリング指針」の線量の推定・評価法を用い、預託実効線量を算出し表-2に記載する。

2. 等価線量

原則として、甲状腺等の預託等価線量は平常時のモニタリングにおいては算定の必要性はないが、施設からの予期せぬ放出等により線量が相当に上昇する可能性があって算定の必要が生じた場合には、評価対象期間中の環境試料中の放射性核種分析結果から、東海、大洗地区別に各種目毎の平均値を求め、線量計算モデル等を用い、預託等価線量を算出し表-3に記載する。

3. 内部被ばく線量計算モデル及び使用パラメータ

(1) 計算モデル

核種ごとの内部被ばくによる預託実効線量の計算は次式による。

$$mSv = \text{〔預託実効線量係数 (mSv/Bq)〕} \times \text{〔核種の1日の摂取量(Bq/日)〕} \times 365(\text{日/年}) \\ \times \text{〔摂取期間年間比〕}$$

内部被ばくによる預託等価線量の計算は次式による。

$$mSv = \text{〔預託等価線量係数 (mSv/Bq)〕} \times \text{〔核種の1日の摂取量(Bq/日)〕} \\ \times 365(\text{日/年}) \times \text{〔摂取期間年間比〕}$$

(2) 使用パラメータ

ア 預託実効線量係数

表-4 (1 Bq を摂取した場合の成人の実効線量) のとおり。

イ 預託等価線量係数

表-5 (1 Bq を摂取した場合の成人の預託等価線量) のとおり。

ウ 食品摂取モデル

表-6 のとおり。

エ 摂取期間年間比

各種目とも原則として「1」とする。

4. 核種分析結果の集計方法及び線量の表示方法

- (1) 報告対象外の核種が検出され場合は、当該核種の預託実効線量の評価を行う。
- (2) 各種目毎の核種分析結果を地区ごとに単純平均する。ただし、検出限界未満は検出限界を用いる。
- (3) 核種分析結果がすべて検出限界未満の場合は、該当欄に“ne” (検出限界未満につき求められず) 記載し、検出限界を用いて算出した場合の預託実効線量を別表に掲げる。
- (4) 線量はmSv の単位で、外部被ばくについては第4位を、内部被ばくについては少数第5位を四捨五入して記載する。
- (5) 預託実効線量の合計を求める場合“ne”は加算しない。ただし、すべてが“ne”の場合は“ne”と、“ne”及び“0.0000”の場合“0.0000”と表示する。
- (6) 化学形等が不明の場合は、その核種のうち経口摂取について最大となる線量係数を使用する。

表-4 1 Bq を経口摂取した場合の成人の預託実効線量係数 *1

(mSv/Bq)

核種	預託実効線量係数
^3H	4.2×10^{-8}
^{14}C	5.8×10^{-7}
^{54}Mn	7.1×10^{-7}
^{60}Co	3.4×10^{-6}
^{90}Sr	2.8×10^{-5}
^{95}Zr	9.5×10^{-7}
^{95}Nb	5.8×10^{-7}
^{106}Ru	7.0×10^{-6}
^{131}I	1.6×10^{-5} *2
^{137}Cs	1.3×10^{-5}
^{144}Ce	5.2×10^{-6}
^{239}Pu	2.5×10^{-4}

* 1 本表の値は ICRP Pub.72をもとに計算されたものである。

なお、化学形又は性状が複数示されている核種については、そのうちで一番大きい値を記載した。

* 2 甲状腺への移行比fwを0.2として計算した。

表一5 1 Bq を経口摂取した場合の成人の各臓器及び組織の預託等価線量係数

核種	(mSv/Bq)												
	副腎	膀胱	骨表面	脳	胸	食道	胃	小腸	大腸上部	大腸下部	結腸	腎臓	肝臓
³ H	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.7×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.2×10 ⁻⁸	4.4×10 ⁻⁸	4.3×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸
¹⁴ C	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	6.3×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.8×10 ⁻⁷	6.0×10 ⁻⁷	5.9×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷
⁵⁴ Mn	4.7×10 ⁻⁷	4.2×10 ⁻⁷	6.3×10 ⁻⁷	1.6×10 ⁻⁷	1.5×10 ⁻⁷	1.8×10 ⁻⁷	4.3×10 ⁻⁷	9.6×10 ⁻⁷	1.4×10 ⁻⁶	2.3×10 ⁻⁶	1.8×10 ⁻⁶	4.2×10 ⁻⁷	1.0×10 ⁻⁶
⁶⁰ Co	2.5×10 ⁻⁶	2.6×10 ⁻⁶	2.0×10 ⁻⁶	1.4×10 ⁻⁶	1.3×10 ⁻⁶	1.7×10 ⁻⁶	2.5×10 ⁻⁶	4.2×10 ⁻⁶	6.5×10 ⁻⁶	1.2×10 ⁻⁵	8.7×10 ⁻⁶	2.4×10 ⁻⁶	4.4×10 ⁻⁶
⁹⁰ Sr	6.6×10 ⁻⁷	1.5×10 ⁻⁶	4.1×10 ⁻⁴	6.6×10 ⁻⁷	6.6×10 ⁻⁷	6.6×10 ⁻⁷	9.0×10 ⁻⁷	1.1×10 ⁻⁶	5.8×10 ⁻⁶	2.2×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵	6.6×10 ⁻⁷	6.6×10 ⁻⁷
⁹⁵ Zr	1.3×10 ⁻⁷	2.8×10 ⁻⁶	2.2×10 ⁻⁶	5.3×10 ⁻⁸	3.8×10 ⁻⁸	4.3×10 ⁻⁸	3.8×10 ⁻⁷	1.1×10 ⁻⁶	3.1×10 ⁻⁶	7.8×10 ⁻⁶	5.1×10 ⁻⁶	1.6×10 ⁻⁷	1.1×10 ⁻⁷
⁹⁵ Nb	7.6×10 ⁻⁸	2.6×10 ⁻⁷	2.1×10 ⁻⁷	1.1×10 ⁻⁸	2.0×10 ⁻⁸	1.9×10 ⁻⁸	2.8×10 ⁻⁷	8.2×10 ⁻⁷	1.8×10 ⁻⁶	4.0×10 ⁻⁶	2.8×10 ⁻⁶	1.6×10 ⁻⁷	1.4×10 ⁻⁷
¹⁰⁶ Ru	1.5×10 ⁻⁶	1.7×10 ⁻⁶	1.5×10 ⁻⁶	1.4×10 ⁻⁶	1.4×10 ⁻⁶	1.4×10 ⁻⁶	3.1×10 ⁻⁶	5.5×10 ⁻⁶	2.5×10 ⁻⁵	7.1×10 ⁻⁵	4.5×10 ⁻⁵	1.5×10 ⁻⁶	1.5×10 ⁻⁶
¹³¹ I	4.8×10 ⁻⁸	8.3×10 ⁻⁷	1.1×10 ⁻⁷	1.1×10 ⁻⁷	5.1×10 ⁻⁸	1.2×10 ⁻⁷	3.0×10 ⁻⁷	5.3×10 ⁻⁸	8.5×10 ⁻⁸	1.7×10 ⁻⁷	1.2×10 ⁻⁷	4.4×10 ⁻⁸	4.6×10 ⁻⁸
¹³⁷ Cs	1.4×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.2×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.7×10 ⁻⁵	1.5×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵
¹⁴⁴ Ce	1.6×10 ⁻⁸	3.0×10 ⁻⁸	3.3×10 ⁻⁷	1.1×10 ⁻⁸	1.2×10 ⁻⁸	1.2×10 ⁻⁸	1.1×10 ⁻⁶	3.7×10 ⁻⁶	2.3×10 ⁻⁵	6.6×10 ⁻⁵	4.2×10 ⁻⁵	2.0×10 ⁻⁸	9.6×10 ⁻⁷
²³⁹ Pu	1.4×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	8.2×10 ⁻³	1.4×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.6×10 ⁻⁵	1.7×10 ⁻⁵	3.3×10 ⁻⁵	6.7×10 ⁻⁵	4.8×10 ⁻⁵	3.4×10 ⁻⁵	1.7×10 ⁻⁵

核種	残りの組織												
	筋肉	卵巣	脾臓	赤色骨髓	外郭気道	肺	皮膚	脾臓	精巣	胸腺	甲状腺	子宮	残りの組織
³ H	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸	4.1×10 ⁻⁸
¹⁴ C	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷	5.7×10 ⁻⁷
⁵⁴ Mn	2.8×10 ⁻⁷	1.1×10 ⁻⁶	4.3×10 ⁻⁷	6.1×10 ⁻⁷	1.6×10 ⁻⁷	2.5×10 ⁻⁷	1.6×10 ⁻⁷	2.6×10 ⁻⁷	2.0×10 ⁻⁷	1.8×10 ⁻⁷	1.6×10 ⁻⁷	5.6×10 ⁻⁷	2.9×10 ⁻⁷
⁶⁰ Co	1.9×10 ⁻⁶	4.3×10 ⁻⁶	2.6×10 ⁻⁶	12.1×10 ⁻⁶	1.7×10 ⁻⁶	1.8×10 ⁻⁶	1.3×10 ⁻⁶	2.1×10 ⁻⁶	1.8×10 ⁻⁶	1.7×10 ⁻⁶	1.7×10 ⁻⁶	3.0×10 ⁻⁶	1.9×10 ⁻⁶
⁹⁰ Sr	6.6×10 ⁻⁷	6.6×10 ⁻⁷	6.6×10 ⁻⁷	1.8×10 ⁻⁴	6.6×10 ⁻⁷	6.6×10 ⁻⁷	6.6×10 ⁻⁷	6.6×10 ⁻⁷	6.6×10 ⁻⁷	6.6×10 ⁻⁷	6.6×10 ⁻⁷	6.6×10 ⁻⁷	6.7×10 ⁻⁷
⁹⁵ Zr	1.4×10 ⁻⁷	8.7×10 ⁻⁷	1.5×10 ⁻⁷	4.7×10 ⁻⁷	4.2×10 ⁻⁸	6.0×10 ⁻⁸	6.3×10 ⁻⁸	1.1×10 ⁻⁷	1.0×10 ⁻⁷	4.3×10 ⁻⁸	4.2×10 ⁻⁸	4.0×10 ⁻⁷	1.5×10 ⁻⁷
⁹⁵ Nb	1.0×10 ⁻⁷	8.1×10 ⁻⁷	1.2×10 ⁻⁷	1.8×10 ⁻⁷	1.3×10 ⁻⁸	3.0×10 ⁻⁸	4.3×10 ⁻⁸	8.9×10 ⁻⁸	8.7×10 ⁻⁸	1.9×10 ⁻⁸	1.3×10 ⁻⁸	3.6×10 ⁻⁷	1.2×10 ⁻⁷
¹⁰⁶ Ru	1.5×10 ⁻⁶	1.7×10 ⁻⁶	1.5×10 ⁻⁶	1.5×10 ⁻⁶	1.4×10 ⁻⁶	1.4×10 ⁻⁶	1.4×10 ⁻⁶	1.5×10 ⁻⁶	1.5×10 ⁻⁶	1.4×10 ⁻⁶	1.4×10 ⁻⁶	1.6×10 ⁻⁶	1.5×10 ⁻⁶
¹³¹ I	1.0×10 ⁻⁷	5.2×10 ⁻⁸	5.8×10 ⁻⁸	8.4×10 ⁻⁸	1.2×10 ⁻⁷	8.5×10 ⁻⁸	5.8×10 ⁻⁸	5.1×10 ⁻⁸	4.0×10 ⁻⁸	1.2×10 ⁻⁷	3.2×10 ⁻⁴	6.0×10 ⁻⁸	1.0×10 ⁻⁷
¹³⁷ Cs	1.2×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵	1.2×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.2×10 ⁻⁵
¹⁴⁴ Ce	1.8×10 ⁻⁸	7.4×10 ⁻⁸	1.9×10 ⁻⁸	1.9×10 ⁻⁷	1.2×10 ⁻⁸	1.3×10 ⁻⁸	1.4×10 ⁻⁸	1.7×10 ⁻⁸	1.6×10 ⁻⁸	1.2×10 ⁻⁸	1.2×10 ⁻⁸	3.7×10 ⁻⁸	9.5×10 ⁻⁸
²³⁹ Pu	1.4×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻⁵	3.9×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.5×10 ⁻⁵

* 1 本表の値はICRP, Pub.72 のモデルをもとに計算されたものである。

なお、化学形態または性状が複数示されている核種については、そのうちで一番大きい値を記載した。

* 2 甲状腺への移行比fwを0.2として計算した。

表-6 食品の摂取モデル（1人1日当りの摂取量）

	葉 菜	牛 乳	魚 類	貝 類	海 藻 類	精 米	飲 料 水
成 人	100 g	200 cm ³	200 g	20 g	40 g	250 g	2,650 cm ³
幼 児	50	500	100	10	20	—	—
乳 児	20	600	40	4	8	—	—

- ※1 葉菜，牛乳，魚類，貝類，海藻類の摂取量は，「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針（原子力安全委員会，原子炉安全技術専門部会，一部改正平成元年3月27日）」による。
- 2 精米の摂取量は，「国民栄養調査結果（厚生省，茨城県，昭和53年）及び「食糧需給表（農林水産省，昭和52年）」による。
- 3 飲料水の摂取量は，「国際放射線防護委員会（ICRP）勧告 Publication 23」による。

事務局：茨城県生活環境部防災・危機管理局
原子力安全対策課

〒310-8555 水戸市笠原町978番6

電話 029-301-2916

FAX 029-301-6002

